

# 上郷岡原遺跡(1)

—天明三年の浅間山泥流に埋もれた麻畑・水田・家屋—

ハツ場ダム建設工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第16集

第1分冊：本文・遺構図版編

2007

国 土 交 通 省  
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



かみ ごう おかの はら  
上 郷 岡 原 遺 跡 ( 1 )

—天明三年の浅間山泥流に埋もれた麻畑・水田・家屋—

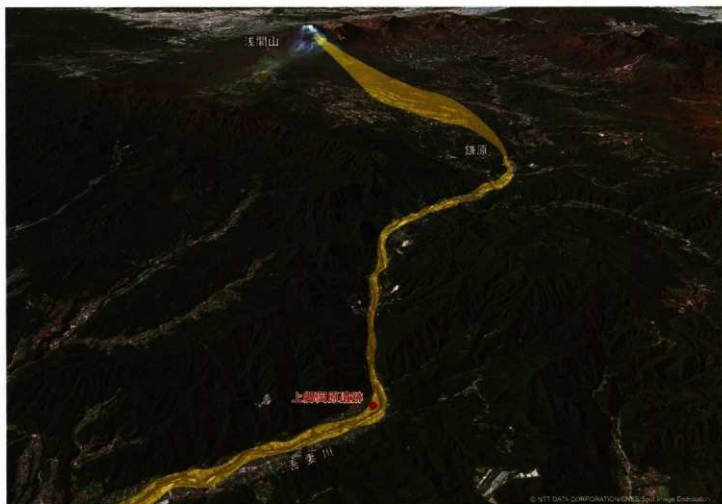
ハ ッ 場 ダ ム 建 設 工 事 に 伴 う  
埋 蔵 文 化 財 発 掘 調 査 報 告 書 第 1 6 集

第 1 分 冊 : 本 文 ・ 遺 構 図 版 編

2007

国 土 交 通 省  
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団





1. 上郷岡原遺跡位置図及び浅間山泥流域図



2. 上郷岡原遺跡調査区全体1面空撮合成写真。調査区の北に吾妻川。上が北。



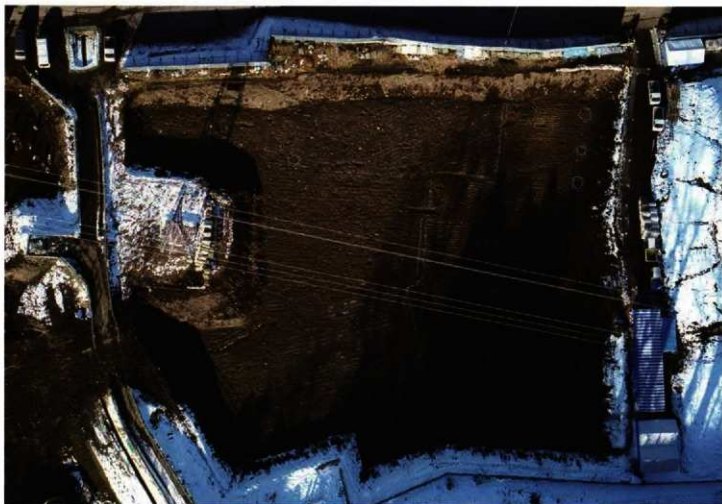
3. 上郷岡原遺跡調査区1面空撮合成写真（今回、報告調査区）。右から、I区・II区・III区。上が北。



4. 上郷岡原遺跡天明三（1783）年浅間山泥流被害直前の村の復元図。作画・新井加寿恵、監修及び下絵・橋崎修一郎



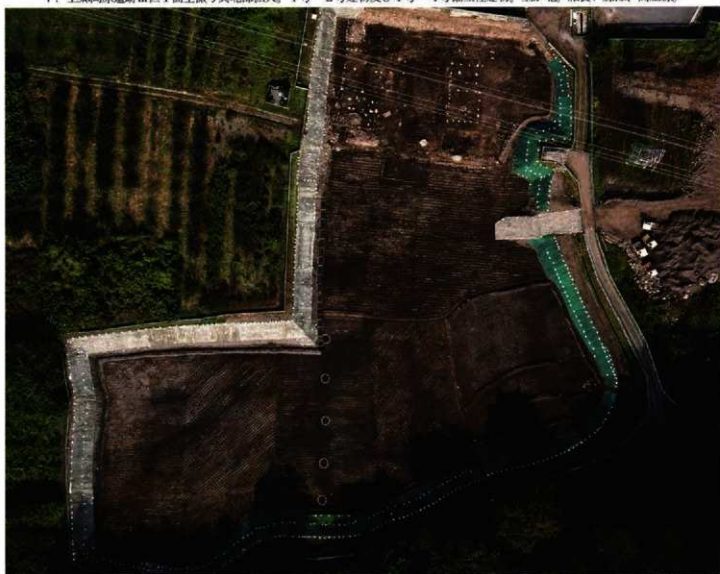
5. 上郷岡原遺跡Ⅰ区Ⅰ面空撮写真。上が北。細長い線は、高圧線。「○」は、円形平坦面。



6. 上郷岡原遺跡Ⅱ区Ⅰ面空撮写真。上が北。細長い線は、高圧線。「○」は、円形平坦面。



7. 上郷岡原遺跡Ⅲ区1面空撮写真真北部拡大。1号・2号建物及び1号～4号掘立柱建物。上が北。細長い線は、高圧線。



8. 上郷岡原遺跡Ⅲ区1面空撮写真。上が北。細長い線は、高圧線





9. 上郷岡原遺跡Ⅲ区1面2号掘立柱建物。柱が西から東に向けて倒れている点に注意。西から撮影。



10. 上郷岡原遺跡Ⅲ区1面1号井戸全景。桎杓が泥流当時の原位置で出土。北から撮影。



11. 上郷岡原遺跡Ⅲ区1面2号建物座敷部全景。災害現場のような生々しさが、伝わってくる。西から撮影。



12. 上郷岡原遺跡Ⅲ区1面2号建物座敷の雨落ち溝出土朱漆碗。色鮮やかな朱漆塗碗が、約220年もの長きにわたって保存されていた。

## 序

八ッ場ダムは、首都圏の利水および治水を目的として計画され、現在は吾妻郡長野原町を中心に工事が進められています。

八ッ場ダムの建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査は、当事業団が平成6年度から実施し、本年度で13年目を迎えます。上郷岡原遺跡の発掘調査は、平成13年度から行われており現在も調査中ですが、今回の報告書は平成14年度に行われた発掘調査の成果の一部をまとめたものです。整理作業は、平成18年4月から平成19年3月まで行われ、このたび刊行の運びとなりました。

本遺跡では、天明三（1783）年の浅間山噴火に伴う泥流に埋もれた村の他に、中世の掘立柱建物・中世の土坑墓・平安時代の堅穴住居・縄文時代の敷石住居等が発見されています。

浅間山噴火に伴う泥流は、新暦で天明三年八月五日に浅間山が噴火し、嬭恋村の鎌原村を呑み込み、吾妻川に流れ込み泥流となって上郷岡原遺跡を襲いました。この時の泥流は、さらに下流の利根川にも流れ込み、当事業団で発掘調査を行います。この泥流の被害は、群馬県を中心に被害村数145村・流死者1,512人・被害家屋2,126軒という大惨事をもたらし、天明の飢饉の一因にもなったと考えられています。

本遺跡では、この時の泥流に埋もれた麻畑・水田・家屋・掘立柱建物等が発見されており、約220年ぶりに当時の村の姿がそっくりそのまま現れています。特に、この地域ではかつて盛んに生産されていた麻畑が発見されたことから、文献だけでは知ることができない麻畑の生産が確実に江戸時代にまでさかのぼることが解明されました。

発掘調査から報告書刊行に至るまで、国土交通省八ッ場ダム工事事務所、群馬県教育委員会、および東吾妻町教育委員会をはじめとする関係機関や地元関係者のみなさまには、多大なるご尽力を賜りました。本報告書を上梓するにあたり、衷心より感謝申し上げます。

また、本書が吾妻郡内、ひいては群馬県の歴史を解明する上で末永く活用されることを願い序といたします。

平成19年3月吉日

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団  
理事長 高橋 勇 夫



## 例言

1. 本書は、ハッ場ダム建設工事に伴い事前調査された上郷岡原遺跡の発掘調査報告書である。

2. 遺跡所在地 群馬県吾妻郡東吾妻町三島字上郷及び同字岡原に所在する。

3. 事業主体 国土交通省

4. 調査主体 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

5. 発掘調査期間

平成14(2002)年4月1日～平成15(2003)年2月3日

6. 発掘調査組織は以下の通りである。

(1) 発掘調査担当者〔( )の現職記載が無い者は、現在、群馬文に所属している。〕

平成14(2002)年

4月1日～12月31日：横崎修一郎・渡辺弘幸（現甘楽町立新屋小学校）

4月1日～6月30日：齋田智彦

7月1日～12月31日：石川雅俊（現安中市立松井田小学校）

10月1日～12月31日：杉山宏秀（現群馬県立歴史博物館）・小保方香里（現群馬県立豊学校）

11月14日～12月31日：松原孝志（現沼田市立沼田東小学校）・石田真（現群馬県立利根実業高等学校）

12月2日～12月31日：池田政志（現前橋市立第七中学校）・阿久津聡（現群馬県立文書館）

平成15(2003)年

1月8日～2月3日：藤巻幸男・飯森康広・石田真

平成16(2004)年

6月16日：小野和之・瀧川伸男【水路部（Ⅱ区・Ⅲ区間）の確認調査】

(2) 事務担当者

平成14(2002)年度

理事長 小野宇三郎 常務理事 吉田豊 事業局長 神保佑史 管理部長 萩原利通

ハッ場ダム調査事務所長 水田稔 調査研究部長 津金澤吉茂 調査研究課長 下城正

庶務係長 野口富太郎 主事 矢嶋知恵子

7. 整理期間は、以下のように3つの期間に分かれる。

(1) 基礎整理①：平成15(2003)年1月1日～同年3月31日である。主に、図面整理を行う。但し、1月8日～2月3日は、現場で発掘調査に従事している。

(2) 基礎整理②：平成16(2004)年9月1日～同年12月31日である。主に、出土木器及び建築部材の整理を行う。

(3) 本整理：平成18(2006)年4月1日～平成19(2007)年3月31日である。

8. 整理組織は以下の通りである。

(1) 整理担当者

基礎整理①：石田真（当時 調査研究員）〔現群馬県立利根実業高等学校教諭〕

基礎整理②：石川雅俊（当時 主任調査研究員）〔現安中市立松井田小学校教諭〕

本整理：専門員（主幹）横崎修一郎

(2) 事務担当者

平成18(2006)年度

理事長 高橋勇夫 常務理事 木村裕紀 事業局長 津金澤吉茂 管理部長 萩原勉

### (3) 整理補助

基礎整理②：足立やよい・片所アサ子・小林里子・桜井佳世子・清水鏡子・高橋きよみ・土谷せつ子・二瓶和彦・向 みち子（歴史の社）

本整理：井草まき子（全期間）・湯本よし子（2006年7月1日～2007年3月31日）・篠原了子（2006年7月1日～2007年3月31日）・青柳 智（2006年7月1日～2007年3月31日）・中嶋公江（2006年7月1日～2007年3月31日）・山口由利枝（2006年4月1日～6月30日）・富澤友理（2006年4月1日～6月30日）・奥村美智子（2006年4月1日～5月31日）

## 9. 本書作成担当

編 集： 橋崎修一郎

本文執筆： 下記のとおりである。

(1) 第1分冊【本文・遺構図版編】 橋崎修一郎（石臼以外）・津金澤吉茂（石臼まとも）・石川雅俊【元群理文・現安中市立松井田小学校】（大麻まとも・建物まとも）・齊田智彦（大麻まとも）・渡辺弘幸【元群理文・現甘楽町立新屋小学校】（大麻まとも・建物まとも）。復 元 画： 新井加寿恵【下絵及び監修 橋崎修一郎】。飯森康広（Ⅱ区及びⅢ区2面獨立柱建物復元）。村田敏一氏【群馬県立前橋工業高等学校校長】には、Ⅲ区1面建物の復元を行っていただいた。

(2) 第2分冊【遺構写真編】 本文：橋崎修一郎 遺構写真：各調査担当者

(3) 第3分冊【遺物写真図版編】 写真撮影：橋崎修一郎（漆椀・大型木器以外）・石川雅俊（漆椀）・（株）調研（大型木器：委託）、遺物観察：麻生敏隆（中・近世掲き臼及び臼石）・大西雅広（中・近世陶磁器）・小野和之（縄文土器型式判定）・神谷佳明（古代須恵器・土師器の年代）・笹澤泰史（鉄鎧）・高島英之（墨書土器）・津金澤吉茂（石臼）・中東彰子（近世木簡墨書判読）・新倉明彦（板碑）・藤巻幸男（縄文土器型式判定）。渡辺弘幸氏【甘楽町立新屋小学校】には、石材鑑定を行っていただいた。橋崎修一郎（前出以外）。

(4) 第4分冊【自然科学分析編】 橋崎修一郎（はじめに・出土人骨・出土獣骨・まとも）・須永薫子（土壌分析：依頼）・杉山真二（植物珪酸体分析：委託）・金原正子（トイレ遺構分析：委託）・沙見 真及び白崎泰子（漆器樹種同定：委託）・本吉恵理子（漆器断面観察：委託）・新山雅広（種実同定分析：委託）・野村敏江（樹種同定分析：委託）・パレオラボ年代測定グループ他（年代測定分析：共同研究）。

保存処理： 関 邦一・土橋まり子・小村浩一

## 10. 発掘調査及び整理事業での委託関係

掘削請負 株式会社 歴史の社

遺構測量及び空中写真 株式会社 測研

本文・遺構図・遺構写真・遺物写真・遺物図デジタル編集及びデジタル版組 株式会社 測研

遺構図デジタルトレース作成委託 株式会社 測研

大型木器写真撮影・実測図作成委託 株式会社 測研

衛星写真位置図作成委託 技研測量設計 株式会社

小型木器トレース図作成委託 技研測量設計 株式会社

保存処理 株式会社 吉田生物研究所（漆器・刀）

自然科学分析 株式会社 パレオ・ラボ（樹種同定、種実同定）、株式会社 古環境研究所（プラント・オパール分析、便槽分析）

11. 出土遺物及び記録図・写真などの記録類は、すべて群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

12. 発掘調査及び本書の作成にあたっては、次の機関・諸氏から貴重なご教示やご指導をいただいた。記して

感謝の意を表したい。

国土交通省関東地方建設局八ッ場ダム工事事務所、群馬県土木部特定ダム対策課、群馬県八ッ場ダム水源地域対策事務所、群馬県教育委員会文化課、長野原町教育委員会、東吾妻町教育委員会、前橋市教育委員会、麻の里会館、岩島麻保存会、江戸遺跡研究会、からむし工芸博物館、原始布古代織参考館、嬭恋郷土資料館、新井順二、阪本英一、高橋政光、富田孝彦、中東彰子、丸橋幸一、村田敬一、岩島麻保存会の皆様

## 凡 例

1. 本書で使用した国家座標は、日本測地系によるものである。
2. 挿図中に使用した方位は、座標北を表している。
3. 本遺跡の発掘調査は、最大で12名の担当者が担当し、しかも遺構量に対して調査期間が短期間であったために欠番や重複番号が多数認められたため、遺構番号は整理時にすべて付け直した。但し、遺物にはすでに旧番号が注記されているため、混乱を防ぐために報告書中に旧番号を併記してある。
4. 本書の図版で使用したスクリーン・トーンの摘要は、本文中に示した。
5. 面積は、プランメーター（タニタ プラニックス7）を用いて3回測定し、その平均値を記した。
6. 遺構図は挿図中にスケールを添付したが、原則下記の縮尺で掲載した。

### (1) 1面：天明三（1783）年の浅間山泥流面

建物 1:80・1:100 建物竈（カマド）・囲炉裏・便槽 1:50 建物遺物出土状況 1:40  
掘立柱建物 1:60 便槽 1:50 石組遺構 1:60 畑 1:250 畑の一部 1:50  
円形平坦面 1:50 四角形平坦面 1:50 水田 1:250 水田石組 1:200 井戸 1:50  
集石 1:20 道の断面 1:50

### (2) 2面：中近世以前

掘立柱建物 1:80 古代竪穴住居 1:50 古代竪穴住居竈（カマド） 1:20 竪穴状遺構 1:50  
焼土 1:50 土坑墓 1:20 火葬跡 1:20 掘立柱建物 1:80 便槽 1:50 石組遺構 1:50  
土坑 1:50 ビット 1:50

7. 遺物写真は、漆碗及び大型木器以外を基本的に本報告書編集者の橋高修一郎が、デジタル一眼レフカメラ（FUJIFILM[富士フィルム]FinePix・S9000）を使用してデジタル撮影を行った。

8. 今回、第3分冊に遺物写真図版版として遺物写真と遺物図を併存させた。基本的に、遺物写真は遺物図と同じ縮尺であるが、一部、異なるものもある。これは、遺物写真撮影をスタジオで実施できなかったために撮影距離が短い場合が多かったからである。遺物写真及び遺物図はスケールを添付したが、原則下記の縮尺で掲載した。しかしながら、遺物の大きさによってはレイアウト編集上、適宜スケールを変更していることに留意されたい。

### (1) 1面：天明三（1783）年の浅間山泥流面

陶磁器 1:2・1:3・1:5 石製品 1:3・1:4・1:5・1:20 金属製品 1:1・1:2・1:3・1:4 刀 1:5  
銭貨 1:1 木製品 1:3・1:5・1:6・1:10・1:20 櫛 1:2 漆碗 1:3 小型木器 1:5  
大型木器 1:10・1:20

### (2) 2面：中近世以前

陶磁器 1:2・1:3・1:4 土師器・須恵器 1:3 石製品 1:3・1:4・1:5・1:10  
金属製品 1:2・1:3・1:4 銭貨 1:1 鉄滓 1:2 木製品 1:2・1:10 漆碗 1:3

# 目 次

序・例言・凡例・目次

序章	1
第1節 発掘調査に至る経緯	3
第2節 発掘調査の経過と方法	3
第3節 遺跡の地理的・歴史的環境	5
第1章 I区出土遺構	7
第1節 I区1面	9
1. 畑 [1号～4号畑]	10
2. 集石 [1号集石]	21
第2節 I区2面	22
1. 土坑 [1号土坑]	22
第2章 II区出土遺構	23
第1節 II区1面	25
1. 畑 [1号～8号畑]	26
2. 道 [1号～3号道]	37
3. 掘立柱建物 [1号掘立柱建物]	40
第2節 II区2面	43
1. 掘立柱建物 [1号～3号掘立柱建物]	44
2. 土坑 [1号～48号土坑]	46
3. ビット [1号～14号ビット]	54
第3節 拡張調査	56
第3章 III区1面出土遺構	58
第1節 畑 [1号～14号畑]	62
第2節 水田	75
1. 水田 [1号～7号水田]	75
2. 井戸 [1号井戸]	77
第3節 道 [1号～3号道]	79
第4節 掘立柱建物 [1号～4号掘立柱建物]	80
第5節 石組遺構 [1号・2号石組遺構]	86
第6節 建物 [1号・2号建物]	88
第4章 III区2面出土遺構	105
第1節 竪穴住居 [H1号～H5号竪穴住居]	107
第2節 竪穴状遺構 [1号～12号竪穴状遺構]	114
第3節 焼土 [1号～48号焼土]	124
第4節 土坑墓・火葬跡 [H1号～H12号土坑墓・H1号火葬跡・A1号土坑墓]	129
第5節 掘立柱建物 [1号～14号掘立柱建物]	134
第6節 便槽 [1号～13号便槽]・馬屋跡 [1号馬屋跡]	144
第7節 石組遺構 [1号石組遺構]	147
第8節 土坑 [1号～237号土坑]	148
第9節 ビット [1号～343号ビット]	188
第5章 まとめ	217
第1節 上郷岡原遺跡出土大麻と大麻の生産過程	219
第2節 上郷岡原遺跡出土建物	223
第3節 上郷岡原遺跡III区出土の石臼について	226



## 挿図目次

第1図	上総岡原遺跡 遺跡位置図(1:100,000)	2	第60図	Ⅲ区1面3号・4号畑	64
第2図	調査区設定図	4	第61図	Ⅲ区1面5号・6号畑	65
第3図	上総岡原遺跡 遺跡位置図(1:25,000)	5	第62図	Ⅲ区1面7号・9号畑	66
第4図	I区1面金糸園	9	第63図	Ⅲ区1面10号畑	67
第5図	I区1面1号畑	10	第64図	Ⅲ区1面10号畑1号～4号円形平地面	68
第6図	I区1面1号畑1号～4号円形平地面	11	第65図	Ⅲ区1面10号畑6号円形平地面	69
第7図	I区1面2号畑	12	第66図	Ⅲ区1面11号～13号畑	70
第8図	I区1面2号畑1号～4号円形平地面	13	第67図	Ⅲ区1面14号畑	71
第9図	I区1面2号畑5号～7号円形平地面	14	第68図	Ⅲ区1面14号畑1号～4号四角形平地面	72
第10図	I区1面3号畑	15	第69図	Ⅲ区1面14号畑5号四角形平地面	73
第11図	I区1面3号畑1号～4号円形平地面	16	第70図	Ⅲ区1面金糸園	74
第12図	I区1面3号畑5号～8号円形平地面	17	第71図	Ⅲ区1面水田	75
第13図	I区1面4号畑	18	第72図	Ⅲ区1面水田石積み平地面・立面図	76
第14図	I区1面4号畑1号～4号円形平地面	19	第73図	Ⅲ区1面1号井戸位置図	77
第15図	I区1面4号畑5号・6号円形平地面	20	第74図	Ⅲ区1面1号井戸平地面	77
第16図	I区1面1号集石	21	第75図	Ⅲ区1面1号井戸平地面	78
第17図	I区2面1号土坑	22	第76図	Ⅲ区1面1号～3号道断面図	79
第18図	Ⅱ区1面金糸園	25	第77図	Ⅲ区1面1号懸立柱建物平地面	80
第19図	Ⅱ区1面1号畑	26	第78図	Ⅲ区1面1号懸立柱建物1号便槽平地面	81
第20図	Ⅱ区1面1号畑1号～4号円形平地面	27	第79図	Ⅲ区1面1号懸立柱建物平地面	81
第21図	Ⅱ区1面1号畑5号・6号円形平地面	28	第80図	Ⅲ区1面2号懸立柱建物平地面	82
第22図	Ⅱ区1面2号畑	29	第81図	Ⅲ区1面2号懸立柱建物平地面	83
第23図	Ⅱ区1面2号畑1号～4号円形平地面	30	第82図	Ⅲ区1面3号懸立柱建物1・2号便槽平地面	84
第24図	Ⅱ区1面3号畑	31	第83図	Ⅲ区1面3号懸立柱建物平地面	84
第25図	Ⅱ区1面4号畑・1号円形平地面	32	第84図	Ⅲ区1面4号懸立柱建物平地面・1号便槽平地面	85
第26図	Ⅱ区1面5号畑・1号円形平地面	33	第85図	Ⅲ区1面1号石組遺構平地面	86
第27図	Ⅱ区1面5号畑北境界石断面図	34	第86図	Ⅲ区1面2号石組遺構平地面	87
第28図	Ⅱ区1面6号～8号畑	35	第87図	Ⅲ区1面1号建物関取り図	88
第29図	Ⅱ区1面6号畑	36	第88図	Ⅲ区1面1号建物平地面	89
第30図	Ⅱ区1面7号畑	36	第89図	Ⅲ区1面1号建物内部施設平地面	90
第31図	Ⅱ区1面8号畑1号・2号円形平地面	36	第90図	Ⅲ区1面1号建物廻り方断面図	91
第32図	Ⅱ区1面1号・2号道	37	第91図	Ⅲ区1面2号建物関取り図	92
第33図	Ⅱ区1面3号道・2号道断面図	38	第92図	Ⅲ区1面2号建物平地面	93
第34図	Ⅱ区1面3号道	39	第93図	Ⅲ区1面2号建物跡器出土状況	94
第35図	Ⅱ区1面1号懸立柱建物	40	第94図	Ⅲ区1面2号建物遺物出土位置その1	95
第36図	Ⅱ区1面1号懸立柱建物平地面	41	第95図	Ⅲ区1面2号建物遺物出土位置その2	96
第37図	Ⅱ区1面1号懸立柱建物廻り方断面図	42	第96図	Ⅲ区1面2号建物遺物出土位置その3	97
第38図	Ⅱ区2面懸立柱建物・土坑・ピット位置図	43	第97図	Ⅲ区1面2号建物複数部遺物出土位置その1	98
第39図	Ⅱ区2面懸立柱建物位置図	44	第98図	Ⅲ区1面2号建物複数部遺物出土位置その2・3	99
第40図	Ⅱ区2面1号懸立柱建物平地面	44	第99図	Ⅲ区1面2号建物複数部遺物出土位置その4・5	100
第41図	Ⅱ区2面2号・3号懸立柱建物平地面	45	第100図	Ⅲ区1面2号建物複数部遺物出土位置その6・7	101
第42図	Ⅱ区2面土坑位置図	46	第101図	Ⅲ区1面2号建物複数部遺物出土位置その8・9	102
第43図	Ⅱ区2面1号・2号土坑	46	第102図	Ⅲ区1面2号建物平地面	103
第44図	Ⅱ区2面3号～9号土坑	47	第103図	Ⅲ区1面2号建物内部施設平地面	104
第45図	Ⅱ区2面11号～15号土坑	48	第104図	Ⅲ区2面2号住居・竪穴遺構・焼土・土坑墓・火葬坑位置図	106
第46図	Ⅱ区2面16号～23号土坑	49	第105図	Ⅲ区2面竪穴住居位置図	107
第47図	Ⅱ区2面24号～32号土坑	50	第106図	Ⅲ区2面H1号竪穴住居平地面	108
第48図	Ⅱ区2面33号～38号土坑	51	第107図	Ⅲ区2面H1号竪穴住居層平地面・廻り方断面図	109
第49図	Ⅱ区2面39号～45号土坑	52	第108図	Ⅲ区2面H2号竪穴住居平地面	110
第50図	Ⅲ区2面46号～48号土坑	53	第109図	Ⅲ区2面H3号竪穴住居平地面	111
第51図	Ⅲ区2面ピット位置図	64	第110図	Ⅲ区2面H4号竪穴住居平地面	112
第52図	Ⅲ区2面1号～5号ピット	64	第111図	Ⅲ区2面H5号竪穴住居層平地面	113
第53図	Ⅲ区2面6号～14号ピット	65	第112図	Ⅲ区2面竪穴遺構位置図	114
第54図	Ⅲ区拡張調査1・2・Ⅲ区・Ⅲ区関係調査	66	第113図	Ⅲ区2面1号竪穴遺構平地面	115
第55図	Ⅲ区拡張調査2・3	67	第114図	Ⅲ区2面2号・3号竪穴遺構平地面	116
第56図	Ⅲ区1面金糸園1/2	69	第115図	Ⅲ区2面4号・5号竪穴遺構平地面	117
第57図	Ⅲ区1面金糸園2/2	61	第116図	Ⅲ区2面6号・8号竪穴遺構平地面	118
第58図	Ⅲ区1面1号畑	62	第117図	Ⅲ区2面7号竪穴遺構機軸出土状況・遺物出土状況	119
第59図	Ⅲ区1面2号畑	63	第118図	Ⅲ区2面7号竪穴遺構廻り方断面図	120

第1198図	Ⅱ区 2面 9号・10号整穴状遺構平面断面図	121
第1200図	Ⅱ区 2面 11号・12号整穴状遺構平面断面図	122
第1210図	ねど倉の図	123
第1220図	Ⅱ区 2面焼土位置図	124
第1230図	大釜を使用した湯掛けの図	124
第1240図	Ⅱ区 2面 1号～12号焼土	125
第1250図	Ⅱ区 2面 13号～27号焼土	126
第1260図	Ⅱ区 2面 28号～43号焼土	127
第1270図	Ⅱ区 2面 44号～48号焼土	128
第1280図	Ⅱ区 2面土坑墓・火葬跡位置図	129
第1290図	Ⅱ区 2面 H 1号～H 3号土坑墓	130
第1300図	Ⅱ区 2面 H 4号～H 7号土坑墓	131
第1310図	Ⅱ区 2面 H 8号～H 12号土坑墓、H 1号火葬跡	132
第1320図	Ⅱ区 2面 A 1号土坑墓	133
第1330図	Ⅱ区 2面 1号～14号独立柱建物位置図	134
第1340図	Ⅱ区 2面 1号独立柱建物平面断面図	135
第1350図	Ⅱ区 2面 2号独立柱建物平面断面図	135
第1360図	Ⅱ区 2面 2号独立柱建物平面断面図	136
第1370図	Ⅱ区 2面 2号独立柱建物平面断面図	137
第1380図	Ⅱ区 2面 5号独立柱建物平面断面図	138
第1390図	Ⅱ区 2面 6号独立柱建物平面断面図	138
第1400図	Ⅱ区 2面 7号独立柱建物平面断面図	138
第1410図	Ⅱ区 2面 8号独立柱建物平面断面図	139
第1420図	Ⅱ区 2面 9号独立柱建物平面断面図	140
第1430図	Ⅱ区 2面 11号独立柱建物平面断面図	140
第1440図	Ⅱ区 2面 10号独立柱建物平面断面図	141
第1450図	Ⅱ区 2面 12号独立柱建物平面断面図	142
第1460図	Ⅱ区 2面 13号独立柱建物平面断面図	142
第1470図	Ⅱ区 2面 14号独立柱建物平面断面図	142
第1480図	Ⅱ区 2面独立柱建物の変遷図	143
第1490図	Ⅱ区 2面便槽・馬尿跡位置図	144
第1500図	Ⅱ区 2面 1号～7号便槽	145
第1510図	Ⅱ区 2面 8号～13号便槽、1号馬糞跡	146
第1520図	Ⅱ区 2面 1号石組遺構平面断面図	147
第1530図	Ⅱ区 2面土坑位置図1/2	148
第1540図	Ⅱ区 2面土坑位置図2/2	149
第1560図	Ⅱ区 2面 1号～9号土坑	150
第1560図	Ⅱ区 2面 10号～15号土坑	151
第1570図	Ⅱ区 2面 16号～21号土坑	152
第1580図	Ⅱ区 2面 22号～29号土坑	153
第1590図	Ⅱ区 2面 30号～37号土坑	154
第1600図	Ⅱ区 2面 38号～41号土坑	155
第1610図	Ⅱ区 2面 42号～50号土坑	156
第1620図	Ⅱ区 2面 51号～59号土坑	157
第1630図	Ⅱ区 2面 60号～66号土坑	158
第1640図	Ⅱ区 2面 66号～75号土坑	159
第1650図	Ⅱ区 2面 76号～85号土坑	160
第1660図	Ⅱ区 2面 86号～90号土坑	161
第1670図	Ⅱ区 2面 91号～97号土坑	162
第1680図	Ⅱ区 2面 98号～103号土坑	163
第1690図	Ⅱ区 2面 104号～107号土坑	164
第17000図	Ⅱ区 2面 108号～116号土坑	165
第1710図	Ⅱ区 2面 117号～125号土坑	166
第1720図	Ⅱ区 2面 126号～135号土坑	167
第17300図	Ⅱ区 2面 136号～140号土坑	168
第17400図	Ⅱ区 2面 141号～149号土坑	169
第17500図	Ⅱ区 2面 150号～155号土坑	170
第17600図	Ⅱ区 2面 156号～163号土坑	171
第17700図	Ⅱ区 2面 164号～172号土坑	172
第17800図	Ⅱ区 2面 173号～178号土坑	173
第17900図	Ⅱ区 2面 179号～187号土坑	174

第18000図	Ⅱ区 2面 188号～192号土坑	175
第18100図	Ⅱ区 2面 193号～199号土坑	176
第18200図	Ⅱ区 2面 200号～207号土坑	177
第18300図	Ⅱ区 2面 208号～209号土坑	178
第18400図	Ⅱ区 2面 210号～213号土坑	179
第18500図	Ⅱ区 2面 214号～217号土坑	180
第18600図	Ⅱ区 2面 218号～222号土坑	181
第18700図	Ⅱ区 2面 223号～229号土坑	182
第18800図	Ⅱ区 2面 230号～236号土坑	183
第18900図	Ⅱ区 2面 237号土坑	184
第19000図	Ⅱ区 2面 ビット位置図1/2	188
第19100図	Ⅱ区 2面 ビット位置図2/2	189
第19200図	Ⅱ区 2面 1号～9号ビット	190
第19300図	Ⅱ区 2面 10号～22号ビット	191
第19400図	Ⅱ区 2面 23号～41号ビット	192
第19500図	Ⅱ区 2面 42号～64号ビット	193
第19600図	Ⅱ区 2面 65号～68号ビット	194
第19700図	Ⅱ区 2面 69号～84号ビット	195
第19800図	Ⅱ区 2面 85号～103号ビット	196
第19900図	Ⅱ区 2面 104号～114号ビット	197
第20000図	Ⅱ区 2面 115号～128号ビット	198
第20100図	Ⅱ区 2面 129号～147号ビット	199
第20200図	Ⅱ区 2面 148号～158号ビット	200
第20300図	Ⅱ区 2面 159号～180号ビット	201
第20400図	Ⅱ区 2面 181号～198号ビット	202
第20500図	Ⅱ区 2面 199号～224号ビット	203
第20600図	Ⅱ区 2面 225号～244号ビット	204
第20700図	Ⅱ区 2面 245号～252号ビット	205
第20800図	Ⅱ区 2面 253号～265号ビット	206
第20900図	Ⅱ区 2面 266号～285号ビット	207
第21000図	Ⅱ区 2面 286号～304号ビット	208
第21100図	Ⅱ区 2面 305号～322号ビット	209
第21200図	Ⅱ区 2面 323号～330号ビット	210
第21300図	Ⅱ区 2面 331号～343号ビット	211
第21400図	上郷岡原遺跡発掘地の精地図とⅠ区～Ⅱ区Ⅰ面平面図合成	218

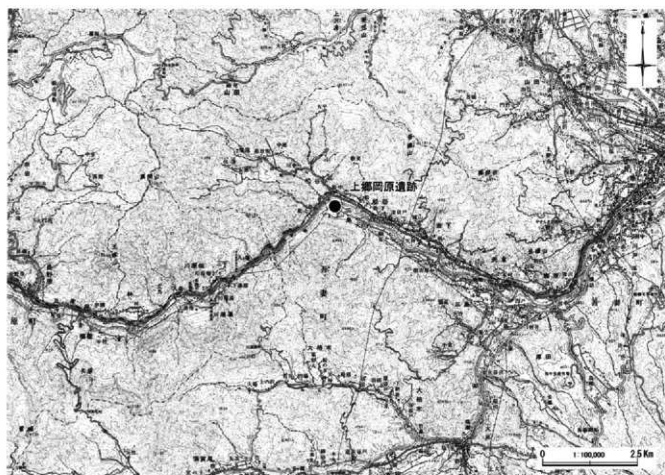
## 表目次

表 1	上郷岡原遺跡発掘地出土遺構概要	4
表 2	Ⅰ区Ⅰ面 1号・2号畑内形平面断面計測表	14
表 3	Ⅰ区Ⅰ面 3号・4号畑内形平面断面計測表	20
表 4	Ⅰ区Ⅰ面 1号～4号畑内形平面断面まとめ	22
表 5	Ⅱ区Ⅰ面 1号・2号・4号・5号・8号畑内形平面断面まとめ	26
表 6	Ⅱ区Ⅱ面土坑まとめ	53
表 7	Ⅱ区Ⅱ面ビットまとめ	55
表 8	Ⅱ区Ⅰ面 10号畑内形平面断面計測表	69
表 9	Ⅱ区Ⅰ面 14号畑内形平面断面計測表	73
表 10	Ⅱ区Ⅰ面畑まとめ	74
表 11	Ⅱ区Ⅱ面古代型穴住居まとめ	113
表 12	Ⅱ区Ⅱ面整穴状遺構まとめ	123
表 13	Ⅱ区Ⅱ面橋土まとめ	128
表 14	Ⅱ区Ⅱ面土坑墓・火葬跡まとめ	133
表 15	Ⅱ区Ⅱ面独立柱建物まとめ	143
表 16	Ⅱ区Ⅱ面便槽まとめ	146
表 17	Ⅱ区Ⅱ面土坑まとめ	184
表 18	Ⅱ区Ⅱ面ビットまとめ	212

## 序章



Ⅲ区（C区）での、浅間山泥流掘削中に検出された巨岩。当初、天明三（1783）年当時すでにあった巨岩と考えられていた。ところが、浅間山泥流掘削を継続すると、女性10人が抱えるほどのこの巨岩も泥流で流されてきたことが判明した。浅間山泥流の凄まじさが、理解できる。



第1図 上郷岡原遺跡 遺跡位置図(1:100,000) [国土地理院 1:50,000地形図、草摺・中之条を縮小して使用]

## 第1節 発掘調査に至る経緯

上郷岡原遺跡は、群馬県東吾妻町大字三島に所在する。調査当時は吾妻町であったが、平成18年の合併に伴い住所地の名称が変更になった。

この上郷岡原遺跡の発掘調査は、八ッ場ダム建設工事に伴う三島造成地の工事のために実施された。平成12年度に、群馬県教育委員会文化財保護課(当時: 現文化課)による試掘調査が行われ、平成13年度には西側の一部が発掘調査された。本報告書の対象地は、東側にあたる。当初、対象地の内、東側及び西側を(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施し、中間を吾妻町教育委員会(当時: 現東吾妻町教育委員会)が実施する予定であったが、その後の協定変更により、対象地すべてを当事業団が発掘調査することになった。

## 第2節 発掘調査の経過と方法

### (1) 発掘調査の経過

上郷岡原遺跡の発掘調査は、平成13年度から始められ現在も継続されており、平成19年度で調査終了の予定である。以下に、調査日誌を示した。

#### 調査日誌抄録

平成14(2002)年

4月1日(月): 榑崎修一郎・渡辺弘幸・齊田智彦の3名が、八ッ場ダム調査事務所(当時、中之条町)に着任し、上郷岡原遺跡の調査担当者となる。

4月19日(金): 現地にて打ち合わせ実施。発掘調査予定地に、木材が多敷置いてあり、すぐには調査できないことが判明。

4月26日(金): 現地にて、国土交通省と会議。

4月30日(火): 事務所プレハブ用地の整地開始。

5月1日(水): 安全策設置の打ち合わせ。

5月7日(火)～8日(水): 遺構確認トレンチ調査実施。天明泥流下に畑を確認。泥流の堆積は、調査区の東側で約2m、西側で約3m。遺構確認トレンチの埋め戻し開始。

5月10日(金): 事務所プレハブ完成。

5月13日(月)～同14日(火): 上郷岡原遺跡西側遺構確認トレンチ調査。埋め戻し開始。

5月22日(水): 表土掘削開始。

5月23日(木): 作業開始。作業員出勤。

5月27日(月): 表土掘削継続。I区天明泥流掘削開始。

6月4日(火): グリッド杭打ち、BMの設定。

6月7日(金): I区で、As-A泥流下畑で、葉の痕跡を検出。後に、この植物遺体は、「麻」であることが判明。

6月10日(月): As-A泥流下畑で、円形平坦面を検出。

6月17日(月): 岩島中学校生徒11名来跡。

6月29日(土): 第1回地元説明会実施。50名来跡。

6月30日(日): 齊田智彦、別遺跡へ異動。

7月1日(月): 石川雅俊、着任。調査担当は、榑崎修一郎・渡辺弘幸・石川雅俊の3名で実施。

7月2日(火): 東吾妻町教育委員会(当時、吾妻町教育委員会)18名が来跡し、遺跡を見学。

7月5日(金): 土層剥ぎ取り実施。

7月9日(火): I区(当時、D区東)天明三年畑空撮・空測実施。

7月18日(木): III区(当時、C区)江戸時代住居礎石検出。

8月20日(火): III区(当時、C区)1号道部分の泥流掘削開始。

9月17日(火): 東吾妻町町会議員(当時、吾妻町町会議員)他25名が来跡し、遺跡を見学。

9月26日(木): 壁材剥ぎ取り実施。

10月1日(火): 杉山宏秀・小保方香里の2名が着任。

10月18日(金): III区(当時、C区)空撮・空測実施。

10月19日(土): 第2回地元説明会実施。73名来跡。

10月24日(木): 板戸剥ぎ取り実施。

11月14日(木): 松原孝志・石田 真の2名が着任。

12月2日(月): 池田政志・阿久津 聡の2名が着任。

12月14日(土): II区(当時、D区西)空撮・空測実施。

12月27日(金): 年内の現場終了。榑崎修一郎・渡辺弘幸・石川雅俊・杉山宏秀・小保方香里・松原孝志・池田政志・阿久津 聡の8名は離任し、別遺跡へ異動。

平成15(2003)年

1月8日(水): 藤巻幸男・飯森康広・石田 真の3名が着任。

1月21日(火): 中近世の掘立柱建物跡確認調査。

2月3日(月): 調査終了。

平成16(2004)年

6月16日(水): 小野和之・澁川仲男が、II区・III区間の確認調査実施。



第2図 調査区設定図

表1 上郷岡原遺跡検出遺構概要

年度	調査面積	天明三年	中世世	平安時代	鎌倉時代	縄文時代	出典
平成13年度 (2001年)	3,300㎡	畑4区画	-	竪穴住居3軒	-	陥し穴2基	新井 (2002)
平成14年度 (2002年)	18,230㎡ (堀・溝溝45,576㎡)	家屋2軒・竪立柱建物4 棟・井戸1基・土壇・土 基・腰堀5基・道路7条・水 田1区画・畑2区画	竪立柱建物15棟・竪穴状遺構12 基・粘土50×9形・ピットを含む土坑 264基・土坑蓋(人骨)13基・土坑 蓋(馬骨)11基	9世紀後半～10世紀前半 の竪穴住居5軒	中期の遺存土層 (再葬墓か?)	竪穴住居4軒(中期1軒・ 後期の縄紋形竪穴住居 3軒)	石田 (2003)
平成15年度 (2003年)	8,350㎡	畑6区画・溝7条	-	竪穴住居2軒・竪立柱建 物6棟	-	陥し穴3基	石川 (2004)
平成16年度 (2004年)	平成14年度調査区をトレンチにより追加遺構探査調査						
平成17年度 (2005年)	2,800㎡	畑3区画・平屋敷3基・道2 条・ヤックラ(黒石遺構)3 基	土坑1基	-	-	-	藤 (2006)
平成18年度 (2006年)	-	南ガラ製の小甕の壁	調査中	調査中	調査中	調査中	-

引用文献

- 新井英樹 2002 322 上郷岡原遺跡, 『年報21』, (財)群馬県縄文文化財調査事業団, p.51  
 石田 真 2003 06 上郷岡原遺跡, 『年報22』, (財)群馬県縄文文化財調査事業団, p.33  
 石川雅俊 2004 8 上郷岡原遺跡, 『年報23』, (財)群馬県縄文文化財調査事業団, p.31  
 岡 俊明 2006 7 上郷岡原遺跡(第4次), 『年報25』, (財)群馬県縄文文化財調査事業団, p.29

## (2) 調査区の設定

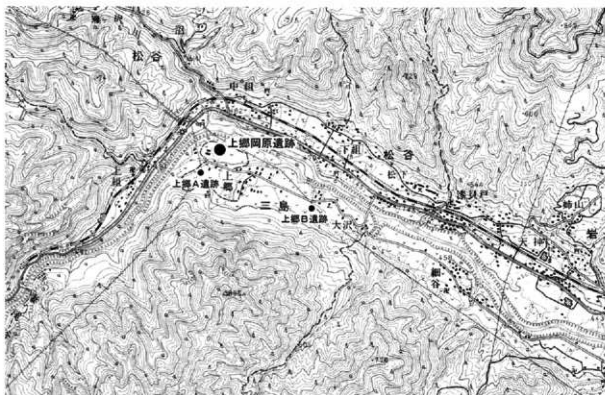
調査区は、当初、当事業団と吾妻町教育委員会(当時: 現東吾妻町教育委員会)とで発掘区を分担する予定であった。そのため、平成13(2001)年度に当事業団で発掘調査を実施した調査区をA区とし、西側から東側にかけて、A区～D区まで設定した。今回報告を行う調査区は、平成14(2002)年度に調査した調査区であるが、東側をD区とし西側をC区とした。D区は、さらにD区東とD区西という名称で調査を行った。

ところが、その後の状況変化で、当事業団がすべての部分を調査することになったため、今回報告する調査区名は、東側から西側にかけて、I区(D区東)・II区(D区西)・III区(C区)と変更した。

## (3) 基本土層

上郷岡原遺跡は、吾妻川により形成された河岸段丘の下位面に位置している。層序は、地点によって多少の違いは認められるが、ここでは基本的な土層を示した。

- I層・泥流層: 天明三(1783)年の浅間山泥流
- II層・As-A軽石: 天明三年の浅間山噴火軽石
- III層・黒褐色土: 天明三(1783)年当時の耕作土
- IV層・暗褐色土: 中世相当の層
- V層・黒色土: 縄文時代相当の土層
- VI層・黄褐色土: ローム層



第3図 上郷岡原遺跡 遺跡位置図 (1:25,000) [国土地理院 1:25,000地形図、長野県・群馬原町を使用]

### 第3節 遺跡の地理的・歴史的環境

#### (1) 地理的環境

上郷岡原遺跡の所在する東吾妻町（調査時は、吾妻町）は、群馬県の西北部吾妻郡のほぼ中央に位置し、東及び北は中之条町、西は長野原町、南は高崎市榛名町及び高崎市倉沢町と境を接している。

上郷岡原遺跡は、東吾妻町大字三島に所在し、利根川水系である吾妻川中流の右岸河岸段丘上に位置している。吾妻川は、長野県との県境に位置する浅間山山麓を源流としており、渋川市阿久津付近で利根川に注ぐ全長約74kmの一級河川である。流域全域が山地帯であり、両岸に小規模な河岸段丘をいくつも形成しながら渓谷を刻んでいる。町は、四ヶ町村の合併により1956（昭和31）年に誕生し、市街地となっている原町地区、榛名山北麓の太田地区、吾妻川上流域の岩島地区、吾妻川支流温川上流域の坂上地区の大きく四つの地区としてその名残を残している。その後、2006（平成18）年に、旧吾妻町と旧東村とが合併し、新東吾妻町が誕生している。

遺跡近くの吾妻川は、上流で吾妻渓谷により極端に狭くなった川幅が、右に急激に曲がりながら広がっている箇所である。両岸に2から3段の河岸段丘を発達させている。上郷岡原遺跡は、これらの内、下位の段丘上にあり、吾妻川との標高差は約50mである。遺跡南側背後には、坂上地区とを隔てる山々が横たわっており、そこからの湧水が随所にみられ小規模河川となって段丘面を開折・分断している。遺跡が所在している下位の段丘面はロームと黒ボク土によって厚く覆われ、上層黒ボク土中に浅間山の火山性噴出物の堆積を部分的に確認できる。

吾妻川は、1783（天明3）年の浅間山の大量噴火によって多大な影響を受けている。この噴火では、大規模な泥流が流れ込み本流の利根川まで大きな影響を及ぼしている。また、下位河岸段丘では、泥流層が厚く堆積している。本遺跡においては、この浅間山泥流により、麻畑が全滅し、家屋及び掘立柱建物が押し流されているが上位河岸段丘には被害は及んでいない。

**(2) 歴史的環境**

**旧石器時代** 現在まで検出されていない。

**縄文時代** 前期の集落跡が、原町にある念仏塚遺跡において確認されている。また、郷原遺跡は、1944(昭和19)年、国道改修工事の際後期のハート形土偶が出土したのを契機に、山崎義男氏によって発掘調査が行われた。更に1984(昭和59)年、ガンリスタンド建設に伴って発掘調査が行われ、中期の集落が発見されている。ハート形土偶については、縄文後期に該当すると考えられている。唐堀遺跡では、昭和55年の緊急調査において後期から晩期の遺物が出土している。散布地も含めると、前期では河岸段丘に臨む台地上や山間部の平坦地に遺跡が分布し、縄文後期から縄文晩期にかけて遺跡数は増加し河岸段丘上にも広く分布する。近隣の土郷A遺跡及び土郷B遺跡からは、縄文時代前期の陥し穴が多数検出されている。本遺跡においても、縄文時代の堅穴住居が6軒検出されている。

**弥生時代** 中期の遺跡としては、再葬墓で有名な岩櫃山麓の果遺跡がある。岩櫃山麓の果遺跡は、郷土史家金澤佐氏により注目され、1938(昭和13)年から1949(同14)年にかけて明治大学の杉原荘介氏等によって調査されたもので、後に弥生中期土器編年の標式遺跡となっている。そして、近年、再葬墓の可能性が指摘されている遺構が前畑遺跡でも確認されている。

**古墳時代** 東吾妻町にも多くの古墳が存在しており、『上毛古墳総覧』によると170数基に及ぶとされている。しかしながら、その分布は東に多く西には少ない状態である。土郷原遺跡が所在する右岸近辺では四戸古墳群が知られており、左岸では堅穴式石室を持つ机古墳が発見されている。これらの古墳は、いずれも6世紀代が主体である。

**奈良・平安時代** 近隣の土郷B遺跡から9世紀後半から10世紀にかけての小規模な集落が検出されている。また、前畑遺跡からは、7世紀から11世紀にかけての集落が検出されている。本遺跡においても、平安時代の堅穴住居5軒が検出されている。

中世 周辺には岩櫃城を初めとして、郷原城、岩下城、根古屋城等の城が存在する。吾妻郡の中世は、上杉氏と武田氏による争いや真田氏などの動きの中で複雑な動きを示しており、これらの城もその動きの中で築城されたものである。本遺跡においても、中世の掘立柱建物・堅穴状遺構・土坑墓・火葬跡・焼土等が検出されている。

近世 この地域は、1783(天明3)年の浅間山大噴火に伴う吾妻川を流下した天明泥流の被害を受けた地域である。特に下位河岸段丘面ではこの泥流層が厚く堆積しているのが確認されている。本遺跡では、この泥流に埋もれた麻畑・水田・道・掘立柱建物・家屋等が検出されており、約220年振りに当時のままの姿を現している。

**参考文献**

- 吾妻村誌編集委員会 1971 『吾妻村誌』  
 神谷佳明 2006 『土郷B遺跡・廣石A遺跡・二反沢遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団  
 群馬県史編纂委員会 1981 『群馬県史 資料編3. 原始 古代3』, 群馬県  
 大工原 豊・能登 健・藤巻幸男 1985 『郷原遺跡』, 吾妻町教育委員会  
 岩櫃城跡保存整備計画策定委員会 1992 『岩櫃城跡保存整備計画策定報告書』, 吾妻町教育委員会  
 新井順二 1998 『郷原遺跡』, 吾妻町教育委員会  
 新井順二 1998 『生原遺跡』, 吾妻町教育委員会  
 市 隆之・新井順二 1998 『前畑遺跡』, 吾妻町教育委員会  
 小野和之・池田政志・石川雅俊・石田 真 2004 『久々戸遺跡(2)・中郷B遺跡(2)・西ノ上遺跡・土郷A遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

**関連参考文献**

本遺跡に関するこれまでの発表及び文献は、以下の通りである。

**●口説発表**

- 橋崎修一郎 2003 『土郷原遺跡』、『平成15年度調査遺跡発表会』(於:前橋アルチ・ホール) [2003年6月28日]  
 藤根 久・佐々木由香・バネオラボAMS年代測定グループ・橋崎修一郎 2006 『天明3(1783)年の浅間泥流で埋没した建物遺構群のマイクロレザリング』、『第19回ワンダム研究会』(於:国民宿舎サンライズ大木) [2006年7月1日]  
 橋崎修一郎 2008 『土郷原遺跡』、『第106回江戸遺跡研究会特別例会』(於:江戸東京博物館) [2008年7月16日]  
 藤根 久・佐々木由香・バネオラボAMS年代測定グループ・橋崎修一郎 2008 『天明3(1783)年の浅間泥流で埋没した建物遺構群の年代学的研究』、『第9回AMSシンポジウム』(於:東京大学武田ホール) [2008年10月20日]

**●参考文献**

- 橋崎修一郎 2003a 天明泥流に呑み込まれた村、「遺跡は今」,(財)群文文、第12号:2-6。  
 橋崎修一郎 2003b 土郷原遺跡:天明三年の泥流に埋もれた麻畑・水田・家、「埋文群馬」,(財)群文文、No.39:4-5。  
 橋崎修一郎 2003c 土郷原遺跡、平成15年度調査遺跡発表会講演要旨、(財)群文文、p.4-6。  
 橋崎修一郎 2006a 土郷原遺跡:天明三年の浅間山泥流に埋もれた麻畑・水田・家屋、「江戸遺跡研究会会報」,江戸遺跡研究会、No.106:p.15-17 [註:インターネットの江戸遺跡研究会で閲覧可能]  
 橋崎修一郎 2006b ぐんま遺跡発掘報告 12: 遺器、土新開(11月10日付)



## 第1章 I区出土遺構

I区では、1783（天明3）年の浅間山泥流に埋もれた面を1面とし、それ以下を2面とした。調査区の北東隅は攪乱を受けており、調査不能であった。なお、調査時は、D区東という名称であった。調査面積は、3,319 m<sup>2</sup>である。

1面では、畑4区画・円形平坦面25基・板碑を伴う1号集石1基が検出された。また、2面では、土坑1基及び縄文包含層が検出されたが、ここでは土坑についてのみ報告する。縄文包含層及び縄文時代の遺物については、次回以降の報告書で報告する。

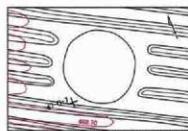


I区1面畑全景：人が立っている場所が円形平坦面（西から撮影）

### 円形平坦面・四角形平坦面の分類

上郷開原遺跡1面の天明三(1783)年泥炭面の畑からは、円形を呈し平坦な箇所及び四角形を呈し平坦な箇所が検出されている。ここでは、利便を図るために、円形平坦面を4つの形態に分類した。また、四角形平坦面は1つの形態しか認められなかった。

I区からは円形平坦面が25基検出されたが、そのすべてが、ここで言うAタイプであった。



I区1面3号畑2号円形平坦面

円形平坦面Aタイプ：畝及びサケが円形平坦面に食い込んでおらず、溝を有さないタイプである。



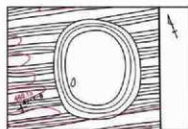
II区1面10号畑3号円形平坦面

円形平坦面Bタイプ：畝及びサケが円形平坦面に食い込んでおり、溝を有さないタイプである。



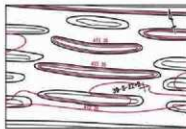
II区1面8号畑1号円形平坦面

円形平坦面Cタイプ：畝あるいはサケが、円形平坦面の中だけにみとめられ、溝を有さないタイプである。



II区1面1号畑3号円形平坦面

円形平坦面Dタイプ：畝及びサケが円形平坦面に食い込んでおらず、溝を有するタイプである。



II区1面14号畑6号四角形平坦面

四角形平坦面：四角形を呈し、畝及びサケが透切れているタイプである。板で仕切った底跡であろうか。

## 第1節 I区1面

I区は、調査区の一帯東に位置する。調査時は、D区東という名称であった。I区1面では、畑・円形平塚面・1号集石が検出された。なお、畑の北東隅は攪乱を受けており、調査は不能であった。

### 1. 畑 [1号～4号畑]

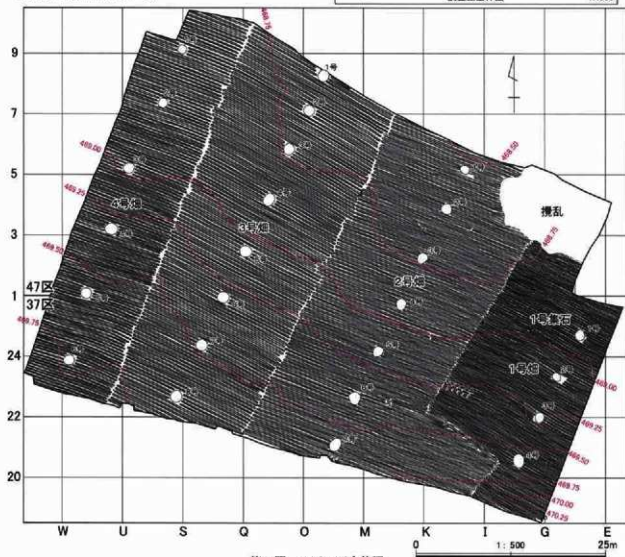
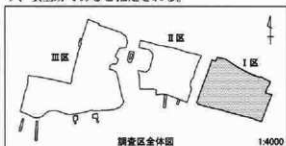
畑は、4区画が検出され、調査区の東側から西側にかけて順番に1号畑～4号畑と名称を付した。畑は、全体的に、東南から北部にかけて緩やかに傾斜する。東南部と北部の高低差は、約1.75mである。畑には、浅間A軽石 (As-A) が約5mm～1cm堆積した状態で検出されている。

### 円形平塚面

円形平塚面は、1号畑で4基・2号畑で7基・3号畑で8基・4号畑で6基の合計25基が検出された。

### 2. 集石 [1号集石]

1号畑の北西部に、1号集石が1基検出された。本遺構からは破損した板碑及び骨粉が検出されており、墳墓跡であると推定される。

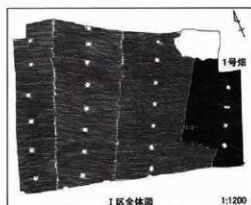


第4図 I区1面全体図

## 1. 畑 [1号~4号畑]

## (1) I区1面1号畑 (37・47区1号畑)

I区1面1号畑からは、4基の円形平坦面・105条の畝が検出された。検出された面積は、496.5㎡である。さらに、板碑の破片を伴う1号集石が1基検出されている。



## 1号畑

1号畑の形状は、北東~南西にかけて細長いものである。しかしながら、同畑の北部は攪乱を受けており、さらに北部・東部・南部は調査区外であるため、全容をうかがうことはできない。西南部は、2号畑が突出して1号畑にくい込んでいる状態であるが、その理由は不明である。南東部から北部にかけて緩やかに傾斜しており、比高差は約1.5mである。

## ①畝とサク

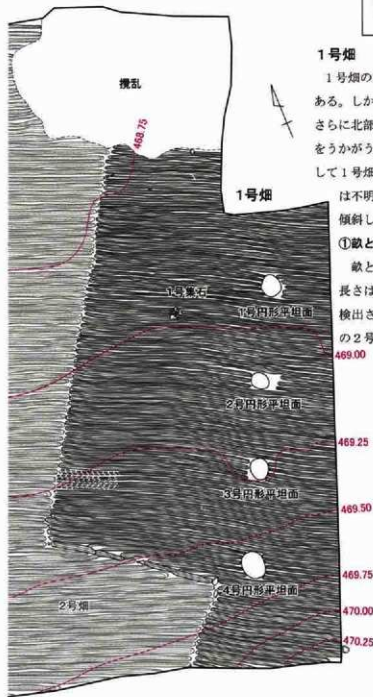
畝とサクは、北西~南東にかけて走行しており、長さは約7m~19mである。総数で105条の畝が検出された。畝とサクの間隔は、約35cmで、他の2号・3号・4号畑と比べると狭い傾向がある。

## ②円形平坦面

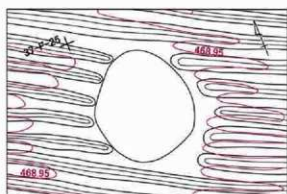
円形平坦面は、総数で4基が検出された。どれも、溝を有さないAタイプである。直径は、約1.4m~1.7mである。また、面積は、約1.1㎡~2.2㎡である。これら4基共に、平坦面にはAs-A軽石が堆積しており、泥流被災時には耕作が行われていないことが確実である。

## ③1号集石

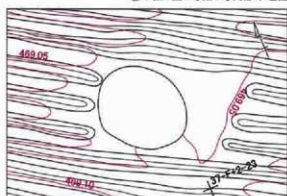
1号集石は、1号畑の北西部から1基検出された。板碑の破片を伴い、下部からは骨片が検出されたことから、中世に遡る墳墓である可能性が高い。



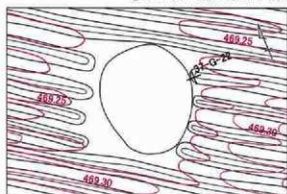
第5図 I区1面1号畑



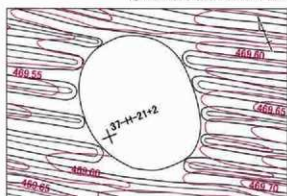
① I区1面1号畑1号円形平坦面



② I区1面1号畑2号円形平坦面



③ I区1面1号畑3号円形平坦面



④ I区1面1号畑4号円形平坦面

0 1:50 2m

## 円形平坦面

## ① I区1面1号畑1号円形平坦面

(D区東37区1号畑4号円形平坦面)

形状: 楕円形を呈する。

タイプ: 溝を有さないAタイプである。

直径: 長軸約1.4m、短軸約1.3mである。

面積: 約1.5㎡である。

堆積物: 上面には、As-A軽石がほぼ均等に堆積。

高低差: ほぼ平坦である。

畝サク: 円形平坦面には、食い込んでいない。

## ② I区1面1号畑2号円形平坦面

(D区東37区1号畑3号円形平坦面)

形状: 楕円形を呈する。

タイプ: 溝を有さないAタイプである。

直径: 長軸約1.25m、短軸約1.0mである。

面積: 約1.0㎡である。

堆積物: 上面には、As-A軽石がほぼ均等に堆積。

高低差: ほぼ平坦である。

畝サク: 円形平坦面には、食い込んでいない。

## ③ I区1面1号畑3号円形平坦面

(D区東37区1号畑2号円形平坦面)

形状: 楕円形を呈する。

タイプ: 溝を有さないAタイプである。

直径: 長軸約1.4m、短軸約1.2mである。

面積: 約1.4㎡である。

堆積物: 上面には、As-A軽石がほぼ均等に堆積。

高低差: ほぼ平坦である。

畝サク: 円形平坦面には、食い込んでいない。

## ④ I区1面1号畑4号円形平坦面

(D区東37区1号畑1号円形平坦面)

形状: 楕円形を呈する。

タイプ: 溝を有さないAタイプである。

直径: 長軸約1.85m、短軸約1.5mである。

面積: 約2.3㎡である。

堆積物: 上面には、As-A軽石がほぼ均等に堆積。

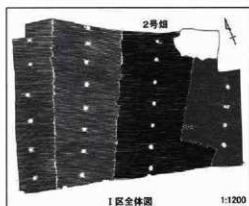
高低差: ほぼ平坦である。

畝サク: 円形平坦面には、食い込んでいない。

第6図 I区1面1号畑1号～4号円形平坦面

## (2) I区1面2号畑(37・47区2号畑)

I区1面2号畑からは、7基の円形平坦面・103条の畝が検出された。検出された面積は、1,026.5㎡である。南部から北部にかけて緩やかに傾斜しており、比高差は約1.25mである。



## 2号畑

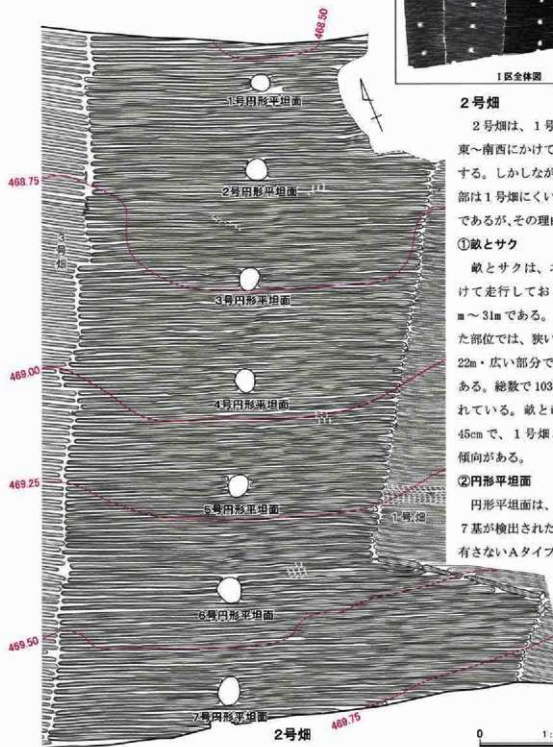
2号畑は、1号畑と同様に、北東～南西にかけて細長い形状を呈する。しかしながら、同畑の南東部は1号畑にくい込んでいる状態であるが、その理由は不明である。

## ①畝とサク

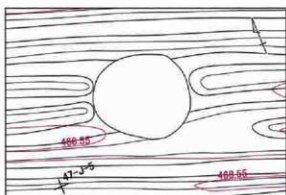
畝とサクは、北西～南東にかけて走行しており、長さは約9m～31mである。完全に検出された部位では、狭い部分で約20m～22m・広い部分で約23m～32mである。総数で103条の畝が検出されている。畝と畝の間隔は、約45cmで、1号畑と比べると広い傾向がある。

## ②円形平坦面

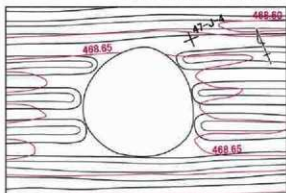
円形平坦面は、一直線に、合計7基が検出された。どれも、溝を有さないAタイプである。



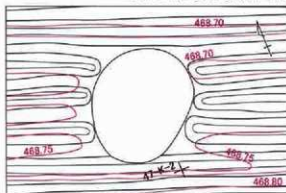
第7図 I区1面2号畑



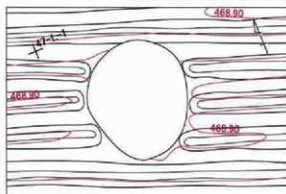
① I区1面2号畑1号円形平坦面



② I区1面2号畑2号円形平坦面



③ I区1面2号畑3号円形平坦面



④ I区1面2号畑4号円形平坦面

0 1:50 2m

## 円形平坦面

## ① I区1面2号畑1号円形平坦面

(D区東47区2号畑3号円形平坦面)

形状:楕円形を呈する。

タイプ:溝を有さないAタイプである。

直径:長軸約1.3m・短軸約1.1mである。

面積:約1.2㎡である。

堆積物:上面には、As-A軽石がほぼ均等に堆積。

高低差:ほぼ平坦である。

取サク:円形平坦面には、食い込んでいない。

## ② I区1面2号畑2号円形平坦面

(D区東47区2号畑2号円形平坦面)

形状:ほぼ円形を呈する。

タイプ:溝を有さないAタイプである。

直径:約1.4mである。

面積:約1.6㎡である。

堆積物:上面には、As-A軽石がほぼ均等に堆積。

高低差:ほぼ平坦である。

取サク:円形平坦面には、食い込んでいない。

## ③ I区1面2号畑3号円形平坦面

(D区東47区2号畑1号円形平坦面)

形状:楕円形を呈する。

タイプ:溝を有さないAタイプである。

直径:長軸約1.5m・短軸約1.3mである。

面積:約1.6㎡である。

堆積物:上面には、As-A軽石がほぼ均等に堆積。

高低差:ほぼ平坦である。

取サク:円形平坦面には、食い込んでいない。

## ④ I区1面2号畑4号円形平坦面

(D区東37区2号畑8号円形平坦面)

形状:楕円形を呈する。

タイプ:溝を有さないAタイプである。

直径:長軸約1.6m・短軸約1.3mである。

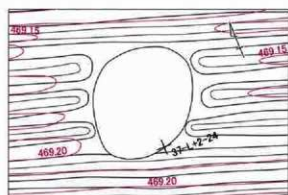
面積:約1.6㎡である。

堆積物:上面には、As-A軽石がほぼ均等に堆積。

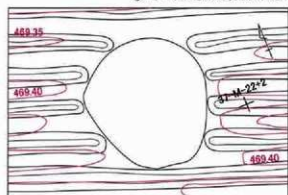
高低差:ほぼ平坦である。

取サク:円形平坦面には、食い込んでいない。

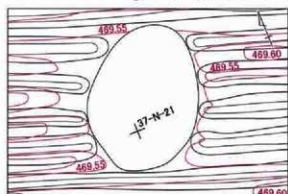
第8図 I区1面2号畑1号～4号円形平坦面



⑤ I区1面2号畑5号円形平坦面



⑥ I区1面2号畑6号円形平坦面



⑦ I区1面2号畑7号円形平坦面

## ⑤ I区1面2号畑5号円形平坦面

(D区東37区2号畑7号円形平坦面)

形状: 楕円形を呈する。

タイプ: 溝を有さないAタイプである。

直径: 長軸約1.5m・短軸約1.3mである。

面積: 約1.6㎡である。

堆積物: 上面には、As-A軽石がほぼ均等に堆積。

高低差: ほぼ平坦である。

畝サク: 円形平坦面には、食い込んでいない。

## ⑥ I区1面2号畑6号円形平坦面

(D区東37区2号畑6号円形平坦面)

形状: 不整形円形を呈する。

タイプ: 溝を有さないAタイプである。

直径: 長軸約1.7m・短軸約1.6mである。

面積: 約2.1㎡である。

堆積物: 上面には、As-A軽石がほぼ均等に堆積。

高低差: ほぼ平坦である。

畝サク: 円形平坦面には、食い込んでいない。

## ⑦ I区1面2号畑7号円形平坦面

(D区東37区2号畑5号円形平坦面)

形状: 楕円形を呈する。

タイプ: 溝を有さないAタイプである。

直径: 長軸約1.95m・短軸約1.45mである。

面積: 約2.2㎡である。

堆積物: 上面には、As-A軽石がほぼ均等に堆積。

高低差: ほぼ平坦である。

畝サク: 円形平坦面には、食い込んでいない。

第9図 I区1面2号畑5号～7号円形平坦面

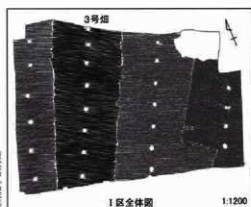
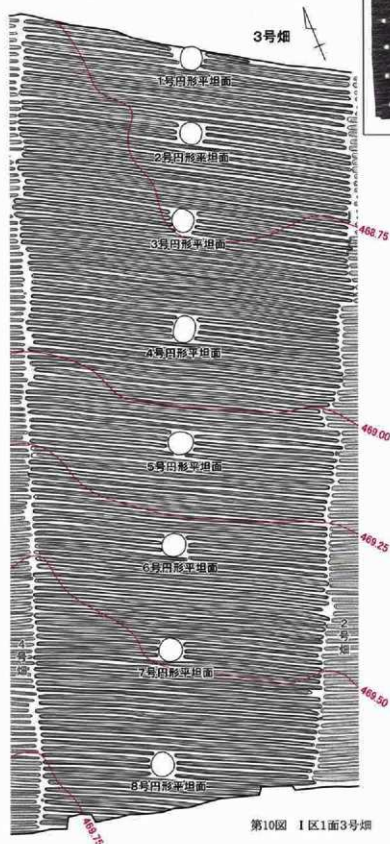
表2 I区1面1号・2号畑円形平坦面計測表

畑No.	円形平坦面No.	形状	タイプ	長軸	短軸	面積	畝とサク
1号畑	1号円形平坦面	楕円形	A	約1.4m	約1.3m	約1.5㎡	食い込んでいない
	2号円形平坦面	楕円形	A	約1.25m	約1.0m	約1.0㎡	食い込んでいない
	3号円形平坦面	楕円形	A	約1.4m	約1.2m	約1.4㎡	食い込んでいない
	4号円形平坦面	楕円形	A	約1.85m	約1.5m	約2.3㎡	食い込んでいない
2号畑	1号円形平坦面	楕円形	A	約1.3m	約1.1m	約1.2㎡	食い込んでいない
	2号円形平坦面	不整形円形	A	直径約1.4m		約1.6㎡	食い込んでいない
	3号円形平坦面	楕円形	A	約1.5m	約1.3m	約1.6㎡	食い込んでいない
	4号円形平坦面	楕円形	A	約1.6m	約1.3m	約1.6㎡	食い込んでいない
	5号円形平坦面	楕円形	A	約1.5m	約1.3m	約1.6㎡	食い込んでいない
	6号円形平坦面	不整形円形	A	約1.7m	約1.6m	約2.1㎡	食い込んでいない
	7号円形平坦面	楕円形	A	約1.95m	約1.45m	約2.2㎡	食い込んでいない



## (3) I区1面3号畑 (37・47区3号畑)

I区1面3号畑からは、8基の円形平坦面・116条の畝が検出された。検出された面積は、1,011.8㎡である。



## 3号畑

3号畑は、1号及び2号畑と同様に、北東～南西にかけて細長い形状を呈する。南西から北部にかけて緩やかに傾斜しており、比高差は約1mである。

## ①畝とサク

畝とサクは、北西～南東にかけて走行しており、長さは約17m～22mである。

大きな傾向として、畝サクは北側で長く、南側で短い傾向がある。総数で118の畝が検出されている。畝とサクの間隔は、2号畑と同様に約45cm～50cmである。

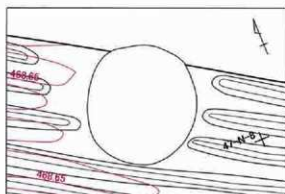
## ②円形平坦面

3号畑から、8基の円形平坦面が検出された。8基すべてが、溝を有さないAタイプである。

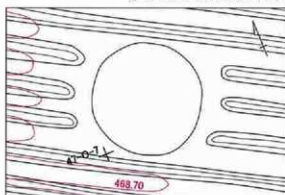
円形平坦面の形状は、円形から楕円形を呈する。直径は、最小約1.5m～最大約1.8mであり、平均は約1.6mである。また、面積は最小約1.6㎡～最大2.1㎡であり、平均は約1.9㎡である。

0 1:250 10m

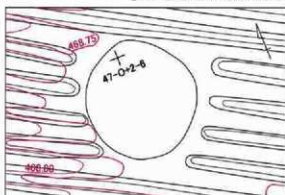
第10図 I区1面3号畑



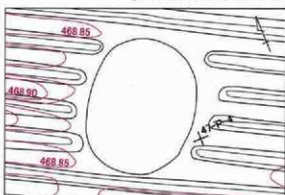
① I区1面3号畑1号円形平坦面



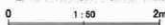
② I区1面3号畑2号円形平坦面



③ I区1面3号畑3号円形平坦面



④ I区1面3号畑4号円形平坦面



## 円形平坦面

## ① I区1面3号畑1号円形平坦面

(D区東47区3号畑8号円形平坦面)

形状: 楕円形を呈する。

タイプ: 溝を有さないAタイプである。

直径: 長軸約1.6m・短軸約1.45mである。

面積: 約1.9㎡である。

堆積物: 上面には、As-A軽石がほぼ均等に堆積。高低差: ほぼ平坦である。

軟サク: 円形平坦面には、食い込んでいない。

## ② I区1面3号畑2号円形平坦面

(D区東47区3号畑7号円形平坦面)

形状: ほぼ円形を呈する。

タイプ: 溝を有さないAタイプである。

直径: 約1.45mである。

面積: 約1.8㎡である。

堆積物: 上面には、As-A軽石がほぼ均等に堆積。高低差: ほぼ平坦である。

軟サク: 円形平坦面には、食い込んでいない。

## ③ I区1面3号畑3号円形平坦面

(D区東47区3号畑6号円形平坦面)

形状: 不整形円形を呈する。

タイプ: 溝を有さないAタイプである。

直径: 長軸約1.6m・短軸約1.45mである。

面積: 約1.8㎡である。

堆積物: 上面には、As-A軽石がほぼ均等に堆積。高低差: ほぼ平坦である。

軟サク: 円形平坦面には、食い込んでいない。

## ④ I区1面3号畑4号円形平坦面

(D区東47区3号畑5号円形平坦面)

形状: 楕円形を呈する。

タイプ: 溝を有さないAタイプである。

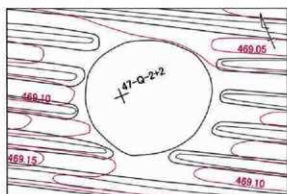
直径: 約1.8mである。

面積: 約2.1㎡である。

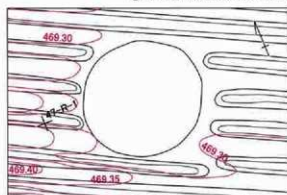
堆積物: 上面には、As-A軽石がほぼ均等に堆積。高低差: ほぼ平坦である。

軟サク: 円形平坦面には、食い込んでいない。

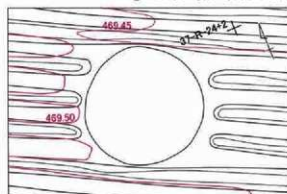
第11図 I区1面3号畑1号~4号円形平坦面



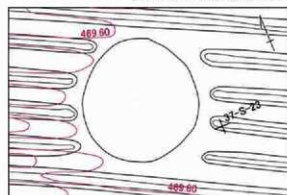
⑤ I区1面3号畑5号円形平坦面



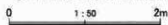
⑥ I区1面3号畑6号円形平坦面



⑦ I区1面3号畑7号円形平坦面



⑧ I区1面3号畑8号円形平坦面



第12図 I区1面3号畑5号～8号円形平坦面

## ⑤ I区1面3号畑5号円形平坦面

(D区東47区3号畑4号円形平坦面)

形状:不整形を呈する。

タイプ:溝を有さないAタイプである。

直径:長軸約1.7m・短軸約1.5mである。

面積:約2.0㎡である。

堆積物:上面には、As-A軽石がほぼ均等に堆積。

高低差:ほぼ平坦である。

畝サク:円形平坦面には、食い込んでいない。

## ⑥ I区1面3号畑6号円形平坦面

(D区東37区3号畑11号円形平坦面)

形状:ほぼ円形を呈する。

タイプ:溝を有さないAタイプである。

直径:長軸約1.6m・短軸約1.5mである。

面積:約2.0㎡である。

堆積物:上面には、As-A軽石がほぼ均等に堆積。

高低差:ほぼ平坦である。

畝サク:円形平坦面には、食い込んでいない。

## ⑦ I区1面3号畑7号円形平坦面

(D区東37区3号畑10号円形平坦面)

形状:ほぼ円形を呈する。

タイプ:溝を有さないAタイプである。

直径:約1.5mである。

面積:約1.9㎡である。

堆積物:上面には、As-A軽石がほぼ均等に堆積。

高低差:ほぼ平坦である。

畝サク:円形平坦面には、食い込んでいない。

## ⑧ I区1面3号畑8号円形平坦面

(D区東37区3号畑9号円形平坦面)

形状:楕円形を呈する。

タイプ:溝を有さないAタイプである。

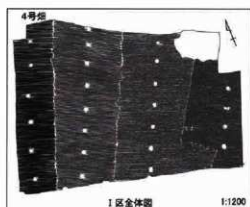
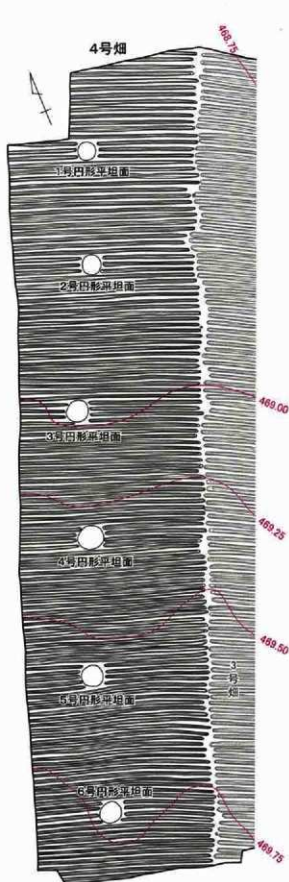
直径:長軸約1.6m・短軸約1.5mである。

面積:約2.0㎡である。

堆積物:上面には、As-A軽石がほぼ均等に堆積。

高低差:ほぼ平坦である。

畝サク:円形平坦面には、食い込んでいない。



#### (4) I区1面4号畑 (37・47区4号畑)

I区1面4号畑からは、6基の円形平坦面・138条の畝が検出された。検出された面積は、625.2㎡である。南部から北部にかけて緩やかに傾斜しており、比高差は約1mである。

#### 4号畑

4号畑は、1号～3号畑と同様に、北東～南西にかけて細長い形状を呈する。しかしながら、4号畑の西側は排土置き場の関係で調査されていないため、全容をうかがうことはできない。

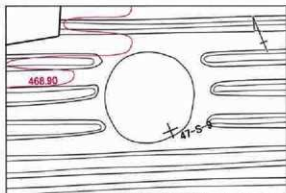
#### ①畝とサク

畝とサクは、北西～南東にかけて走行しており、検出された長さは約8m～12mである。総数で137の畝が検出されている。畝とサクの間隔は、2号畑及び3号畑と同様に約40cm～50cmである。

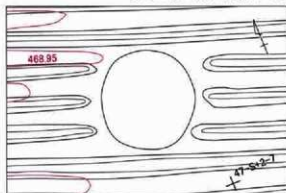
#### ②円形平坦面

4号畑から、6基の円形平坦面が検出された。6基の円形平坦面は、溝を有さないAタイプである。

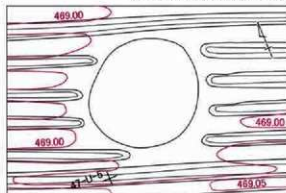
第13図 I区1面4号畑



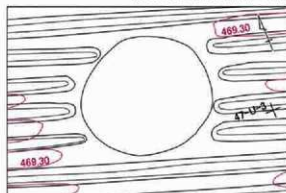
① I区1面4号畑1号円形平坦面



② I区1面4号畑2号円形平坦面



③ I区1面4号畑3号円形平坦面



④ I区1面4号畑4号円形平坦面

0 1:50 2m

## 円形平坦面

## ① I区1面4号畑1号円形平坦面

(D区東47区4号畑12号円形平坦面)

形状: ほぼ円形を呈する。

タイプ: 溝を有さないAタイプである。

直径: 約1.2mである。

面積: 約1.2㎡である。

堆積物: 上面には、As-A軽石がほぼ均等に堆積。

高低差: ほぼ平坦である。

畝サク: 円形平坦面には、食い込んでいない。

## ② I区1面4号畑2号円形平坦面

(D区東47区4号畑11号円形平坦面)

形状: ほぼ円形を呈する。

タイプ: 溝を有さないAタイプである。

直径: 長軸約1.3m・短軸約1.25mである。

面積: 約1.3㎡である。

堆積物: 上面には、As-A軽石がほぼ均等に堆積。

高低差: ほぼ平坦である。

畝サク: 円形平坦面には、食い込んでいない。

## ③ I区1面4号畑3号円形平坦面

(D区東47区4号畑10号円形平坦面)

形状: 不整円形を呈する。

タイプ: 溝を有さないAタイプである。

直径: 約1.4mである。

面積: 約1.7㎡である。

堆積物: 上面には、As-A軽石がほぼ均等に堆積。

高低差: ほぼ平坦である。

畝サク: 円形平坦面には、食い込んでいない。

## ④ I区1面4号畑4号円形平坦面

(D区東47区4号畑9号円形平坦面)

形状: 楕円形を呈する。

タイプ: 溝を有さないAタイプである。

直径: 長軸約1.7m・短軸約1.55mである。

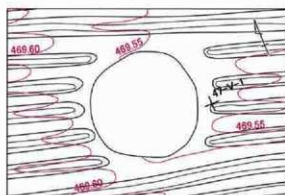
面積: 約2.1㎡である。

堆積物: 上面には、As-A軽石がほぼ均等に堆積。

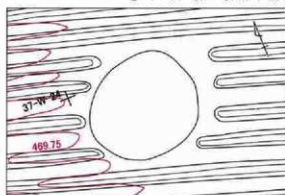
高低差: ほぼ平坦である。

畝サク: 円形平坦面には、食い込んでいない。

第14図 I区1面4号畑1号~4号円形平坦面



⑤ I区1面4号畑5号円形平坦面



⑥ I区1面4号畑6号円形平坦面

## ⑤ I区1面4号畑5号円形平坦面

(D区東37区4号畑13号円形平坦面)

形状: ほぼ円形を呈する。

タイプ: 溝を有さないAタイプである。

直径: 約1.4mである。

面積: 約1.7㎡である。

堆積物: 上面には、As-A軽石がほぼ均等に堆積。

高低差: ほぼ平坦である。

畝とサク: 円形平坦面には、食い込んでいない。

## ⑥ I区1面4号畑6号円形平坦面

(D区東37区4号畑12号円形平坦面)

形状: 不整形円形を呈する。

タイプ: 溝を有さないAタイプである。

直径: 長軸約1.5m・短軸約1.35mである。

面積: 約1.6㎡である。

堆積物: 上面には、As-A軽石がほぼ均等に堆積。

高低差: ほぼ平坦である。

畝とサク: 円形平坦面には、食い込んでいない。

第15図 I区1面4号畑5号・6号円形平坦面

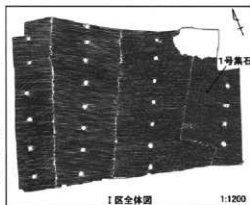
表3 I区1面3号・4号畑円形平坦面計測表

畑No.	円形平坦面No.	形状	タイプ	長軸	短軸	面積	畝とサク
3号畑	1号円形平坦面	楕円形	A	約1.6m	約1.45m	約1.9㎡	食い込んでいない
	2号円形平坦面	円形	A	直径約1.45m		約1.8㎡	食い込んでいない
	3号円形平坦面	不整形円形	A	約1.6m	約1.45m	約1.8㎡	食い込んでいない
	4号円形平坦面	楕円形	A	直径約1.8m		約2.1㎡	食い込んでいない
	5号円形平坦面	不整形円形	A	約1.7m	約1.5m	約2.0㎡	食い込んでいない
	6号円形平坦面	円形	A	約1.6m	約1.5m	約2.0㎡	食い込んでいない
	7号円形平坦面	円形	A	直径約1.5m		約1.9㎡	食い込んでいない
	8号円形平坦面	不整形円形	A	約1.6m	約1.5m	約2.0㎡	食い込んでいない
4号畑	1号円形平坦面	円形	A	約1.2m		約1.2㎡	食い込んでいない
	2号円形平坦面	円形	A	約1.3m	約1.25m	約1.3㎡	食い込んでいない
	3号円形平坦面	不整形円形	A	約1.4m		約1.7㎡	食い込んでいない
	4号円形平坦面	楕円形	A	約1.7m	約1.55m	約2.1㎡	食い込んでいない
	5号円形平坦面	円形	A	約1.4m		約1.7㎡	食い込んでいない
	6号円形平坦面	不整形円形	A	約1.5m	約1.35m	約1.6㎡	食い込んでいない

## 2. 集石 [1号集石]

1号集石は、I区1号畑の北西部に検出された。本集石の規模は、平面で約80cm～90cmであり、深さ約40cm～50cmである。

遺構では、径約5cm～45cmの大きさの石が多数検出された。また、遺物として刀子片・経石・板碑片が検出されており、板碑の時代は室町時代の中世に比定されている。なお、本集石の底部からは人骨と推定される骨片も検出されているが、微細であるため詳細は同定不能である。

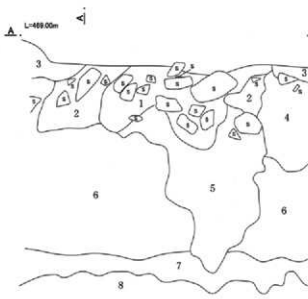
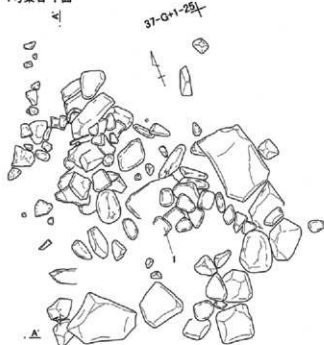


### I区1面1号集石 (37区1号集石)

1号集石 上面



1号集石 下面



1. 黒褐色土：礫を多数に含む。
2. 黒褐色土：礫を少量含む。
3. 黒褐色土：天引三年の耕作土。
4. 黒褐色土：黄色軽石・礫を少量含む。
5. 黒褐色土：やしまりあり。
6. 黒褐色土：黄色軽石を含む。
7. 黄褐色土：粘性あり。
8. 黄褐色土：黄色軽石を含む。

0 1:20 1m

第16図 I区1面1号集石

## I区円形平坦面まとめ

I区の4区画の頃から、総数で25基の円形平坦面が検出された。これらの形状は、円形・不整形円・楕円形を呈するが、すべて円形を基本としている。形状：形状では、円形が6基・楕円形が12基・不整形円形が7基である。

表4 I区1面1号～4号畑円形平坦面まとめ

畑No	円形平坦面No.	形状	タイプ	長軸	短軸	面積	飯とサク
1号畑 (496.5m <sup>2</sup> )	1号円形平坦面	楕円形	A	約1.4m	約1.3m	約1.5m <sup>2</sup>	食い込んでいない
	2号円形平坦面	楕円形	A	約1.25m	約1.0m	約1.0m <sup>2</sup>	食い込んでいない
	3号円形平坦面	楕円形	A	約1.4m	約1.2m	約1.4m <sup>2</sup>	食い込んでいない
	4号円形平坦面	楕円形	A	約1.85m	約1.5m	約2.3m <sup>2</sup>	食い込んでいない
2号畑 (1,026.5m <sup>2</sup> )	1号円形平坦面	楕円形	A	約1.3m	約1.1m	約1.2m <sup>2</sup>	食い込んでいない
	2号円形平坦面	不整形円形	A	直径約1.4m		約1.6m <sup>2</sup>	食い込んでいない
	3号円形平坦面	楕円形	A	約1.5m	約1.3m	約1.6m <sup>2</sup>	食い込んでいない
	4号円形平坦面	楕円形	A	約1.6m	約1.3m	約1.6m <sup>2</sup>	食い込んでいない
	5号円形平坦面	楕円形	A	約1.5m	約1.3m	約1.6m <sup>2</sup>	食い込んでいない
	6号円形平坦面	不整形円形	A	約1.7m	約1.6m	約2.1m <sup>2</sup>	食い込んでいない
3号畑 (1,011.8m <sup>2</sup> )	7号円形平坦面	楕円形	A	約1.95m	約1.45m	約2.2m <sup>2</sup>	食い込んでいない
	1号円形平坦面	楕円形	A	約1.6m	約1.45m	約1.9m <sup>2</sup>	食い込んでいない
	2号円形平坦面	円形	A	直径約1.45m		約1.8m <sup>2</sup>	食い込んでいない
	3号円形平坦面	不整形円形	A	約1.6m	約1.45m	約1.8m <sup>2</sup>	食い込んでいない
	4号円形平坦面	楕円形	A	直径約1.8m		約2.1m <sup>2</sup>	食い込んでいない
	5号円形平坦面	不整形円形	A	約1.7m	約1.5m	約2.0m <sup>2</sup>	食い込んでいない
	6号円形平坦面	円形	A	約1.6m	約1.5m	約2.0m <sup>2</sup>	食い込んでいない
	7号円形平坦面	円形	A	直径約1.5m		約1.9m <sup>2</sup>	食い込んでいない
4号畑 (625.2m <sup>2</sup> )	8号円形平坦面	不整形円形	A	約1.6m	約1.5m	約2.0m <sup>2</sup>	食い込んでいない
	1号円形平坦面	円形	A	直径約1.2m		約1.2m <sup>2</sup>	食い込んでいない
	2号円形平坦面	円形	A	約1.3m	約1.25m	約1.3m <sup>2</sup>	食い込んでいない
	3号円形平坦面	不整形円形	A	直径約1.4m		約1.7m <sup>2</sup>	食い込んでいない
	4号円形平坦面	楕円形	A	約1.7m	約1.55m	約2.1m <sup>2</sup>	食い込んでいない
	5号円形平坦面	円形	A	約1.2m	約1.4m	約1.7m <sup>2</sup>	食い込んでいない
6号円形平坦面	不整形円形	A	約1.5m	約1.35m	約1.6m <sup>2</sup>	食い込んでいない	

タイプ：25基の円形平坦面は、すべてが溝を有さず飯とサクが食い込まないAタイプに分類された。

大きさ：大きさは長軸が約1.25m～約1.95m・短軸が約1.0m～約1.6mである。

面積：面積は、約1.0m<sup>2</sup>～約2.3m<sup>2</sup>であり、平均は約1.73m<sup>2</sup>である。標準偏差は、約0.34m<sup>2</sup>である。

## 第2節 I区2面

## 1. 土坑 [1号土坑]

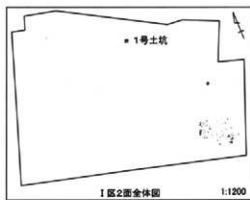
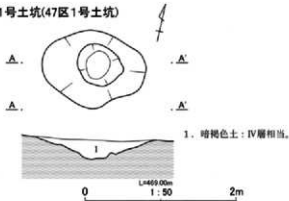
I区2面から、土坑は1基のみ検出された。この土坑は、調査区中央の北側に位置する。

土坑の形状は、平面で楕円形を呈し、長軸方向はほぼ東西である。大きさは、長軸約140cm・短軸約

100cm・深さ約25cmである。

重複は認められなかった。また、出土遺物も認められなかった。時期を特定する遺物が出土していないので、土坑の時期の特定は困難であるが、恐らく、中近世であると推定される。

## I区2面1号土坑(47区1号土坑)



第17図 I区2面1号土坑



## 第2章 II区出土遺構

II区では、I区と同様に、1783（天明3）年の浅間山泥流に埋もれた面を1面とし、それ以下を2面とした。調査区の西側には、高压電線の鉄塔が立っており、一部調査不能であった。また、調査区の南西部には現在の墓地があり、調査不能であった。なお、調査時はD区西という名称であった。拡張調査を含む調査面積は、2,674㎡である。

1面では、畑8区画・道3条・円形平坦面14基・掘立柱建物1棟が検出された。また、2面では、主に調査区の北部から、掘立柱建物3棟・土坑48基・ピット14基が検出された。縄文時代及び弥生時代の遺物については、次回以降の報告書で報告する。

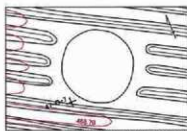


II区1面畑全景：（東から撮影）

### 円形平坦面・四角形平坦面の分類

上郷岡原遺跡1面の天明三(1783)年罷流面の畑からは、円形を呈し平坦な箇所及び四角形を呈し平坦な箇所が検出されている。ここでは、利便を図るために、円形平坦面を4つの形態に分類した。また、四角形平坦面は1つの形態しか認められなかった。

Ⅱ区からは円形平坦面が14基検出されたが、13基がDタイプ・1基がCタイプであった。



Ⅰ区1面3号畑2号円形平坦面

円形平坦面Aタイプ：畝及びサクが円形平坦面に食い込んでおらず、溝を有さないタイプである。



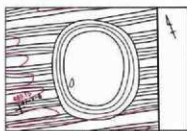
Ⅱ区1面10号畑3号円形平坦面

円形平坦面Bタイプ：畝及びサクが円形平坦面に食い込んでおり、溝を有さないタイプである。



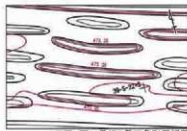
Ⅱ区1面8号畑1号円形平坦面

円形平坦面Cタイプ：畝あるいはサクが、円形平坦面の中だけにみとめられ、溝を有さないタイプである。



Ⅱ区1面1号畑3号円形平坦面

円形平坦面Dタイプ：畝及びサクが円形平坦面に食い込んでおらず、溝を有するタイプである。



Ⅱ区1面14号畑5号四角形平坦面

四角形平坦面：四角形を呈し、畝及びサクが途切れているタイプである。板で仕切った痕跡であろうか。

## 第1節 Ⅱ区1面

Ⅱ区は、調査区の中央に位置する。調査時は、D区西という名称であった。Ⅱ区1面では、畑・円形平坦面・道・掘立柱建物が発出された。

### 1. 畑 [1号～8号畑]

畑は、8区画が発出された。これらの畑は、畝及びサクが途切れていたり、道で区画が分かれていたり、畝とサクの走行方向が異なることから認定した。

#### 円形平坦面

円形平坦面は、1号畑で6基・2号畑で4基・4号畑で1基・5号畑で1基・8号畑で2基の合計

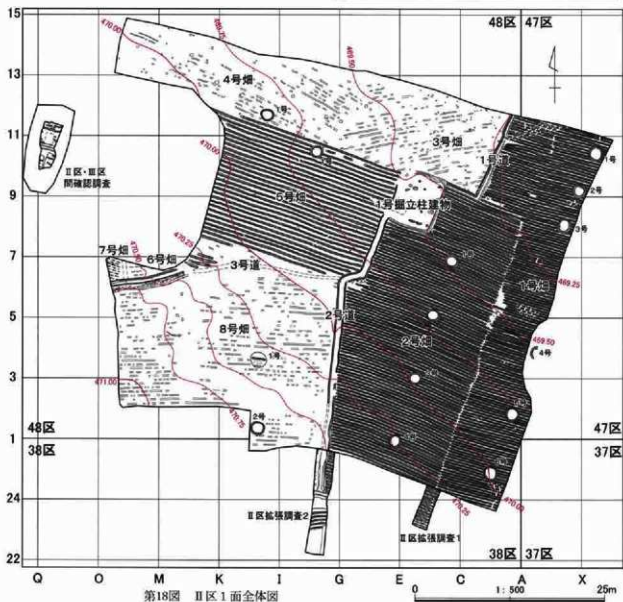
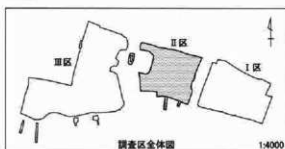
14基が発出された。

### 2. 道 [1号～3号道]

道は、1号道～3号道まで、3条が発出された。

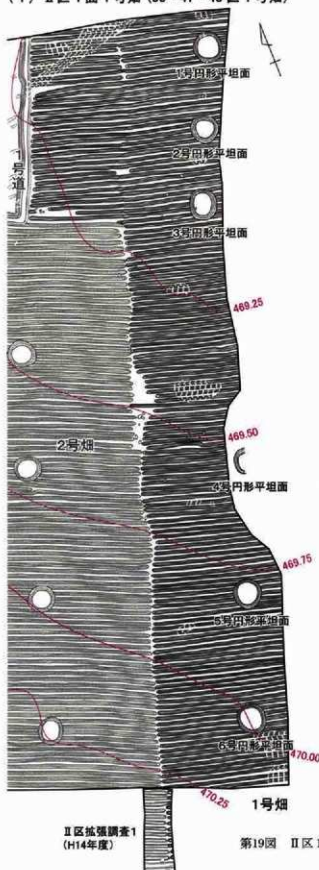
### 3. 掘立柱建物 [1号掘立柱建物]

掘立柱建物は、調査区の中央北部に1棟が発出された。

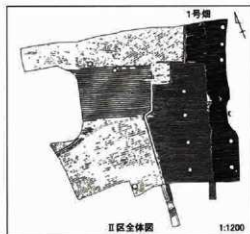


## 1. 畑 [1号~8号畑]

## (1) II区1面1号畑 (38・47・48区1号畑)



第19図 II区1面1号畑



II区1面1号畑からは、6基の円形平坦面・146条の畝が検出された。検出された面積は、約436.8㎡である。

## 1号畑

1号畑の検出された形状は、北東～南西にかけて細長いものである。しかしながら、同畑の東側は掘削した排土の土盛りを行うために未調査であるため、全容をうかがうことはできない。

西側の内、北部は突出しており、1号道と接している。また、西側の南部には、2号畑が突出して1号畑にくい込んでいる状態であるが、その理由は不明である。南西部から北東部にかけて緩やかに傾斜しており、比高差は約1.25mである。

## ①畝とサク

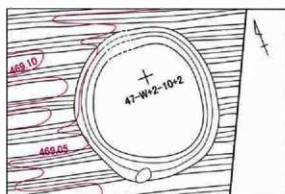
畝とサクは、北西～南東にかけて走行しており、長さは約5m～13mである。総数で146の畝が検出された。畝とサクの間隔は、約50cmで、I区の2号・3号・4号畑と同程度である。

## ②円形平坦面

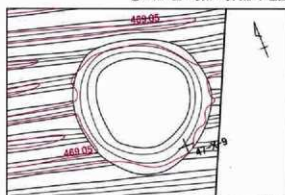
円形平坦面は、総数で6基が検出された。但し、4号円形平坦面の東側は調査区外であり全容は何えなかった。どれも、溝を有するDタイプである。

直径は、溝の外側で約1.7m～2.0m、内側で約1.25m～1.55mである。また、面積は、外側で約2.6㎡～3.1㎡、内側で約1.2～1.8㎡である。これら6基共に、平坦部にはAs-A軽石が堆積しており、泥流被災時には耕作が行われていないことが確実である。

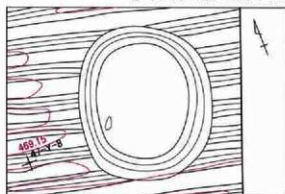
0 1:250 10m



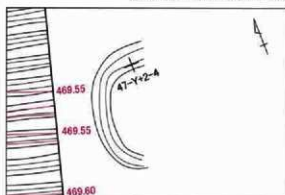
①Ⅱ区1面1号畑1号円形平坦面



②Ⅱ区1面1号畑2号円形平坦面



③Ⅱ区1面1号畑3号円形平坦面



④Ⅱ区1面1号畑4号円形平坦面

0 1:50 2m

## 円形平坦面

## ①Ⅱ区1面1号畑1号円形平坦面

形状: 楕円形を呈する。

タイプ: 溝を有するDタイプである。

直径: 外側・長軸約2.0m、短軸約1.9mである。

内側・長軸約1.5m、短軸約1.45mである。

面積: 外側で約3.1㎡、内側で約1.8㎡である。

堆積物: 上面には、As-A 軽石がほぼ均等に堆積。

高低差: ほぼ平坦である。

畝サク: 円形平坦面の外側の溝で止まっている。

## ②Ⅱ区1面1号畑2号円形平坦面

形状: 不整形円形を呈する。

タイプ: 溝を有するDタイプである。

直径: 外側・長軸約1.85m、短軸約1.75mである。

内側・長軸約1.25m、短軸約1.2mである。

面積: 外側で約2.6㎡、内側で約1.2㎡である。

堆積物: 上面には、As-A 軽石がほぼ均等に堆積。

高低差: ほぼ平坦である。

畝サク: 円形平坦面の外側の溝で止まっている。

## ③Ⅱ区1面1号畑3号円形平坦面

形状: 楕円形を呈する。

タイプ: 溝を有するDタイプである。

直径: 外側・長軸約2.0m、短軸約1.75mである。

内側・長軸約1.5m、短軸約1.2mである。

面積: 外側で約3.0㎡、内側で約1.5㎡である。

堆積物: 上面には、As-A 軽石がほぼ均等に堆積。

高低差: ほぼ平坦である。

畝サク: 円形平坦面の外側の溝で止まっている。

## ④Ⅱ区1面1号畑4号円形平坦面

形状: 東側が調査不能であるため、不明である。

タイプ: 溝を有するDタイプである。

直径: 外側・長軸約1.7m、短軸約0.75mである。

内側・長軸約1.2m、短軸約0.5mである。

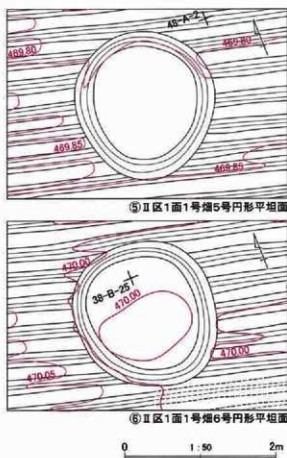
面積: 外側で約0.8㎡、内側で約0.4㎡である。

堆積物: 上面には、As-A 軽石がほぼ均等に堆積。

高低差: ほぼ平坦である。

畝サク: 円形平坦面の外側の溝で止まっている。

第20図 Ⅱ区1面1号畑1号～4号円形平坦面



第21図 Ⅱ区1面1号畑5号・6号円形平坦面

## ⑤Ⅱ区1面1号畑5号円形平坦面

形状：楕円形を呈する。

タイプ：溝を有するDタイプである。

直径：外側・長軸約2.0m、短軸約1.85mである。

内側・長軸約1.5m、短軸約1.35mである。

面積：外側で約2.9㎡、内側で約1.7㎡である。

堆積物：上面には、As-A軽石がほぼ均等に堆積。

高低差：ほぼ平坦である。

畝サク：円形平坦面の外側の溝で止まっている。

## ⑥Ⅱ区1面1号畑6号円形平坦面

形状：東側が調査不能であるため、不明である。

タイプ：溝を有するDタイプである。

直径：外側・長軸約2.0m、短軸約1.85mである。

内側・長軸約1.55m、短軸約1.35mである。

面積：外側で約2.9㎡、内側で約1.8㎡である。

堆積物：上面には、As-A軽石がほぼ均等に堆積。

高低差：ほぼ平坦である。

畝サク：円形平坦面の外側の溝で止まっている。

表5 Ⅱ区1面1号・2号・4号・5号・8号畑円形平坦面まとめ

畑No.	円形平坦面No.	形状	タイプ	外側直径		内側直径		面積		畝とサク
				長軸	短軸	長軸	短軸	外側	内側	
1号畑 (435.6㎡)	1号円形平坦面	楕円形	D	約2.0m	約1.9m	約1.5m	約1.45m	約3.1㎡	約1.8㎡	外側で止まっている
	2号円形平坦面	不整形円形	D	約1.85m	約1.75m	約1.25m	約1.2m	約2.6㎡	約1.2㎡	外側で止まっている
	3号円形平坦面	楕円形	D	約2.0m	約1.75m	約1.5m	約1.2m	約3.0㎡	約1.5㎡	外側で止まっている
	4号円形平坦面	不明	D	約1.7m	約0.75m	約1.2m	約0.5m	約0.8㎡	約0.4㎡	外側で止まっている
	5号円形平坦面	楕円形	D	約2.0m	約1.85m	約1.5m	約1.35m	約2.9㎡	約1.7㎡	外側で止まっている
	6号円形平坦面	不整形円形	D	約2.0m	約1.85m	約1.55m	約1.35m	約2.9㎡	約1.8㎡	外側で止まっている
2号畑 (600㎡)	1号円形平坦面	楕円形	D	約1.9m	約1.75m	約1.35m	約1.2m	約2.6㎡	約1.3㎡	外側で止まっている
	2号円形平坦面	楕円形	D	約1.8m	約1.65m	約1.35m	約1.25m	約2.4㎡	約1.3㎡	外側で止まっている
	3号円形平坦面	円形	D	直径約1.75m		約1.25m	約1.2m	約2.4㎡	約1.2㎡	外側で止まっている
	4号円形平坦面	楕円形	D	約1.8m	約1.6m	約1.3m	約1.15m	約2.3㎡	約1.3㎡	外側で止まっている
4号畑 (278.5㎡)	1号円形平坦面	楕円形	D	約1.8m	約1.6m	約1.4m	約1.2m	約2.3㎡	約1.3㎡	外側で止まっている
5号畑 (401.3㎡)	1号円形平坦面	楕円形	D	約1.8m	約1.65m	約1.25m	約1.2m	約2.3㎡	約1.1㎡	外側で止まっている
8号畑 (544.5㎡)	1号円形平坦面	不整形円形	C	約2.15m	約2.1m	—	—	約3.4㎡		内側に畝竹単独
	2号円形平坦面	楕円形	D	約1.85m	約1.7m	約1.45m	約1.3m	約2.7㎡	約1.6㎡	外側で止まっている

## (2) Ⅱ区1面2号畑 (38・48区2号畑)



第22図 Ⅱ区1面2号畑

Ⅱ区1面2号畑からは、4基の円形平坦面・99条の畝が検出された。検出された面積は、約600㎡である。南西部から北東部にかけて、緩やかに傾斜しており、比高差は約1.25mである。

なお、確認調査で、同畑の南部に東側で13条・西側で12条の畝が検出されている。

## 2号畑

2号畑は、1号畑と同様に、北東～南西にかけて細長い形状を呈する。1号畑とは、1号道の南側から区割りが分かれる。また、本畑の北西隅には、1号掘立柱建物が検出されている。

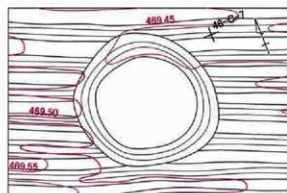
## ①畝とサク

畝とサクは、北西～南東にかけて走行しており、長さは約10.5m～19mである。総数で99の畝が検出されている。畝と畝の間隔は、約50cmである。

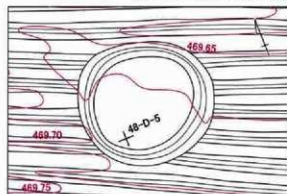
## ②円形平坦面

円形平坦面は、ほぼ一直線に、合計4基が検出された。これら4基共に、溝を有するDタイプである。

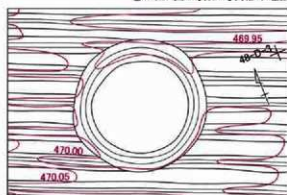
0 1:250 10m



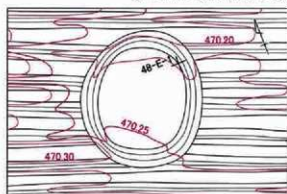
①Ⅱ区1面2号畑1号円形平坦面



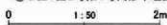
②Ⅱ区1面2号畑2号円形平坦面



③Ⅱ区1面2号畑3号円形平坦面



④Ⅱ区1面2号畑4号円形平坦面



## 円形平坦面

## ①Ⅱ区1面2号畑1号円形平坦面

形状：楕円形を呈する。

タイプ：溝を有するDタイプである。

直径：外側・長軸約1.9m・短軸約1.75mである。

内側・長軸約1.35m・短軸約1.2mである。

面積：外側で約2.6㎡、内側で約1.3㎡である。

堆積物：上面には、As-A軽石がほぼ均等に堆積。

高低差：ほぼ平坦である。

畝サク：円形平坦面の外側の溝で止まっている。

## ②Ⅱ区1面2号畑2号円形平坦面

形状：楕円形を呈する。

タイプ：溝を有するDタイプである。

直径：外側・長軸約1.8m・短軸約1.65mである。

内側・長軸約1.35m・短軸約1.25mである。

面積：外側で約2.4㎡、内側で約1.3㎡である。

堆積物：上面には、As-A軽石がほぼ均等に堆積。

高低差：ほぼ平坦である。

畝サク：円形平坦面の外側の溝で止まっている。

## ③Ⅱ区1面2号畑3号円形平坦面

形状：円形を呈する。

タイプ：溝を有するDタイプである。

直径：外側・直径約1.75mである。

内側・長軸約1.25m・短軸約1.2mである。

面積：外側で約2.4㎡、内側で約1.2㎡である。

堆積物：上面には、As-A軽石がほぼ均等に堆積。

高低差：ほぼ平坦である。

畝サク：円形平坦面の外側の溝で止まっている。

## ④Ⅱ区1面2号畑4号円形平坦面

形状：楕円形を呈する。

タイプ：溝を有するDタイプである。

直径：外側・長軸約1.8m・短軸約1.6mである。

内側・長軸約1.3・短軸約1.15mである。

面積：外側で約2.3㎡、内側で約1.3㎡である。

堆積物：上面には、As-A軽石がほぼ均等に堆積。

高低差：ほぼ平坦である。

畝サク：円形平坦面の外側の溝で止まっている。

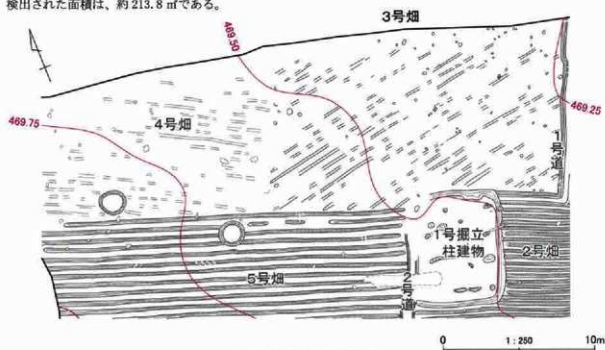
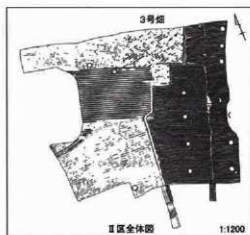
第23図 Ⅱ区1面2号畑1号～4号円形平坦面



## (3) Ⅱ区1面3号畑(48区6号畑)

Ⅱ区1面3号畑は、調査区の中央北側に位置する。東西方向に長く、南北方向に短い長方形の区画であるが、北部は調査区外であるため、全容は不明である。本畑の東部は1号道及び1号畑と、西部は4号畑と、また南部は1号掘立柱建物・1号道・2号畑・5号畑と隣接している。

本畑からは、約30条の畝が検出された。畝サクは北東～南西にかけて走行しているが、不明瞭である。検出された面積は、約213.8㎡である。



第24図 Ⅱ区1面3号畑

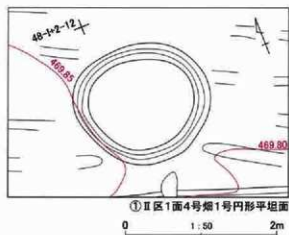
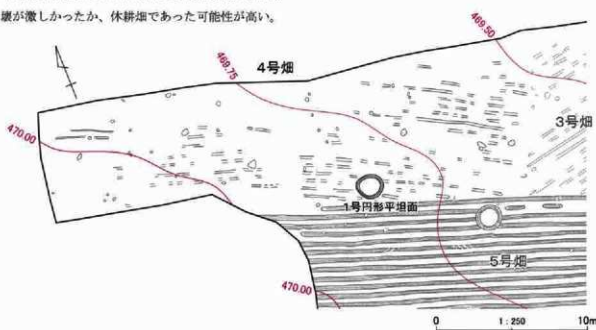
本3号畑の畝サクは、不明瞭な状態で検出された。この畝サクが不明瞭な状態は、吾妻川に近いため泥流による損壊が激しかったためと推定される。しかしながら、泥流被災時には、すでに休耕畑であった可能性もある。

## (4) Ⅱ区1面4号畑 (48区7・8号畑)

Ⅱ区1面4号畑は、調査区の北西部に位置する。3号畑と同様に、東西方向に長く、南北方向に短い長方形の区画であるが、北部及び西部は調査区外であり、全容は不明である。本畑の東部は3号畑と、また南部は5号畑と隣接している。検出された面積は、約276.5㎡である。

本畑からは、約20条の畝と1基の円形平坦面が検出された。畝サクは北西～南東にかけて走行しているが、不明瞭である。

不明瞭な原因として、3号畑と同様に泥流による損壊が激しかったか、休耕畑であった可能性が高い。



## ①Ⅱ区1面4号畑1号円形平坦面

形状：楕円形を呈する。

タイプ：溝を有するDタイプである。

直径：外側・長軸約1.8m、短軸約1.6mである。

内側・長軸約1.4m、短軸約1.2mである。

面積：外側で約2.3㎡、内側で約1.3㎡である。

堆積物：上面には、As-A軽石がほぼ均等に堆積。

高低差：ほぼ平坦である。

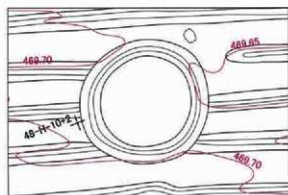
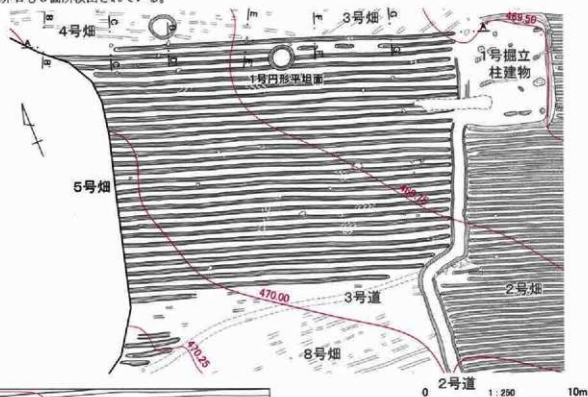
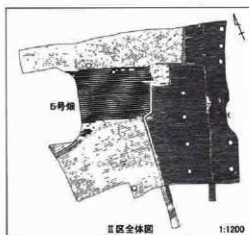
畝サク：円形平坦面の外側の溝で止まっている。

第25図 Ⅱ区1面4号畑・1号円形平坦面

## (5) Ⅱ区1面5号畑(48区7・8号畑)

Ⅱ区1面5号畑は、調査区の西側に位置する。長方形を呈し、東西方向約23m・南北方向約18mである。畑の北部は3号畑及び4号畑と、東部は1号掘立柱建物・2号道と、また南部は3号道と隣接している。検出された面積は、約401.3㎡である。

本畑からは、33条の畝が検出された。畝サクは明瞭で、北西～南東にかけて走行している。畝間は約50cmである。円形平坦面が1基検出された。また、境界石も6箇所検出されている。



① Ⅱ区1面5号畑1号円形平坦面

0 1:50 2m

## ① Ⅱ区1面5号畑1号円形平坦面

形状：楕円形を呈する。

タイプ：溝を有するDタイプである。

直径：外側・長軸約1.8m、短軸約1.65mである。

内側・長軸約1.25m、短軸約1.2mである。

面積：外側で約2.3㎡、内側で約1.1㎡である。

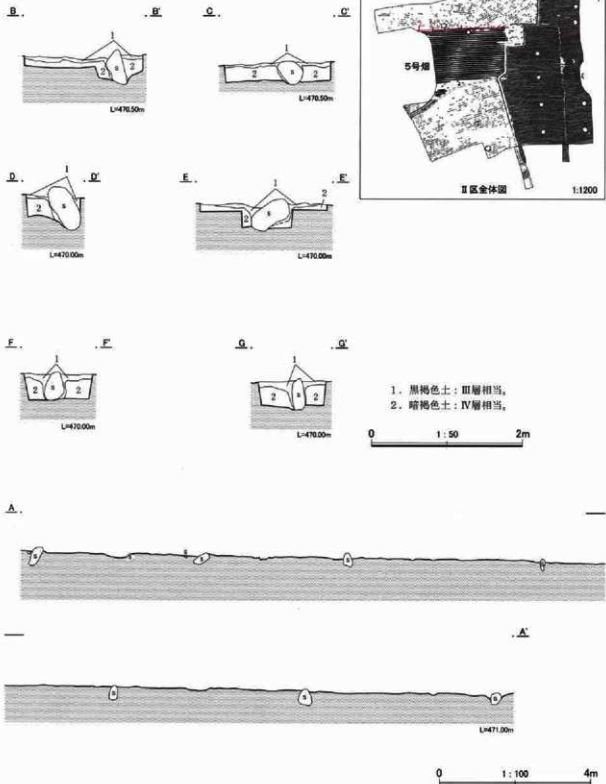
堆積物：上面には、As-A軽石がほぼ均等に堆積。

高低差：ほぼ平坦である。

畝サク：円形平坦面の外側の溝で止まっている。

第26図 Ⅱ区1面5号畑・1号円形平坦面

Ⅱ区1面5号畑北境界石



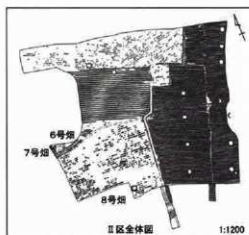
第27图 Ⅱ区1面5号畑北境界石断面图

**(6) Ⅱ区1面6号畑(48区4号畑)**

調査区の西側から検出されており、西側で7号畑とまた南側で3号道と隣接している。畝サクは不明瞭であるが、3条が検出されている。検出された面積は、約6.7㎡である。

**(7) Ⅱ区1面7号畑(48区9号畑)**

調査区の西側から検出されており、東側で6号畑とまた南側で3号道と隣接している。畝サクは不明瞭であるが、8条が検出されている。検出された面積は、約5.8㎡である。

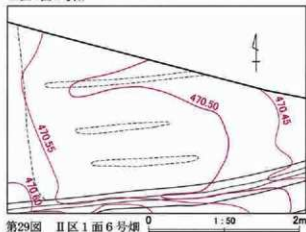
**(8) Ⅱ区1面8号畑(48区4号畑)**

調査区の西南部から検出されており、北側で3号道と、東側で2号道と隣接している。畝サクは不明瞭であり、約40条が検出されている。また、円形平坦面が2基検出されている。検出された面積は、約546.5㎡である。

畝サクが不明瞭な原因として、泥流による損壊が激しかった場合と泥流被災時に休耕畑であった場合が想定される。

第28図 Ⅱ区1面6号～8号畑

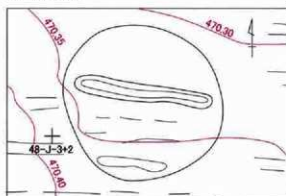
Ⅱ区1面6号畑



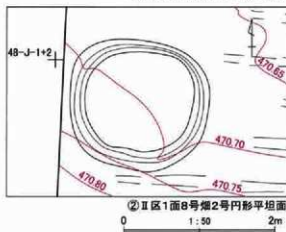
## 6号畑

調査区の西側から検出されており、西側で7号畑とまた南側で3号道と隣接している。畝サクは不明瞭であるが、3条が検出されている。検出された面積は、約6.7㎡である。

Ⅱ区1面8号畑

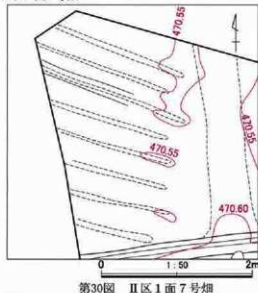


①Ⅱ区1面8号畑1号円形平坦面



第31図 Ⅱ区1面8号畑1号・2号円形平坦面

Ⅱ区1面7号畑



## 7号畑

調査区の西側から検出されており、東側で6号畑とまた南側で3号道と隣接している。畝サクは不明瞭であるが、8条が検出されている。検出された面積は、約5.8㎡である。

## ①Ⅱ区1面8号畑1号円形平坦面

形状：不整形円形を呈する。

タイプ：溝を有さず畝サクがあるCタイプである。

直径：長軸約2.15m、短軸約2.1mである。

面積：約3.4㎡である。

堆積物：上面には、As-A軽石がほぼ均等に堆積。

高低差：ほぼ平坦である。

畝サク：円形平坦面の内部にある。

## ②Ⅱ区1面8号畑2号円形平坦面

形状：楕円形を呈する。

タイプ：溝を有するDタイプである。

直径：外側・長軸約1.85m、短軸約1.7mである。

内側・長軸約1.45m、短軸約1.3mである。

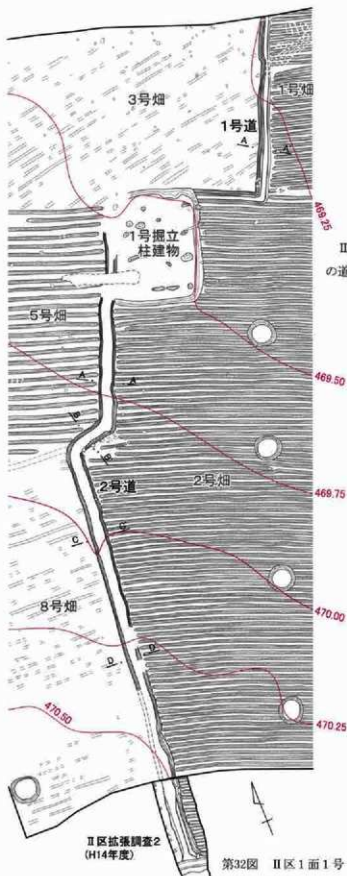
面積：外側で約2.7㎡、内側で約1.6㎡である。

堆積物：上面には、As-A軽石がほぼ均等に堆積。

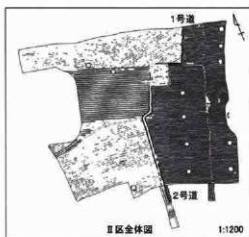
高低差：ほぼ平坦である。

畝サク：円形平坦面の外側の溝で止まっている。

## 2. 道 [1号～3号道]



第32図 Ⅱ区1面1号・2号道



Ⅱ区1面からは、1号道・2号道・3号道の3条の道が検出された。

## (1) Ⅱ区1面1号道 (38・48区1号道)

位置：1号道は、1号畑・2号畑・3号畑の間を走行している。途中で直角に曲がり、1号掘立柱建物の北壁で途切れる。

長さ：北北東～南南西部分が約12m・北西～南東部分が約4mであり、全長約16mが検出された。

幅：約50cmである。

断面：断面は、約2層からなる。

## (2) Ⅱ区1面2号道 (38・48区1号道)

位置：2号道は、2号畑・5号畑・8号畑の間を走行している。また、北部で1号掘立柱建物の西壁で途切れる。さらに、途中の5号畑の南東部で屈曲する。

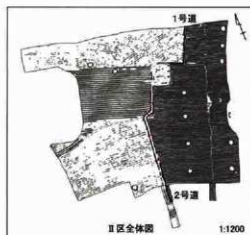
長さ：1号掘立柱建物から南西に約12m・屈曲部で約3m・屈曲部から南に約22mの全長約37mが検出された。さらに、確認調査で南に約5.5mが検出されている。

幅：約1mである。

断面：断面は、約2層～3層からなる。

0 1:250 10m

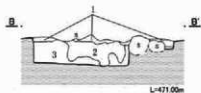
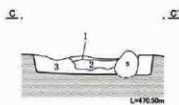
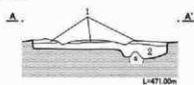
Ⅱ区1面1号・2号道(38・48区1号道)



1号道



2号道



1. 黒褐色土：道の造成面。
2. 黒褐色土：Ⅲ層相当。
3. 暗褐色土：Ⅳ層相当。



第33図 Ⅱ区1面1号・2号道断面図

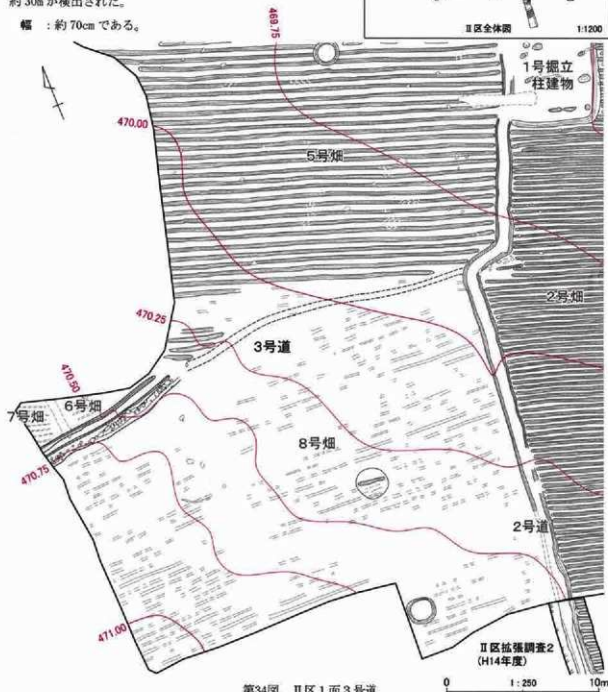
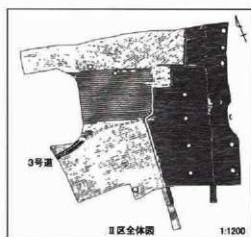


## (3) II区1面3号道 (48区2号道)

位置：3号道は、5号畑・6号畑・7号畑・8号畑の間をほぼ東西に走行している。しかしながら、5号畑及び8号畑との間は、浅間山泥流による損壊によるか明瞭には検出されなかった。

長さ：6号畑・7号畑及び8号畑との間で明瞭に検出された部分で約10m・5号畑と8号畑との間で明瞭に検出されなかった部分で約20mであり、全長約30mが検出された。

幅：約70cmである。

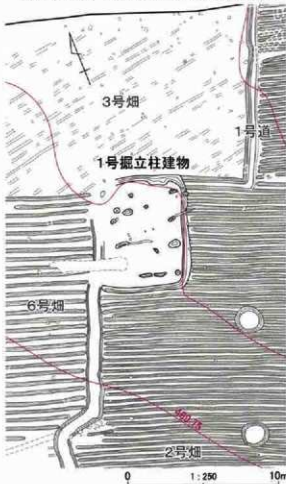


第34図 II区1面3号道

## 3. 掘立柱建物 [1号掘立柱建物]

## Ⅱ区1面1号掘立柱建物(48区3号建物)

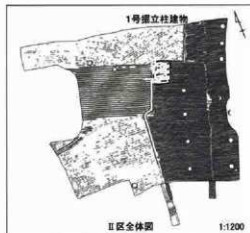
Ⅱ区1面では、1棟の掘立柱建物が検出された。



第35図 Ⅱ区1面1号掘立柱建物



上野岡原遺跡が所在する東吾妻市三島に現在も建っている、小屋。栗(クリ)の建築部材と麻柄で葺いている。現状では、屋根はトクンだが、昔は麻柄で葺いていたという。掘立柱建物は、この小屋と同様の構造であったと推定される。[2006年4月21日, 榎崎修一郎撮影]



**位置**：1号掘立柱建物は、調査区中央の北側に検出された。北側で1号道と、西側で2号道に接続している。また、北側は3号畑・東側及び南側は2号畑・西側は5号畑と隣接している。

**形状**：長方形を呈する。

**規模**：2間×3間であり、桁行約6.5m・梁行約5.2mの大きさである。

**溝**：溝が、掘立柱建物の北側・東側・南側に検出されたが、これらの溝はすべてつながった状態であり、「コの字形」を呈する。この溝は、雨落溝なのか、あるいは畑と区別するために掘ったものだろうか。

**柱穴**：柱穴は、10基が検出された。柱穴の大きさは、直径約20cm前後である。なお、検出された柱材の直径は約10cmである。

**桁間**：柱穴の中心で計測し、約1.8mである。

**梁間**：柱穴の中心で計測し、約2.0mである。

**遺物**：遺物は、柱材と推定されるものが2点検出された。これらの柱材は、樹種同定でクリに同定されている。いずれも、西側から東側に倒れた状態で検出されており、浅間山泥流が西側から押し寄せたことが推定される。

**重複**：重複は、認められなかった。

**その他**：西側の南部には、幅約1m・深さ約50cmの溝が検出されたが、この溝は意図的に作られたものではなく、恐らく浅間山泥流の際の大石によりえぐり取られた痕跡であると推定される。

**規 模:** 2間×3間であり、桁行約6.5m・梁行約5.2mの大きさである。

**溝:** 溝が、掘立柱建物の北側・東側・南側に検出されたが、これらの溝はすべてつながった状態であり、「コの字形」を呈する。この溝は、雨落溝なのか、あるいは畑と区別するために掘ったものであろうか。

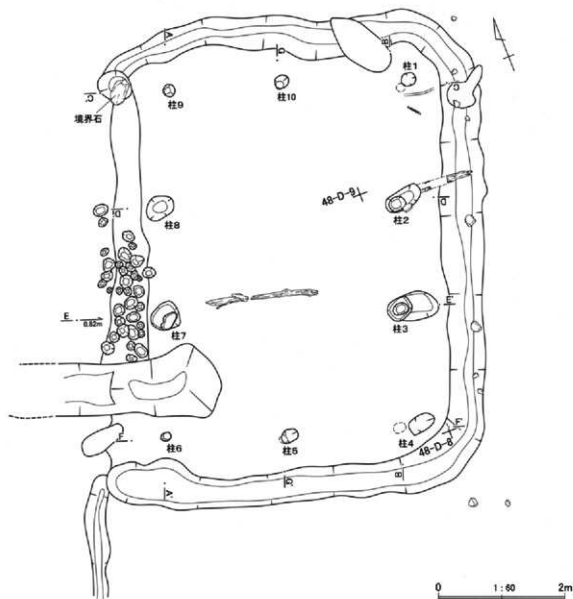
**柱 穴:** 柱穴は、10基が検出された。柱穴の大きさは、検出時で直径約20cm前後である。深さは、約50cm～1mまで様々である。なお、検出された柱材の直径は約10cmである。柱穴のセクションを観察する

と、覆土は1層のものが多くが2層になっているものもある。また、覆土には粘性があるものが認められ、小石を含んでいるものも多く認められた。この小石は、恐らく柱材を固定するのに用いたと推定される。

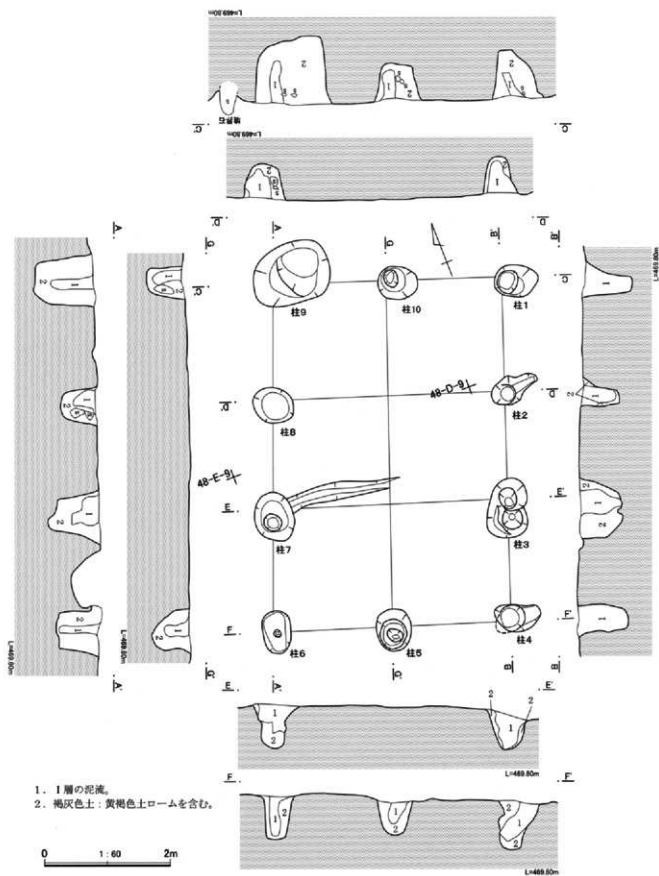
**桁 間:** 柱穴の中心で計測し、約1.8mである。

**梁 間:** 柱穴の中心で計測し、約2.0mである。

**その他:** 西側の南部には、幅約1m・深さ約50cmの溝が検出されたが、この溝は意図的に作られたものではなく、恐らく浅間山泥流の際の大石によりえぐり取られた痕跡であると推定される。



第36図 Ⅱ区1面1号掘立柱建物平面図



第37図 Ⅱ区1面1号掘立柱建物掘り方断面図

## 第2節 Ⅱ区2面

Ⅱ区2面から、掘立柱建物3棟・土坑48基・ピット14基が検出された。これらは、Ⅱ区の中でも北側で検出されている。

### 1. 掘立柱建物【1号～3号掘立柱建物】

掘立柱建物は、3棟が検出された。これら、3棟共に、Ⅱ区北部中央に近接して検出されている。時代は、恐らく中世であると推定される。

### 2. 土坑【1号～48号土坑】

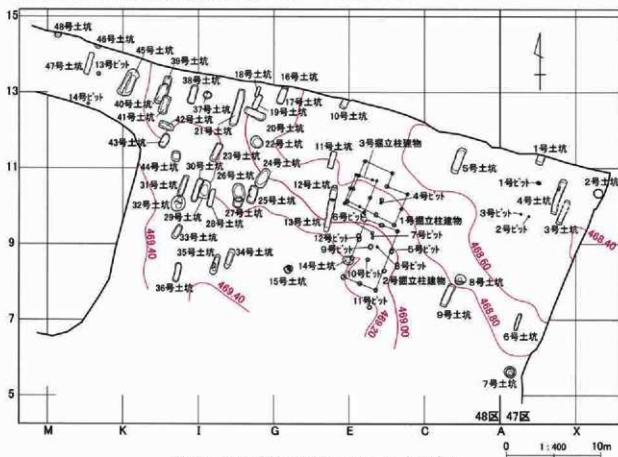
土坑は、48基が検出された。これら土坑は、Ⅱ区北部に検出されている。長方形の土坑が多く、48基中、33基が検出されている。その他、楕円形が6基・円形が4基・四角形が2基・調査区外にかかったために形状不明土坑が3基である。長方形の土坑の長軸方向は、そのほとんどが、吾妻川の流れと直行する方向に掘り込まれている。土坑の構築時期は不明であるが、覆土から縄文土器が検出されたものが多

い。しかしながら、これらの縄文土器は、恐らく流れ込みであると推定される。したがって、時期は恐らく中世であると推定される。

これら、土坑の性格は不明であるが、炭化材が出土した4号土坑・礫が多数出土した13号・15号・19号・21号・23号・24号・25号・30号・35号・36号・41号・45号・47号等の特徴がある。4号土坑については不明であるが、礫が多数出土した土坑は、渋川市で検出されたF P 軽石 (hr-FP) を掘り込んだ芋を貯蔵するための「芋穴」や、前橋市で検出された天明三年の泥流で流れ込み耕作の邪魔になった礫を片づけるために掘り込んだ土坑と似た形状である。これらの土坑も、「芋穴」や耕作の邪魔になった礫を片づけた土坑であると推定される。

### 3. ピット【1号～14号ピット】

ピットは、14基が検出されている。14基中、11基が掘立柱建物周辺で検出されており、関連があると推定される。



第38図 Ⅱ区2面掘立柱建物・土坑・ピット位置図

## 1. 掘立柱建物 [1号~3号掘立柱建物]

Ⅱ区2面からは、掘立柱建物が3棟検出された。これらの掘立柱建物の復元は、調査担当者であった飯森康広による。

## (1) Ⅱ区2面1号掘立柱建物(48区6号建物)

規模：3間×3間の変形であるが、これは北東隅には柱穴が検出されなかったためである。桁行約5.5m・梁行約4.5mの規模である。

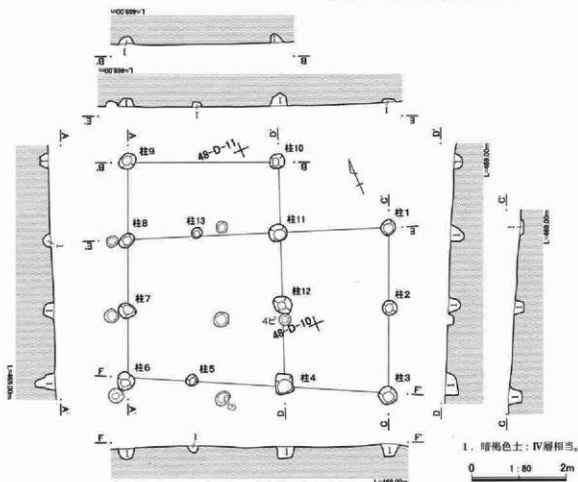
柱穴：柱穴は、13基が検出された。柱穴の大きさは、直径約30cm~40cmで、深さは約10cm~40cmである。

桁間：柱穴の中心で計測し、約1.5m~1.6mである。

梁間：柱穴の中心で計測し、約2.2m~3.2mである。



第39図 Ⅱ区2面掘立柱建物位置図



第40図 Ⅱ区2面1号掘立柱建物平断面図

1. 暗褐色土：Ⅳ層相当。

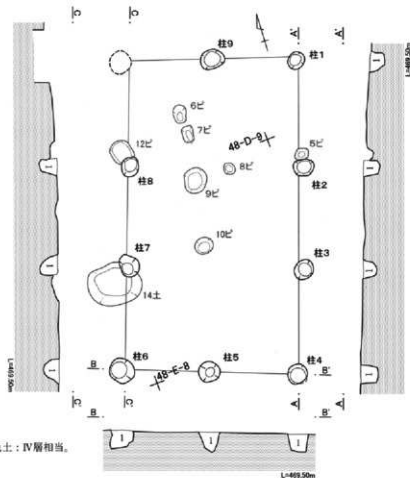
### (2) II区2面2号掘立柱建物 (48区7号建物)

規模：2間×3間の規模であり、桁行約6.5m～6.7mであり、梁行約3.6m～3.7mである。

柱穴：柱穴は、9基が検出された。北西隅の柱穴は検出されなかった。

桁間：柱穴の中心で計測し、約1.75m～1.85mである。

梁間：柱穴の中心で計測し、約2.2m～2.3mである。



1. 暗褐色土：IV層相当。

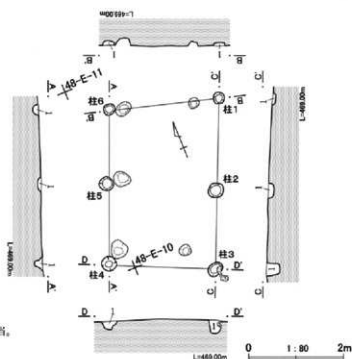
### (3) II区2面3号掘立柱建物 (48区8号建物)

規模：1間×2間の規模であり、桁行約3.3m～3.6mであり、梁行約2.25m～2.35mである。長方形としては、ややいびつな形状である。

柱穴：柱穴は、6基が検出された。

桁間：柱穴の中心で計測し、約2.3m～2.35mである。

梁間：柱穴の中心で計測し、約1.6m～1.9mである。



1. 暗褐色土：IV層相当。

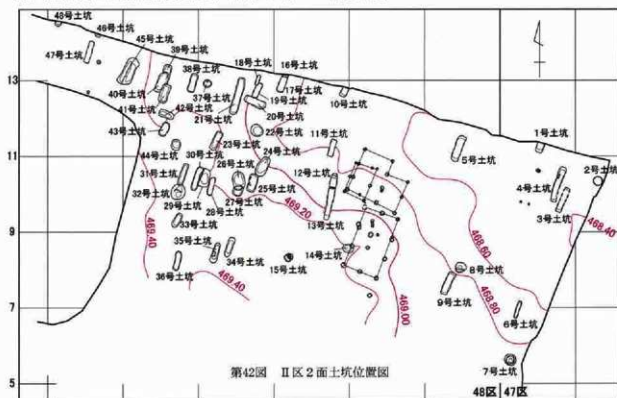
第41図 II区2面2号・3号掘立柱建物平面図

## 2. Ⅱ区2面土坑 [1号~48号土坑]

Ⅱ区2面から、土坑が48基検出された。これら土坑は、Ⅱ区北部に検出されている。長方形の土坑が多く、48基中、33基が検出されている。長方形の土坑の長軸方向は、そのほとんどが、吾妻川の流れと直行する方向に掘り込まれている。土坑の構築時期は不明であるが、覆土から縄文土器が検出されたものが多い。しかしながら、これらの縄文土器は、恐らく流れ込みであると推定される。したがって、

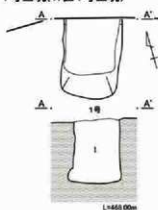
時期は恐らく中世であると推定される。

これら、土坑の性格は不明であるが、礫が多数出土した土坑は、渋川市で検出されたF P 軽石(Hr-PP)を掘り込んだ芋を貯蔵するための「芋穴」や、前橋市で検出された天明三年の泥流で流れ込み耕作の邪魔になった礫を片づけるために掘り込んだ土坑と似た形状である。これらの土坑も、「芋穴」や耕作の邪魔になった礫を片づけた土坑であると推定される。

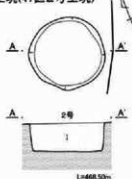


第42図 Ⅱ区2面土坑位置図

1号土坑(47区1号土坑)



2号土坑(47区2号土坑)



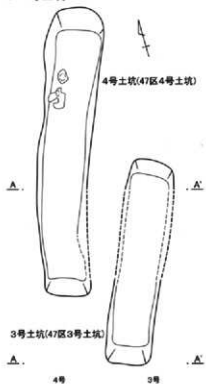
1. 暗褐色土: IV層相当。

0 1:50 2m

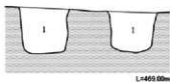
第43図 Ⅱ区2面1号・2号土坑



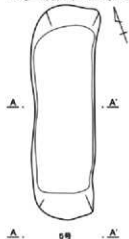
3・4号土坑



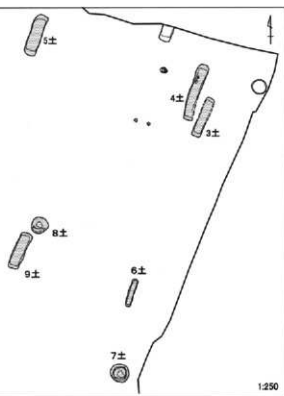
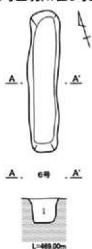
3号土坑(47区3号土坑)



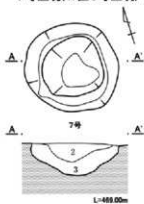
5号土坑(48区284号土坑)



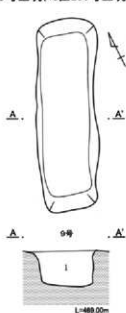
6号土坑(47区5号土坑)



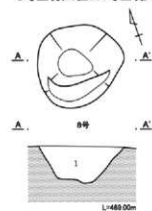
7号土坑(47区6号土坑)



9号土坑(48区285号土坑)



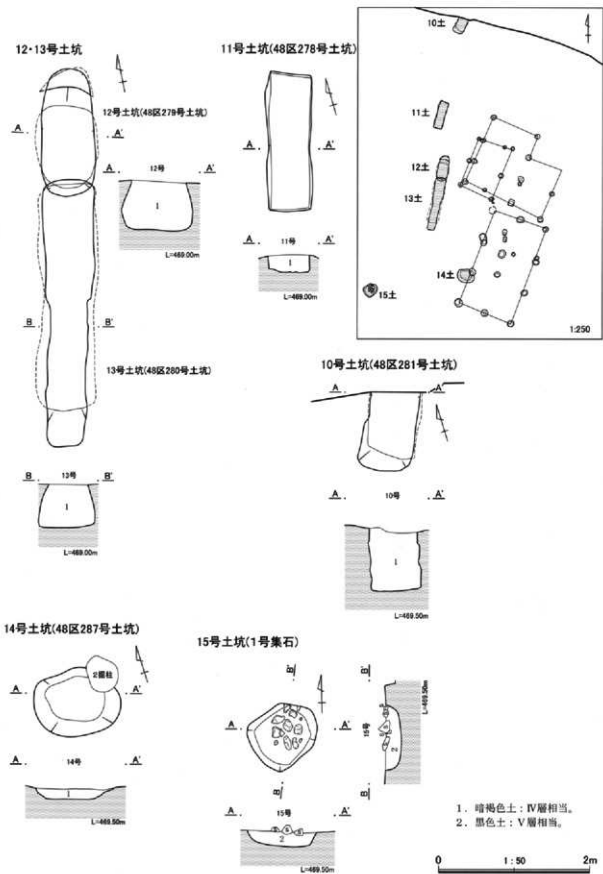
8号土坑(48区286号土坑)



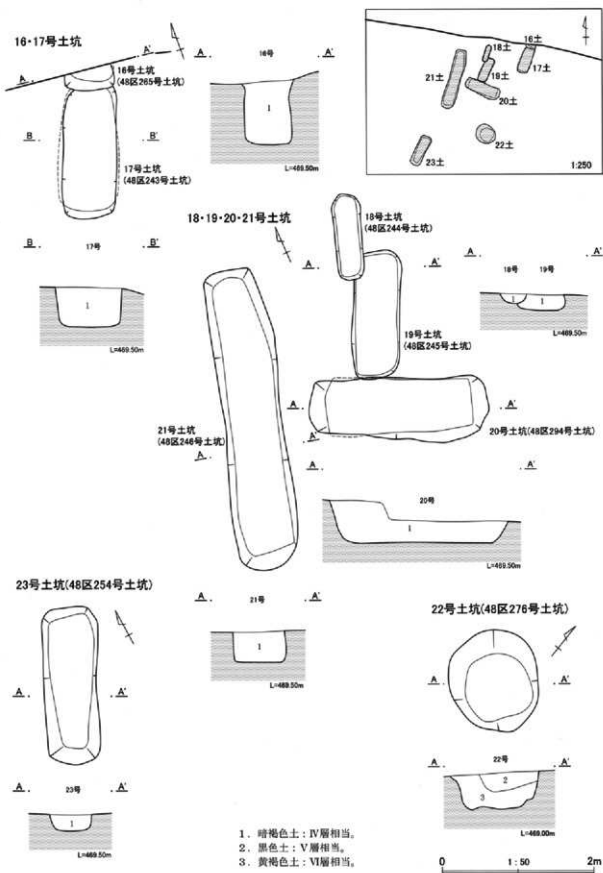
1. 暗褐色土: IV層相当。
2. 黒色土: V層相当。
3. 黄褐色土: VI層相当。

第44图 Ⅱ区2面3号~9号土坑

0 1:50 2m

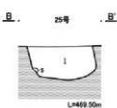


第45图 Ⅱ区2面11号~15号土坑

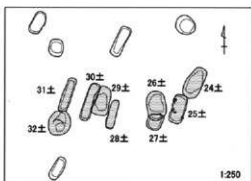
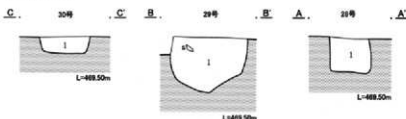
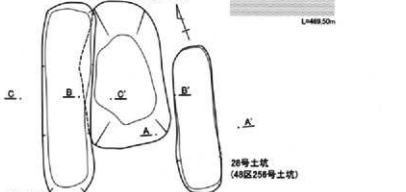


第46图 Ⅱ区2面16号~23号土坑

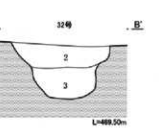
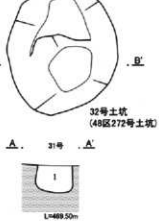
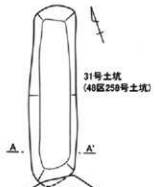
24・25号土坑



28・29・30号土坑



31・32号土坑

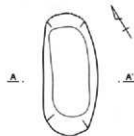


1. 暗褐色土: IV層相当,  
2. 黒色土: V層相当,  
3. 黄褐色土: VI層相当.

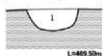


第47图 Ⅱ区2面24号~32号土坑

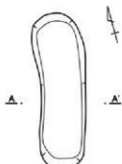
33号土坑(48区259号土坑)



33号



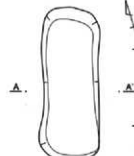
36号土坑(48区261号土坑)



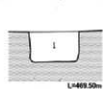
36号



37・38号土坑



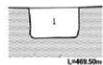
37号



37号土坑(48区273号土坑)

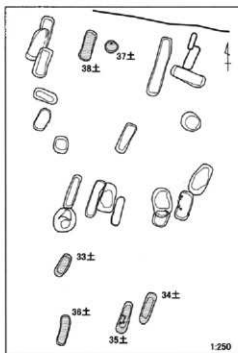


38号



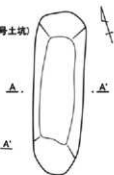
38号土坑(48区247号土坑)

38号



34・35号土坑

34号土坑(48区260号土坑)



34号



35号土坑  
(48区260号土坑)



35号



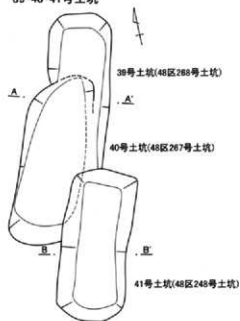
1. 暗褐色土: IV層相当。

2. 黒色土: V層相当。

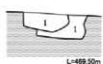


第48图 Ⅱ区2面33号~38号土坑

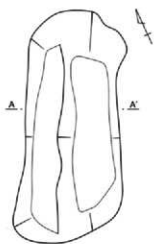
39·40·41号土坑



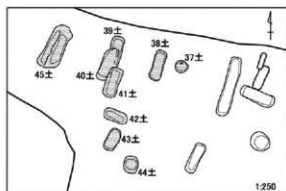
A. 40号 39号 A. B. 41号 B.



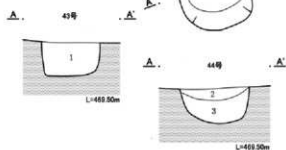
45号土坑(48区249号土坑)



A. 45号 A.



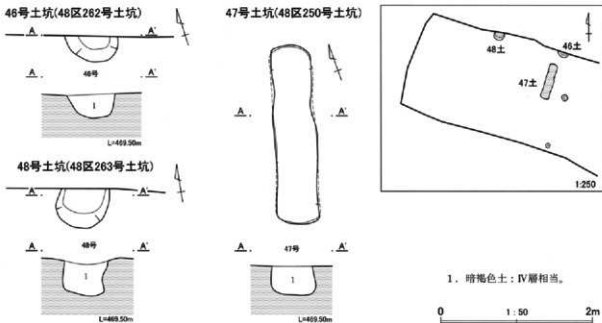
42·43·44号土坑



1. 暗褐色土: IV层相当。
2. 黑色土: V层相当。
3. 黄褐色土: VI层相当。

0 1:50 2m

第49图 II区2面39号~45号土坑



第50図 Ⅱ区2面46号~48号土坑

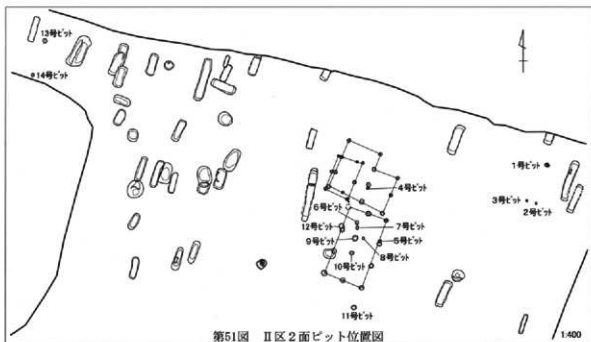
表6 Ⅱ区2面土坑まとめ

土坑 番号	旧土坑番号	長軸方向	方位	平面形状	大きさ (cm)		深さ	出土遺物	前後関係
					長さ	幅			
1	47区 1号土坑	南北	北北東~東南西	不規則	(110)	60	85	—	無し
2	47区 2号土坑	不規則	円形	不規則	190	40	40	—	無し
3	47区 3号土坑	南北	北北東~東南西	長方形	270	65	50	—	無し
4	47区 4号土坑	南北	北北東~東南西	長方形	280	70	60	—	無し
5	48区 284号土坑	南北	北北東~東南西	長方形	280	80	40	縄2点	無し
6	47区 5号土坑	南北	北北東~東南西	長方形	190	35	35	—	無し
7	47区 6号土坑	不規則	円形	不規則	120	40	40	—	無し
8	48区 284号土坑	不規則	円形	不規則	115	50	50	加3式1点	無し
9	48区 285号土坑	南北	北北東~東南西	長方形	255	80	50	加3式1点	無し
10	48区 287号土坑	南北	北北東~東南西	長方形	(105)	65	75	縄1点	無し
11	48区 278号土坑	南北	北北東~東南西	長方形	160	55	75	—	無し
12	48区 279号土坑	南北	北北東~東南西	楕円形	170	70	60	—	13号土坑
13	48区 280号土坑	南北	北北東~東南西	長方形	350	65	55	縄2点	12号土坑
14	48区 287号土坑	南北	北北東~東南西	楕円形	115	90	15	加3式3点	無し
15	48区 1号竪穴	北東~南西	北東~南西	楕円形	90	85	20	—	無し
16	48区 285号土坑	南北	北北東~東南西	長方形	300	65	80	—	17号土坑
17	48区 243号土坑	南北	北北東~東南西	長方形	(170)	70	50	縄2点	18号土坑
18	48区 244号土坑	南北	北北東~東南西	長方形	115	35	15	—	19号土坑
19	48区 245号土坑	南北	北北東~東南西	長方形	170	65	20	加3式1点、加4式1点	18号土坑
20	48区 294号土坑	東西	西北西~東南東	長方形	235	80	55	加3式2点、縄1点	無し
21	48区 246号土坑	南北	北北東~東南西	長方形	400	75	55	加3式5点、縄4点	無し
22	48区 276号土坑	北西~南東	北西~南東	楕円形	130	120	50	縄3点	無し
23	48区 254号土坑	南北	北北東~東南西	長方形	210	70	20	加4式1点、縄1点	無し
24	48区 282号土坑	南北	北北東~東南西	長方形	220	110	50	縄1点	無し
25	48区 271号土坑	南北	北北東~東南西	長方形	190	90	40	—	無し
26	48区 274号土坑	南北	北北東~東南西	楕円形	190	125	60	—	27号土坑
27	48区 256号土坑	南北	北北東~東南西	四角形	(120)	100	60	縄2点	27号土坑
28	48区 256号土坑	南北	北北東~東南西	長方形	190	50	40	—	無し
29	48区 275号土坑	南北	北北東~東南西	長方形	190	105	75	縄3点	無し
30	48区 257号土坑	南北	北北東~東南西	長方形	255	65	70	—	無し
31	48区 258号土坑	南北	北北東~東南西	長方形	225	60	55	—	32号土坑と一部
32	48区 272号土坑	南北	北北東~東南西	楕円形	165	145	70	—	31号土坑と一部
33	48区 259号土坑	南北	北北東~東南西	長方形	160	70	30	加3式3点、縄1点	無し
34	48区 260号土坑	南北	北北東~東南西	長方形	215	65	60	加3式1点	無し
35	48区 255号土坑	南北	北北東~東南西	長方形	230	60	35	—	無し
36	48区 261号土坑	南北	北北東~東南西	長方形	265	60	25	—	無し
37	48区 272号土坑	不規則	円形	不規則	85	20	20	縄2点	無し
38	48区 247号土坑	南北	北北東~東南西	長方形	205	70	40	—	無し
39	48区 250号土坑	南北	北北東~東南西	長方形	(210)	80	30	縄1点	40・41号土坑
40	48区 251号土坑	南北	北北東~東南西	長方形	220	(85)	35	縄2点	39・41号土坑
41	48区 248号土坑	南北	北北東~東南西	長方形	205	85	45	—	39・40号土坑
42	48区 251号土坑	東西	西北西~東南東	長方形	160	75	20	—	無し
43	48区 252号土坑	南北	北北東~東南西	長方形	155	80	45	—	無し
44	48区 252号土坑	南北	北北東~東南西	楕円形	110	95	45	—	無し
45	48区 249号土坑	南北	北北東~東南西	長方形	210	125	50	—	無し
46	48区 262号土坑	不規則	一辺長方形	不規則	325	70	35	縄1点	無し
47	48区 259号土坑	南北	北北東~東南西	長方形	235	65	35	縄2式2点、縄2点	無し
48	48区 263号土坑	不規則	一辺長方形	不規則	350	80	40	—	無し

縄文土器の略号: 加3式(加賀利3式)・加4式(加賀利4式)・縄(縄文)・縄中(縄文中期)・縄後(縄文後期)・壺1式(壺之内1式)

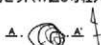
## 3. Ⅱ区2面ピット[1号~14号ピット]

Ⅱ区2面から、ピットが14基検出された。14基中、9基が掘立柱建物周辺で検出されており、何らかの関連があると推定される。



第51図 Ⅱ区2面ピット位置図

1号ピット(47区3号柱穴)



L=488.00m

2号ピット(47区2号柱穴)



L=468.00m

3号ピット(47区1号柱穴)



L=468.60m

4号ピット(48区6号柱穴)



L=469.00m

1. 暗褐色土: IV層相当。

5号ピット(48区12号柱穴)



L=469.20m

0 1:50 2m

第52図 Ⅱ区2面1号~5号ピット

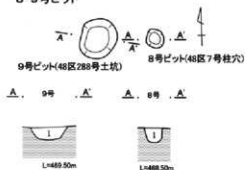


## 6・7号ピット



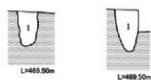
A. 6号 A. 7号 A.

## 8・9号ピット



A. 9号 A. 8号 A.

## 10号ピット(48区8号柱穴)



L=489.50m

L=489.50m

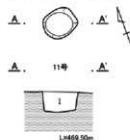


A. 10号 A.



L=489.50m

## 11号ピット(48区13号柱穴)



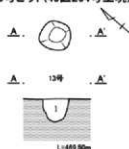
L=489.50m

## 12号ピット(48区289号土坑)



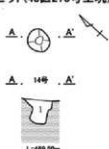
L=489.50m

## 13号ピット(48区264号土坑)



L=489.50m

## 14号ピット(48区270号土坑)



L=489.50m

1. 暗褐色土: IV層相当。

0 1:50 2m

第53図 Ⅱ区2面6号~14号ピット

表7 Ⅱ区2面ピットまとめ

ピット番号	旧土坑番号	平面形状	大きさ (cm)			出土遺物	重複関係
			直径	長さ	深さ		
1	47区 3号柱穴	横円形	45	40	—	無し	
2	47区 2号柱穴	不整形円形	20	20	—	無し	
3	47区 1号柱穴	円形	20	20	—	無し	
4	48区 6号柱穴	円形	25	15	—	無し	
5	48区 12号柱穴	横円形	20	30	10	—	2号獨立柱・柱2
6	48区 9号柱穴	横円形	30	40	45	—	無し
7	48区 10号柱穴	横円形	25	35	55	—	無し
8	48区 7号柱穴	円形	20	25	—	—	無し
9	48区 288号土坑	横円形	50	20	—	加3式2点	無し
10	48区 8号柱穴	円形	35	40	15	—	無し
11	48区 13号柱穴	円形	45	25	—	—	無し
12	48区 289号土坑	横円形?	45?	15	—	加3式1点	2号獨立柱・柱8
13	48区 264号土坑	円形	40	30	—	—	無し
14	48区 270号土坑	横円形	25	30	30	—	無し

縄文土器の略号: 加3式(加曾利3式)

### 第3節 拡張調査

Ⅱ区拡張調査及びⅡ区・Ⅲ区間確認調査を実施し、遺構が検出されている。

#### 1. Ⅱ区拡張調査 [Ⅱ区の南側] (平成15年1月に実施)

##### (1) Ⅱ区拡張調査1【調査面積10㎡】

幅約2m・長さ約5.5mで実施。1号畑と2号畑の境界が南側に続くことが確認された。1号畑の畝14条・サク13条、2号畑の畝13条・サク12条を検出。

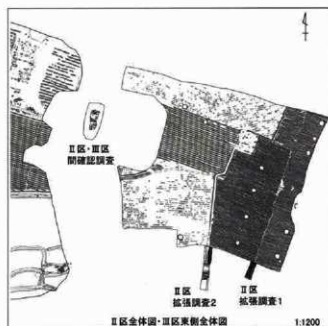
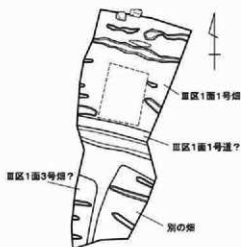
##### (2) Ⅱ区拡張調査2【調査面積30㎡】

幅約2m・長さ約14mで実施。2号畑と8号畑の境界が南側に続くことが確認された。2号畑の畝13条・サク12条を検出。2号道は、南に約5.5mで途切れることが判明。さらに、南側に新たな畑の痕跡を検出。

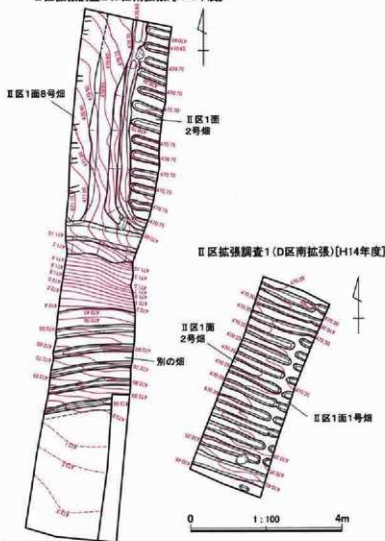
#### 2. Ⅱ区・Ⅲ区確認調査 [Ⅱ区とⅢ区の間] (平成16年6月に実施)【調査面積12㎡】

幅約2.5m・長さ約6mで実施。Ⅲ区1号畑・3号畑の続きが確認された。さらに、新たな畑の区画も検出されている。

##### Ⅱ区・Ⅲ区間確認調査[H16年度]



##### Ⅱ区拡張調査2(D区南拡張)[H14年度]



第54図 Ⅱ区拡張調査1・2、Ⅱ区・Ⅲ区間確認調査

## 3. III区拡張調査【III区の南側】(平成15年1月に実施)

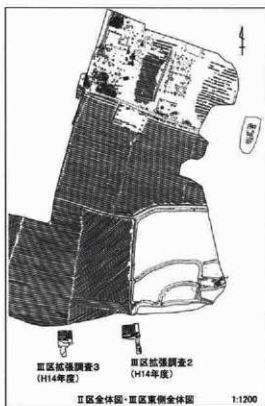
## (1) III区拡張調査2【III区の南側】【調査面積約29㎡】

幅約5m・長さ約4.5m及び幅約1.5m・長さ約5mで実施。3号道の南側・7号水田の南西部と9号畑の南東部が検出された。3号道は南側に約3m続くことが確認された。9号畑の畝7条・サク6条を検出。

## (2) III区拡張調査3【III区の南側】【調査面積約26㎡】

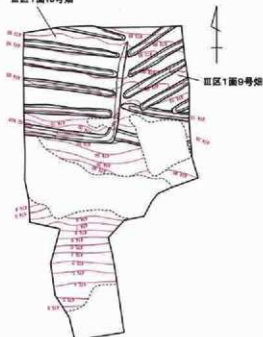
幅約4m・長さ約5m及び幅約1.5m・長さ約3mで実施。9号畑の畝5条・サク6条を検出。また、10号畑の畝5条・サク6条を検出。

なお、これ以外に、2002(平成14)年に北部で拡張調査1を実施し、さらに2005(平成17)年に西部で拡張調査4及びび5を実施しているが、拡張調査1は本編の図版に反映させており、拡張調査4及びび5は、紙面の都合で今回は割愛させていただいた。ご了承いただきたい。



## III区拡張調査3(C区南拡張) [H14年度]

III区1画10号畑

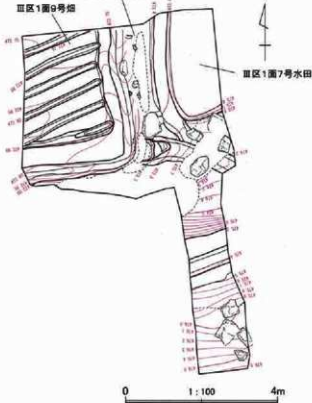


## III区拡張調査2(C区南拡張) [H14年度]

III区1画3号道

III区1画9号畑

III区1画7号水田



第55図 III区拡張調査2・3

## 第3章 III区1面出土遺構

III区では、I区及びII区と同様に1783（天明3）年の浅間山泥流に埋もれた面を1面とし、それ以下を2面とした。実際、縄文時代・古代・中世まで同じ面から検出されており、時代毎に面を分けることは不可能であった。今回、最も多くの遺構が検出された調査区である。なお、調査時はC区という名称であった。調査面積は、6,045 m<sup>2</sup>である。

1面では、建物2軒・掘立柱建物4棟・便槽6基・石組遺構2ヶ所・道3条・水田7枚・井戸1基・畑14区画・円形平坦面5基・四角形平坦面5基等が検出された。

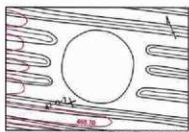


III区1面2号住居出土状況（西から撮影）

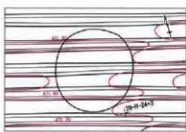
### 円形平坦面・四角形平坦面の分類

上野原遺跡1面の天明三(1783)年泥流面の様からは、円形を呈し平坦な箇所及び四角形を呈し平坦な箇所が検出されている。ここでは、利便を図るために、円形平坦面を4つの形態に分類した。また、四角形平坦面は1つの形態しか認められなかった。

Ⅲ区からは円形平坦面が5基検出されたが、そのすべてが、ここで言うBタイプであった。四角形平坦面は5基が検出された。



円形平坦面Aタイプ：畝及びサクが円形平坦面に食い込んでおらず、溝を有さないタイプである。



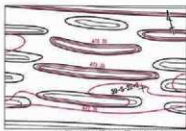
円形平坦面Bタイプ：畝及びサクが円形平坦面に食い込んでおり、溝を有さないタイプである。



円形平坦面Cタイプ：畝あるいはサクが、円形平坦面の中だけにみとめられ、溝を有さないタイプである。



円形平坦面Dタイプ：畝及びサクが円形平坦面に食い込んでおらず、溝を有するタイプである。



四角形平坦面：四角形を呈し、畝及びサクが途切れているタイプである。板で仕切った痕跡であろうか。

### 第3章 Ⅲ区1面出土遺構

Ⅲ区1面から、畑14区画・円形平坦面5基・四角形平坦面5基・水田7枚・井戸1基・道3条・掘立柱建物4棟・石組遺構2箇所・建物2軒・便槽6基等が検出されている。

#### 第1節 畑 [1号～14号畑]

畑14区画が調査区一面に検出された。畝サクの走行方向は複雑である。

##### 円形平坦面

円形平坦面5基が、10号畑で検出された。

##### 四角形平坦面

四角形平坦面5基が、14号畑で検出された。

#### 第2節 水田

##### 1. 水田 [1号～7号水田]

4段構造の水田7枚が、調査区の南東隅から検出された。

##### 2. 井戸 [1号井戸]

井戸1基が、3号水田から検出された。

#### 第3節 道 [1号～3号道]

道3条が、調査区の中央及び南側で検出された。

#### 第4節 掘立柱建物 [1号～4号掘立柱建物]

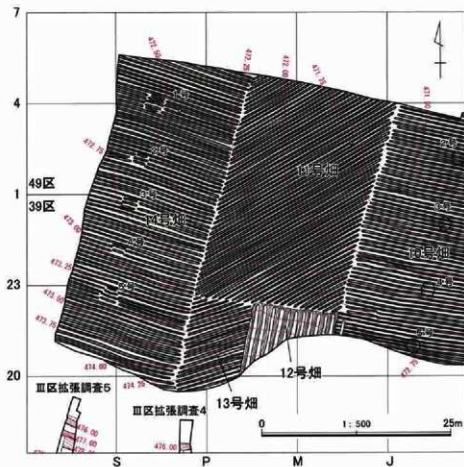
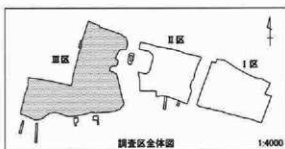
掘立柱建物4棟が、建物2軒の周辺に検出された。

#### 第5節 石組遺構 [1号・2号石組遺構]

石組遺構2箇所が、2号建物の南北に検出された。

#### 第6節 建物 [1号・2号建物]

建物2軒が、調査区の北部から検出された。



第56図 Ⅲ区1面全体図1/2



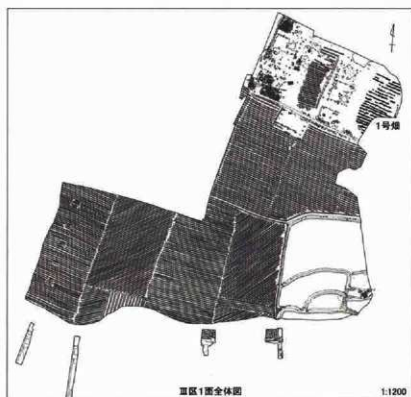
第57図 Ⅲ区1面全体図2/2

## 第1節 畑 [1号～14号畑]

### (1) Ⅲ区1面1号畑 (48区旧番号無し)

Ⅲ区1面1号畑は、調査区の北東から検出された。浅間山泥流による損壊が激しく、畝サクが所々途切れており、畝の判読が困難である。畝は、22条が検出された。検出された面積は、155㎡である。

本畑は、1号建物の東側に検出されているため、住居前の自給自足用の畑であると推定される。残念ながら、泥流被災時の栽培作物の種は不明である。



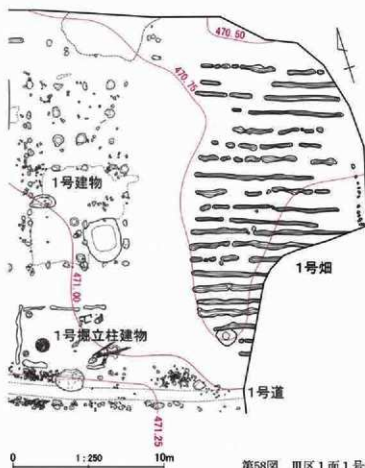
#### 1号畑

1号畑は、1号建物の東側に検出されているため、住居前の自給自足用の畑であると推定される。吾妻川に近いため、浅間山泥流による損壊が激しい。また、同畑の北部・東部・南部は浅間山泥流が厚く堆積しており、安全対策のための、のり面を確保するために調査が不可能であったため、全容をうかがうことはできない。

なお、本1号畑の西側には平坦な部分が検出されたが、これは、1号建物に伴う「庭」と呼ばれる部分であると推定される。

#### ①畝とサク

畝とサクは、北西～南東にかけて走行している。泥流により畝が途切れている部分が多く認められるが、泥流前はつながっていたと仮定して計測すると、検出された畝の長さは約1m～10.5mである。総数で22条の畝が検出された。畝の間は、約100cmで、他の畑と比べると広い傾向がある。



第58図 Ⅲ区1面1号畑

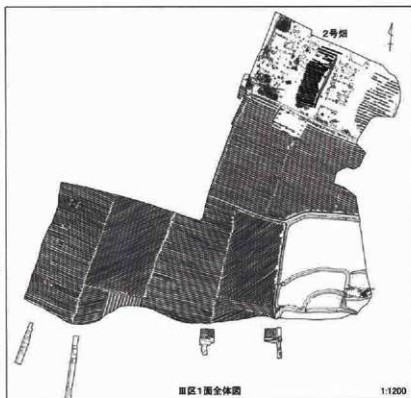


## (2) Ⅲ区1面2号畑 (48区旧番号無し)

Ⅲ区1面2号畑は、調査区の北側で検出された。1号建物及び2号建物の間に位置する。

1号畑に比べると、浅間山泥流による損壊は少ない。35条の畝が検出された。検出された面積は、158.8㎡である。

本畑は、1号建物の西側及び2号建物の東側に位置し、2軒の住居にはさまれた位置に検出されている。しかしながら、本畑は、1号建物に伴うものではなく、2号建物に伴うものと推定される。したがって、2号建物住人の自給自足用の畑であると推定される。



第59図 Ⅲ区1面2号畑

### 2号畑

2号畑は、2号建物の東側に検出されているため、住居前の自給自足用の畑であると推定される。1号畑に比べれば、浅間山泥流による損壊は少ない。残念ながら、泥流被災時の栽培作物の種は不明である。

なお、本2号畑の西側には平坦な部分が検出されたが、これは、2号建物に伴う「庭」と呼ばれる部分であると推定される。

#### ①畝とサク

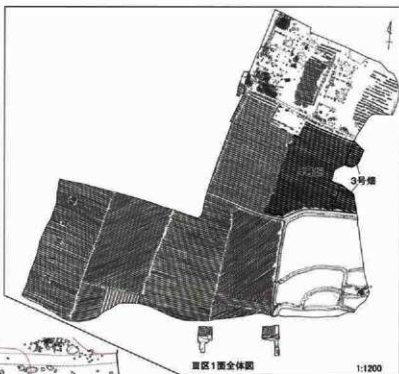
畝サクは、北西～南東にかけて走行している。畝サクは途切れている部分も認められる。検出された畝の長さは、約5m～7mである。総数で、35条の畝が検出されている。畝の間は、約70cmであり、1号畑に比べると狭い傾向がある。

0 1:250 10m

### (3) Ⅲ区1面3号畑 (48区11号畑)

Ⅲ区1面3号畑は、調査区の中央東側で検出された。4号畑の東側に位置する。同畑の中央部は作業用道として調査不能であるため、全容はうかがえない。検出された面積は、70.8㎡である。

浅間山泥流による損壊は少ない。畝サクは、北西～南東にかけて走行している。検出された畝の長さは、約1m～7mである。総数で27条の畝が検出された。畝の間は、約60cm～70cmである。



### (4) Ⅲ区1面4号畑 (48・49区10号畑)

Ⅲ区1面4号畑は、調査区の中央東側で検出された。東側で3号畑と西側で5号畑と隣接する。また、北側で1号道と南側で2号道と隣接する。検出された面積は、500.6㎡である。

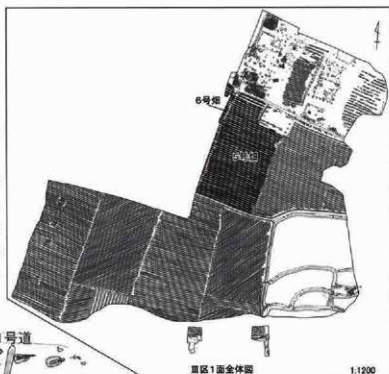
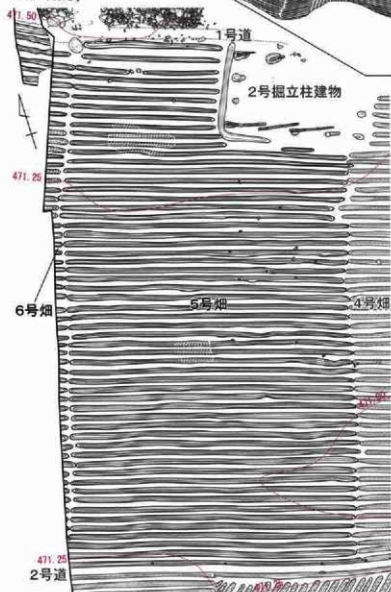
浅間山泥流による損壊は少ない。畝サクは、3号畑と同様に、北西～南東にかけて走行している。検出された畝の長さは、約4m～20mである。総数で54条の畝が検出された。畝の間は、約60cm～70cmである。

第60図 Ⅲ区1面3号・4号畑

(5) Ⅲ区1面5号畑  
(49区9号畑)

Ⅲ区1面5号畑は、調査区の中央西側で検出された。東側で4号畑と西側で6号畑と隣接する。北側で1号道と南側で2号道と隣接。検出された面積は、588.3㎡である。

浅間山泥流による損壊は少ない。畝サクは、北西～南東にかけて走行している。検出された畝の長さは、約2m～19mである。総数で、57条の畝が検出された。畝の間は、約60cm～70cmである。



(6) Ⅲ区1面6号畑  
(49区旧番号無し)

Ⅲ区1面6号畑は、調査区の中央西側で検出された。6号畑の西側は調査区外であるため、わずかな部分しか検出されておらず、全容は不明である。東側で5号畑とまた北側で1号道と隣接する。検出された面積は、36.7㎡である。

浅間山泥流による損壊は少ない。畝サクは、他の3号畑～5号畑と同様に、北西～南東にかけて走行している。検出された畝の長さは、現状で約20cm～3.5mである。総数で、56条の畝が検出された。畝の間は、他の3号畑～5号畑と同様に約60cm～70cmである。

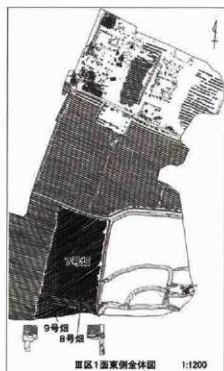
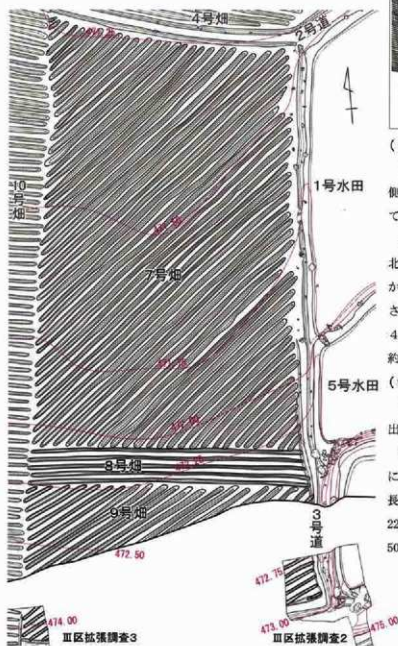
0 1:250 10m

第61図 Ⅲ区1面5号・6号畑

## (7) Ⅲ区1面7号畑 (39・49区8号畑)

Ⅲ区1面7号畑は、調査区の南側で検出された。東側で3号道と西側で10号畑と隣接する。また、北側で2号道と南側で8号畑と隣接する。検出された面積は、約451㎡である。

浅間山泥流による損壊は少ない。畝サクは、北東～南西にかけて走行している。検出された畝の長さは、約50cm～22mである。総数で、64条の畝が検出された。畝の間は、約50cm～70cmである。



## (8) Ⅲ区1面8号畑 (39区7号畑)

Ⅲ区1面8号畑は、北側で7号畑と南側で9号畑と隣接する。全容が検出されており、面積は42.1㎡である。

形状は長方形であり、東西約18m・南北約2.5mである。畝サクは、東～西にかけて走行しており、検出された畝の長さは、約18m～18.5mである。わずかに4条の畝が検出されている。畝の間は、約50cm～60cmである。

## (9) Ⅲ区1面9号畑 (39区6号畑)

Ⅲ区1面9号畑は、8号畑の南側で検出されており、面積は58.3㎡である。

畝サクは、7号畑と同様に北東～南西にかけて走行している。検出された畝の長さは、約70cm～10mである。総数で、22条の畝が検出された。畝の間は、約50cm～70cmである。

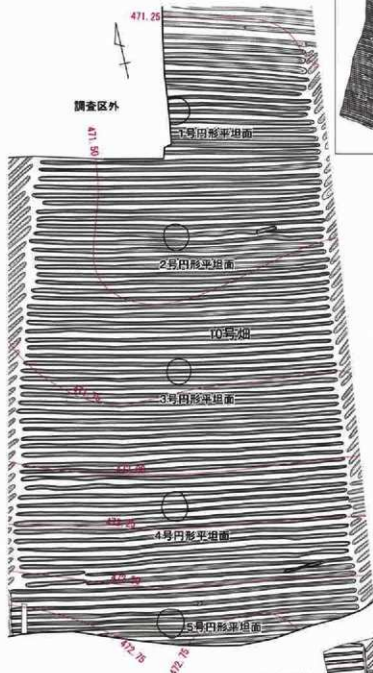
0 1:250 10m

第62図 Ⅲ区1面7号～9号畑

## (10) Ⅲ区1面10号畑 (39・49区6号畑)

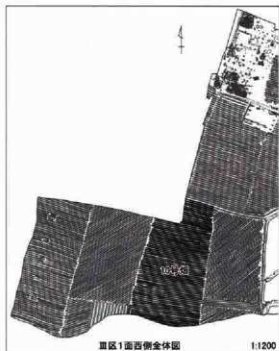
Ⅲ区1面10号畑は、東側で7号畑～9号畑と西側で11号及び12号畑と隣接する。また、北側では1号道と隣接している。形状は、南北に細長いのが、北西部は調査区外である。

本畑からは、5基の円形平坦面・75条の畝が検出された。検出された面積は、735㎡である。



第63図 Ⅲ区1面10号畑

Ⅲ区拡張調査3



Ⅲ区1面西側全体図

1:1200

## 10号畑

10号畑の形状は、南北に細長いものである。しかしながら、同畑の北西部及び南部は調査区外であるため、全容をうかがうことはできない。高低差は、南部から北部にかけて緩やかに下がっている。

## ①畝とサク

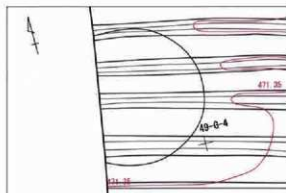
畝とサクは、北西～南東にかけて走行しており、長さは約9m～23mである。総数で、75条の畝が検出された。畝の間は、約50cm～70cmである。

## ②円形平坦面

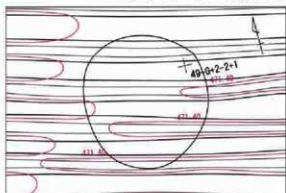
円形平坦面は、総数で5基が検出された。どれも、畝サクが食い込むBタイプである。これら、5基の円形平坦面は、一直線に検出されている。直径は1.65m～1.8mである。また、面積は、約2.1㎡～2.7㎡である。



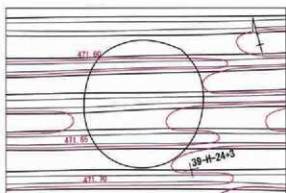
0 1:250 10m



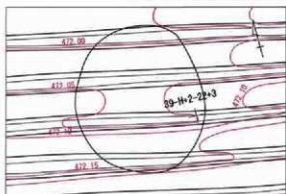
①Ⅲ区1面10号畑1号円形平坦面



②Ⅲ区1面10号畑2号円形平坦面



③Ⅲ区1面10号畑3号円形平坦面



④Ⅲ区1面10号畑4号円形平坦面

0 1:50 2m

## 円形平坦面

## ①Ⅲ区1面10号畑1号円形平坦面

(C区5号畑5号円形平坦面)

形状:円形?を呈する〔西側が調査区外〕。

タイプ:Bタイプである。

直径:長軸約1.8m、短軸約(1.4m)である。

面積:約2.1㎡である。

堆積物:上面には、As-A軽石がほぼ均等に堆積。

高低差:ほぼ平坦である。

畝サク:円形平坦面に、食い込んでいる。

## ②Ⅲ区1面10号畑2号円形平坦面

(C区5号畑4号円形平坦面)

形状:ほぼ円形を呈する。

タイプ:Bタイプである。

直径:長軸約1.75m、短軸約1.65mである。

面積:約2.3㎡である。

堆積物:上面には、As-A軽石がほぼ均等に堆積。

高低差:一部、畝による凹凸がある。

畝サク:円形平坦面に、食い込んでいる。

## ③Ⅲ区1面10号畑3号円形平坦面

(C区5号畑3号円形平坦面)

形状:ほぼ円形を呈する。

タイプ:Bタイプである。

直径:長軸約1.65m、短軸約1.6mである。

面積:約2.1㎡である。

堆積物:上面には、As-A軽石がほぼ均等に堆積。

高低差:一部、畝による凹凸がある。

畝サク:円形平坦面に、食い込んでいる。

## ④Ⅲ区1面10号畑4号円形平坦面

(C区5号畑2号円形平坦面)

形状:楕円形を呈する。

タイプ:Bタイプである。

直径:長軸約1.95m、短軸約1.7mである。

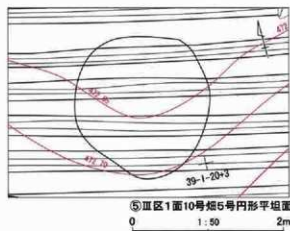
面積:約2.7㎡である。

堆積物:上面には、As-A軽石がほぼ均等に堆積。

高低差:一部、畝による凹凸がある。

畝サク:円形平坦面に、食い込んでいる。

第64図 Ⅲ区1面10号畑1号～4号円形平坦面



第65図 Ⅲ区1面10号畑5号円形平坦面

## ⑤Ⅲ区1面10号畑5号円形平坦面

(C区5号畑1号円形平坦面)

形状: 不整形円形を呈する。

タイプ: Bタイプである。

直径: 長軸約1.85m、短軸約1.75mである。

面積: 約2.7㎡である。

堆積物: 上面には、As-A 軽石がほぼ均等に堆積。

高低差: 一部、畝による凹凸がある。

畝サク: 円形平坦面に、食い込んでいる。

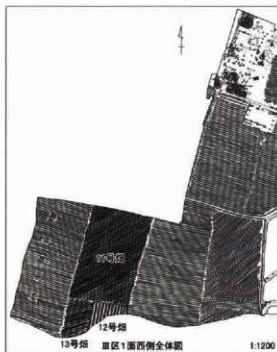
表8 Ⅲ区1面10号畑円形平坦面計測表

畑No.	円形平坦面No.	形状	タイプ	長軸	短軸	面積	畝とサク
10号畑	1号円形平坦面	円形	B	直径約1.8m		約2.1㎡	食い込んでいる
	2号円形平坦面	円形	B	約1.75m	約1.65m	約2.3㎡	食い込んでいる
	3号円形平坦面	円形	B	約1.65m	約1.6m	約2.1㎡	食い込んでいる
	4号円形平坦面	横円形	B	約1.95m	約1.7m	約2.7㎡	食い込んでいる
	5号円形平坦面	不整形円形	B	約1.85m	約1.75m	約2.7㎡	食い込んでいる

## (11) Ⅲ区1面11号畑 (39・49区3号畑)

Ⅲ区1面11号畑は、調査区の南西部で検出された。東側で10号畑・西側で14号畑・南側で12号畑及び13号畑と隣接している。北部は調査区外で、全容は不明である。検出面積は、564㎡である。

畝サクは、北東～南西にかけて走行しており、長さは約1.5m～28mである。総数で66条の畝が検出された。畝の間は、約50cm～60cmである。



## (12) Ⅲ区1面12号畑 (39区4号畑)

Ⅲ区1面12号畑は、調査区の西南部で検出された。北側で11号畑と西側で13号畑と隣接する。南部は調査区外で、全容は不明である。検出された面積は、56.3㎡である。

畝サクはほぼ南北に走行しており、検出された長さは約3m～8mである。畝の形状は、カマボコ型である。総数で、11条の畝が検出された。畝と畝の間隔は、約50cmである。

## (13) Ⅲ区1面13号畑 (39区2号畑)

Ⅲ区1面13号畑は、調査区の西南部で検出された。北側で11号畑と東側で12号畑と、また西側で14号畑と隣接する。南部は調査区外で、全容は不明である。検出された面積は、91.9㎡である。

畝サクは北東～南西にかけて走行しており、検出された長さは約80cm～9mである。総数で、23条の畝が検出された。畝の間隔は、約50cm～70cmである。

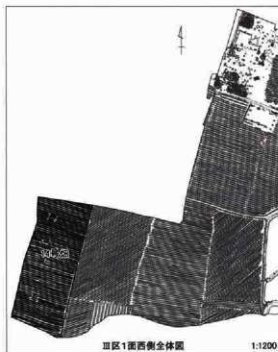
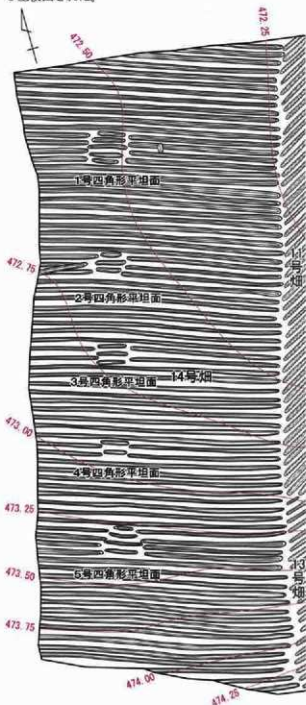
0 1:250 10m

第66図 Ⅲ区1面11号～13号畑



## (14) Ⅲ区1面14号畑 (39・49区1号畑)

Ⅲ区1面14号畑は、調査区の南西部から検出された。東側は13号畑と隣接する。北部・西部・南部は調査区外で、全容は不明である。検出された面積は、673.3㎡である。本畑からは、四角形平坦面が、5基検出された。



## 14号畑

14号畑の形状は、北～南にかけて細長い。しかしながら、同畑の北部・西部・南部は調査区外であるため、全容をうかがうことはできない。高低差は、南部～北部にかけて緩やかに下がっている。

## ①畝とサク

畝とサクは、北西～南東にかけて走行しており、長さは約3m～17mである。総数で、79条の畝が検出された。畝の間隔は、約50cm～70cmである。

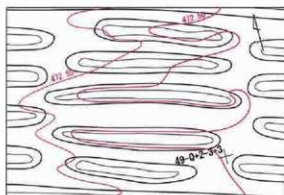
## ②四角形平坦面

四角形平坦面は、総数で5基が検出された。この形状は、これまでのハッ場ダム関連調査では検出されなかったものである。畝サクが途切れており、その形状が四角形に見えることから命名した。大きさは、長軸1.85m～2.6m、短軸0.9m～2.2mである。この平坦面の中に、畝が2条～5条検出されている。

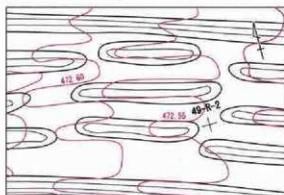
検出時には、四角形平坦面の上面にAs-A軽石が検出されており、耕作はしておらず休耕畑であった可能性が高い。畝サクが途切れた部分に、板を四角形に回し、堆肥置き場にでもしていたのであろうか。

0 1:250 10m

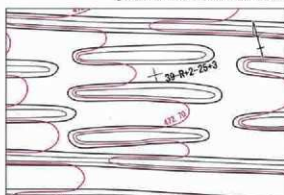
第67図 Ⅲ区1面14号畑



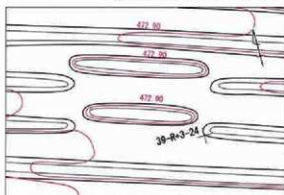
①Ⅲ区1面14号畑1号四角形平坦面



②Ⅲ区1面14号畑2号四角形平坦面



③Ⅲ区1面14号畑3号四角形平坦面



④Ⅲ区1面14号畑4号四角形平坦面

0 1:50 2m

## 四角形平坦面

## ①Ⅲ区1面14号畑1号四角形平坦面

(C区1号畑5号四角形平坦面)

形状: 四角形を呈する。

大きさ: 長軸約2.6m、短軸約2.2mである。

面積: 約4.6㎡である。

堆積物: 上面には、As-A軽石が堆積している。

畝サク: 5条の畝が検出されている。

## ②Ⅲ区1面14号畑2号四角形平坦面

(C区1号畑4号四角形平坦面)

形状: 四角形を呈する。

大きさ: 長軸約2m、短軸約1.3mである。

面積: 約2.2㎡である。

堆積物: 上面には、As-A軽石が堆積している。

畝サク: 3条の畝が検出されている。

## ③Ⅲ区1面14号畑3号四角形平坦面

(C区1号畑3号四角形平坦面)

形状: 四角形を呈する。

大きさ: 長軸約2m、短軸約1.3mである。

面積: 約2.5㎡である。

堆積物: 上面には、As-A軽石が堆積している。

畝サク: 3条の畝が検出されている。

## ④Ⅲ区1面14号畑4号四角形平坦面

(C区1号畑2号四角形平坦面)

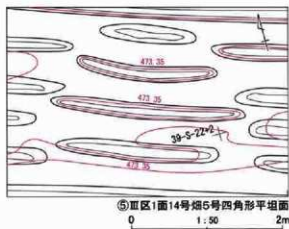
形状: 四角形を呈する。

大きさ: 長軸約1.85m、短軸約0.9mである。

面積: 約1.5㎡である。

堆積物: 上面には、As-A軽石が堆積している。

畝サク: 2条の畝が検出されている。



第69図 Ⅲ区1面14号畑5号四角形平坦面

## ⑤Ⅲ区1面14号畑5号四角形平坦面

(C区1号畑1号四角形平坦面)

形状：四角形を呈する。

大きさ：長軸約2.6m、短軸約1.8mである。

面積：約3.7㎡である。

堆積物：上面には、As-A軽石が堆積している。

畝サク：4条の畝が検出されている。

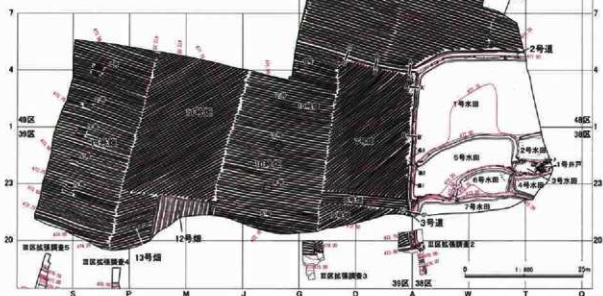
表9 Ⅲ区1面14号畑四角形平坦面計測表

畑No.	四角形平坦面No.	形状	長軸	短軸	面積	畝とサク
14号畑	1号四角形平坦面	四角形	約2.6m	約2.2m	約4.6㎡	畝6条・サク5条が存在
	2号四角形平坦面	四角形	約2.0m	約1.3m	約2.2㎡	畝4条・サク3条が存在
	3号四角形平坦面	四角形	約2.0m	約1.3m	約2.5㎡	畝4条・サク3条が存在
	4号四角形平坦面	四角形	約1.85m	約0.9m	約1.5㎡	畝3条・サク2条が存在
	5号四角形平坦面	四角形	約2.6m	約1.8m	約3.7㎡	畝5条・サク4条が存在

## Ⅲ区1面畑まとめ

Ⅲ区1面から、畑14区画が検出された。これら、14区画の畑の内、1号畑～6号畑・8号畑・10号畑・14号畑の9区画は、畝及びサクの走行方向が揃っており、調査区北部の吾妻川に面して平行である。

また、7号畑・9号畑・11号畑・13号畑は、畝及びサクが北東～南西にかけて斜めに走行している。さらに、12号畑は畝及びサクが南北に走行している。以下にまとめの表を示した。



第70図 Ⅲ区1面全体図

表10 Ⅲ区1面畑まとめ

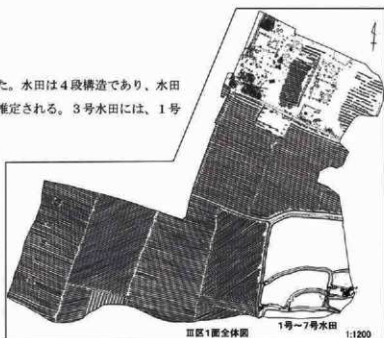
畑 No.	検出状況	面積	畝の検出数	畝サクの走行	円形平坦面	四角形平坦面
1号畑	部分	155 m <sup>2</sup>	22 条	北西～南東	—	—
2号畑	部分	158.5 m <sup>2</sup>	35 条	北西～南東	—	—
3号畑	部分	70.8 m <sup>2</sup>	27 条	北西～南東	—	—
4号畑	一部欠	500.6 m <sup>2</sup>	54 条	北西～南東	—	—
5号畑	一部欠	588.3 m <sup>2</sup>	57 条	北西～南東	—	—
6号畑	部分	36.7 m <sup>2</sup>	56 条	北西～南東	—	—
7号畑	全面	451 m <sup>2</sup>	64 条	北東～南西	—	—
8号畑	全面	42.1 m <sup>2</sup>	4 条	東西	—	—
9号畑	部分	58.3 m <sup>2</sup>	22 条	北東～南西	—	—
10号畑	部分	735 m <sup>2</sup>	75 条	北西～南東	5 基 (Bタイプ)	—
11号畑	部分	564 m <sup>2</sup>	66 条	北東～南西	—	—
12号畑	部分	58.3 m <sup>2</sup>	11 条	南北	—	—
13号畑	部分	91.9 m <sup>2</sup>	23 条	北東～南西	—	—
14号畑	部分	673.3 m <sup>2</sup>	79 条	北西～南東	—	5 基

## 第2節 水田

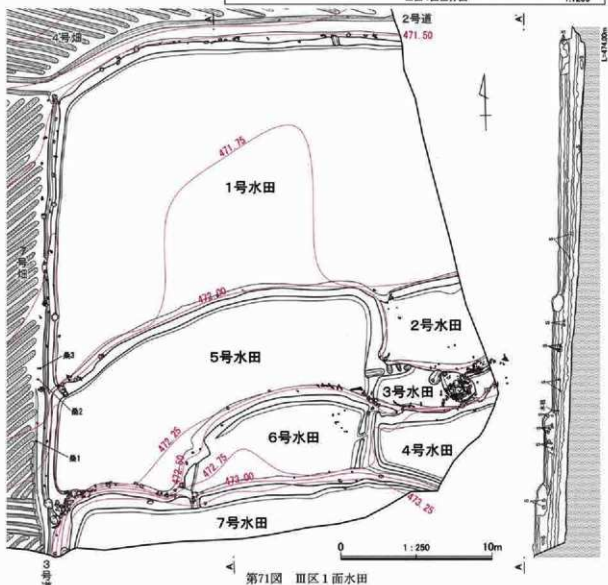
### 1. 水田 [1号～7号水田]

Ⅲ区の南東部から、水田が検出された。水田は4段構造であり、水田の東側にある沢から水を引き入れたと推定される。3号水田には、1号井戸が検出された。

- 1号水田 (7号水田): 面積は416.0㎡
- 2号水田 (6号水田): 面積は32.9㎡
- 3号水田 (5号水田): 面積は18.1㎡
- 4号水田 (3号水田): 面積は21.7㎡
- 5号水田 (4号水田): 面積は166.7㎡
- 6号水田 (2号水田): 面積は52.1㎡
- 7号水田 (1号水田): 面積は49.8㎡



Ⅲ区1面全体図 1号～7号水田 1:1200

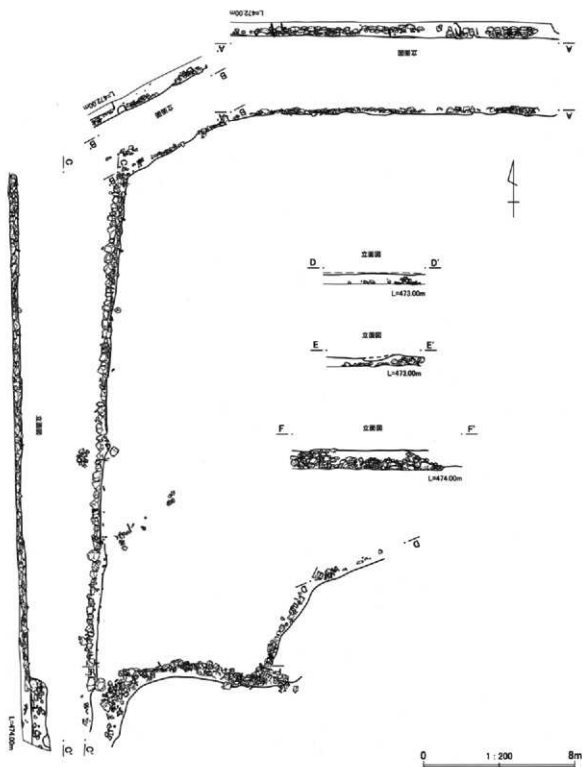


第71図 Ⅲ区1面水田

## Ⅲ区1面水田石積み

Ⅲ区1面の水田の畦の断面は、時間の制約もありすべてを調査することはできなかった。しかしながら、1号水田及び5号水田の畦は、丁寧に石で組ん

でおり、その石を栗(クリ)材の水田杭止め、土をかぶせるという構造が認められた。



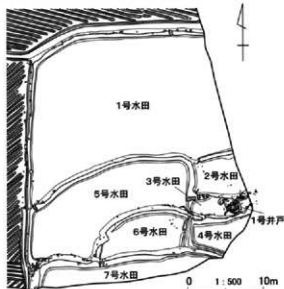
第72図 Ⅲ区1面水田石積み平面図・立面図

## 2. 井戸 [1号井戸]

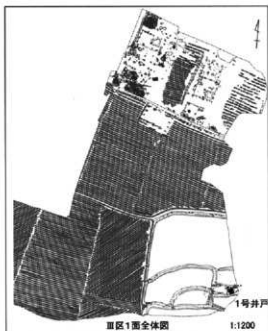
Ⅲ区1面の3号水田から、1号井戸1基が検出された。この井戸の規模は、直径約60cm・深さ約2.5mである。井戸上面は、栗(クリ)の角材で井桁状に組んでおり、何らかの上屋構造があったと推定されるが上屋は検出されていない。

しかしながら、柄杓が井戸の脇で検出されており、

釣瓶(つるべ)ではなく、柄杓で水を汲んだものと推定される。なお、この柄杓の長さは約1mであるので、天明三年当時の水位は少なくとも、1.5m以上はあったと推定される。本水田の東側には沢が存在するため、その沢から水田に水を引いたと推定される。



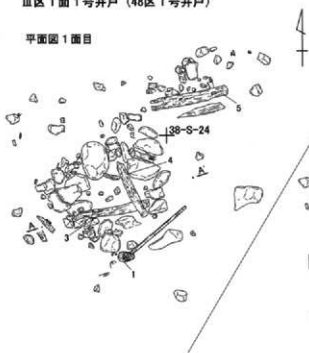
第73図 Ⅲ区1面1号井戸位置図



Ⅲ区1面全体図  
1:1200

### Ⅲ区1面1号井戸 (48区1号井戸)

平面図1面目

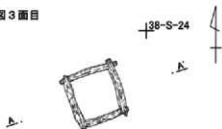


平面図2面目

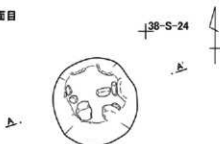


第74図 Ⅲ区1面1号井戸平面図

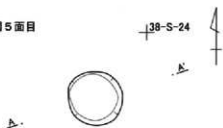
平面図3 面目



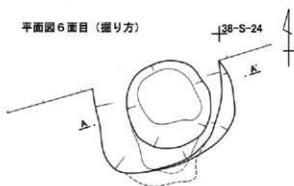
平面図4 面目



平面図5 面目



平面図6 面目 (掘り方)

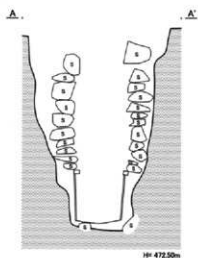


井戸の構造は、直径約70cm～75cmの円形の井戸本体の周りに、石を円筒形に組んだ井戸側を設けており、最下部には直径約60cm・高さ約60cmの規模で桶を埋め込んだ構造である。

井戸の掘り方断面は、掘り鉢状を呈しており、上部で直径約1.8m・中部で直径約1.5m・下部で直径約80cmである。

このような構造の井戸は、上郷岡原遺跡同様に天明三年の浅間山泥流の被害に遭った上福島中町遺跡(群馬県佐波郡玉村町)でも検出されている。しかしながら、上福島中町遺跡では深さが約4mもあるため底部は調査されておらず、下部構造が本遺跡と同様かどうかは不明である。

断面図A～A'



0 1:50 2m

第75図 Ⅲ区1面1号井戸平断面図



### 第3節 道 [1号~3号道]

Ⅲ区1面から、道が3条検出された。

#### 1. 1号道

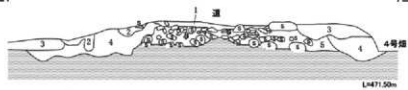
1号道は、調査区北部を東西に横断する状態で検出された。全長約41m・幅約1m~1.5mである。

#### 2. 2号道

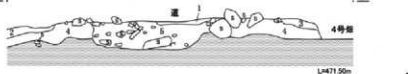
2号道は、調査区中央部を東西に横断する状態で検出された。全長約49m・幅約60cmである。

#### 1号道(48・49区1号道)

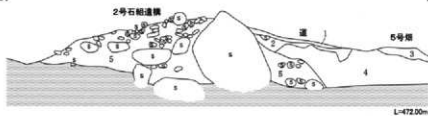
A.



B.

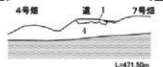


C.

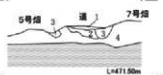


#### 2号道(畦道)

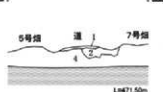
A.



B.

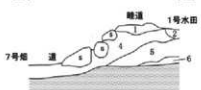


C.



#### 3号道(水田)

A.



C.

#### 2号道

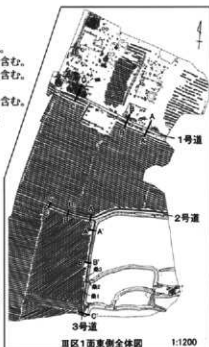
1. 黒褐色土：道の硬化面。
2. 黒褐色土：Ⅲ層相当。
3. 暗褐色土：Ⅳ層相当。
4. 黒褐色土：耕作土。

#### 3. 3号道

3号道は、調査区中央部の2号道から分かれて水田西側を南北に縦断する状態で検出された。全長約30m・幅約60cmである。

1号道

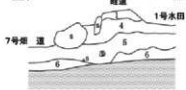
1. 黒褐色土：道の硬化面。
2. 黒褐色土：φ1cm礫を含む。
3. 黒褐色土：白色粒子を含む。
4. 暗褐色土：Ⅳ層相当。
5. 暗褐色土：礫を多量を含む。



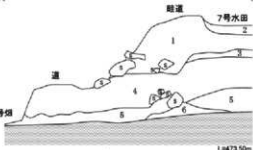
3号道

1. 黒褐色土：しまりあり。
2. 黒褐色土：炭化物を少量含む。
3. 黒褐色土：軽石を含む。
4. 黒褐色土：軽石・炭化物を含む。
5. 黒褐色土：軽石・炭化物を少量含む。
6. 黒褐色土：砂質。

B.



C.



0 1:50 2m

第76図 Ⅲ区1面1号~3号道断面図

## 第4節 Ⅲ区1面掘立柱建物 [1号～4号掘立柱建物]

Ⅲ区1面から、掘立柱建物が4棟検出された。これら、4棟の掘立柱建物はすべて調査区の北側から検出されており、1号建物及び2号建物の関連施設であると推定される。4棟の内3棟には便槽が検出されており、廁（トイレ）であると推定される。

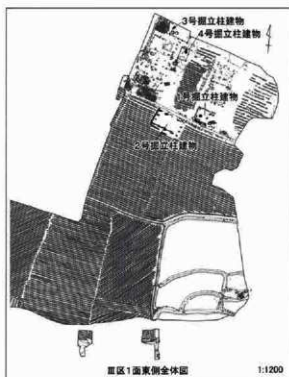
### 1. Ⅲ区1面1号掘立柱建物

規模：1間×2間の規模である。長軸約5.2m・短軸約3.5mの規模である。東西方向に長い。

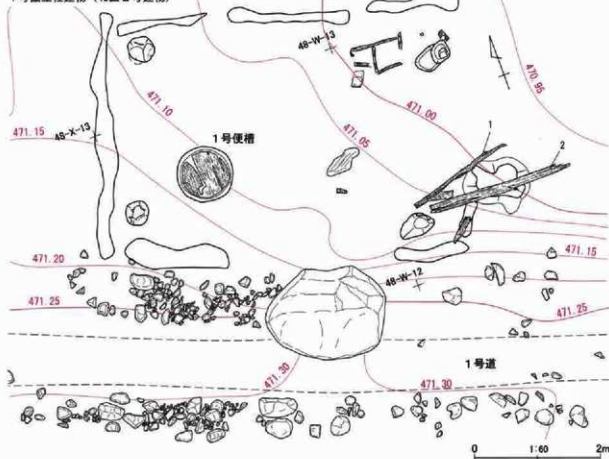
柱穴：柱穴は、5基が検出された。柱穴の大きさは、直径約35cm～50cmで、深さは約20cm～40cmである。

棟間：柱穴の中心で、約2.5m～2.6mである。

梁間：柱穴の中心で、約2m～4.6mである。



### 1号掘立柱建物（48区2号建物）



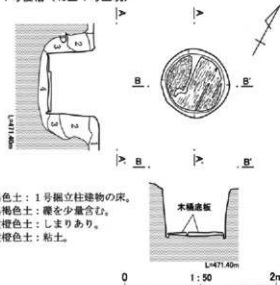
第77図 Ⅲ区1面1号掘立柱建物平面図

溝：雨落ち溝が、建物の北側・西側・南側に位置する。

入口：入口は、東側であると推定される。

便槽：便槽が1基検出された。直径約90cm・深さ約70cmの規模である。木桶が残っていた。

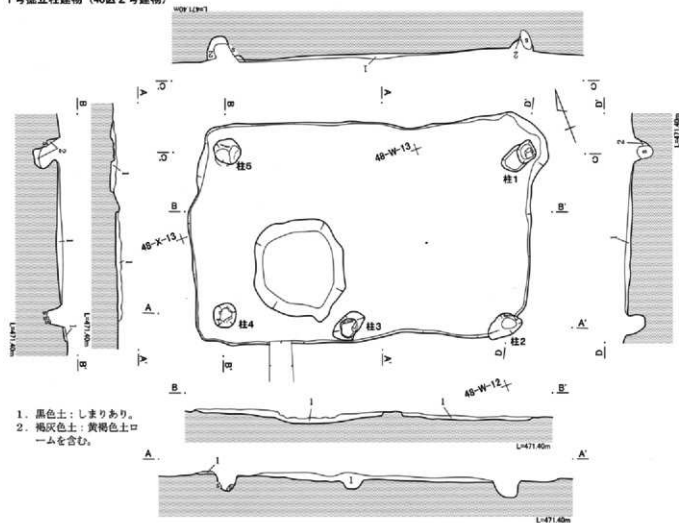
1号便槽 (48区1号土坑)



1. 黒色土：1号掘立柱建物の床。
2. 黒褐色土：礫を少量含む。
3. 黄橙色土：しまりあり。
4. 黄橙色土：粘土。

第78図 Ⅲ区1面1号掘立柱建物1号便槽平面断面図

1号掘立柱建物 (48区2号建物)



1. 黒色土：しまりあり。
2. 褐灰色土：黄褐色土ロームを含む。

第79図 Ⅲ区1面1号掘立柱建物平面断面図

## 2. Ⅲ区1面2号掘立柱建物

規模：2間×4間の規模である。桁行約8.6m・梁行約4.6mの規模である。東西方向に長い。

柱穴：柱穴は、14基が検出された。柱穴の大きさは、直径約25cm～100cmで、深さは約20cm～40cmである。

桁間：柱穴の中心で、約1.6mである。

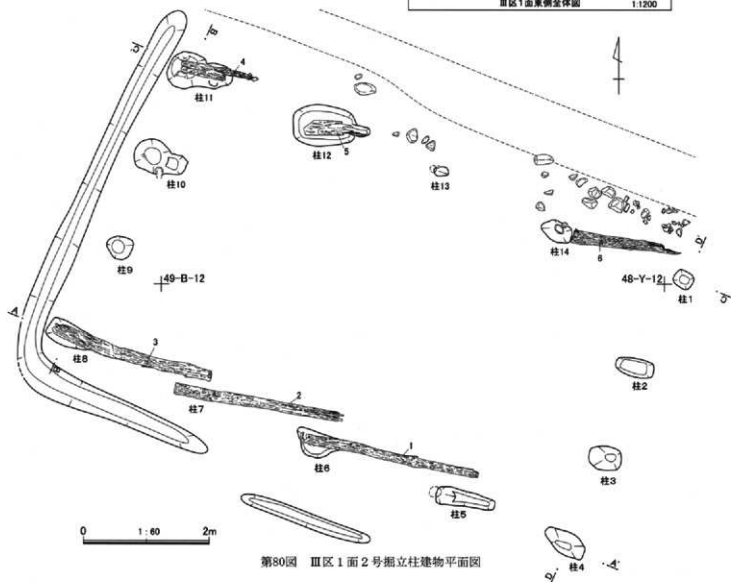
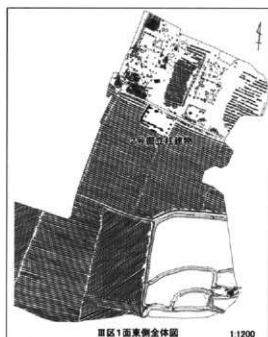
梁間：柱穴の中心で、約2.1m～2.3mである。

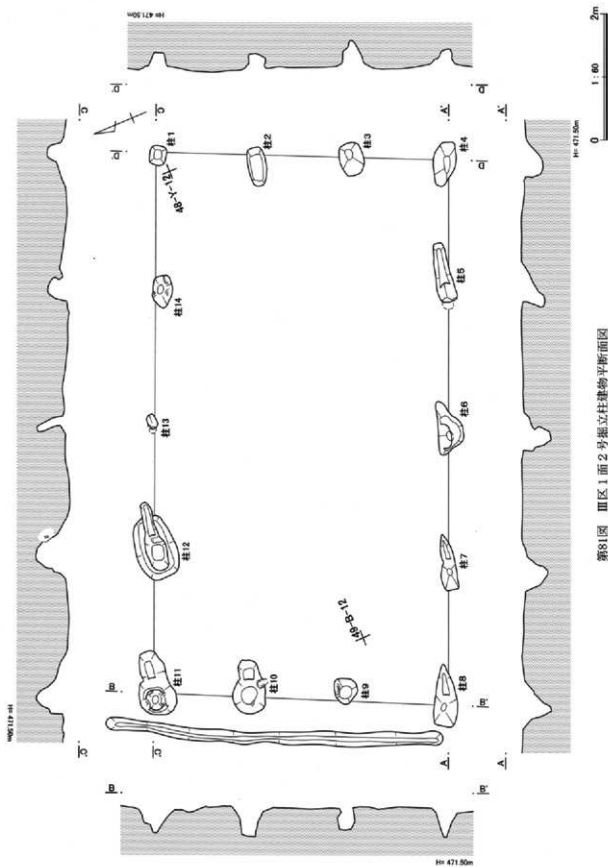
溝：雨落ち溝が、建物の西側及び南側に位置する。

入口：東西及び南側は畑が位置しているため、入口は、1号道に面した北側であると推定される。

その他：柱6本が、西側から東側にかけて倒れた状態で検出された。

## 2号掘立柱建物 (49区2号建物)





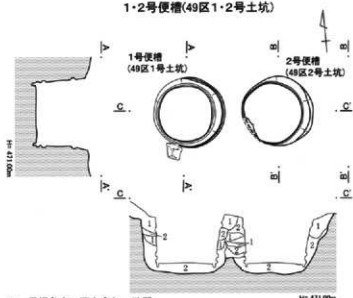
第81图 Ⅲ区1面2号掘立柱建物平面示意图

## 3. Ⅲ区1面3号掘立柱建物

**規模**：北側が一部調査区外であるため、全容をうかがうことはできない。現状で、1間×4間の規模である。桁行約6.2m・梁行約2mの規模である。推定では、東西方向に長いか？

**柱穴**：柱穴は、8基が検出された。柱穴の大きさは、直径約30cm～70cmで、深さは約10cm～40cmである。

## 1・2号便槽(49区1・2号土坑)



1. 黒褐色土：礫を含む。砂質。
2. 淡黄色土：しまりあり。

第82図 Ⅲ区1面3号掘立柱建物1・2号便槽平面断面図

**桁間**：柱穴の中心で、約2m～2.2mである。

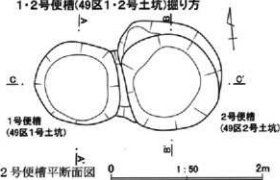
**梁間**：柱穴の中心で、約1.5m～1.7mである。

**入口**：入口は、東側であろうか。

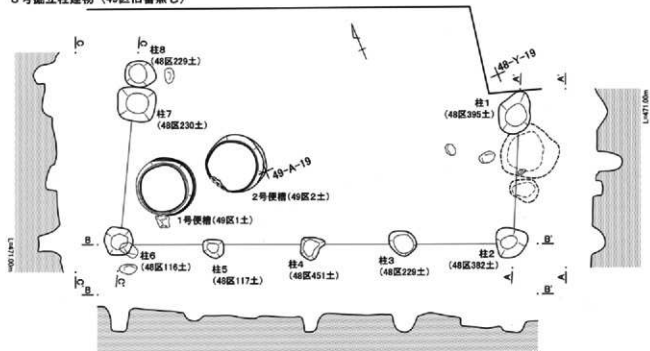
**便槽**：便槽が2基検出された。どちらも同様の規模で、直径約1m～1.1m・深さ約80cmである。木桶が残存していた。



## 1・2号便槽(49区1・2号土坑)掘り方



## 3号掘立柱建物 (49区旧番無し)



第83図 Ⅲ区1面3号掘立柱建物平断面図

## 4. Ⅲ区1面4号掘立柱建物

規模：第2次調査で認定されたため、詳細は不明である。1間×2間の規模であると推定される。桁行約3.6m・梁行約2.6mの規模である。南北方向に長い。

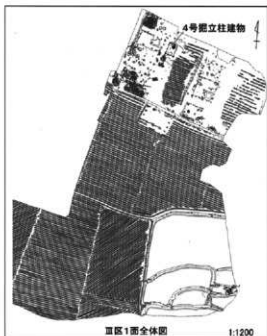
柱穴：柱穴の詳細は不明である。

桁間：推定で、約3.6mである。

梁間：推定で、約1.2m～2.4mである。

入口：入口は、西側であろうか。

便槽：便槽が1基検出された。規模は、直径約85cm・深さ約70cmである。木桶が残存していた。



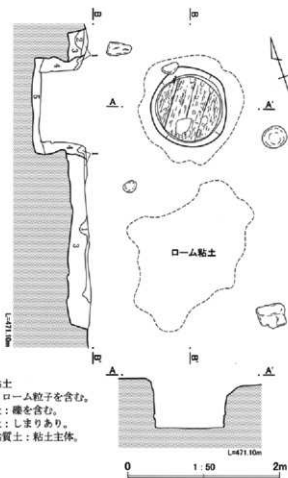
Ⅲ区1面全体図

1:1200

4号掘立柱建物(49区旧番号無し)



4号掘立柱建物1号便槽(48区443号土坑)



1. ローム粘土
2. 褐色土：ローム粒子を含む。
3. 黒褐色土：礫を含む。
4. 淡黄色土：しまりあり。
5. 淡黄色粘質土：粘土主体。

第84図 Ⅲ区1面4号掘立柱建物平面図・1号便槽平断面図

## 第5節 石組遺構 [1号・2号石組遺構]

石組遺構は、2号建物の北部(1号石組遺構)及び南部(2号石組遺構)で検出されており、2号建物と密接な関連があると推定される。

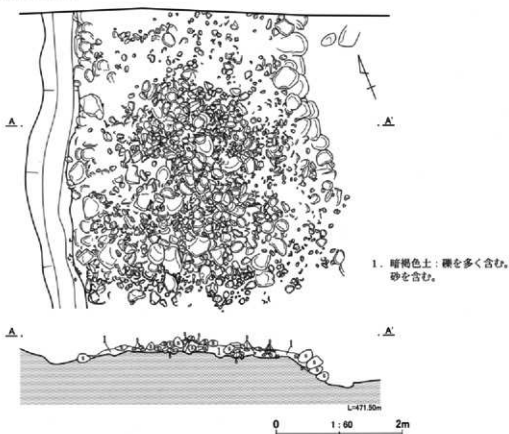
### 1. Ⅲ区1面1号石組遺構

2号建物の北部に検出されており、長軸約4.7m・短軸約4.3mの規模である。これは、恐らく、屋敷神跡である稲荷と推定される。この屋敷神は屋敷地及び家を守る神として祀られ、真宗地帯を除き全国的に分布するという。祀る場所は屋敷地の一角で、北西や北東の隅とするところが多いという(日本民俗建築学会、2001)。群馬県の事例では、イヌイ(北西)の隅につくられるのが最も多い(『民俗の神々』、1986)。この1号石組遺構は、2号建物の北西に位置する。

1号石組遺構の上には、構造物は確認されなかった。泥流で流されたと推定されるが、関東地方ではわら製の祠を毎年作り替えるところもあるという(日本民俗建築学会、2001)。また、現在の三島地方では、稲荷を祀っているが、開口部は東側を向いている。



### 1号石組遺構(49区1号石垣)



第85図 Ⅲ区1面1号石組遺構平面図



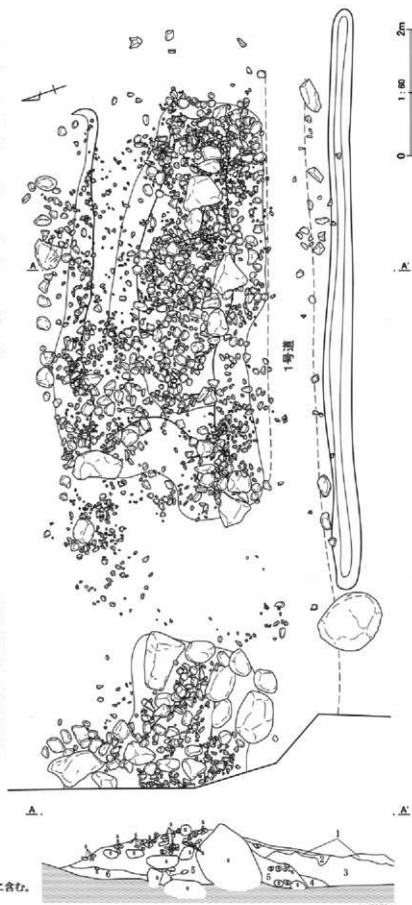
## 2. Ⅲ区1面2号石組遺構

2号建物の南部に検出されており、長軸約11m・幅約3.7mの規模である。一部、途切れており、2号建物と1号道との通路になっている。恐らく、家の石垣のようなものであると推定されるが、現在ハツ場地区で「ヤックラ」と呼称されるように畑から出た耕作の邪魔になった石を集めたものかもしれない。

註：日本民俗建築学会 2001『図説 民俗建築大事典』、柏書房

『民俗の神々：群馬の民俗1』  
1986 みやま文庫

2号石組遺構(49区(旧字集))



第36図 Ⅲ区1面2号石組遺構平面断面図

1. 黒褐色土
2. 黒褐色土：道の硬化面。
3. 黒褐色土：φ1cm礫を含む。
4. 黒褐色土：白色粒子を含む。
5. 暗褐色土：φ3cm礫を多量に含む。
6. 暗褐色土：礫を含む。

L=472.00m

## 第6節 建物〔1号・2号建物〕

### 1. Ⅲ区1面1号建物(48区1号建物)

#### (1) 検出位置

Ⅲ区1面1号建物は、調査区北部の東側で検出された。2号建物の東側に位置する。

#### (2) 規模と方位

規模は、桁行約12m・梁行約6.5mの規模である。長軸方向は、ややずれているが南北方向である。

#### (3) 外部施設

1号建物の東側に位置する1号畑・南側に位置する1号掘立柱建物が外部施設であると推定される。但し、Ⅲ区2面便槽として認定した10号便槽は木桶も残存しており、場合によっては1号建物の外部施設である可能性がある。

1号畑は家庭用菜園に、1号掘立柱建物は便槽が1基検出されており圃として使用していたのであろうか。

#### (4) 内部施設

内部施設として、1号便槽・竈・掘き臼(唐臼)・馬屋・囲炉裏が検出された。

##### ① 1号便槽

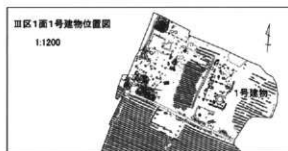
1号便槽は、1号建物の東側中央に検出された。推定入口の北側に位置する。直径約50cm・深さ約35cmの規模である。木桶も残存していた。恐らく、小便槽であると推定される。

##### ② 竈

竈は、1号建物の西側で検出された。推定入口の真正面である。形状は平面で楕円形を呈し、規模は長軸約1.2m・短軸約85cm・深さ約25cmである。規模からは、多口竈ではなく、1つクド(竈)であると推定される。竈石も数点検出されているが、石材はすべてシソ輝石普通輝石安山岩である。

##### ③ 掘き臼(唐臼)

掘き臼は、1号建物の推定土間の中央で検出された。外径は、直径約60cm・高さ約45cmの大きさであり、内径は、直径約36cm・深さ約26cmの大きさである。石材は、粗粒輝石安山岩である。



第87図 Ⅲ区1面1号建物間取り図(復元:村田敬一)

#### ④ 馬屋

馬屋は、1号建物の東側、推定入口に向かって左に検出された。規模は、長軸約3m・短軸約2.8mである。長軸約2.8m・短軸約2.4m・深さ約20cmの部分が凹部になった状態で検出されている。これは、馬屋に糞等を敷いていたためと推定される。なお、馬屋の底部からは、敷石が検出されている。

#### ⑤ 囲炉裏

囲炉裏は、1号建物の北部西寄りの中央に検出された。約80cm四方の規模で焼土が検出されている。

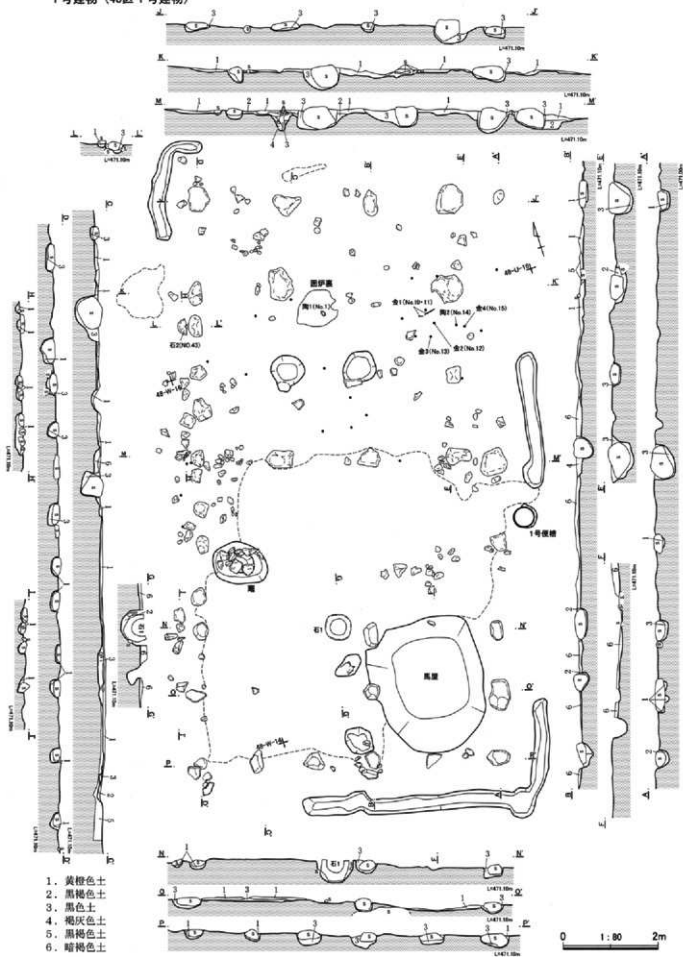
#### (5) 出土遺物

1号建物出土遺物は、2号建物に比べると検出点数が非常に少ない。2号建物は、建築部材も多く検出されたが、1号建物は皆無である。1号建物出土遺物は、陶磁器の碗・小碗・皿・灯明皿、金属製品の銭貨・火箸・鑿・鎌・煙管・鉄砲玉、石製品の砥石・石臼等が検出されている。

#### (6) 礎石の石材

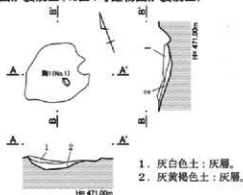
礎石の石材は、粗粒輝石安山岩が多用されており、一部石英閃緑岩が認められる。

1号建物 (48区1号建物)

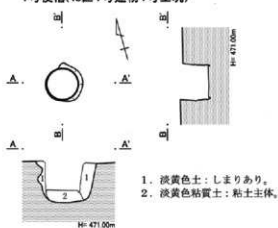


第88图 Ⅲ区1面1号建物平断面图

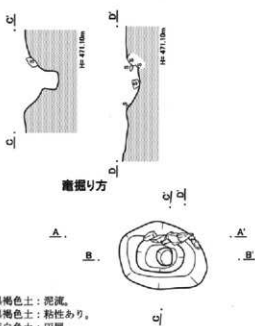
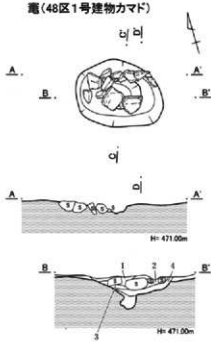
图炉裏焼土(48区1号建物图炉裏焼土)



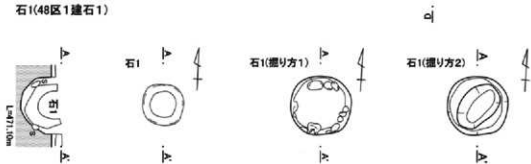
1号便槽(48区1号建物1号土坑)



竈(48区1号建物カマド)



石I(48区1壁石1)



0 1:50 2m

第89図 Ⅲ区1面1号建物内部施設平断面図



## 2. Ⅲ区1面2号建物 (49区1号建物)

### (1) 検出位置

Ⅲ区1面2号建物は、調査区北部の西側で検出された。1号建物の西側に位置する。

### (2) 規模と方位

規模は、桁行約16m・梁行約8mの規模である。長軸方向は、ややずれているが南北方向である。

### (3) 外部施設

2号建物の東側に位置する2号畑及び4号掘立柱建物・北東部に位置する3号掘立柱建物が外部施設であると推定される。

2号畑は家庭用菜園に、3号掘立柱建物は便槽が2基・4号掘立柱建物は便槽が1基検出されており、便槽として使用していたのであろうか。但し、3号掘立柱建物は規模も大きいため、馬屋の糞尿をためた可能性もあり、4号掘立柱建物を通常の厩として使用していた可能性もある。

### (4) 内部施設

内部施設として、1号便槽・竈・馬屋・囲炉裏が検出された。

#### ①1号便槽

1号便槽は、2号建物の東側中央やや北寄りに検出された。推定入口の南側に位置する。直径約45cm・深さ約45cmの規模である。木桶も残存していた。恐らく、小便槽であると推定される。

#### ②竈

竈は、2号建物の西側で検出された。推定入口の真正面である。形状は平面で楕円形を呈し、規模は長軸約1.8m・短軸約1.2m・深さ約30cmである。規模からは、多口竈の2つド(竈)であると推定される。竈石も数点検出されているが、石材はすべてシソ輝石普通輝石安山岩である。

#### ④馬屋

馬屋は、2号建物の東側、推定入口に向かって右に検出された。規模は、長軸・短軸共に約4mである。長軸約3m・短軸約2.5m・深さ約20cmの部分が凹部になった状態で検出されている。これは、馬屋に糞等を敷いていたためと推定される。



第91図 Ⅲ区1面2号建物間取り図 (復元: 村田敬一)

#### ⑤囲炉裏

囲炉裏は、2号建物の中央やや南寄りの中央に検出された。約80cm四方の規模で焼土が検出されている。

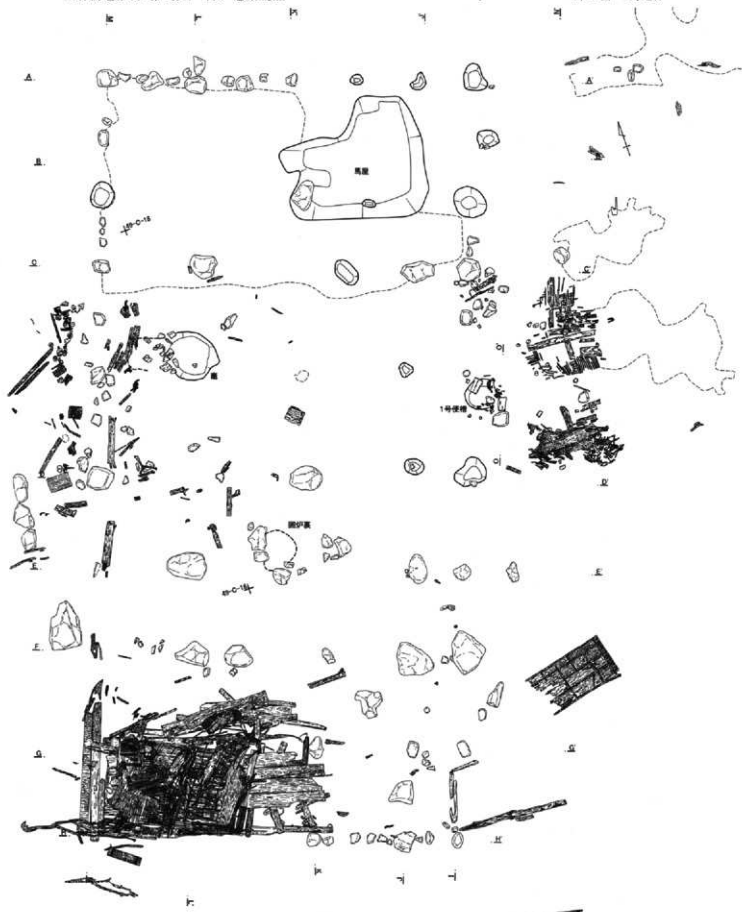
#### (5) 出土遺物

2号建物出土遺物は、1号建物に比べると検出点数が非常に多い。建築部材も多く検出された。2号建物出土遺物は、陶磁器の碗・小碗・筒型碗・香炉・灯明皿、金属製品の銭貨・煙管・鎌・鍬・刀、石製品の砥石・石鉢・台石、木製品の櫛・下駄・膳・まな板・籠・曲物・漆塗碗等の製品に加えて、建築部材が多数良好な状態で検出されている。

特に2号建物の南側では、床板と共に大引き材・根太材も多数検出されており、少なくとも同建物の南側は板敷きであったことが判明した。その他、板戸や障子も検出されている。

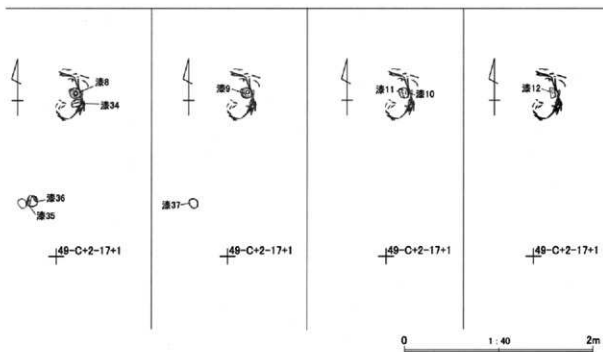
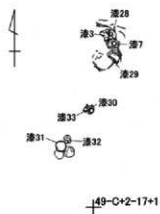
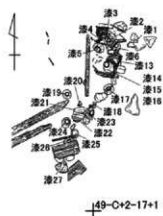
#### (6) 礎石の石材

礎石の石材は、粗粒輝石安山岩が多用されており、一部石英閃緑岩が認められる。



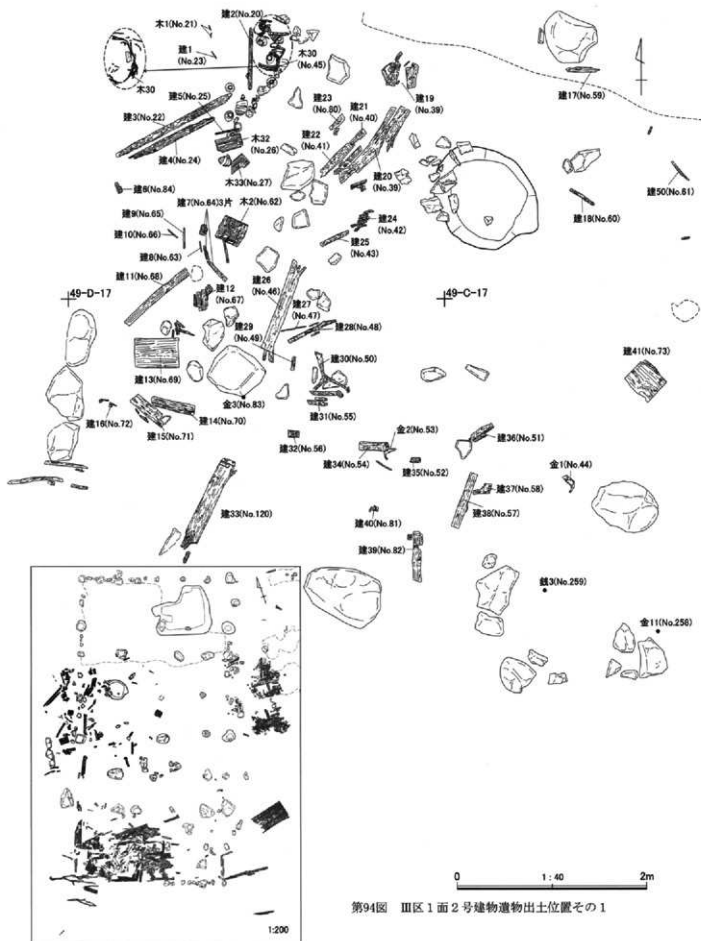
第92図 Ⅲ区1面2号建物平面図

0 1.80 2m

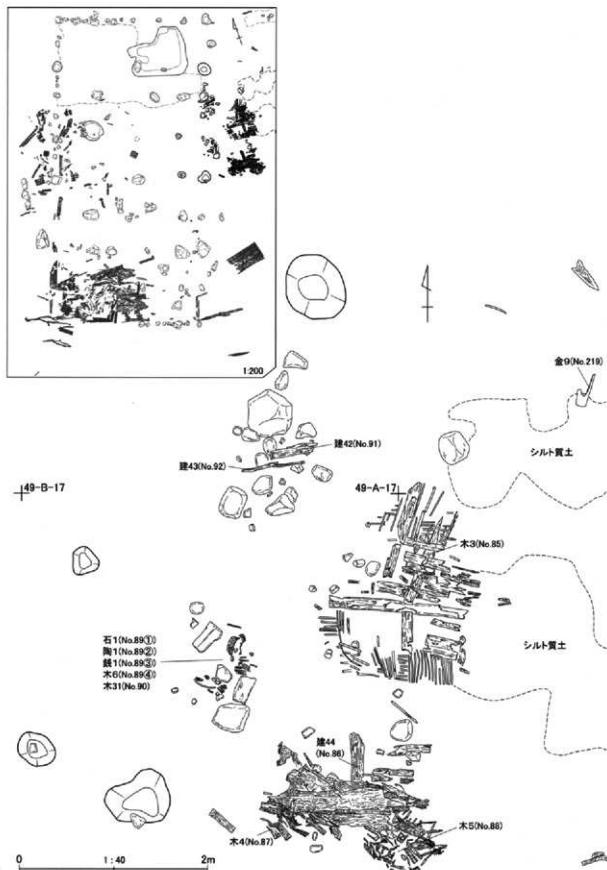


第93図 Ⅲ区1面2号建物漆器出土状況

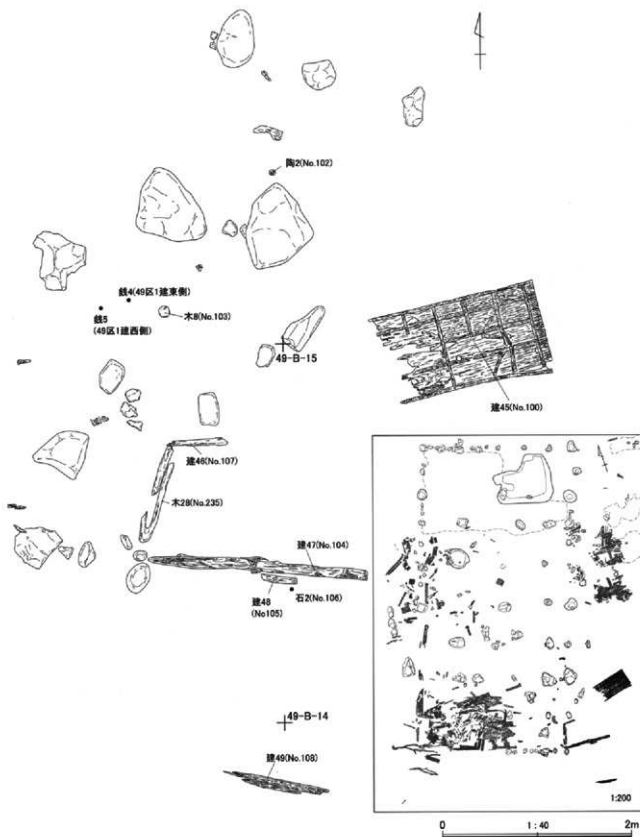




第94図 Ⅲ区1面2号建物遺物出土位置その1



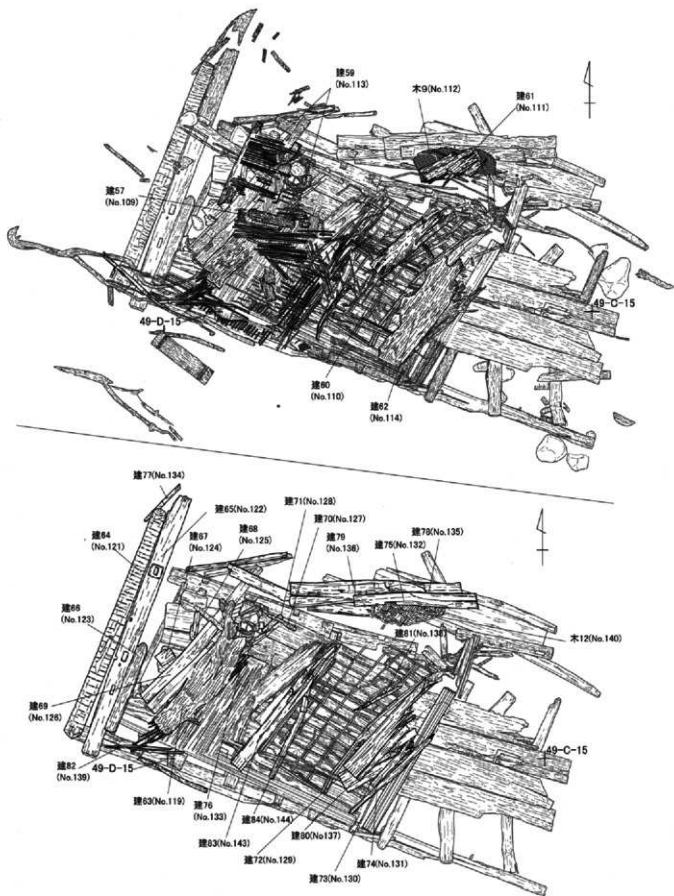
第95図 Ⅲ区1面2号建物遺物出土位置その2



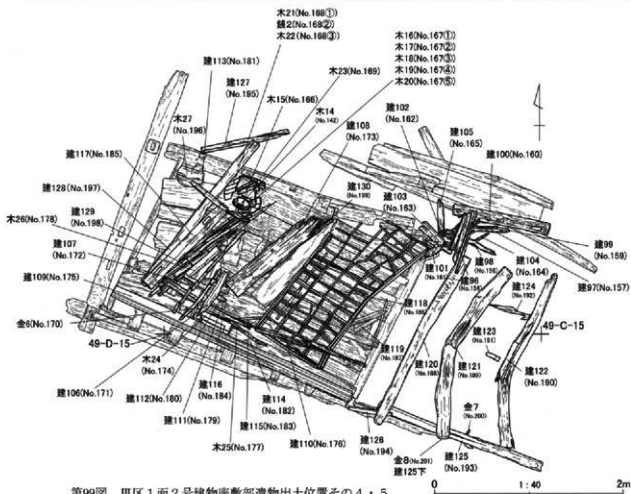
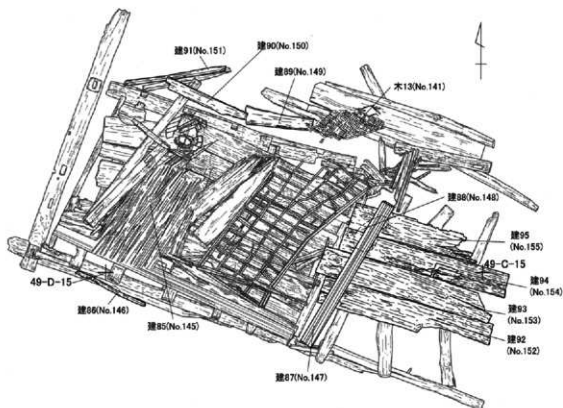
第96図 Ⅲ区1面2号建物遺物出土位置その3



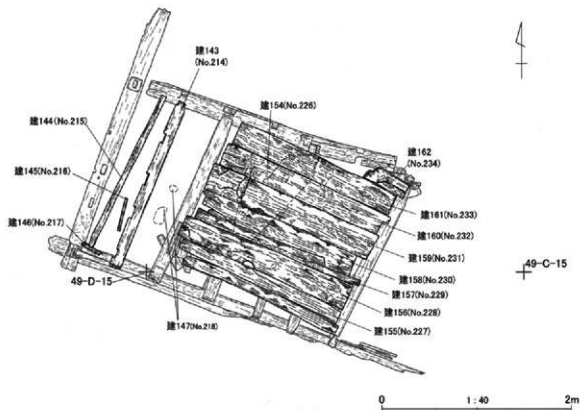
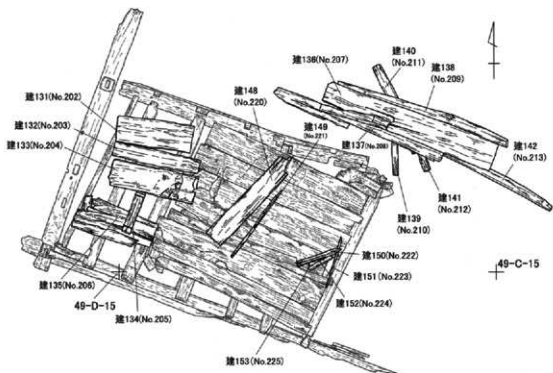
第97図 Ⅲ区1面2号建物座敷部遺物出土位置その1



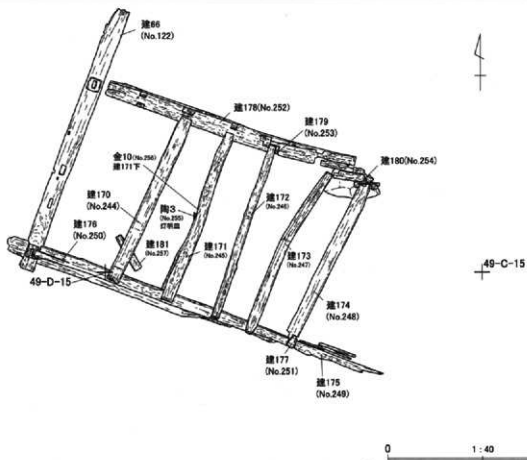
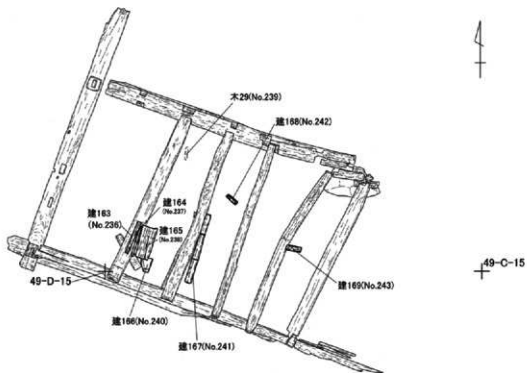
第98図 Ⅲ区1面2号建物敷部遺物出土位置その2・3



第99図 Ⅲ区1面2号建物座敷部遺物出土位置その4・5



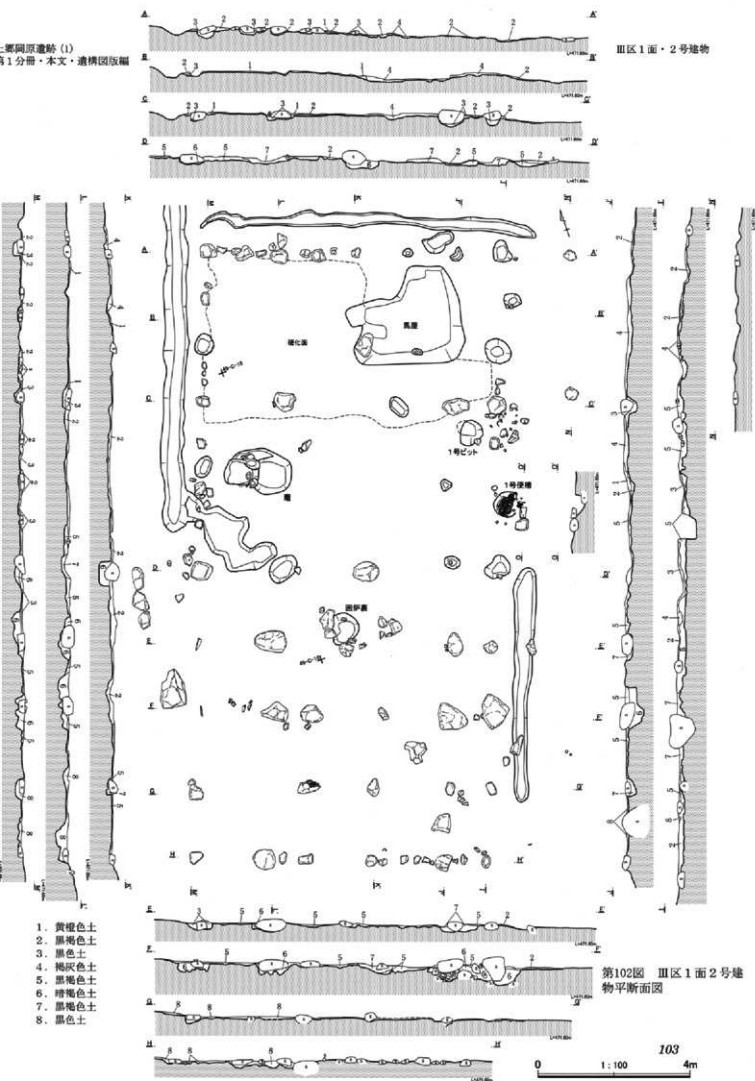
第100図 Ⅲ区1面2号建物座敷部遺物出土位置その6・7



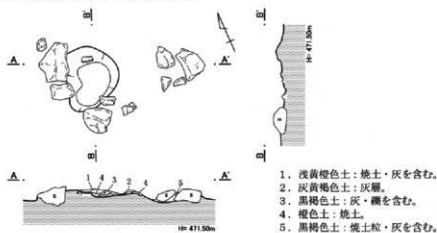
0 1:40 2m

第101図 Ⅲ区1面2号建物座敷部遺物出土位置その8・9

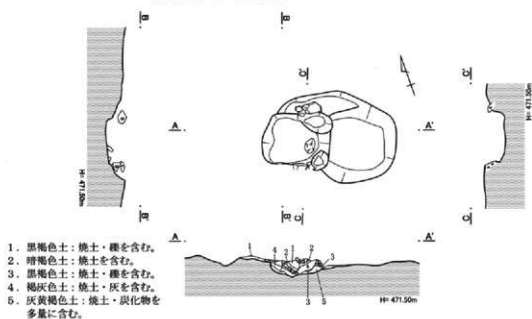




## 2号建物囲炉裏(49区1号建物囲炉裏)

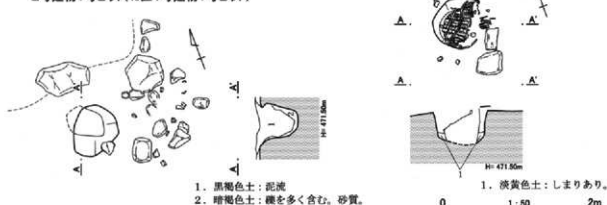


## 2号建物廂(49区1号建物廂)



## 2号建物1号便槽(49区1号建物1号土坑)

## 2号建物1号ピット(49区1号建物1号ピット)

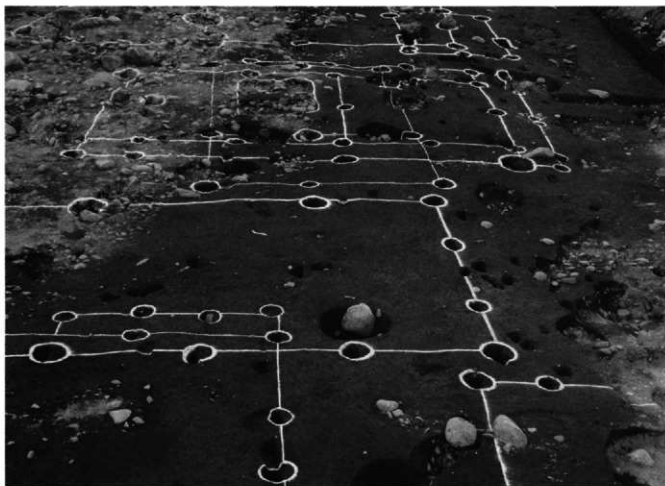


第103図 Ⅲ区1面2号建物内部施設平面図

## 第4章 III区2面出土遺構

III区では、I区及びII区と同様に1783（天明3）年の浅間山泥流に埋もれた面を1面とし、それ以下を2面とした。実際、縄文時代・古代・中世まで同じ面から検出されており、時代毎に面を分けることは不可能であった。今回、最も多くの遺構が検出された調査区である。

2面では、縄文時代竪穴住居6軒・平安時代竪穴住居5軒・掘立柱建物14棟・竪穴状遺構12基・焼土48基・土坑墓13基・火葬跡1基・便槽13基・馬屋跡1基・石組遺構1ヶ所・土坑237基・ピット343基等が検出された。縄文時代竪穴住居及び縄文時代の遺物については、次回以降の報告書で報告する。



III区2面掘立柱建物出土状況（東から撮影）



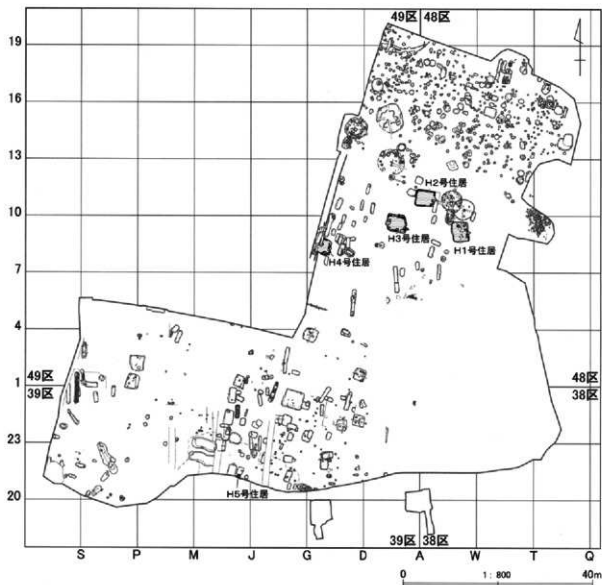
## 第1節 Ⅲ区2面古代竪穴住居〔H1号～H5号竪穴住居〕

Ⅲ区2面から11軒の竪穴住居が検出された。これら11軒の竪穴住居の内訳は、縄文時代が6軒・9世紀～10世紀の平安時代が5軒である。

今回は、縄文時代住居6軒を除く平安時代住居5軒について報告する。縄文時代住居は、次回以降の報告書で報告する予定である。

なお、平安時代住居には、平安〔Heian〕の頭文字「H」を付し、「H○号住居」とした。同様に、縄文時代住居は、縄文〔Jomon〕の頭文字「J」を付し、「J○号住居」とした。

平安時代竪穴住居5軒の内、全容が伺えるのはH1号・H2号・H3号住居の3軒であり、H4号は西側がトレンチ及び調査区外で全容は不明であり、H5号は南側が調査区外であるため竈（カマド）部分のみの検出であった。



第105図 Ⅲ区2面竪穴住居位置図

## (1) Ⅲ区2面H1号竪穴住居

位 置: 48区F-8・9及び同X-8・9グリッドに位置する。

形 状: 長方形である。

規 模: 規模は、長径(南北)約4.2m・短径(東西)約3.6mである。

面 積: 面積は、約14.28㎡である。

覆 土: 覆土は、主に2層に分かれる。

壁 高: 壁高は、検出面より約30cm～40cmである。

床 面: 床面は、ほぼ平坦である。

竈(カマド): 竈は、東壁のやや南寄りに検出された。突出部約45cm・両袖方向約70cmの規模である。両袖に、袖石が検出されている。

方 位: 竈の方位は、東である。

貯 蔵 穴: 貯蔵穴は、検出されなかった。

柱 穴: 柱穴は、1基検出された。位置は、北壁の西側・南西隅・南壁のほぼ中央である。

床下土坑: 床下土坑は、検出されなかった。

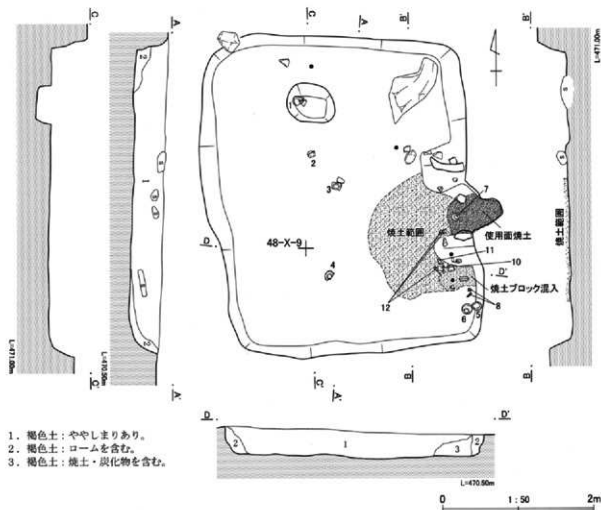
周 溝: 周溝は、北壁沿いに東西に走行・南壁の西側に検出された。

遺 物: 須恵器杯・須恵器椀・土師器甕等が検出されている。

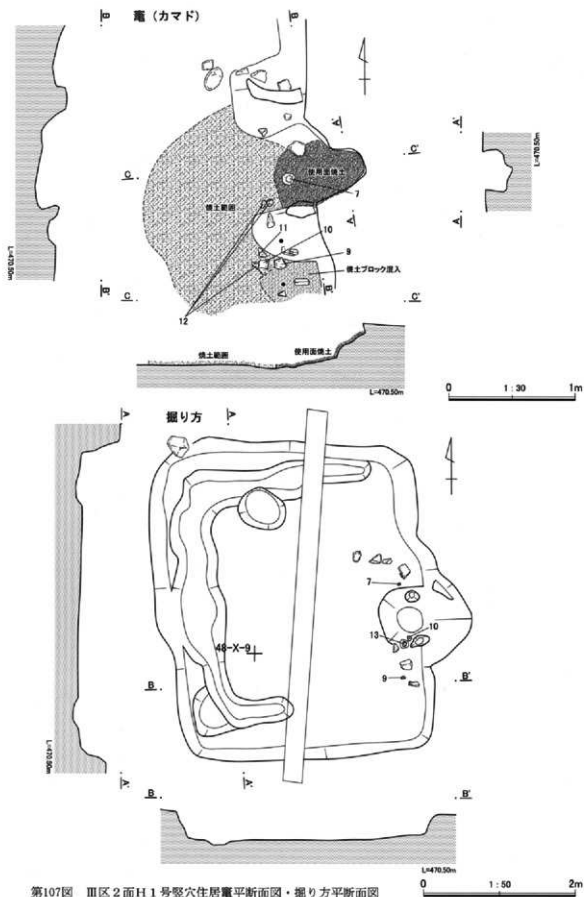
時 期: 出土遺物より、時期は9世紀後半であると推定される。

重 複: 重複は、認められなかった。

H1号竪穴住居(48区1号住居)



第106図 Ⅲ区2面H1号竪穴住居平面断面図



第107図 Ⅲ区2面H1号竪穴住居電平断面図・掘り方断面図

## (2) Ⅲ区2面H2号竪穴住居

位置: 48区Y-10・11及び49区A-10・11グリッドに位置する。

形状: 長方形である。

規模: 規模は、長径(東西方向)約4m・短径(南北方向)約3.4mである。

面積: 面積は、約13.76㎡である。

覆土: 住居の上部は、かなり削平されている。

覆土は、主に1層に分かれる。

床面: 床面は、ほぼ平坦である。住居検出面から、約10cm～16cmで床面に達する。

竪(竪): 竪は、東壁のほぼ中央で検出された。突出部約45cm・両袖方向約70cmの規模である。両袖に、袖石が検出されている。

方位: 竪の方位は、東である。

貯蔵穴: 貯蔵穴は、竪の南側、住居の南東隅に検出された。

柱穴: 柱穴は、検出されなかった。

床下土坑: 床下土坑は、検出されなかった。

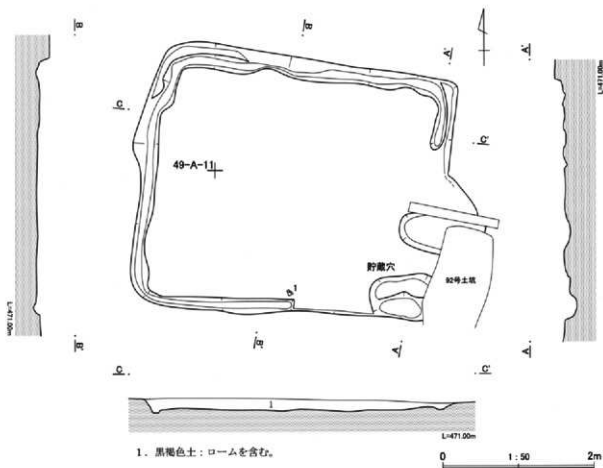
周溝: 周溝は、東壁の北側・北壁沿いに東西・西壁沿いに南北・南壁の西側に検出された。

遺物: 遺物は、土師器甕・須恵器碗等が検出されている。

時期: 出土遺物より、時期は、9世紀中葉に比定される。

重複: 重複は、92号土坑との重複が認められた。新旧関係は、92号土坑の方が新しい。

H2号竪穴住居(48区3号住居)



第108図 Ⅲ区2面H2号竪穴住居平面断面図

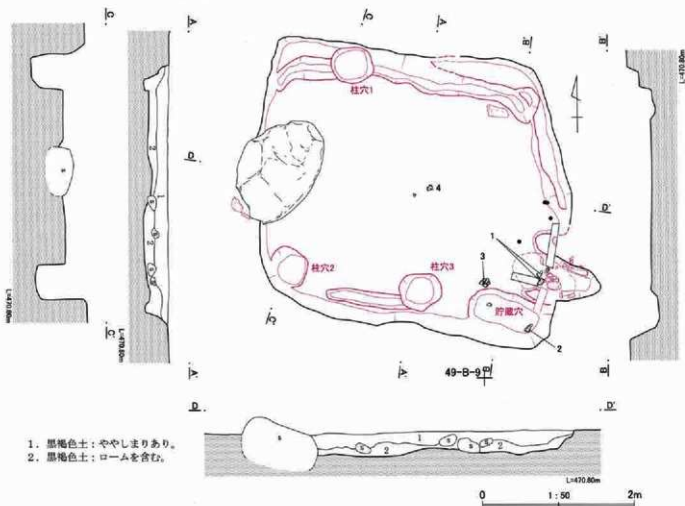


## (3) Ⅲ区2面H3号竪穴住居

**位置:** 49区A-9及び同B-9グリッドに位置する。  
**形状:** 長方形である。  
**規模:** 規模は、長径約4.1m・短径約3.8mである。  
**面積:** 面積は、約14.24㎡である。  
**覆土:** 覆土は、主に2層に分かれる。  
**床面:** 床面は、ほぼ平坦である。住居検出面から、約25cmで床面に達する。  
**竈(カマド):** 竈は、東壁の南寄りに検出された。突出部約50cm・両袖方向約50cmの規模である。  
**貯蔵穴:** 貯蔵穴は、東壁に検出された竈の南の住居南東隅に検出された。長径約95cm・短径約50cmの規模である。

**柱穴:** 柱穴は、3基検出された。位置は、北壁の西側・南西隅・南壁のほぼ中央である。  
**床下土坑:** 床下土坑は、検出されなかった。  
**周溝:** 周溝は、北壁沿いに東西に走行・南壁の西側に検出された。  
**遺物:** 土師器壺・須恵器皿・須恵器碗等が検出されている。  
**時期:** 出土遺物より、時期は10世紀前半に比定される。  
**重複:** 重複は、認められなかった。  
**その他:** 住居の西壁ほぼ中央に、長径約1.5m・短径約1mの規模の大石が検出された。この大石は、住居使用時に居住室内に内包されていたと推定される。

H3号竪穴住居(49区1号住居)



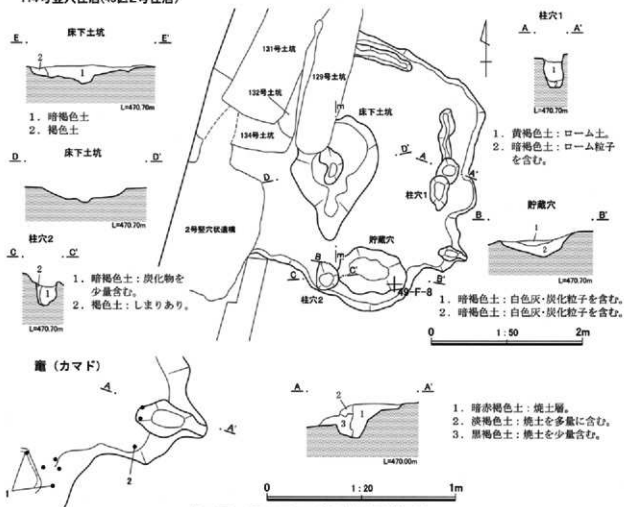
第109図 Ⅲ区2面H3号竪穴住居平面図

## (4) Ⅲ区2面H4号竪穴住居

**位置:** 49区E-9及び同F-9「リット」に位置する。  
**形状:** 本住居の西側は、2号竪穴状遺構・129号土坑・131号土坑・132号土坑・134号土坑と重複しているため、形状及び規模は不明である。  
**規模:** 現状での規模は、長径約3.2m・短径約3.1mである。  
**面積:** 検出された面積は、約7.19㎡である。  
**覆土:**  
**床面:**  
**竈(カマド):** 竈は、東壁の南よりに検出された。突出部約両袖方向約  
**貯蔵穴:** 貯蔵穴は、東壁に検出された竈の南の住居南東隅に検出された。長径約90cm・短径約60cmの規模である。

**柱穴:** 柱穴は、検出されなかった。  
**床下土坑:** 推定住居中央に、床下土坑が1基検出された。一部、129号土坑と重複しているため正確な規模は不明であるが、現状で長径約1.6m・短径約1.1m・深さ約10cm～15cmの規模である。  
**周溝:** 周溝は、北壁の西側及び東壁の北側に検出された。  
**遺物:** 遺物は、土師器甕・土師器羽釜・須恵器柄・灰軸陶器長頸壺等が検出されている。  
**時期:** 時期は、出土遺物より10世紀前半に比定される。  
**重複:** 本住居の西側で、2号竪穴状遺構・129号土坑・131号土坑・132号土坑・134号土坑と重複する。新旧関係は、本住居の方が古い。

## H4号竪穴住居(49区2号住居)



第110図 Ⅲ区2面H4号竪穴住居平断面図

## (5) Ⅲ区2面H5号竪穴住居

位置: 竈部分は、39区J-20グリッドに位置する。

形状: 竈(カマド)部分のみの検出であるので、住居の形状は不明である。

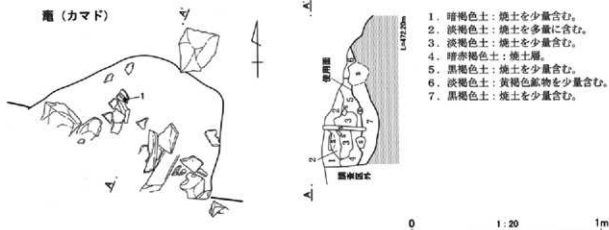
面積: 竈部分のみであるが、検出された面積は、約0.50㎡である

竈(カマド): 本住居は、竈部分のみ検出されているが、竈は北壁に位置する。

時期: 時期は、10世紀代に比定される。

重複: 重複は、認められなかった。

## H5号竪穴住居(39区1号住居)



第111図 Ⅲ区2面H5号竪穴住居竈平面図

表11 Ⅲ区2面古代竪穴住居まとめ

竪穴住居番号	旧番号	大きさ(m)			検出面積	出土遺物	時期
		長軸	短軸	深さ			
H1号竪穴住居	48区1号住居	4.2	3.6	0.4	約14.28㎡	土師器環・甕 須惠器環・碗・壺	9世紀後半
H2号竪穴住居	48区3号住居	4.0	3.4	0.1	約13.76㎡	土師器甕 須惠器碗	9世紀中葉
H3号竪穴住居	48区1号住居	4.1	3.8	0.25	約14.24㎡	土師器甕 須惠器皿・杯・碗	10世紀前半
H4号竪穴住居	48区2号住居	3.2	(3.1)	0.3	約7.19㎡	土師器壺・明鏡 須惠器碗・灰輪壺	10世紀前半
H5号竪穴住居	39区1号住居	竈(カマド)のみの検出			約0.5㎡	須惠器羽釜	10世紀代

## 第2節 Ⅲ区2面竪穴状遺構 [1号～12号竪穴状遺構]

Ⅲ区2面から竪穴状遺構が12基検出された。これら竪穴状遺構は調査区の西側に多く分布する傾向がある。大きさ及び構造も様々であり、その性質を特定することは困難であるが、時代は恐らく中世であると推定される。

但し、これら12基の内、1号竪穴状遺構は風倒木痕の可能性が高い。平面形状は、不整形円形を呈し径が5.5m～6mであり、かなりの大木であった可能性が高い。

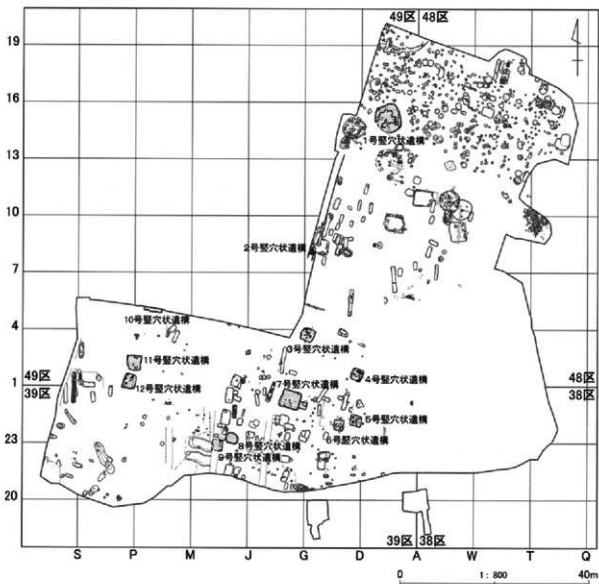
残りの11基の内、7号竪穴状遺構は、径が約

3.7m～4.3mと規模も大きく、柱穴を有しており、何らかの上屋構造を有していたと推定される。

3号及び4号竪穴状遺構からは、炉跡が検出されており、7号竪穴状遺構と関連する遺構である可能性が高い。

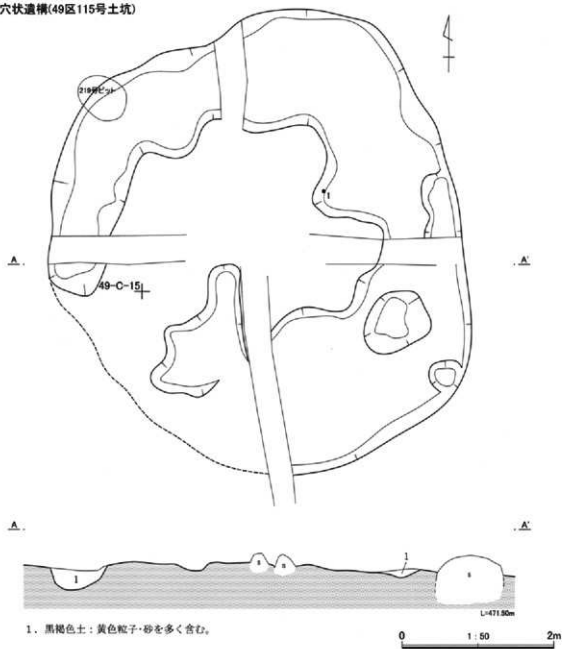
また、5号・6号・8号・9号竪穴状遺構は、平面形状が方形及び正方形であり、大きさも径2.3m～2.65mであり似通っている。さらに、11号・12号竪穴状遺構は、大きさこそ前出の4基よりも大きく径約2.6m～3.1mであるが平面形は台形状である。

2号及び10号竪穴状遺構には、礎が多数検出されており、礎を埋納した遺構であろうか。



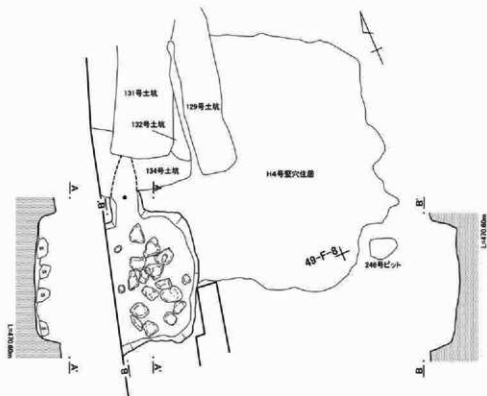
第112図 Ⅲ区2面竪穴状遺構位置図

1号竪穴状遺構(49区115号土坑)

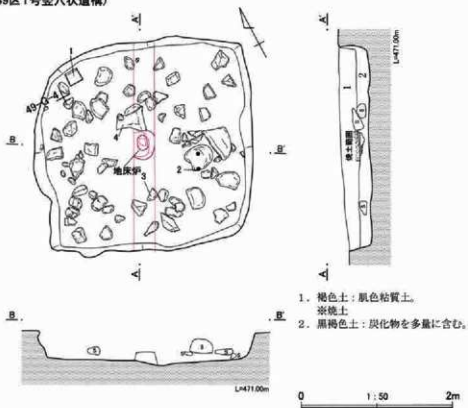


第113図 Ⅲ区2面1号竪穴状遺構平面図

2号竪穴状遺構(49区3号竪穴状遺構)

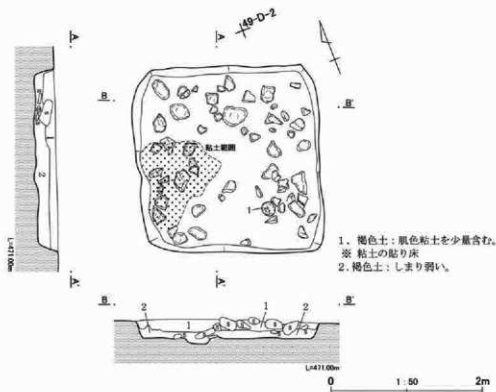


3号竪穴状遺構(49区1号竪穴状遺構)

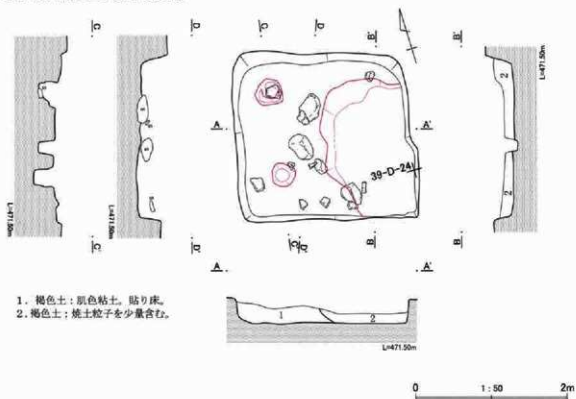


第114図 Ⅲ区2面2号・3号竪穴状遺構平断面図

4号竪穴状遺構(49区2号竪穴状遺構)

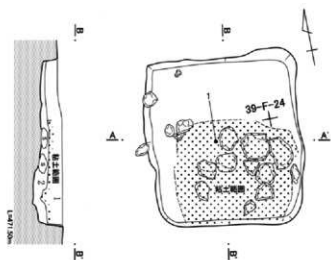


5号竪穴状遺構(39区3号竪穴状遺構)

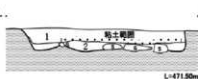


第115図 Ⅲ区2面4号・5号竪穴状遺構平面断面図

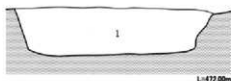
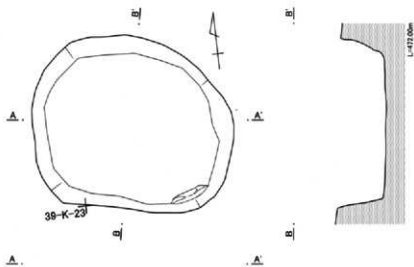
6号竪穴状遺構(39区4号竪穴状遺構)



1. 褐色土：肌色粘質土を少量含む。  
※粘土の貼り床
2. 褐色土：焼土粒子を少量含む。



8号竪穴状遺構(39区2号竪穴状遺構)



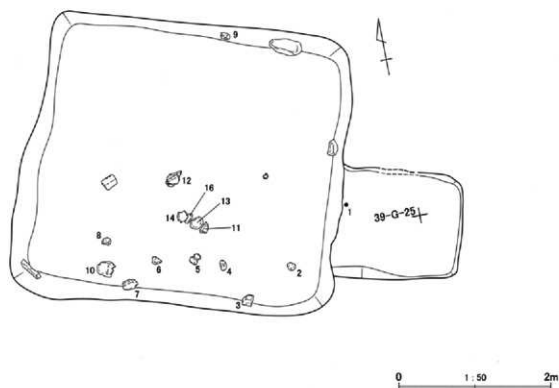
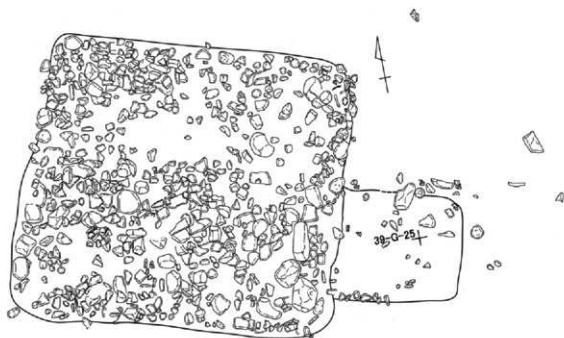
1. 褐色土：ロームブロックを含む。  
人為的埋土。



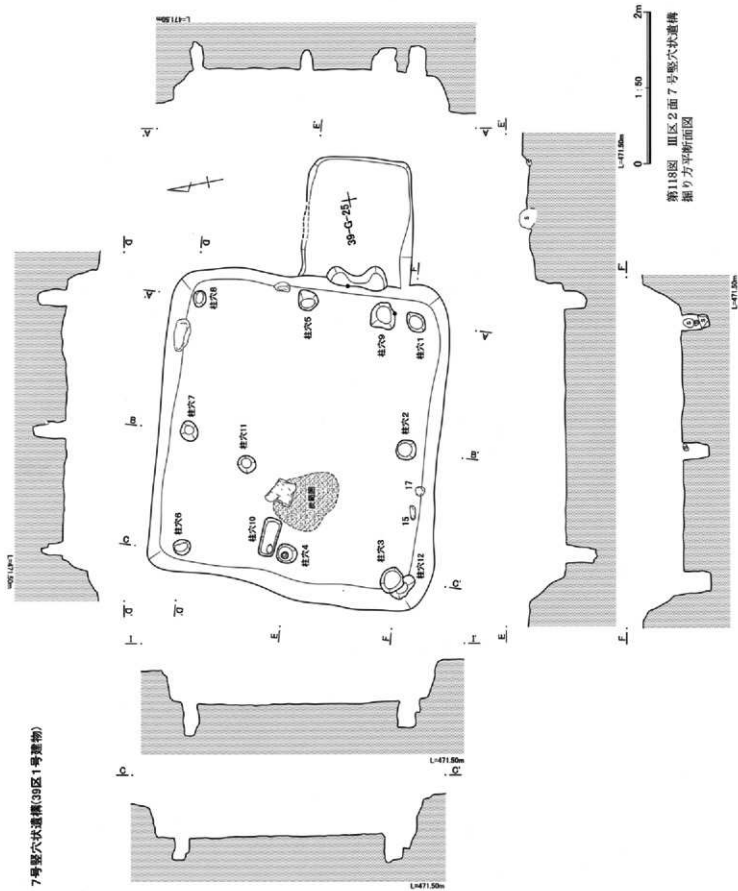
第116図 Ⅲ区2面6号・8号竪穴状遺構平断面図



7号竪穴状遺構(39区1号建物)



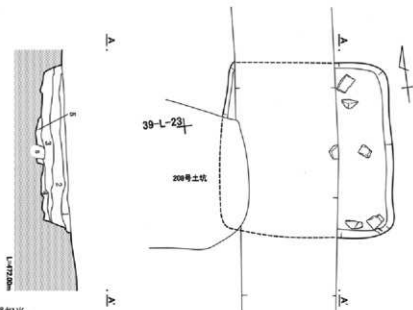
第117图 Ⅲ区 2 面 7号竪穴状遺構發出土狀況・遺物出土狀況



第118図 Ⅲ区2面7号竪穴状遺構  
掘り方平面図

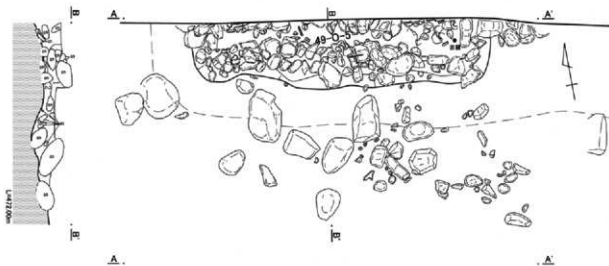
7号竪穴状遺構(39区1号建物)

9号竪穴状遺構(39区1号竪穴状遺構)

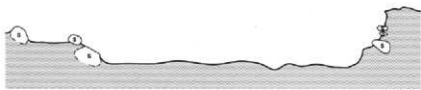


1. 暗褐色土: IV層相当。
2. 暗褐色土: 黄褐色ローム・炭化物・焼土粒を少量含む。
3. 暗褐色土: ローム粒子を多量に含む。貼り床?
4. 暗褐色土: ローム粒子を少量含む。
5. 黒褐色土: ローム粒子を少量含む。

10号竪穴状遺構(49区4号建物)



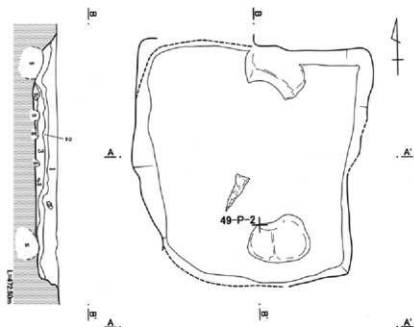
1. 暗褐色土: IV層相当。
2. 暗褐色土: V層相当?



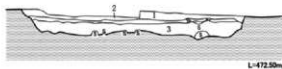
0 1.50 2m

第119図 Ⅲ区2面9号・10号竪穴状遺構平面断面図

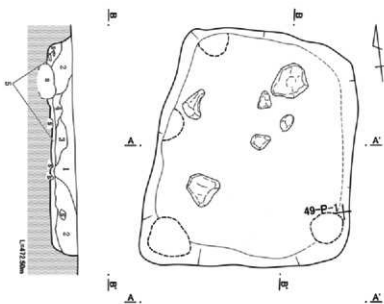
11号竪穴状遺構(49区5号建物)



1. 暗褐色土: 肌色粘質土を少量含む。
2. 褐色土: 肌色粘質土主体。
3. 黒褐色土: 焼土・炭化物を少量含む。



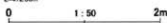
12号竪穴状遺構(49区3号建物)



1. 暗褐色土: IV層主体。
2. 褐色土: 肌色粘質土粒を含む。
3. 黒褐色土: 焼土・炭化物を少量含む。
4. 褐色土: 肌色粘質土を少量含む。
5. 褐色土: ローム粒子を少量含む。



第120図 Ⅲ区2面11号・12号竪穴状遺構平面図



## Ⅲ区2面堅穴状遺構まとめ

Ⅲ区2面から、堅穴状遺構が12基検出された。この内、1号堅穴状遺構は風倒木痕の可能性が高い。

残りの11基の内、7号堅穴状遺構は他の堅穴状遺構よりも規模が大きく、柱穴も併うため何らかの上屋構造を有していたと推定される。

この堅穴状遺構は、調査担当者の石田 真によれば、「麻の処理には温度や湿度の管理が非常に重要であり、生麻を水に浸したり、乾燥したりするのに、ねど倉と呼ばれる厚い土壁で作った建物が利用されました。」ということになる(石田、2003)。

群馬県教育委員会編による『岩島の麻』によると、「ねど倉は生麻を水に浸し、乾燥し、又温度の変化を防ぐ。この中に三日程入れ、筵や麦殻など掛けて置く場所。厚い土壁にて作ってある。又、麦殻等で周囲を囲って作る家もある」とある(群馬県教育委員会、1978)。



ねど倉の写真

(入口横に立てかけてある生麻は、岩島地区では約1.8m～2mであるので、このねど倉の大きさは桁行約4.5m・高さ約3mであると推定される。) 【『岩島の麻』、p38より許可を得て転載】

岩島麻保存会会長の丸橋幸一氏の曾祖父、丸橋勝太郎氏による『櫻木大麻製造実験略記』によると、ねど倉は、「高間口・奥行各七八尺なる小土蔵又は小屋で、其中一面は大麦殻を敷き詰め」とある(丸橋、1893)。一尺は約30.3cmであるので、ねど倉の大きさは約2.12m～2.42mとなる。

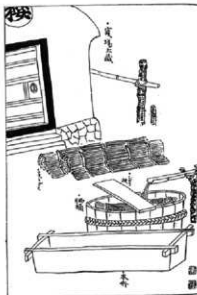
この大きさだけを見ると、堅穴状遺構の内、2号～6号・8号・9号・11号・12号の9基の堅穴状遺構は丸橋氏が記載した大きさの前後でありねど倉の可能性を否定できない。

## 引用文献

石田 真 2003 3. 不思議な建物と焼土、「遺跡は今」、第12号、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

群馬県教育委員会編 1978 『岩島の麻』、群馬県教育委員会

丸橋勝太郎 1893 『櫻木大麻製造実験略記』(私家版)



第121図 ねど倉の図

【『櫻木大麻製造実験略記』より許可を得て転載】

表12 Ⅲ区2面堅穴状遺構まとめ

堅穴状遺構番号	旧遺構名	平面形	長軸方向	大きさ(m)		
				長軸	短軸	深さ
1号堅穴状遺構	49区115号土坑	不整形円形	南北	8.0	5.5	0.25
2号堅穴状遺構	49区3号堅穴状遺構	不明	南北?	2.5	(1.2)	0.4
3号堅穴状遺構	49区1号堅穴状遺構	方形	不明	2.75	2.9	0.4
4号堅穴状遺構	49区2号堅穴状遺構	正方形	不明	2.45		0.25
5号堅穴状遺構	39区3号堅穴状遺構	正方形	不明	2.3		0.4
6号堅穴状遺構	39区4号堅穴状遺構	方形	南北	2.2	2.0	0.3
7号堅穴状遺構	39区1号建物	方形	東西	4.3	3.7	0.5
8号堅穴状遺構	39区2号堅穴状遺構	不整形円形	東西	2.85	2.2	0.6
9号堅穴状遺構	39区1号堅穴状遺構	正方形	不明	2.3		0.4
10号堅穴状遺構	49区4号建物	不明	不明	(3.9)	(0.9)	0.8
11号堅穴状遺構	49区5号建物	台形状	南北	3.1	3.0	0.3
12号堅穴状遺構	49区3号建物	台形状	南北	3.1	2.8	0.35

## 第3節 Ⅲ区2面焼土 [1号~48号焼土]

Ⅲ区2面から、焼土が48基検出された。これら焼土は調査区の西側に多く分布する傾向がある。大きさも様々であり、その性質を特定することは困難であるが、時代は恐らく中世であると推定される。

また、本遺跡の1面天明三年泥流面からは麻畑が検出されており、麻畑に伴う焼土とも考えられる。

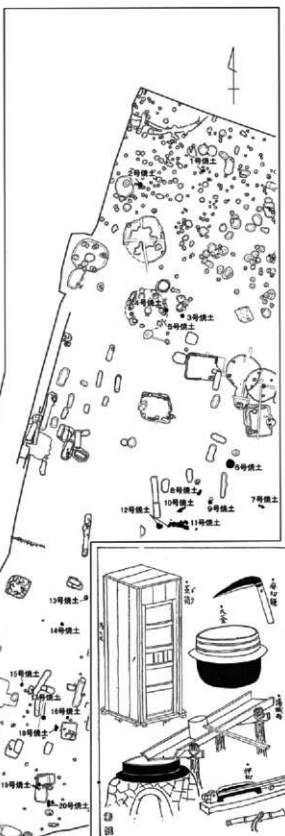
群馬県教育委員会編(1978)の『岩島の麻』によると、「加沢記」によれば天正の頃には栽培していたことが推定される」とある。天正は、天正元年が1573年であるので16世紀後半半ということになる。

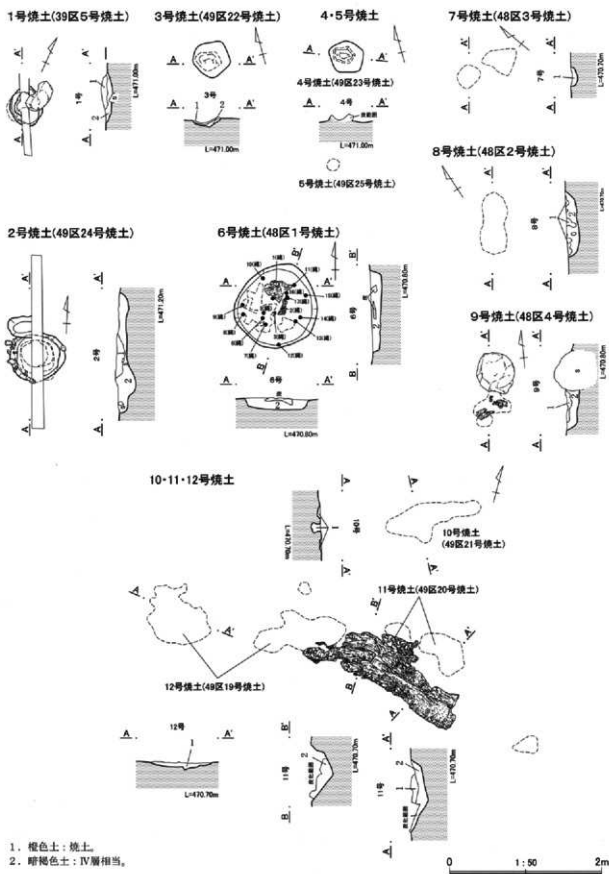
麻の加工過程の中に、現在では「麻煮」と呼ばれ、麻釜の中の熱湯で生麻を煮て麻虫を駆除したりカビが生えるのを抑えるという作業がある。この麻釜がどれくらい廻るかは不明であるが、現岩島麻保存会会長の丸橋幸一氏の曾祖父丸橋勝太郎氏により明治26(1893)年に著された『櫻木大麻製造実験略記』によると、まだこの麻釜は導入されておらず、大釜で煮た湯を生麻に何度もかけることとある。

これらの48基の焼土は、この湯掛けの際に大釜を使った痕跡かもしれない。



第122図 Ⅲ区2面焼土位置図

第123図 大釜を使用した湯掛けの図  
『櫻木大麻製造実験略記』より許可を得て転載

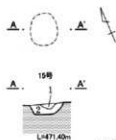


第124図 Ⅲ区2面1号~12号焼土

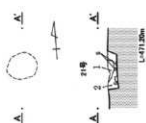
13号焼土(49区18号焼土)



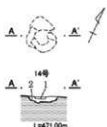
15号焼土(39区8号焼土)



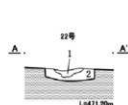
21号焼土(49区14号焼土)



14号焼土(49区17号焼土)



22号焼土(49区13号焼土)



16号焼土(39区18号焼土)



23号焼土(49区15号焼土)



17号焼土(39区9号焼土)



18号焼土(39区19号焼土)

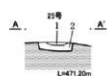


24-25号焼土

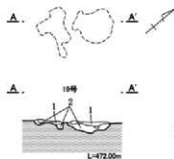
24号焼土  
(49区16号焼土)



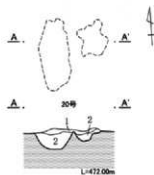
25号焼土(49区12号焼土)



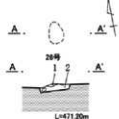
19号焼土(39区16号焼土)



20号焼土(39区17号焼土)



26号焼土(49区11号焼土)



27号焼土(49区10号焼土)



1. 橙色土：焼土。
2. 暗褐色土：IV層相当。

0 1:50 2m

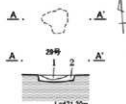
第125図 Ⅲ区2面13号～27号焼土



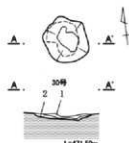
28号焼土(39区15号焼土)



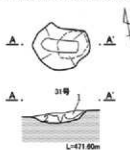
29号焼土(39区14号焼土)



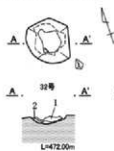
30号焼土(39区13号焼土)



31号焼土(39区11号焼土)



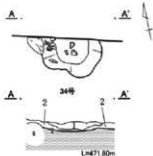
32号焼土(39区12号焼土)



33号焼土(49区2号焼土)



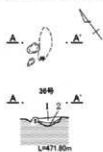
34号焼土(49区1号焼土)



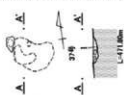
35号焼土(49区7号焼土)



36号焼土(49区8号焼土)



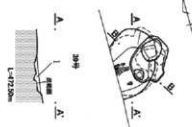
37号焼土(49区9号焼土)



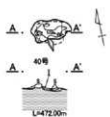
38号焼土(39区7号焼土)



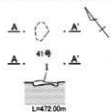
39号焼土(39区3号焼土)



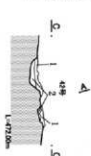
40号焼土(49区5号焼土)



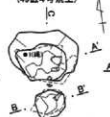
41号焼土(49区3号焼土)



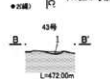
42・43号焼土



42号焼土(49区4号焼土)



43号焼土(49区6号焼土)

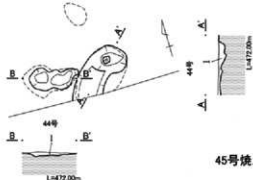


1. 褐色土: 焼土。
2. 暗褐色土: IV層相当。

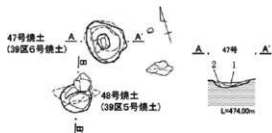
0 1:50 2m

第126図 Ⅲ区2面28号~43号焼土

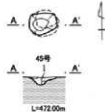
44号焼土(39区2号焼土)



47・48号焼土



45号焼土(39区1号焼土)



46号焼土(39区4号焼土)



1. 橙色土: 焼土。
2. 暗褐色土: IV層相当。

0 1:50 2m

第127図 Ⅲ区2面44号～48号焼土

表13 Ⅲ区2面焼土まとめ

焼土番号	旧番号	長軸方向	焼土の形状	大きさ (cm)			備考	焼土番号	旧番号	長軸方向	焼土の形状	大きさ (cm)			備考
				長軸	短軸	深さ						長軸	短軸	深さ	
1号焼土	49区5号焼土	北西～南東	楕円形	50	40	15	—	25号焼土	49区12号焼土	北東～西	不整楕円形	40	25	12	—
2号焼土	49区24号焼土	円形で不明	円形	直径70	10～25	—	—	26号焼土	49区11号焼土	南北	不整楕円形	30	20	10	—
3号焼土	49区22号焼土	円形で不明	不整円形	直径50	10	—	—	27号焼土	49区10号焼土	南北	不整楕円形	40	14	不明	—
4号焼土	49区23号焼土	円形で不明	不整円形	直径40	10	—	—	28号焼土	49区15号焼土	南北?	楕円形?	20	10	不明	2ヶ所有り
5号焼土	49区25号焼土	円形で不明	円形	直径15	不明	—	—	29号焼土	39区14号焼土	東西	不整円形	35	30	10	—
6号焼土	49区1号焼土	円形で不明	不整円形	直径110	10～20	30 3点 3点	—	30号焼土	39区13号焼土	円形で不明	不整円形	直径60	8	—	—
7号焼土	49区3号焼土	円形で不明	不整円形	直径30	10	2ヶ所有り	—	31号焼土	39区11号焼土	北西～南東	不整楕円形	75	55	10	—
8号焼土	49区2号焼土	北西～南東	楕圓	80	25～30	15	—	32号焼土	39区12号焼土	円形で不明	不整円形	直径60	10	—	—
9号焼土	49区4号焼土	東西	不整楕円形	50	30	15	—	33号焼土	49区2号焼土	南北	楕円形	40	30	4	—
10号焼土	49区21号焼土	北西～南東	不整楕円形	130	20～50	5～10	—	34号焼土	49区1号焼土	調査区外で不明	不明	(80)	50	12	—
11号焼土	49区20号焼土	東西	楕円形?	110	40	20	2ヶ所有り	35号焼土	49区7号焼土	南北	不整楕円形	30	20	5～10	—
12号焼土	49区19号焼土	東西	楕円形?	90	70	10	2ヶ所有り	36号焼土	49区8号焼土	北東～南西	楕円形	40	15	10	—
13号焼土	49区18号焼土	円形で不明	不整円形	直径30	不明	—	—	37号焼土	49区9号焼土	東西	不整楕円形	55	35	6～8	—
14号焼土	49区17号焼土	北西～南東	不整楕円形	50	40	10	—	38号焼土	39区7号焼土	北西～南東	楕円形	115	60	10	—
15号焼土	39区8号焼土	北東～南西	不整円形	40	35	15	—	39号焼土	39区3号焼土	調査区外で不明	不明	(80)	(60)	5～10	—
16号焼土	39区10号焼土	東西	不整円形	40	35	不明	—	40号焼土	49区5号焼土	東西	楕円形	55	30	5	—
17号焼土	39区9号焼土	円形で不明	不整円形	直径50	不明	—	—	41号焼土	49区3号焼土	北東～南西	楕円形	25	15	5	—
18号焼土	39区19号焼土	南北	不整形	85	50	不明	—	42号焼土	49区4号焼土	東西	楕円形	90	60	12	—
19号焼土	39区16号焼土	北東～南西	楕円形?	100	40	5～15	2ヶ所有り	43号焼土	49区6号焼土	円形で不明	円形	直径40	5	—	—
20号焼土	39区17号焼土	南北	楕円形	90	90	15～25	2ヶ所有り	44号焼土	39区2号焼土	東西	不整楕円形	75	45	5	3ヶ所有り
21号焼土	49区14号焼土	円形で不明	不整円形	直径40	10～14	—	—	45号焼土	39区1号焼土	東西	楕円形	35	30	10	—
22号焼土	49区13号焼土	北東～南西	不整楕円形	60	40	12～15	—	46号焼土	39区4号焼土	北東～南西	不整楕円形	55	30	不明	2ヶ所有り
23号焼土	49区15号焼土	南北	不整楕円形	40	15～20	不明	—	47号焼土	39区6号焼土	南北	楕円形	60	50	10	—
24号焼土	49区16号焼土	円形で不明	円形	直径12	不明	—	—	48号焼土	39区5号焼土	円形で不明	円形	直径40	15～30	—	—

調査土器の略号: 加3式 (加物利3式)

#### 第4節 Ⅲ区2面土坑墓・火葬跡 [H1号～H12号土坑墓・H1号火葬跡・A1号土坑墓]

Ⅲ区2面から、土坑墓13基及び火葬跡1基が検出された。土坑墓の認定は、人骨あるいは獣骨が検出された場合に限った。

土坑墓はⅢ区の西側に分布する傾向にあるが、まとまりをもって分布はしておらず、墓域としての存在ではなかったことが推定される。

なお、人骨が検出された土坑墓は、人（ヒト）の[Human]の頭文字「H」を使用し、馬骨が検出された土坑墓は、動物[Animal]の頭文字「A」を使用し、区別をした。また、火葬跡は1基しか検出されなかったが、火葬人骨が検出されたので、土坑墓と同様に頭文字Aを使用した。

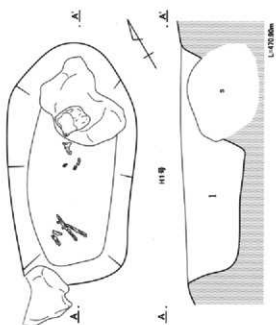
これら、土坑墓の位置はまとまっておらず、集団墓の様相は呈していない。土坑墓13基及び火葬跡1基の時代は、主に出土遺物及び検出状況から、中世に比定される。

出土人骨及び出土獣骨は、それぞれ1個体ずつ埋葬されていた。また、被葬者は成人男性2体・成人女性4体・性別不明成人1体・未成年男性2体・未成年女性2体・性別不明未成年2体であり、成人と未成年が半数ずつであった。出土人骨及び出土獣骨の詳細については、自然科学分析編を参照されたい。

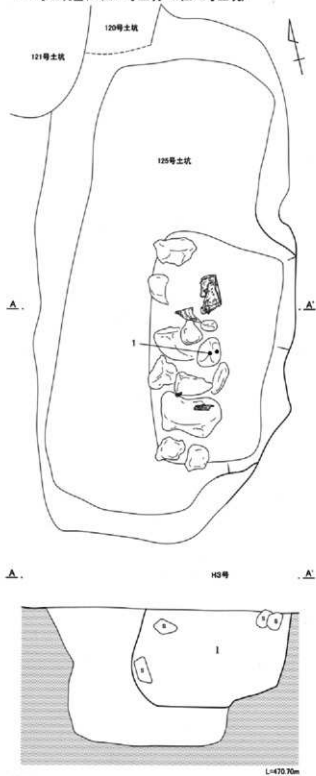


第128図 Ⅲ区2面土坑墓・火葬跡位置図

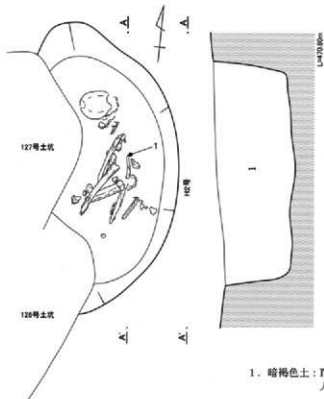
H1号土坑墓(49区123号土坑)



H3号土坑墓(49区29号土坑・49区72号土坑)



H2号土坑墓(49区56号土坑)

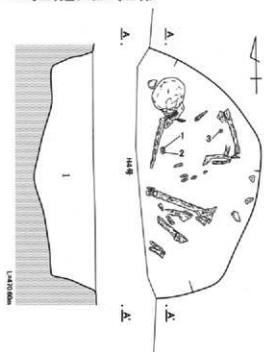


1. 暗褐色土: IV層。粘性あり。  
人為の埋土。

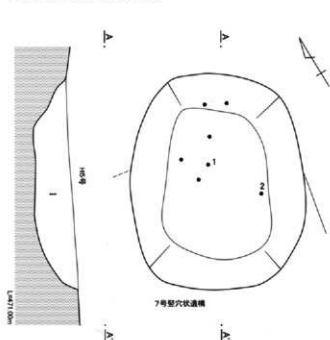
0 1:20 1m

第129図 Ⅲ区2面H1号～H3号土坑墓

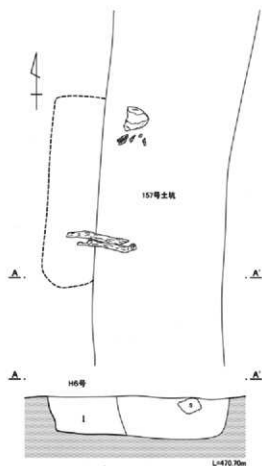
H4号土坑墓(49区9号土坑)



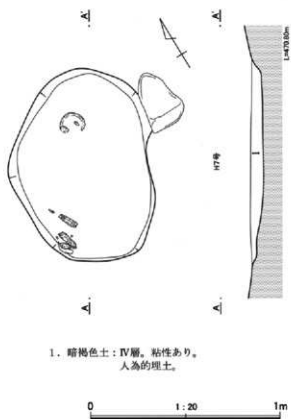
H6号土坑墓(39区172号土坑)



H6号土坑墓(49区46号土坑)



H7号土坑墓(49区47号土坑)

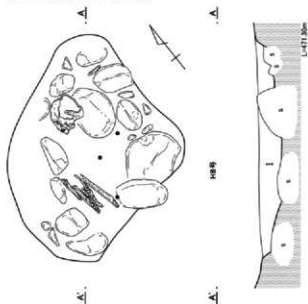


1. 暗褐色土: IV層。粘性あり。  
人為の埋土。

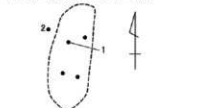
0 1:20 1m

第130図 Ⅲ区2面H4号~H7号土坑墓

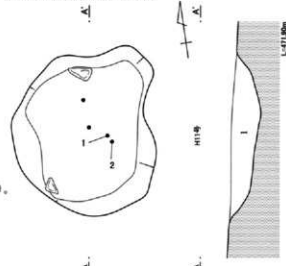
H8号土坑墓(49区48号土坑)



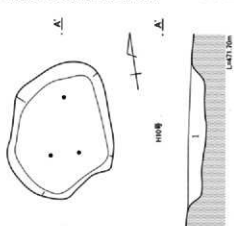
H9号土坑墓(49区8号土坑)



H11号土坑墓(39区26号土坑)

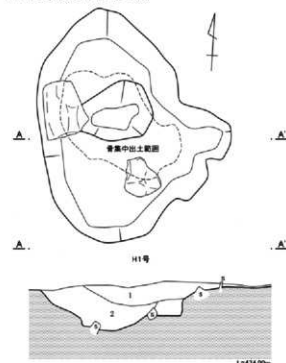


H10号土坑墓(39区25号土坑)

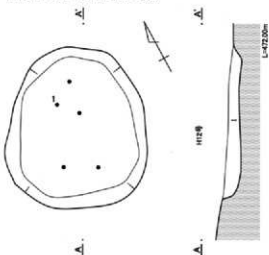


1. 暗褐色土: IV層。粘性あり。  
人為の埋土。

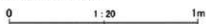
H1号火葬跡(39区2号土坑)



H12号土坑墓(39区24号土坑)

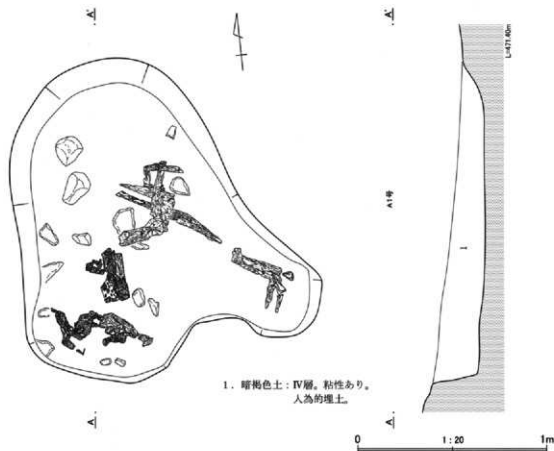


1. 褐色土: 炭・骨片を含む。  
2. 暗褐色土: 炭・骨片を含む。



第131図 Ⅲ区2面H8号~H12号土坑墓、H1号火葬跡

A1号土坑墓(39区60号土坑)



第132図 Ⅲ区2面A1号土坑墓

表 14 Ⅲ区2面土坑墓・火葬跡まとめ

土坑番号	旧土坑番号	長軸方向	大きさ (cm)			副葬品	出土人骨	
			長軸	短軸	深さ		性別	死亡年齢
H 1号土坑墓	49区123号土坑	北東	128	68	26	-	女性	約30歳代
H 2号土坑墓	49区56号土坑	北	150	(66)	38	鉢蓋2点、上臼1点	男性	約30歳代
H 3号土坑墓	49区72号土坑	北	(130)	(80)	50	鉢蓋3点	女性	約30歳代
H 4号土坑墓	49区9号土坑	北	132	(64)	32	須原器破1点、鉢蓋5点	男性	約30歳代
H 5号土坑墓	39区172号土坑	北東	114	92	20	鉢蓋6点	男性(男児)	約10歳
H 6号土坑墓	49区46号土坑	北	100	(50)	22	鉢蓋1点	女性	約30歳代
H 7号土坑墓	49区47号土坑	北東	100	74	10	-	女性	成人?
H 8号土坑墓	49区48号土坑	北東	120	94	12	-	男性(男児)	約12歳
H 9号土坑墓	49区8号土坑	北	58	22	-	鉢蓋4点	女性(女児)	約1歳半~2歳
H 10号土坑墓	39区25号土坑	北	72	54	10	-	不明	子供?
H 11号土坑墓	39区28号土坑	北	84	74	12	鉢蓋3点	不明	約5歳
H 12号土坑墓	39区24号土坑	北東	84	72	10	鉢蓋6点	女性(女児)	約12歳
火葬跡番号	旧土坑番号	主体部 長軸方向	主体部			袖部		
			長軸	短軸	深さ		長さ	幅
H 1号火葬跡	39区2号土坑	北?	122	74	28	-	24	24
土坑番号	旧土坑番号	長軸方向	長軸	短軸	深さ	袖部(両脚部突出)		
A 1号土坑墓	39区60号土坑	南	170	120	20	鉢蓋1点	60	45

註: 被葬者・被火葬者・馬骨の詳細は、第4分冊の自然科学分析編を参照されたい。

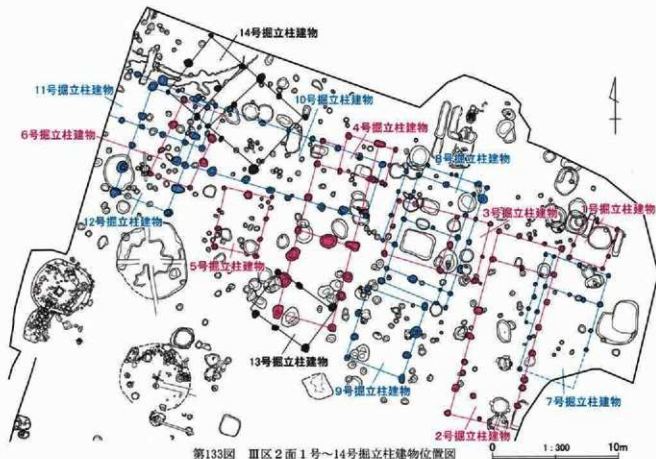
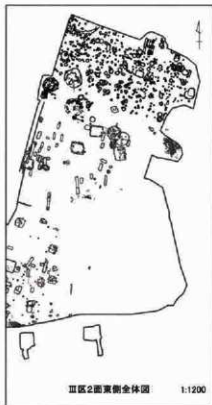
## 第5節 掘立柱建物【1号～14号掘立柱建物】

Ⅲ区2面から、中世の掘立柱建物が14棟検出された。掘立柱建物の復元は、調査担当の飯森康広による。なお、調査時の写真とは一部異なることに注意されたい。

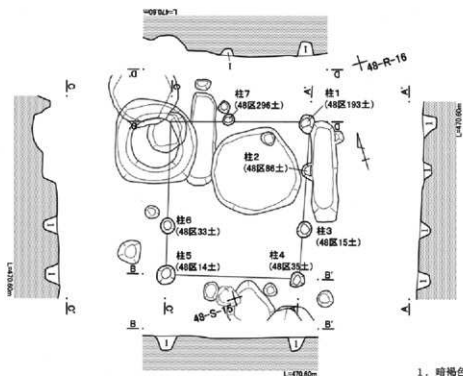
これら、14棟の掘立柱建物は、すべてⅢ区の北側に集中しており、中世から天明三（1783）年の浅間山泥流被災時まで同じ場所で居住し続けたことが確認された。恐らく、Ⅲ区の南側では後背地の山による日照の問題から、この北側で吾妻川に近い地区に居住し続けたものと推定される。

調査担当の飯森康広によれば、「居住区は、中央部を境にして、東西2つに分割して利用してきたようです。」ということになる（飯森、2003）。1面の浅間山泥流被災時にも、建物が東西に2軒確認されており、これが中世にまで遡る点が興味深い。この掘立柱構造から礎石立ち構造への変化は、全国的に18世紀に位置づけられており、その点でも当遺跡における建物の変遷が裏付けられた。

注：飯森康広 2003 泥流被災以前の暮らし、「遺跡は今」、第12号、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

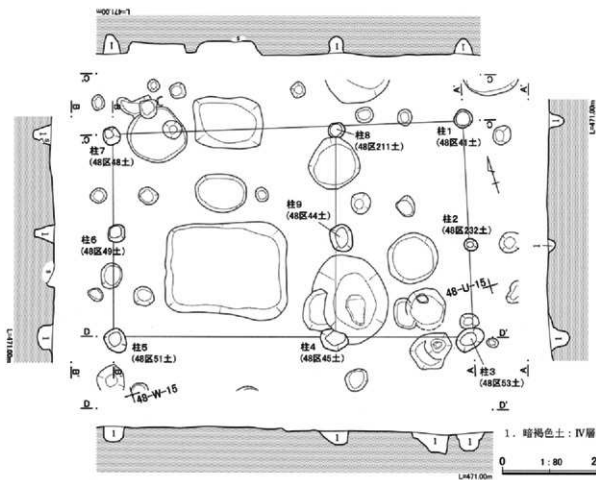






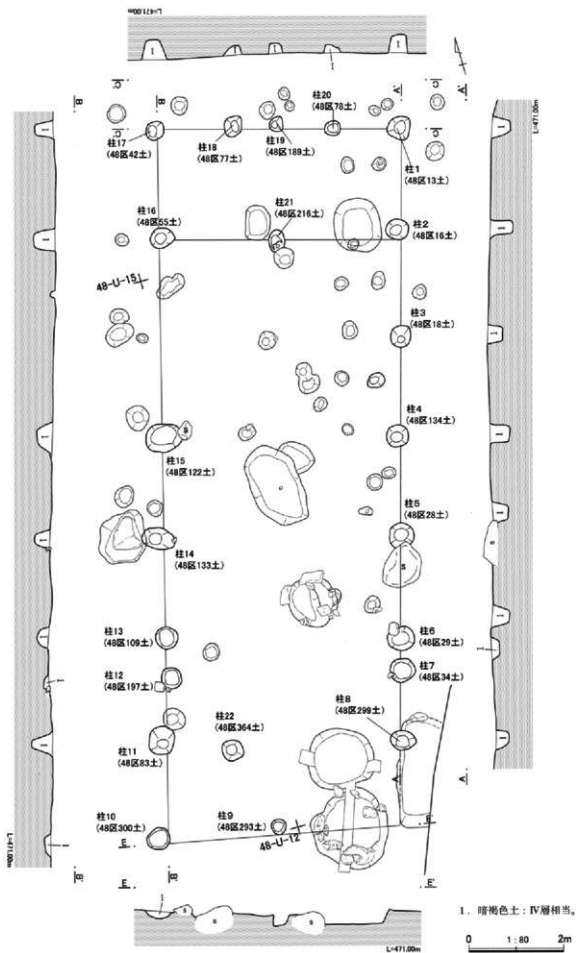
第134图 Ⅲ区2面1号掘立柱建物平断面图

1. 暗褐色土: IV層相当。

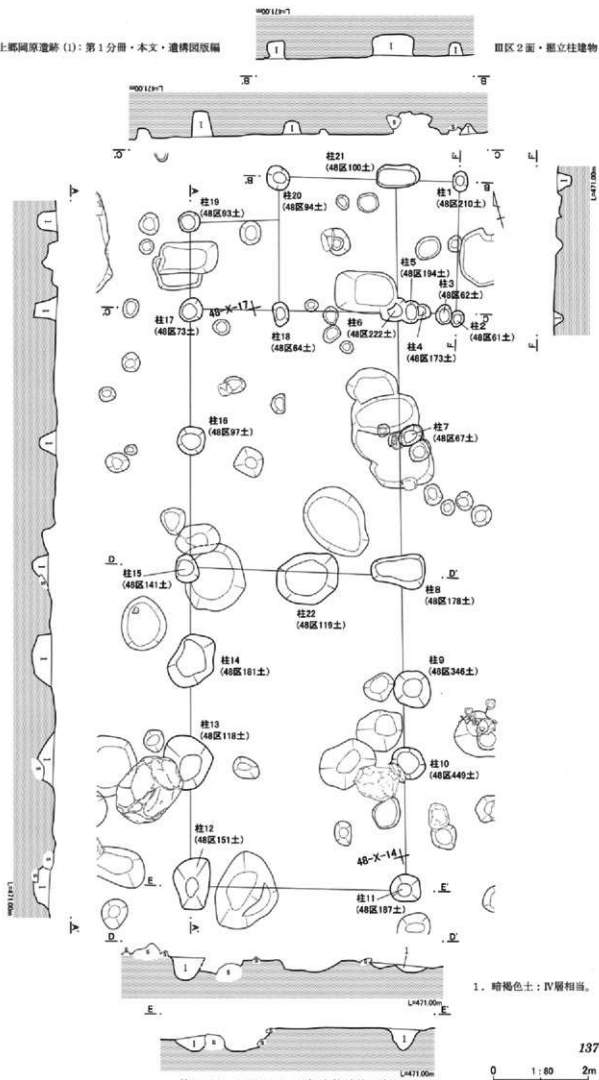


第135图 Ⅲ区2面3号掘立柱建物平断面图

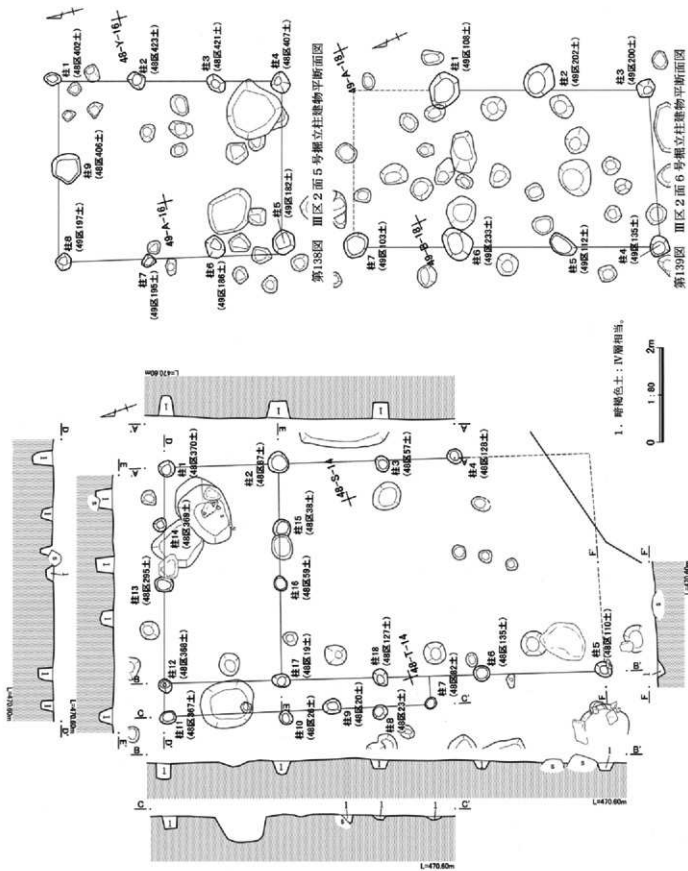
1. 暗褐色土: IV層相当。



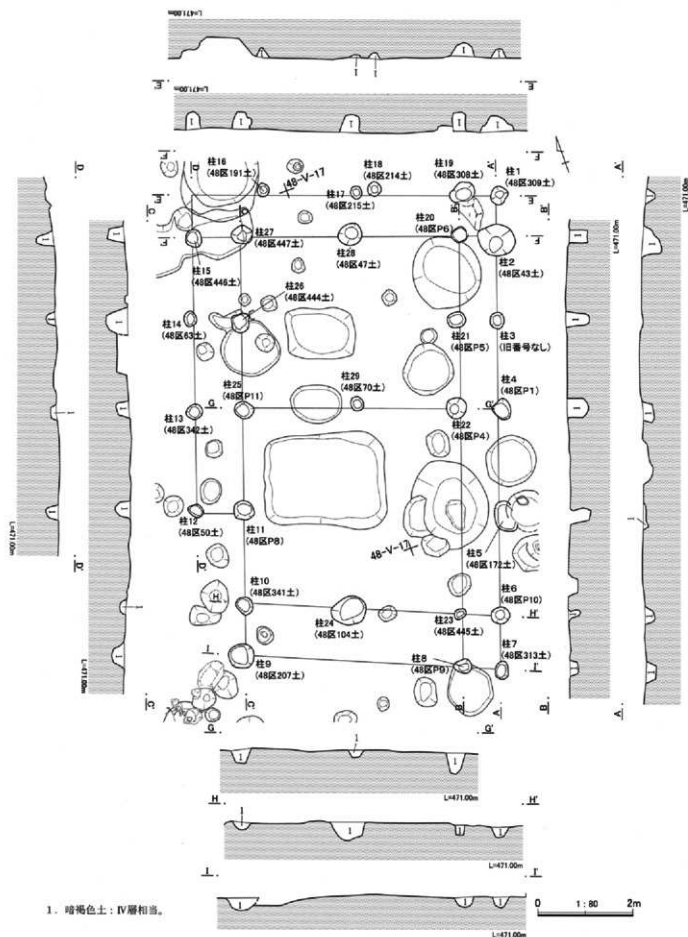
第136图 Ⅲ区2面2号掘立柱建物平面圖

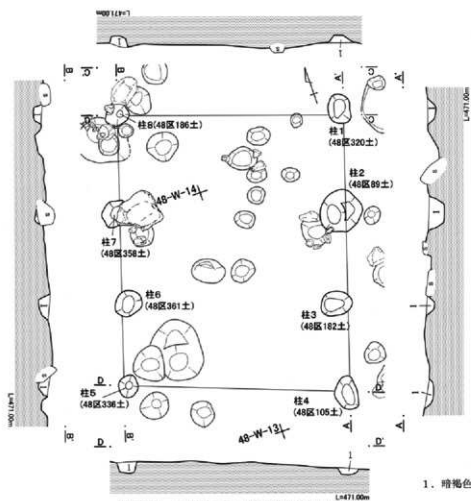


第137图 Ⅲ区2面4号掘立柱建物平面図



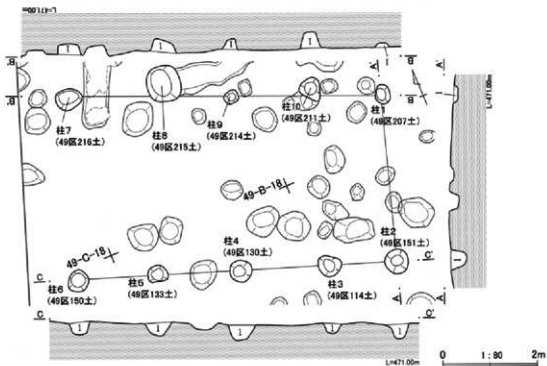
第140回 Ⅲ区2面7号掘立柱建物平面図



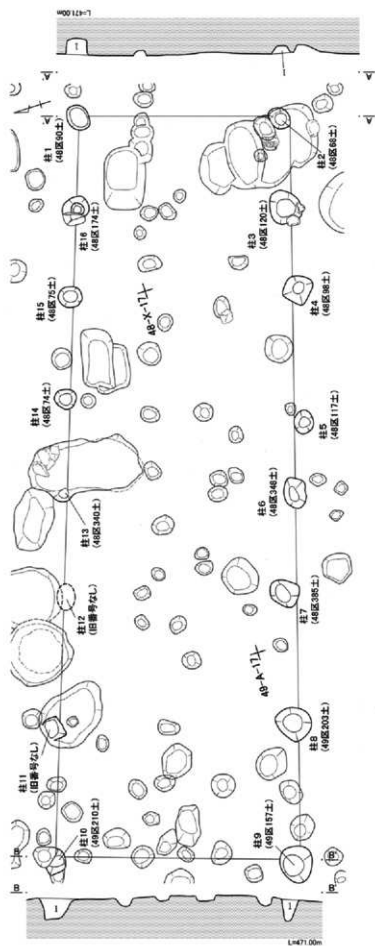


1. 暗褐色土: IV層相当。

第142图 Ⅲ区2面9号掘立柱建物平面面图



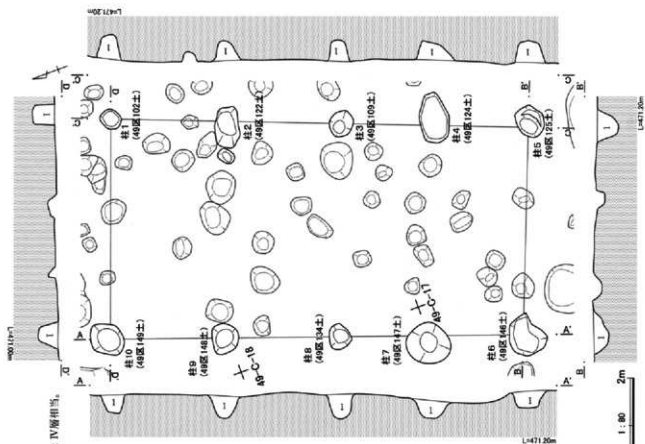
第143图 Ⅲ区2面11号掘立柱建物平面面图



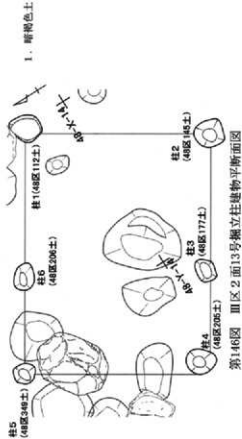
1. 暗褐色土: IV層相当。



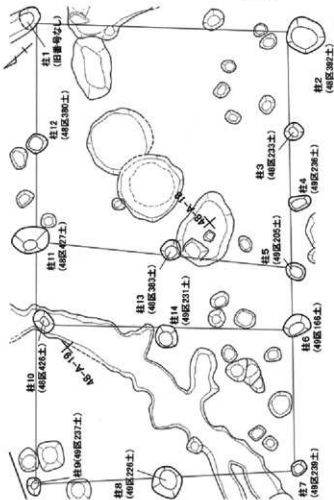
第144図 Ⅲ区2面10号掘立柱建物平面図



第145图 Ⅲ区2面12号掘立柱建物平面図



第146图 Ⅲ区2面13号掘立柱建物平面図



第147图 Ⅲ区2面14号掘立柱建物平面図

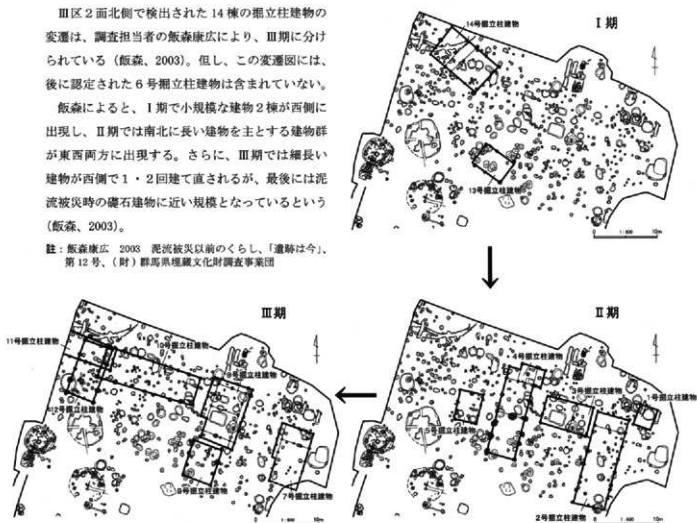


## Ⅲ区2面掘立柱建物の変遷

Ⅲ区2面北側で検出された14棟の掘立柱建物の変遷は、調査担当者の飯森康広により、Ⅲ期に分けられている(飯森, 2003)。但し、この変遷図には、後に認定された6号掘立柱建物は含まれていない。

飯森によると、Ⅰ期で小規模な建物2棟が西側に出現し、Ⅱ期では南北に長い建物を中心とする建物群が東西両方出現する。さらに、Ⅲ期では細長い建物が西側で1・2回建て直されるが、最後には泥流被災時の礎石建物に近い規模となっているという(飯森, 2003)。

註: 飯森康広 2003 泥流被災以前のくらし、「遺跡は今」、第12号、(財)群馬県縄文文化財調査事業団



第148図 Ⅲ区2面掘立柱建物の変遷図

表15 Ⅲ区2面掘立柱建物まとめ

建物番号	規模	桁行(m)	梁行(m)	柱穴数	出土遺物	備考
1号掘立柱建物	2間×3間	3.3	2.9~3.0	7基	柱1(礎後1点)、柱6(礎後3点)	-
2号掘立柱建物	4間×8間	15.0	5.0~5.3	22基	柱4(礎2式2点)、柱5(礎2式1点)、柱15(礎後5点)	-
3号掘立柱建物	2間×2間	7.5	4.3~4.6	9基	柱6(礎後5点)、柱7(礎後1点)	-
4号掘立柱建物	3間×6間	14.0~15.0	4.4~5.7	22基	柱7(礎後1点)、柱11(礎後1点)、柱20(礎後1点)	変形
5号掘立柱建物	2間×3間	4.8	3.4~3.8	9基	-	-
6号掘立柱建物	1間×3間	6.5	3.3	7基	柱1(礎1式3点)、柱3(礎後1点)	-
7号掘立柱建物	3間×4間	9.4	4.6~5.2	18基	-	変形
8号掘立柱建物	5間×6間	9.7~10.1	5.4~6.4	29基	柱2(礎3点)、柱9(礎2式2点)、柱19(礎2式1点、礎後2点)	変形
9号掘立柱建物	1間×3間	5.8~6.1	4.8	8基	柱8(礎後1点)	-
10号掘立柱建物	1間×7間	15.6	4.3~5.0	16基	柱2(礎後2点)、柱16(礎2式2点)	-
11号掘立柱建物	1間×(4間)	(6.6~6.8)	3.5	10基	-	西側調査区外
12号掘立柱建物	1間×4間	6.8	4.6	10基	-	-
13号掘立柱建物	1間×2間	4.8~5.2	3.3~3.9	6基	-	-
14号掘立柱建物	2間×5間	9.1~9.8	5.4~5.6	14基	-	-

縄文土器の略号: 縄(縄文)・縄後(縄文後期)・堀2式(堀之内2式)

## 第6節 便槽 [1号～13号便槽]・馬屋跡 [1号馬屋跡]

### 1. 便槽

Ⅲ区2面から、中近世の便槽が13基検出された。便槽の認定は、土坑が円形を呈し、1基単独であるいは2基が重なって出土しており、底部に粘土及び小礫が検出されているものとした。同様な土坑は、重なって検出された102号及び103号土坑にも認められたが、一部不明な点もあるため、この2基の土坑は便槽とは認定せずに、通常の土坑として認定した。これら、13基の便槽は、14棟検出された掘立柱建物と関連があると推定される。

検出された13基の便槽は、直径が小さいタイプ（約80cm～120cm）と直径が大きいタイプ（約140cm～200cm）の2種類が認められた。

直径が小さいタイプは、7号～11号便槽の5基の便槽である。また、直径が大きいタイプは、1号～6号・12号・13号の8基の便槽である。直径が小さいタイプは、掘立柱建物の入口に配置された小便槽であると推定される。また、直径が大きいタイプ

は、6号便槽を除くと、2基が重なる場合が多く、1面の3号掘立柱建物内の便槽のような配置であったと推定される。

なお、便槽からは縄文土器も検出されているが、恐らく流れ込みであるかと推定される。また、10号便槽は木桶も残存しており、2面ではなく1面で1号建物と関連する可能性も考えられる。

### 2. 馬屋跡

Ⅲ区2面から、馬屋跡と推定される土坑が1基検出され、1号馬屋跡と命名した。土坑は、長方形状を呈し、規模は長軸約2.4m・短軸約1.8m・深さ約25cmである。馬屋には、糞等を敷いているために凹んでいると解釈されている。

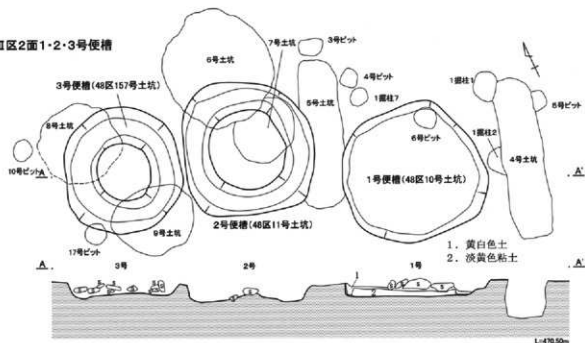
この1号馬屋跡も掘立柱建物と関連があると推定されるが、3号掘立柱建物と8号掘立柱建物のどちらに関連があるかは判定できないが、3号掘立柱建物と関連があると推定される。

なお、本馬屋跡の覆土から、縄文前期土器2点・縄文後期土器3点・堀之内2式土器3点が検出されている。



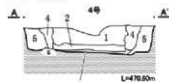
第149図 Ⅲ区2面便槽・馬屋跡位置図

Ⅲ区2面1・2・3号便槽

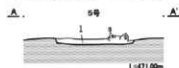


1. 黄白色土
2. 淡黄色粘土

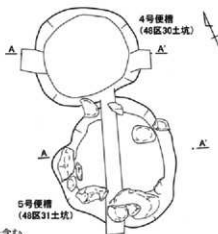
4・5号便槽



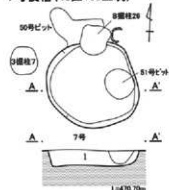
1. 褐色土
2. 黄白色土
3. 淡黄白粘土
4. 黒褐色土: 粘土を少量含む。
5. 黒褐色土: 砂・円礫を含む。



1. 黒褐色土: 円礫と黄白色ロームを含む。

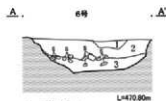
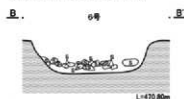


7号便槽(48区165土坑)

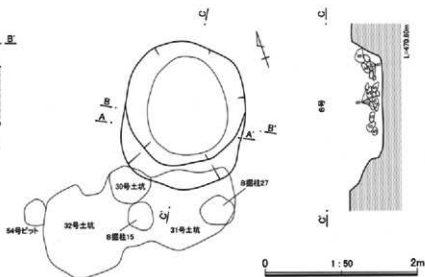


1. 黄褐色ロームと黒褐色土の混土

6号便槽(48区192号土坑)

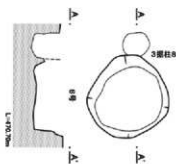


1. 暗褐色土
2. 黒褐色土
3. 黒褐色土: 礫を含む。

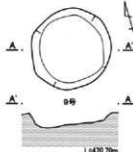


第150図 Ⅲ区2面1号～7号便槽

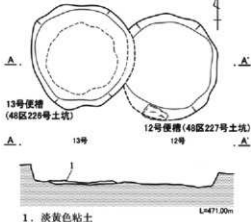
8号便槽(48区46号土坑)



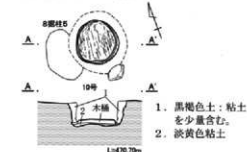
9号便槽(48区60号土坑)



12・13号便槽

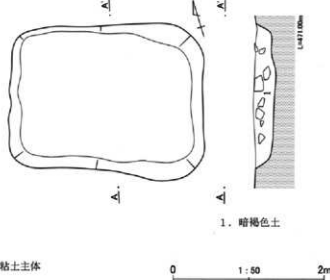


10号便槽(48区170号土坑)



1. 黒褐色土: 粘土を少量含む。
2. 淡黄色粘土

1号馬屋跡(48区315号土坑)

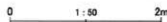


1. 暗褐色土

11号便槽(48区60号土坑)



1. 褐色土: 肌色粘土主体



第151図 Ⅲ区2面8号～13号便槽・1号馬屋跡

表16 Ⅲ区2面便槽まとめ

便槽番号	旧土坑番号	大きさ (cm)		出土遺物	重複関係
		直径	深さ		
1号便槽	48区10号土坑	約200	約20	甕2式4点	5号土坑、6号ビット
2号便槽	48区11号土坑	約190～200	約20	甕2式1点、甕後4点	5・6・7号土坑
3号便槽	48区157号土坑	約160	約20	甕後7点、甕8点	8・9号土坑、17号ビット
4号便槽	48区30号土坑	約125～140	約35	砥石1点	5号便槽
5号便槽	48区31号土坑	約160	約8	—	4号便槽
6号便槽	48区192号土坑	約160	約45	壺1点	30・31号土坑
7号便槽	48区165号土坑	約120	約20	加4式2点、甕2点	8号柱26、50・51号ビット
8号便槽	48区46号土坑	約110	約40	陶磁器灯明皿1点、甕2式7点、甕前1点、甕後7点	3号柱8
9号便槽	48区69号土坑	約110	約20	甕後2点	無し
10号便槽	48区170号土坑	約80	約30	陶磁器小碗1点、鍍鍍1点	8号柱5
11号便槽	48区60号土坑	約95～110	約20	甕後2点	8号柱8
12号便槽	48区226号土坑	約140	約20	—	13号便槽
13号便槽	48区227号土坑	約140	約20	—	12号便槽

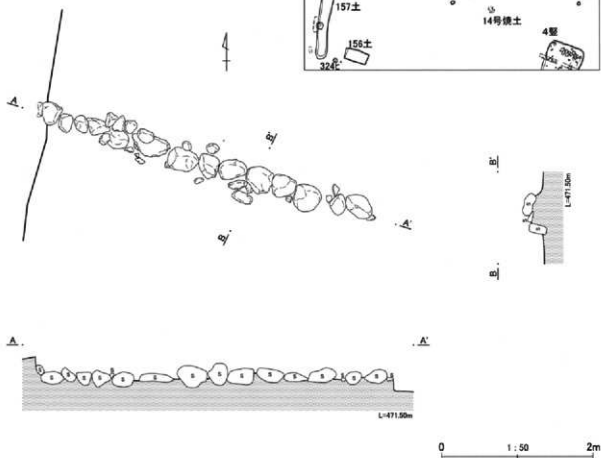
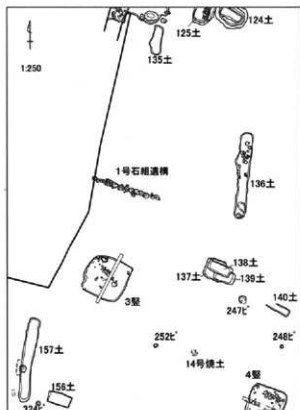
縄文土器の略号: 加4式(加曾利4式)・甕2式(称名寺2式)・甕2式(堀之内2式)・甕(縄文)・甕前(縄文前期)・甕後(縄文後期)

### 第7節 石組遺構 [1号石組遺構]

Ⅲ区2面より、石組遺構1ヶ所が検出された。検出された位置は、Ⅲ区の中央西側である。径約10cm～40cmの礫を約4.6mにわたって組んだもので、中には、破損した石臼片2点も転用されていた。

この石組遺構の時期は中近世であると推定されるが、どのような意味を持つのかは不明である。しかしながら、この石組遺構の直上には、Ⅲ区1面の2号道が存在することから、地境としての石組であると推定される。

Ⅲ区2面1号石組遺構(49区2号石垣)



第152図 Ⅲ区2面1号石組遺構平面断面図

## 第8節 土坑〔1号～237号土坑〕

Ⅲ区2面から、237基の土坑が検出された。なお、調査時は、すべて土坑として記録したが、整理過程で土坑及びピットに分類した。これらの土坑のほとんどは、調査区の北部～西側で検出されている。これら、土坑の時代を特定するのは困難であるが、土坑の覆土は大部分がⅣ層相当の暗褐色土であり、ほとんどが中近世であると推定される。土坑及びピットの分類は基本的に、基礎整理を行った石田 真の分類にしたがった。また、土層注記が欠落している土坑も一部あったが、同様に石田のまとめにしたがい土層を復元した。

これら、土坑の性格は不明であるが、一部、礫が多数出土した土坑は、渋川市で検出されたFP軽石(Hr-FP)を掘り込んだ芋を貯蔵するための「芋穴」や、前橋市で検出された天明三年の泥流で流れ込み耕作の邪魔になった礫を片づけるために掘り込んだ土坑と似た形状である。これらの土坑も、「芋穴」や耕作の邪魔になった礫を片づけた土坑であると推定される。この吾妻地区では、1742(寛保2)年に「寛保の大洪水」の被害に遭っている。この洪水の際に流れ込んだ礫を片づけた、土坑もあるのかもしれない。

一部の土坑の覆土は、Ⅴ層相当の黒色土及びⅥ層相当の黄褐色土である。また、北側の土坑の多くには、縄文時代の土器片が検出されているが、これらは流れ込みか6軒検出された縄文時代竪穴住居との関連があると推定される。また、124号土坑は形態から、恐らく落し穴であると推定される。さらに、102号及び103号土坑は形態から、便槽である可能性もあるが、不明な点もあるので便槽からははずした。

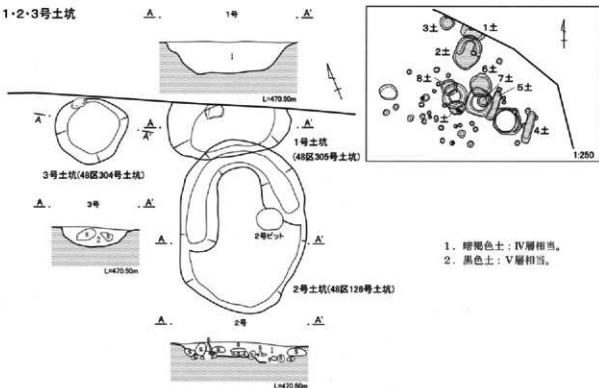


第153図 Ⅲ区2面土坑位置図1/2

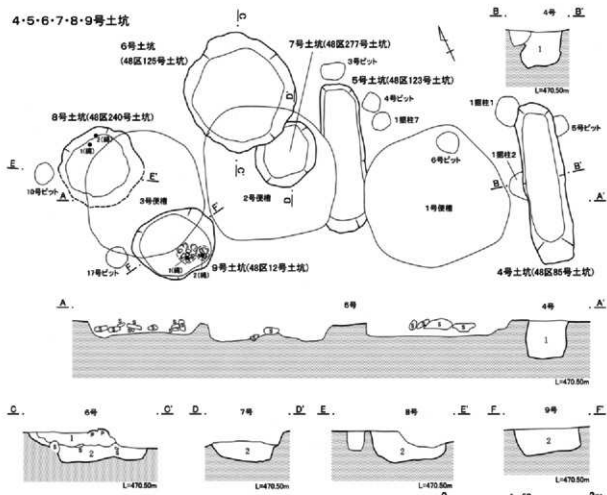


第154図 Ⅲ区2面土坑位置図2/2

1・2・3号土坑

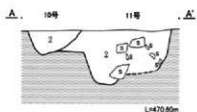
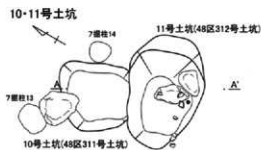


4・5・6・7・8・9号土坑

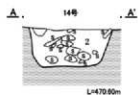


第155図 Ⅲ区2面1号～9号土坑

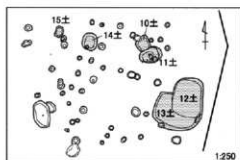




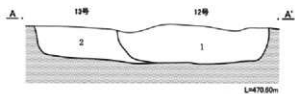
14号土坑(48区79号土坑)



15号土坑(48区101号土坑)



12・13号土坑

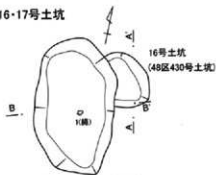


1. 暗褐色土: IV層相当。  
2. 黒色土: V層相当。

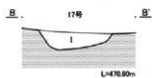
0 1:50 2m

第156図 Ⅲ区2面10号～15号土坑

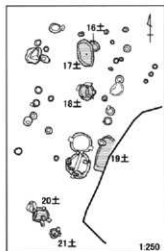
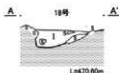
16・17号土坑



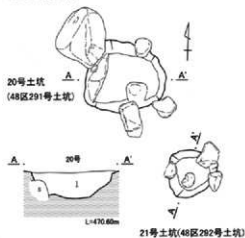
17号土坑(48区319号土坑)



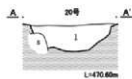
18号土坑(48区132号土坑)



20・21号土坑

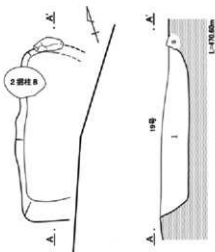


20号土坑  
(48区291号土坑)



21号土坑(48区292号土坑)

19号土坑(48区290号土坑)

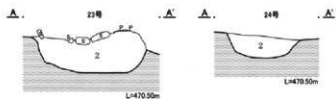
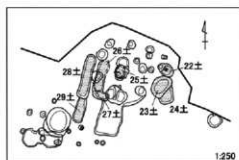


1. 暗褐色土: IV層相当。
2. 黒色土: V層相当。

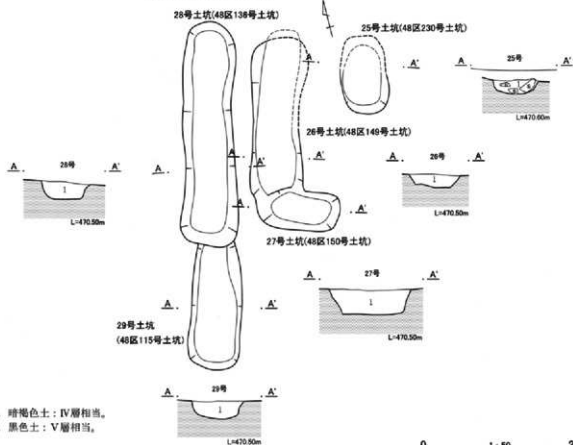


第157図 Ⅲ区2面16号～21号土坑

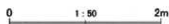
22・23・24号土坑



25・26・27・28・29号土坑

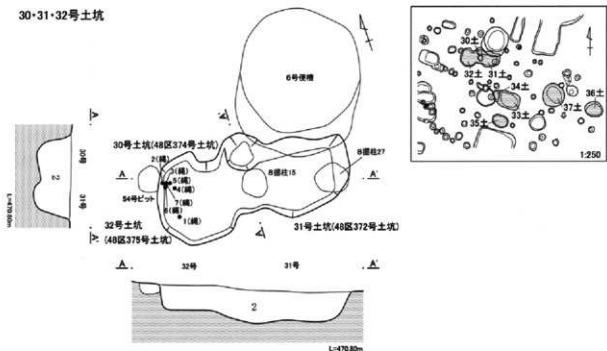


1. 暗褐色土: IV層相当。  
2. 黒色土: V層相当。

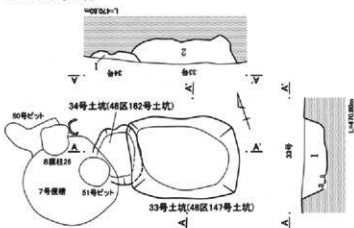


第158図 Ⅲ区2面22号～29号土坑

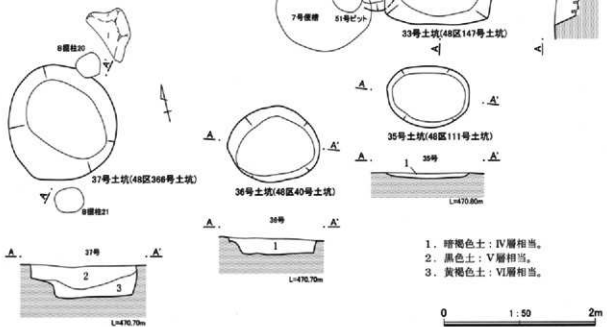
30・31・32号土坑



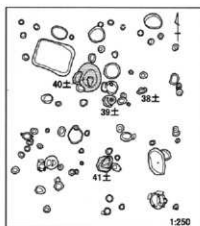
33・34・35号土坑



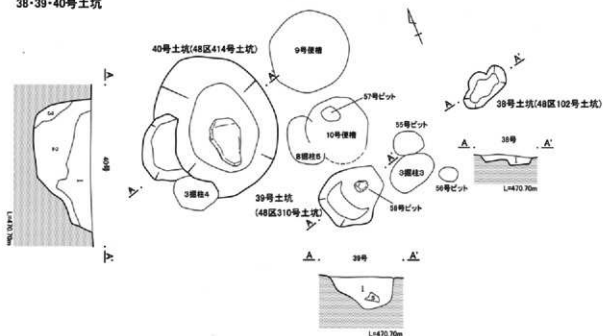
36・37号土坑



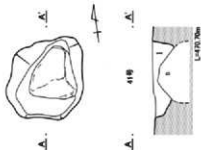
第159図 Ⅲ区2面30号～37号土坑



38・39・40号土坑



41号土坑(48区431号土坑)



1. 暗褐色土: IV層相当。
2. 黒色土: V層相当。
3. 黄褐色土: VI層相当。

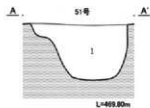
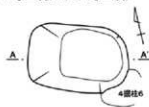
0 1:50 2m

第160図 Ⅲ区2面38号~41号土坑

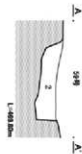
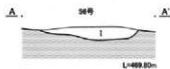
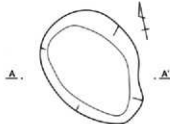


第161図 Ⅲ区2面42号~50号土坑

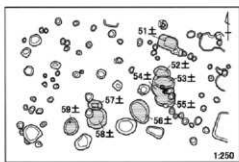
51号土坑(48区91号土坑)



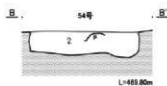
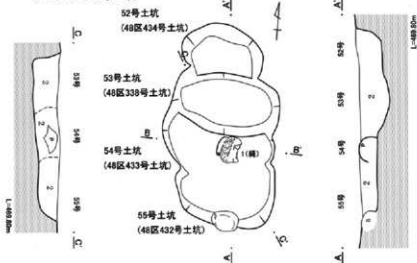
56号土坑(48区450号土坑)



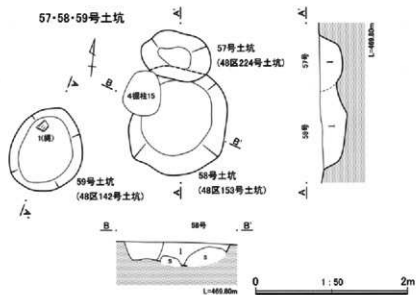
1. 暗褐色土: IV層相当。
2. 黑色土: V層相当。



52·53·54·55号土坑

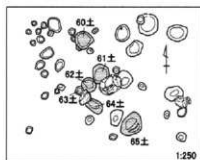
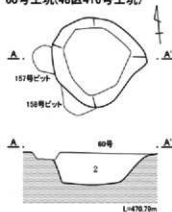


57·58·59号土坑

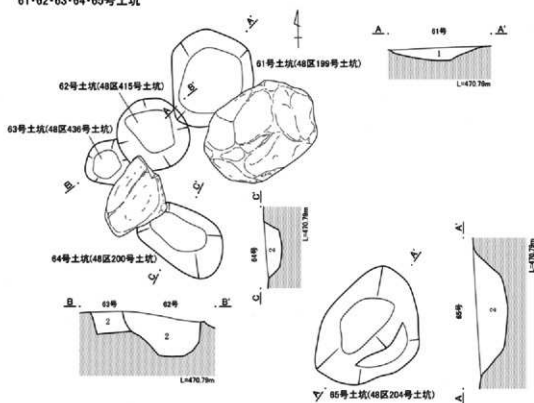


第162图 Ⅲ区2面51号~59号土坑

60号土坑(48区416号土坑)



61・62・63・64・65号土坑



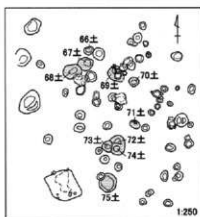
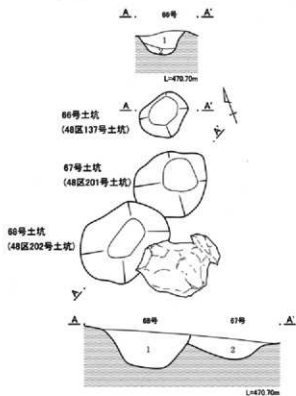
1. 暗褐色土: IV層相当。
2. 黒色土: V層相当。



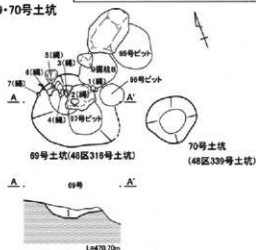
第163図 Ⅲ区2面60号～65号土坑



66・67・68号土坑



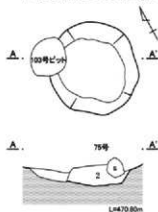
69・70号土坑



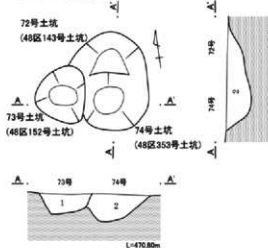
71号土坑(48区360号土坑)



75号土坑(48区335号土坑)



72・73・74号土坑



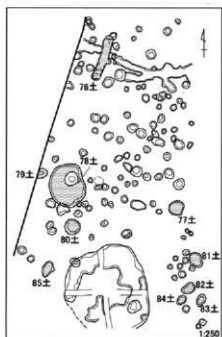
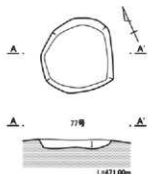
0 1:50 2m

第164図 Ⅲ区2面66号～75号土坑

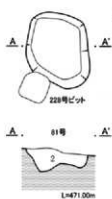
76号土坑(49区121号土坑)



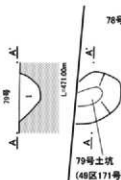
77号土坑(49区198号土坑)



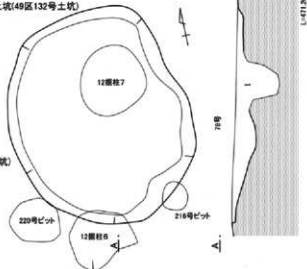
81号土坑(49区187号土坑)



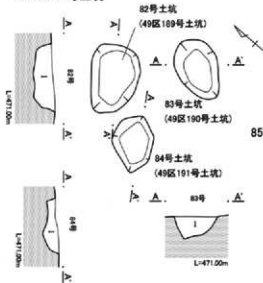
78・79・80号土坑



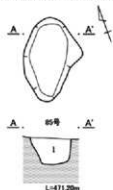
78号土坑(49区132号土坑)



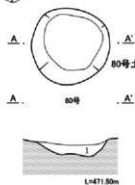
82・83・84号土坑



85号土坑(49区179号土坑)



80号土坑(49区175号土坑)

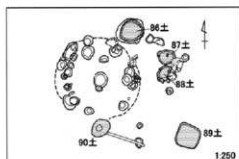
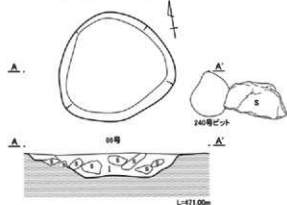


1. 暗褐色土: IV層相当。
2. 黒色土: V層相当。

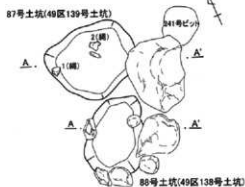
第165図 Ⅲ区2面76号~85号土坑



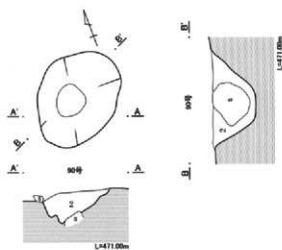
86号土坑(49区145号土坑)



87・88号土坑

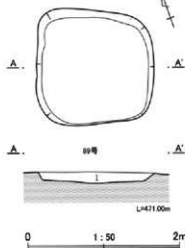


90号土坑(49区94号土坑)



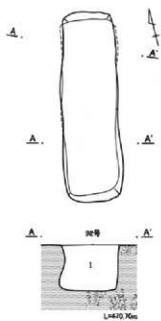
1. 暗褐色土：IV層相当。
2. 黒色土：V層相当。

89号土坑(49区247号土坑)

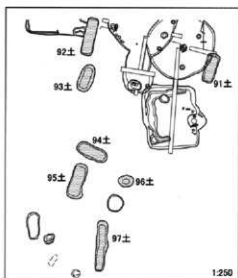
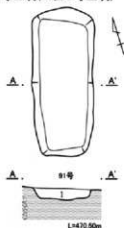


第166図 Ⅲ区2面86号～90号土坑

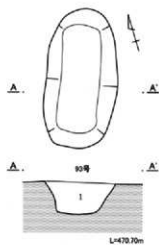
92号土坑(48区3号土坑)



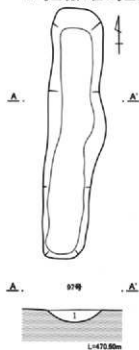
91号土坑(48区8号土坑)



93号土坑(48区2号土坑)



97号土坑(48区5号土坑)



94・95号土坑

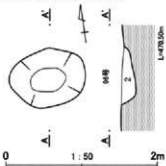


94号土坑(48区1号土坑)



95号土坑(48区7号土坑)

96号土坑(48区6号土坑)

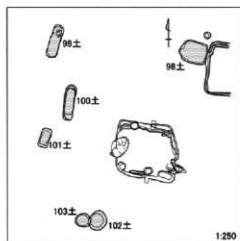
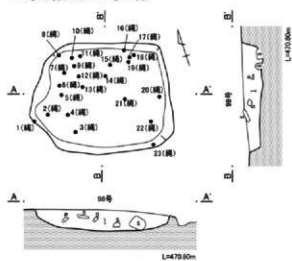


1. 暗褐色土: IV層相当。
2. 黑色土: V層相当。

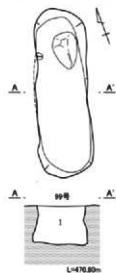
第167图 Ⅲ区2面91号~97号土坑

0 1:50 2m

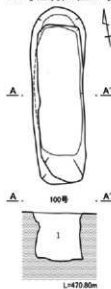
98号土坑(49区248号土坑)



99号土坑(49区52号土坑)

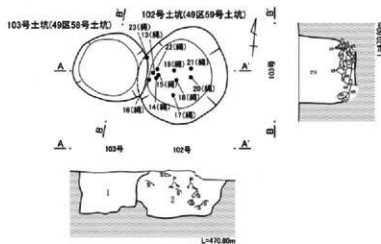
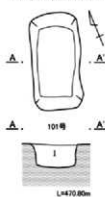


100号土坑(49区51号土坑)



102-103号土坑

101号土坑(49区27号土坑)

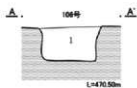


1. 暗褐色土: IV層相当。
2. 黒色土: V層相当。

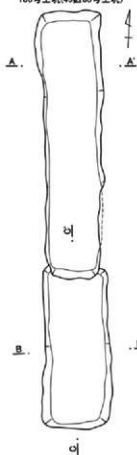
0 1:50 2m

第168图 Ⅲ区2面98号~103号土坑

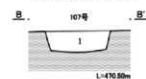
106・107号土坑



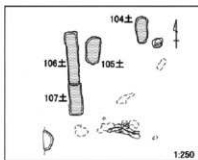
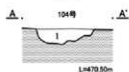
106号土坑(49区63号土坑)



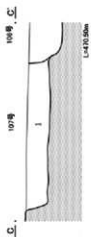
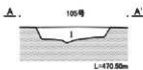
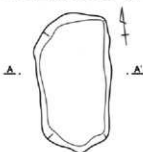
107号土坑(49区95号土坑)



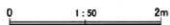
104号土坑(49区65号土坑)



105号土坑(49区64号土坑)



1. 暗褐色土: IV層相当。

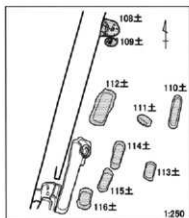
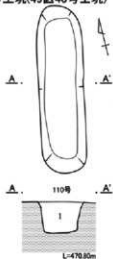


第169图 Ⅲ区2面104号~107号土坑

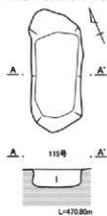
108・109号土坑



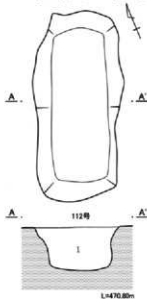
110号土坑(49区40号土坑)



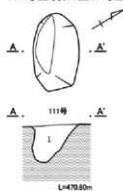
115号土坑(49区33号土坑)



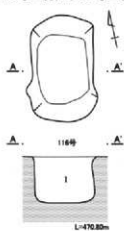
112号土坑(49区36号土坑)



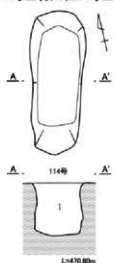
111号土坑(49区37号土坑)



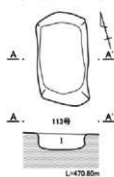
116号土坑(49区32号土坑)



114号土坑(49区34号土坑)



113号土坑(49区35号土坑)

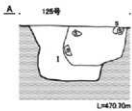
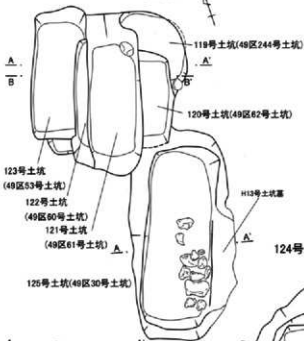
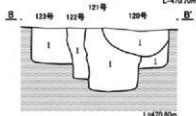
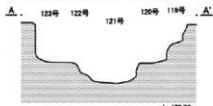


1. 暗褐色土: IV層相当。
2. 黑色土: V層相当。

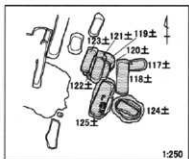
0 1:50 2m

第170图 Ⅲ区2面108号~116号土坑

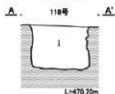
119·120·121·122·123·125号土坑



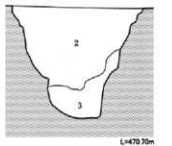
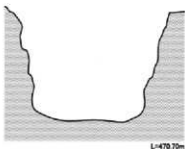
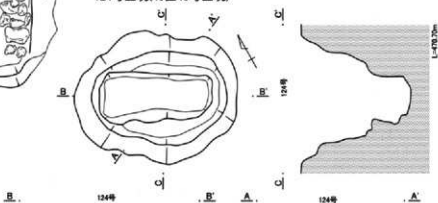
1. 暗褐色土: IV層相当。
2. 黑色土: V層相当。
3. 黄褐色土: VI層相当。



117·118号土坑



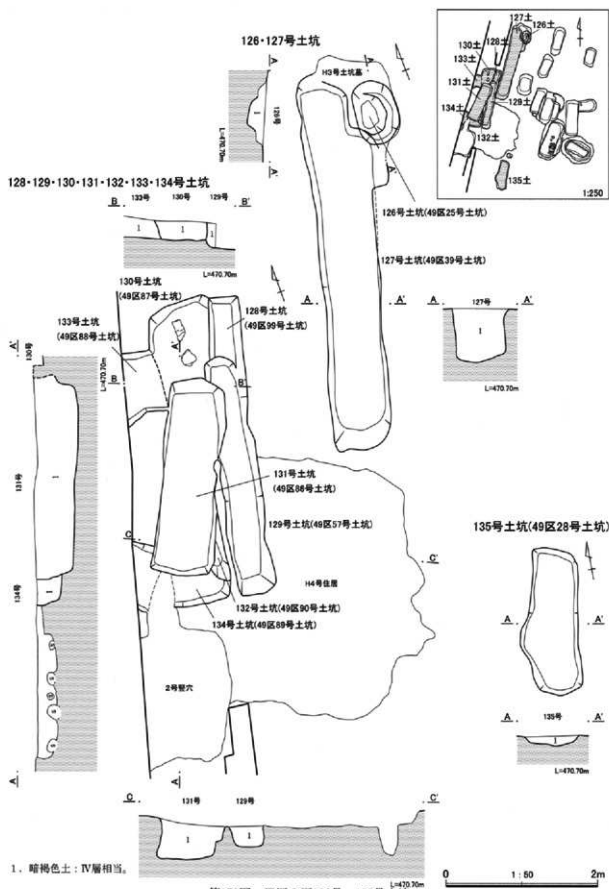
124号土坑(49区49号土坑)



0 1:50 2m

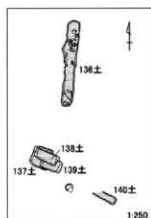
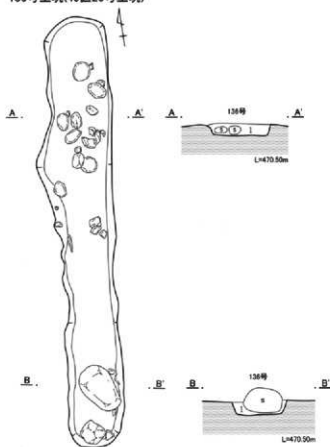
第171图 Ⅲ区2面117号~125号土坑



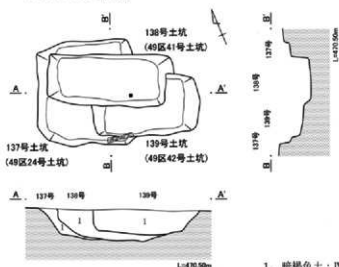


第172図 Ⅲ区2面126号~135号土坑

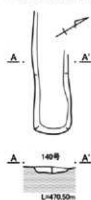
136号土坑(49区26号土坑)



137・138・139号土坑



140号土坑(49区82号土坑)

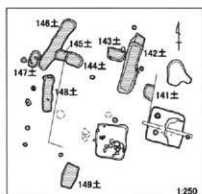


1. 暗褐色土: IV層相当。

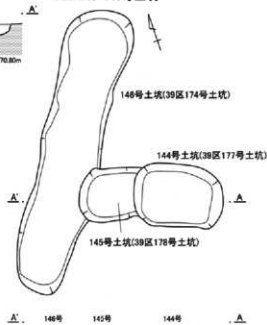
第173図 Ⅲ区2面136号~140号土坑



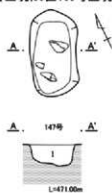
142・143号土坑



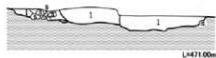
144・145・146号土坑



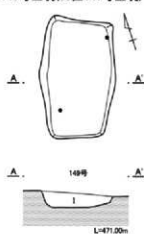
147号土坑(39区169号土坑)



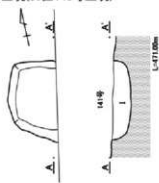
148号土坑(39区170号土坑)



149号土坑(39区147号土坑)



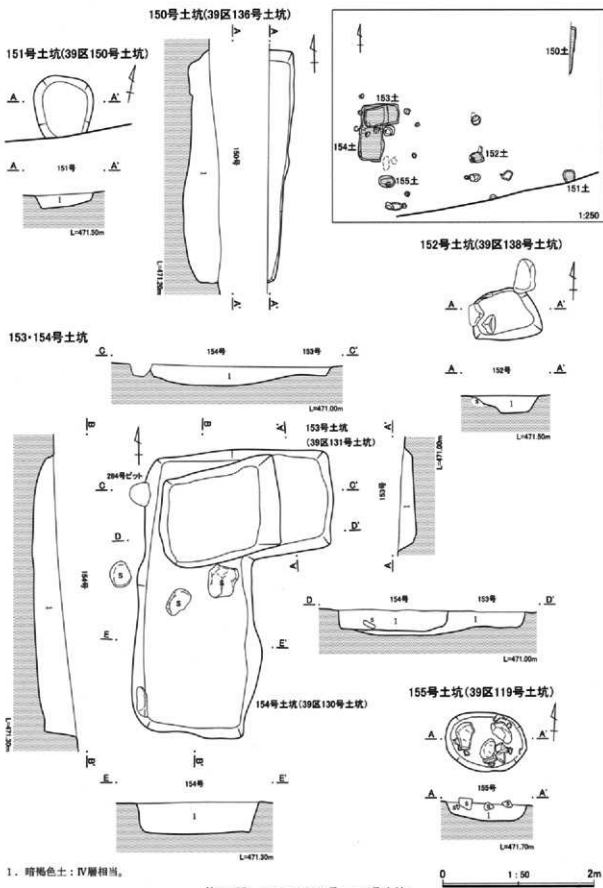
141号土坑(39区148号土坑)



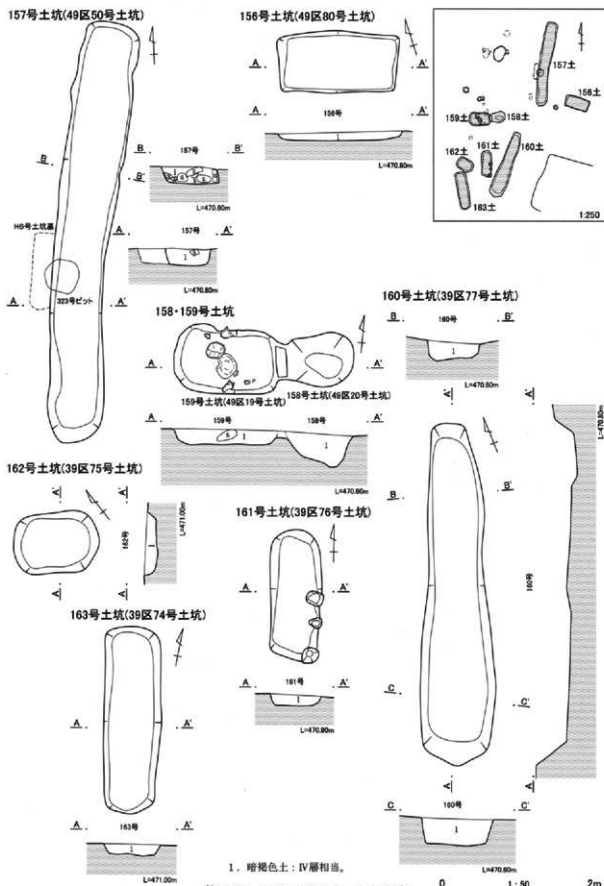
1. 暗褐色土: IV層相当。

第174图 Ⅲ区2面141号~149号土坑

0 1:50 2m



第175图 Ⅲ区2面150号~155号土坑



第176図 Ⅲ区2面156号~163号土坑

166・167・168・169・170号土坑

▲ 170号 169号 ▲



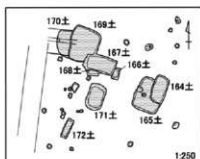
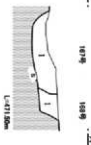
170号土坑  
(39区173号土坑)



168号土坑(39区96号土坑)

167号土坑(39区85号土坑)

168号土坑  
(39区104号土坑)



164・165号土坑

164号土坑(39区93号土坑)



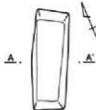
165号土坑(39区92号土坑)

166号土坑(39区94号土坑)

▲ 167号 166号 ▲



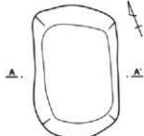
172号土坑(39区85号土坑)



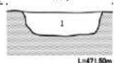
▲ 172号 ▲



171号土坑(39区49号土坑)

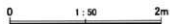


▲ 171号 ▲

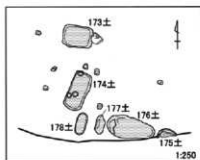
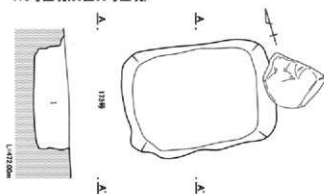


1. 暗褐色土: IV層相当。

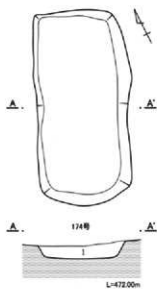
第177図 Ⅲ区2面164号~172号土坑



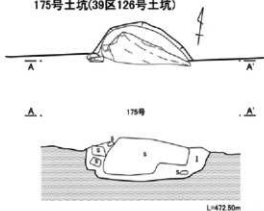
173号土坑(39区50号土坑)



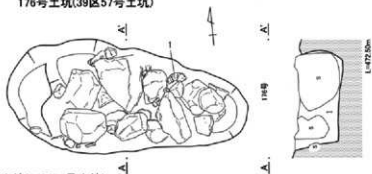
174号土坑(39区51号土坑)



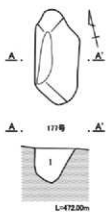
175号土坑(39区126号土坑)



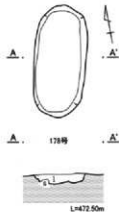
176号土坑(39区57号土坑)



177号土坑(39区118号土坑)

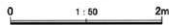


178号土坑(39区52号土坑)

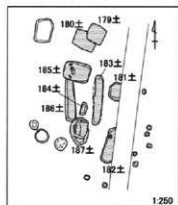
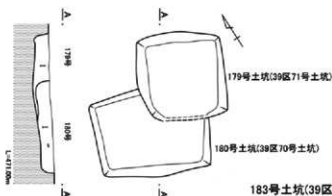


1. 暗褐色土: IV層相当。

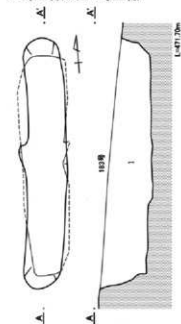
第178圖 Ⅲ區2面173号~178号土坑



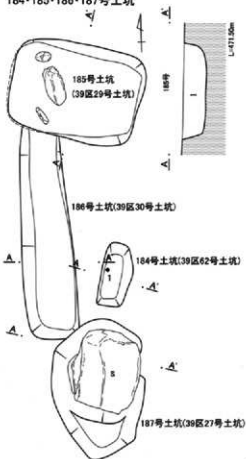
179・180号土坑



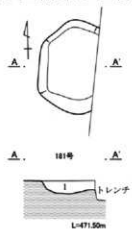
183号土坑(39区28号土坑)



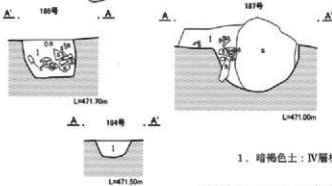
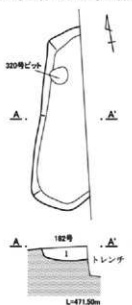
184・185・186・187号土坑



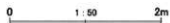
181号土坑(39区61号土坑)



182号土坑(39区63号土坑)



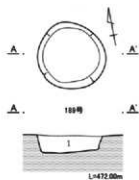
1. 暗褐色土: IV層相当。



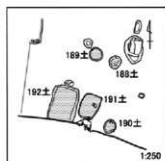
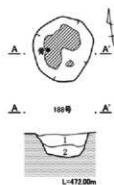
第179図 Ⅲ区2面179号~187号土坑



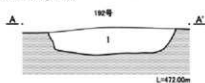
189号土坑(39区35号土坑)



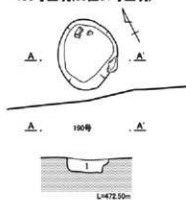
188号土坑(39区34号土坑)



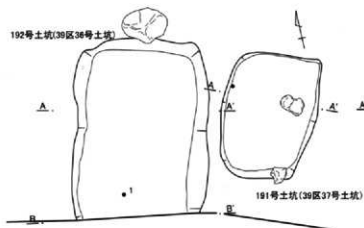
191·192号土坑



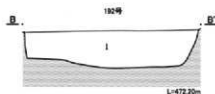
190号土坑(39区31号土坑)



192号土坑(39区36号土坑)



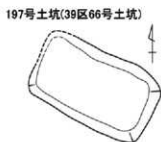
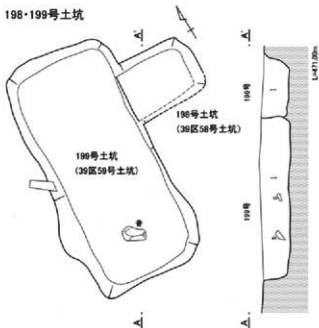
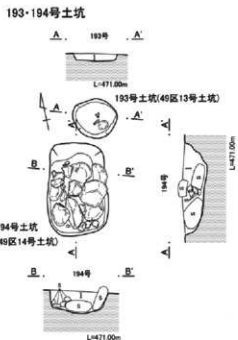
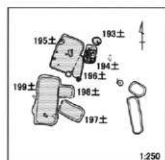
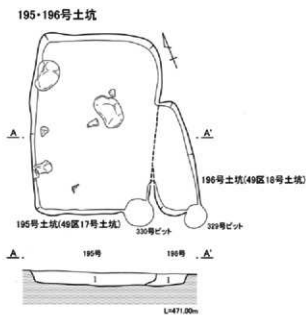
191号土坑(39区37号土坑)



1. 暗褐色土: IV層相当。
2. 黑色土: V層相当。

0 1:50 2m

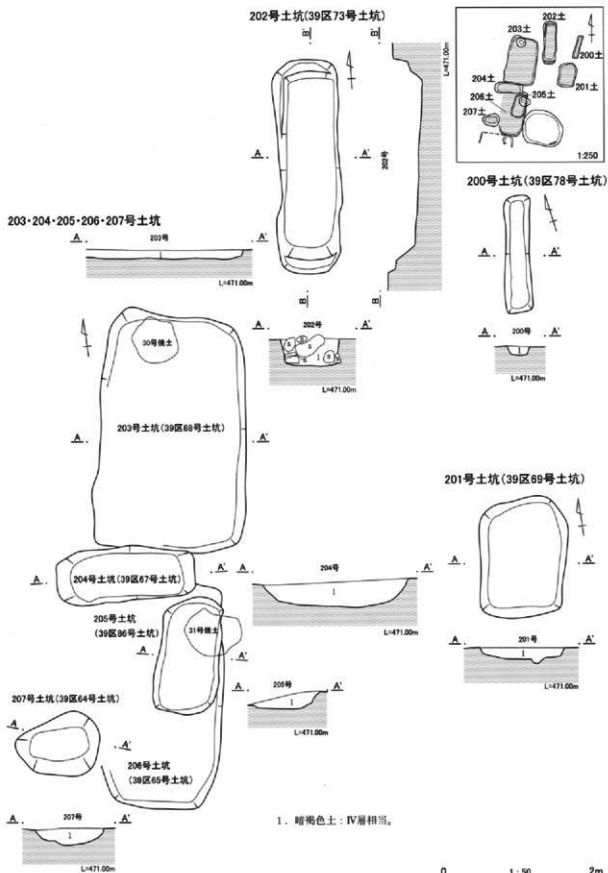
第180圖 Ⅲ區 2 面188号~192号土坑



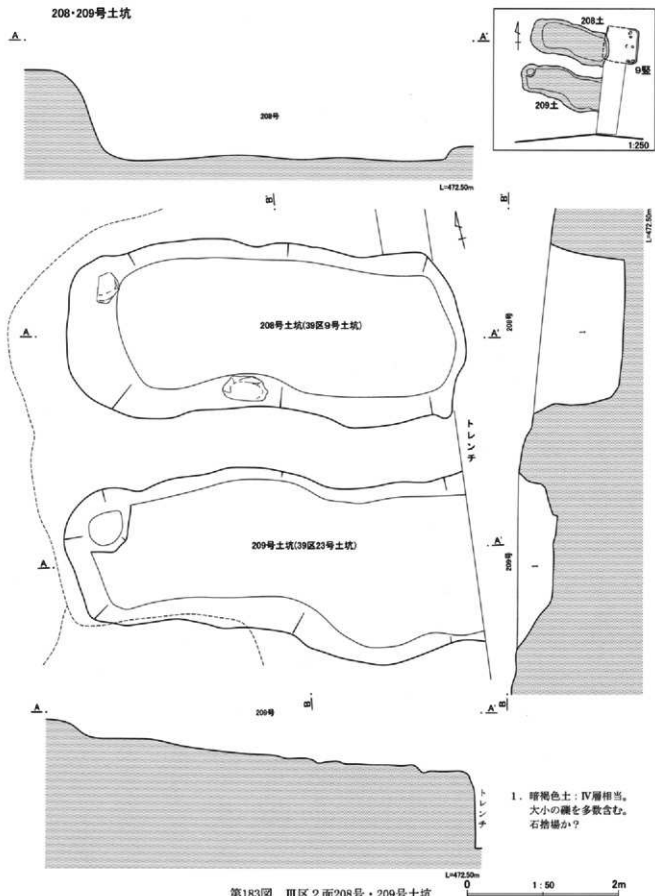
1. 暗褐色土: IV層相当。

0 1:50 2m

第181図 Ⅲ区2面193号～199号土坑

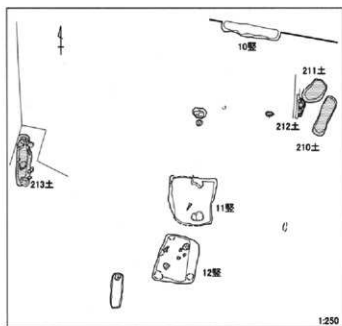
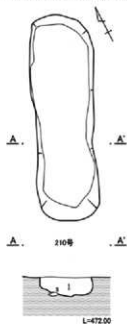


第182図 Ⅲ区2面200号~207号土坑

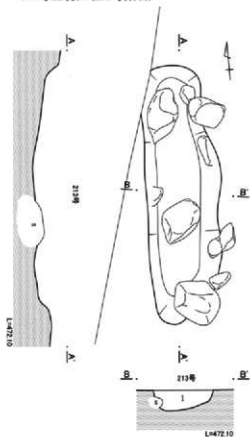


第183図 Ⅲ区2面208号・209号土坑

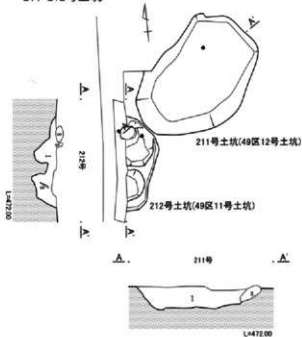
210号土坑(49区4号土坑)



213号土坑(49区2号集石)



211・212号土坑

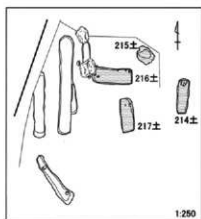
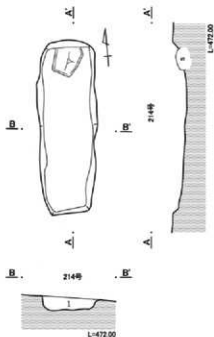


1. 暗褐色土: IV層相当。

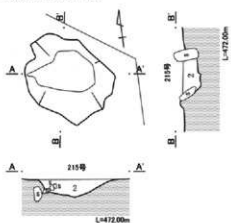
第184図 Ⅲ区2面210号~213号土坑



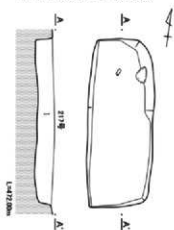
214号土坑(39区179号土坑)



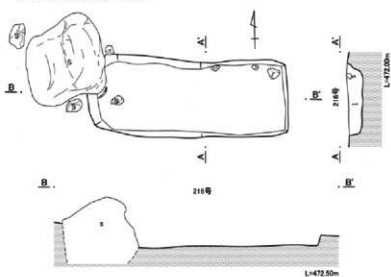
215号土坑(49区5号土坑)



217号土坑(39区7号土坑)



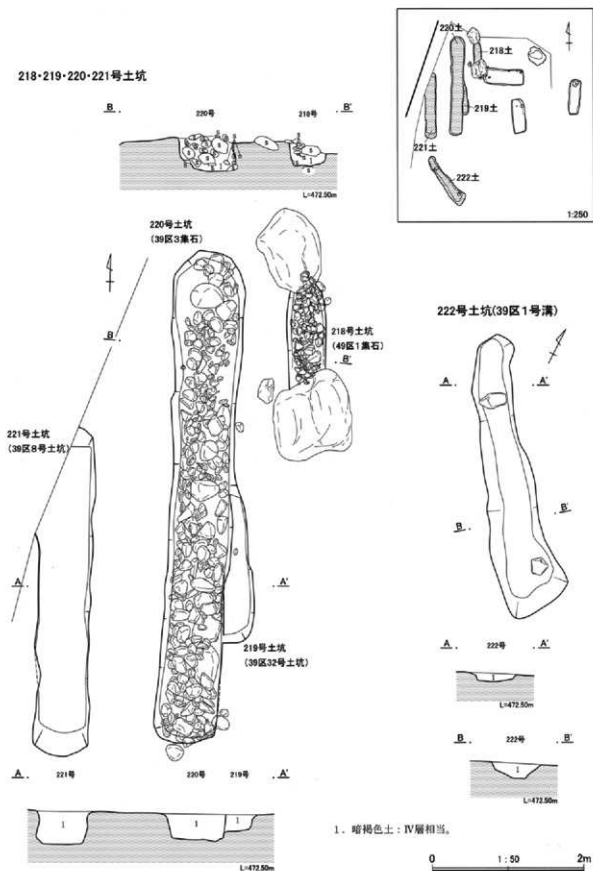
216号土坑(49区3号土坑)



1. 暗褐色土: IV層相当。
2. 黒色土: V層相当。

第185图 Ⅲ区2面214号~217号土坑

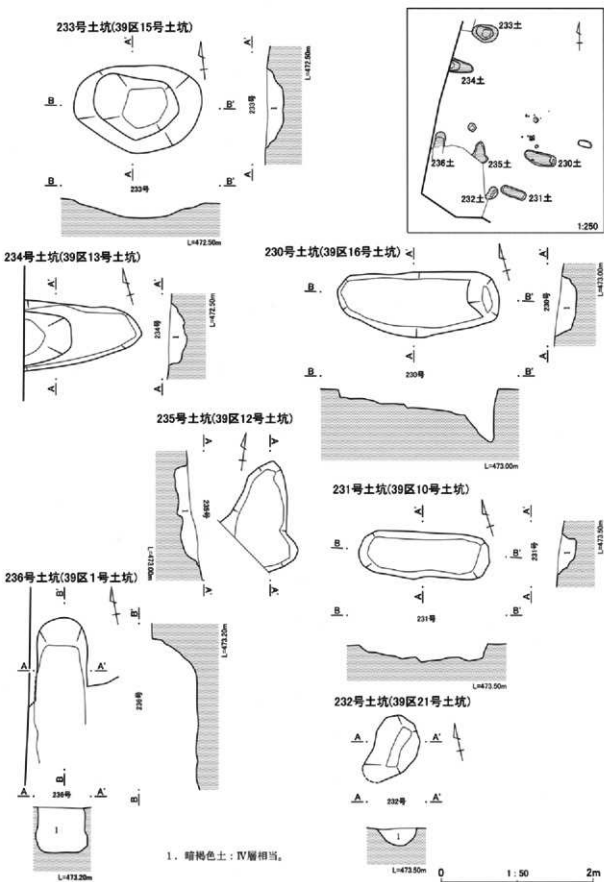




第186图 Ⅲ区2面218号~222号土坑

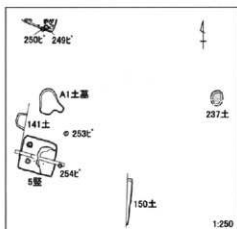
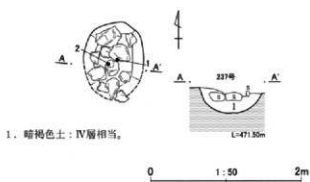






第188图 Ⅲ区2面230号~236号土坑

237号土坑(39区4号集石)



第189図 Ⅲ区2面237号土坑

表17 Ⅲ区2面土坑まとめ

土坑番号	旧土坑番号	長軸方向	方位	平面形状	最大点 (cm)		深さ	出土遺物	関係関係
					長径	短径			
1	48区 305号土坑	東西?	西北西→東南東?	横円形?	165	(70)	40	跡7点	2号土坑
2	48区 126号土坑	南北	北北東→南南西	横円形	230	165	15	—	1号土基, 2号ピット
3	48区 304号土坑	不明	円形で不明	円形	85		20	—	無し
4	48区 85号土坑	南北	北北東→南南西	長方形	210	50	50	跡2点	1号竪立柱1・2, 5号ピット
5	48区 123号土坑	南北	北北東→南南西	長方形	195	50	不明	—	1・2号礎礎
6	48区 125号土坑	不明	円形で不明	円形	150		40	竪2式50点, 竪中1点	2号礎礎, 7号土坑
7	48区 277号土坑	北東→西	北東→西	横円形	90	70	25	—	2号礎礎, 6号土坑
8	48区 240号土坑	不明	円形で不明	円形	115		20	竪2式3点	3号礎礎
9	48区 12号土坑	東西	西北西→東南東	円形	110	90	35	竪2式8点, 竪中1点	3号礎礎
10	48区 311号土坑	南北	南北	横円形	110	100	30	跡5点	11号土坑
11	48区 312号土坑	東西	東北東→西南西	横円形	150	100	70	跡5点	10号土坑
12	48区 21号土坑	南北	南北	長方形	260	200	90	跡2式8点	13号土坑
13	48区 22号土坑	東西	東西	長方形	320	240	40	跡3点, 竪中2点, 竪中2点, 竪中2点, 竪中2点	12号土坑, 24号ピット
14	48区 79号土坑	南北	南北	横円形	115	130	50	—	22号ピット
15	48区 101号土坑	南北	北北東→南南西	長方形	75	50	5	—	無し
16	48区 430号土坑	東西?	東西?	長方形	90	45	15	加4式1点	17号土坑
17	48区 319号土坑	南北	南北	横円形	160	105	25	竪柱3点	16号土坑
18	48区 132号土坑	不明	円形で不明	円形	110		25	竪柱3点	40号ピット
19	48区 290号土坑	南北	北北東→南南西	長方形?	230	(85)	35	竪2式3点	2号竪立柱B
20	48区 291号土坑	東西	東西	横円形	105	95	35	跡11点	無し
21	48区 292号土坑	不明	円形で不明	円形	60		10	—	無し
22	48区 439号土坑	東西	西北西→東南東	横円形	110	80	15	跡1式11点	43号ピット
23	48区 438号土坑	北東→西	北東→西	横円形	160	105	40	加3式2点, 加4式83点	24号土坑
24	48区 442号土坑	南北?	南北?	長方形	(80)	100	25	—	23号土坑
25	48区 230号土坑	南北	南北	長方形	(100)	60	15	加3式1点, 竪5式1点, 跡1式27点	無し
26	48区 149号土坑	南北	北北東→南南西	長方形	2000	60	15	—	27号土坑
27	48区 150号土坑	南北	西北西→東南東	長方形	110	50	35	竪2式1点, 竪柱2点	26号土坑
28	48区 136号土坑	東西	北北東→南南西	長方形	295	65	20	—	29号土坑
29	48区 115号土坑	南北	北北東→南南西	長方形	(160)	65	20	竪柱1点	28号土坑
30	48区 374号土坑	不明	円形で不明	円形	50		不明	跡1式3点, 竪柱3点	6号礎礎, 31号土坑
31	48区 372号土坑	東西	東西	長方形	(140)	100	40	竪中1点, 竪2式1点	8号竪立柱15-27, 5号礎礎, 29・32号土坑
32	48区 375号土坑	東西?	東西?	横円形	(20)	130	35	竪2式34点, 竪柱3点	31号土坑, 54号ピット
33	48区 147号土坑	東西	西北西→東南東	長方形	145	105	30	竪2式3点	34号土坑
34	48区 162号土坑	不明	円形で不明	円形	75	(85)	10	—	7号礎礎, 33号土坑
35	48区 111号土坑	東西	西北西→東南東	横円形	110	80	7	—	51号ピット
36	48区 40号土坑	東西	東西	横円形	120	100	20	竪2式3点	無し
37	48区 368号土坑	不明	円形で不明	円形	150		40	竪2式100点	8号竪立柱20
38	48区 102号土坑	東西	東北東→西南西	横円形	65	40	10	—	無し
39	48区 310号土坑	東西	東北東→西南西	横円形	85	75	40	—	53号ピット
40	48区 414号土坑	南北?	南北?	横円形	190	185	75	跡0.4点, 十三124点, 竪柱5点	2号竪立柱4
41	48区 431号土坑	南北?	南北?	長方形	125	106	25	—	2号竪立柱14
42	48区 429号土坑	南北?	北北東→南南西?	長方形	(85)	50	30	—	無し
43	48区 377号土坑	東西	東西	横円形	95	85	35	—	1面3号竪立柱1
44	48区 106号土坑	北西→南東	北西→南東	長方形	100	50	20	—	無し
45	48区 209号土坑	東西	南北	長方形	110	50	25	竪柱1点	無し
46	48区 139号土坑	東西	西北西→東南東	長方形	125	65	25	—	47号土坑
47	48区 138号土坑	東西?	西北西→東南東?	長方形	100	(70)	10	—	46号土坑

土坑番号	旧土坑番号	長軸方向	方位	平面形状	大きさ (cm)			出土遺物	遺構関係
					長径		深さ		
					長径	短径			
48	48区 228号土坑	南北	南北	長方形	235	110	40	—	10号環立柱13、49号土坑
49	48区 425号土坑	西北→南東	西北→南東	長方形	(130)	80	30	—	10号環立柱13、49号土坑
50	48区 225号土坑	南北	北北西→南南東	楕円形	155	100	25	—	10号環立柱11、14号環立柱13、163号ビット
51	48区 91号土坑	東西	西北西→東南東	長方形	130	90	30	礎石1点、礎2式2点	4号環立柱5
52	48区 434号土坑	東西?	東西?	長方形	110	(85)	35	—	53号土坑
53	48区 338号土坑	東西?	東西?	長方形	145	(80)	40	—	4号環立柱7、54号土坑、119号ビット
54	48区 433号土坑	東西?	東西?	長方形	150	不明	25	礎1式1点	4号環立柱7、10号環立柱2、53・55号土坑、119号ビット
55	48区 432号土坑	東西?	東西?	長方形	130	不明	25	礎2式3点	4号環立柱7、10号環立柱2、54号土坑
56	48区 450号土坑	南北	北北西→南南東	楕円形	160	120	15	—	—
57	48区 234号土坑	東西	東西	楕円形	95	60	30	—	4号環立柱15、58号土坑、127号ビット
58	48区 153号土坑	南北	南北	正方形	(145)	130	30	—	4号環立柱15、57号土坑
59	48区 142号土坑	南北	南北	楕円形	115	95	30	—	—
60	48区 416号土坑	東西	東西	正方形	125	120	40	加石1式45点	157・158号土坑
61	48区 199号土坑	南北	南北	長方形	130	110	20	—	62号土坑
62	48区 415号土坑	不明	円形で不明	円形	100	50	50	—	61・63号土坑
63	48区 436号土坑	東西?	東西?	楕円形	(80)	(60)	30	—	62号土坑
64	48区 200号土坑	北西→南東	北西→南東	長方形	(120)	80	25	—	—
65	48区 204号土坑	北東→南西	北東→南西	楕円形	170	130	40	—	—
66	48区 137号土坑	東西	東西	長方形	65	55	30	—	4号環立柱3
67	48区 201号土坑	東西	東西	楕円形	130	90	20	—	63号土坑
68	48区 202号土坑	東西	東西	長方形	120	80	45	—	67号土坑
69	48区 316号土坑	東西	東西	楕円形	(110)	95	15	—	5号環立柱3、96・97号ビット
70	48区 339号土坑	東西	東西	円形	70	60	不明	—	—
71	48区 360号土坑	東西	西西北→東南東	長方形	70	50	40	—	—
72	48区 143号土坑	不明	不明	不明	不明	不明	不明	—	73・74号土坑
73	48区 152号土坑	南北	北北西→南南東	楕円形	75	65	30	—	72・74号土坑
74	48区 353号土坑	東西	東西	円形	(85)	(85)	35	—	72・73号土坑
75	48区 335号土坑	不明	円形で不明	円形	120	30	—	—	133号ビット
76	48区 121号土坑	南北	北北東→南南西	長方形	305	60	不明	—	—
77	48区 198号土坑	不明	円形で不明	円形	100	10	不明	—	—
78	48区 132号土坑	南北	南北	長方形	290	240	25	—	12号環立柱6・7、216・220号ビット
79	48区 171号土坑	東西?	東西?	長方形	(85)	60	30	—	—
80	48区 175号土坑	不明	円形で不明	円形	100	15	—	—	—
81	48区 187号土坑	南北	北北西→南南東	長方形	195	80	30	—	—
82	48区 189号土坑	北東→南西	北東→南西	長方形	90	65	25	—	226号ビット
83	48区 190号土坑	南北	北北東→南南西	長方形	85	60	30	—	—
84	48区 191号土坑	北東→南西	北東→南西	楕円形	75	55	20	—	—
85	48区 179号土坑	南北	北北東→南南西	長方形	110	65	35	—	—
86	48区 145号土坑	北東→南西?	北東→南西?	円形	155	145	30	—	—
87	48区 139号土坑	東西	東西	長方形	(110)	100	20	—	—
88	48区 138号土坑	北東→南西	北東→南西	長方形	(105)	(75)	20	—	—
89	48区 247号土坑	北東→南西	北北西→南南東	正方形	155	150	10	—	—
90	48区 84号土坑	北東→南西	北東→南西	長方形	135	105	55	—	—
91	48区 8号土坑	南北	北北東→南南西	長方形	200	80	15	—	—
92	48区 3号土坑	南北	北北東→南南西	長方形	250	75	60	—	—
93	48区 2号土坑	南北	北北東→南南西	長方形	185	95	40	—	—
94	48区 1号土坑	東西	西西北→東南東	長方形	210	90	30	—	—
95	48区 7号土坑	南北	北北東→南南西	長方形	235	85	50	—	—
96	48区 6号土坑	東西	東西	楕円形	190	80	20	—	—
97	48区 5号土坑	南北	南北	正方形	230	60	15	—	—
98	48区 248号土坑	東西	西西北→東南東	長方形	185	150	25	—	—
99	48区 52号土坑	南北	北北東→南南西	長方形	220	70	50	—	—
100	48区 51号土坑	南北	南北	長方形	230	65	65	—	—
101	48区 27号土坑	南北	北北東→南南西	長方形	130	65	30	—	—
102	48区 59号土坑	南北	北北東→南南西	円形	130	(120)	75	—	—
103	48区 58号土坑	東西	東西	円形	100	90	85	—	—
104	48区 65号土坑	南北	南北	長方形	180	80	20	—	—
105	48区 54号土坑	南北	南北	長方形	185	100	20	—	—
106	48区 63号土坑	南北	南北	長方形	350	85	45	—	—
107	48区 95号土坑	南北	南北	長方形	(200)	90	30	—	—
108	48区 245号土坑	東西?	東西?	楕円形	(130)	120	10	—	—
109	48区 86号土坑	東西	東西	楕円形	85	60	10	—	—
110	48区 40号土坑	南北	南北	長方形	220	60	40	—	—
111	48区 37号土坑	北西→南東	北西→南東	長方形	100	60	50	—	—
112	48区 36号土坑	南北	北北東→南南西	長方形	250	120	60	—	—
113	48区 35号土坑	南北	北北東→南南西	長方形	120	70	20	—	—
114	48区 34号土坑	南北	北北東→南南西	長方形	190	65	70	—	—
115	48区 33号土坑	南北	北北東→南南西	長方形	160	65	20	—	—
116	48区 32号土坑	南北	北北東→南南西	長方形	140	80	60	—	—
117	48区 54号土坑	東西?	東西?	長方形	(120)	60	15	—	—
118	48区 31号土坑	南北	南北	長方形	230	80	60	—	—

土坑 番号	旧土坑番号	長軸方向	方位	平面形状	大径寸 (cm)		深さ	出土遺物	重要関係
					長径				
					長径	短径			
119	49区 244号土坑	不明	不明	不明	不明	不明	50	—	120・121号土坑
120	49区 62号土坑	南北?	北北東~南南西?	長方形	130	(40)	25	—	119・121・125号土坑
121	49区 61号土坑	南北	北北東~南南西	長方形	215	70	80	溝後3点	119・120・122・123・125号土坑
122	49区 60号土坑	南北?	北北東~南南西?	長方形	不明	不明	65	—	121・123号土坑
123	49区 53号土坑	南北	北北東~南南西	長方形	170	(65)	45	溝後1点	H2号土坑、126号土坑
124	49区 49号土坑	東西	西北西~東南東	横円形	215	170	145	—	無し
125	49区 30号土坑	南北	北北東~南南西	長方形	275	(80)	70	—	H3号土坑蓋
126	49区 25号土坑	南北	南北	横円形	85	60	20	溝後1点	H2号土坑蓋、127号土坑
127	49区 39号土坑	南北	北北東~南南西	長方形	500	80	70	—	H2号土坑蓋、126号土坑
128	49区 99号土坑	南北	北北東~南南西	長方形	(80)	40	—	—	129・130号土坑
129	49区 57号土坑	南北	南北	長方形	320	50	30	溝中1点、溝後4点	H4号型穴住居、128・130・131号土坑
130	49区 87号土坑	不明	不明	不明	不明	不明	25	—	128・129・131・133号土坑
131	49区 86号土坑	南北	北北東~南南西	長方形	260	80	55	H1式1点、室1式3点、室2式2点、溝後14点	H4号型穴住居、2号型穴住居、129・130・132・133・134号土坑
132	49区 80号土坑	南北?	南北?	横円形	—	—	20	—	H4号型穴住居、131・134号土坑
133	49区 88号土坑	東西?	東西?	不明	—	—	25	—	130・131号土坑
134	49区 89号土坑	東西?	西北西~東南東?	不明	—	—	30	溝後1点	H4号型穴住居、2号型穴住居、131・132号土坑
135	49区 28号土坑	南北	南北	長方形	195	70	15	—	無し
136	49区 26号土坑	南北	南北	長方形	570	70	15	—	無し
137	49区 24号土坑	南北	北北東~南南西	正方形	140	(120)	35	—	138・139号土坑
138	49区 41号土坑	東西	西北西~東南東	長方形	165	70	35	—	137・139号土坑
139	49区 22号土坑	東西	東南東	長方形	140	80	30	—	137・139号土坑
140	49区 82号土坑	北西~南東?	西北西~東南東?	長方形	(160)	45	10	—	無し
141	39区 148号土坑	—	北北東~南南西?	不明	100	(60)	25	—	無し
142	39区 154号土坑	南北	北北東~南南西	長方形	410	85	30	—	無し
143	39区 155号土坑	東西	西北西~東南東	長方形	115	80	25	—	無し
144	39区 177号土坑	東西	西北西~東南東	長方形	120	80	20	溝中4点	145号土坑
145	39区 178号土坑	東西?	西北西~東南東?	長方形	(70)	70	20	—	144・146号土坑
146	39区 174号土坑	北東~南西	北北東~南南西	長方形	380	80	15	—	145号土坑
147	39区 169号土坑	南北	北北東~南南西	長方形	115	60	30	—	無し
148	39区 170号土坑	南北	南北	長方形	245	65	25	—	無し
149	39区 141号土坑	南北	北北東~南南西	長方形	155	100	30	—	無し
150	39区 126号土坑	南北?	南北?	長方形	205	(25)	45	—	無し
151	39区 150号土坑	南北?	北北東~南南西?	横円形	(80)	80	15	—	無し
152	39区 138号土坑	東西	東西	長方形	90	60	20	—	無し
153	39区 131号土坑	東西	東西	長方形	260	140	35	—	154号土坑
154	39区 130号土坑	南北	南北	長方形	375	150	40	—	153号土坑、234号ピット
155	39区 119号土坑	東西	東西	横円形	105	80	20	—	290号ピット
156	49区 80号土坑	東西	西北西~東南東	長方形	160	80	10	—	無し
157	49区 50号土坑	南北	南北	長方形	560	70	20	—	H6号土坑蓋、322号ピット
158	49区 29号土坑	東西	東西	長方形	(90)	70	40	溝後2点	159号土坑
159	49区 19号土坑	東西	東西	長方形	(140)	80	20	溝後1点	159号土坑
160	39区 77号土坑	南北	北北東~南南西	長方形	480	70	40	—	無し
161	39区 76号土坑	南北?	南北?	長方形	170	65	15	—	無し
162	39区 75号土坑	北西~南東	西北西~東南東	長方形	110	80	20	—	無し
163	39区 74号土坑	南北	南北	長方形	250	75	15	—	無し
164	39区 93号土坑	南北	北北東~南南西	長方形	180	100	10	—	165号土坑
165	39区 92号土坑	南北	北北東~南南西	長方形	220	190	10	—	164号土坑、288号ピット
166	39区 94号土坑	南北	北北東~南南西	長方形	80	(50)	10	—	167号土坑
167	39区 95号土坑	東西	西北西~東南東	長方形	210	110	30	—	166・168・169号土坑
168	39区 104号土坑	東西?	西北西~東南東?	長方形	90	(40)	25	—	167号土坑
169	39区 96号土坑	南北	北北東~南南西	長方形	230	195	15	—	167・170号土坑
170	39区 173号土坑	東西?	南北?	長方形	165	(80)	20	溝中2点	159号土坑
171	39区 48号土坑	南北	北北東~南南西	長方形	180	110	30	—	無し
172	39区 85号土坑	南北	北北東~南南西	長方形	130	90	15	—	無し
173	39区 50号土坑	東西	東西	長方形	200	140	50	—	無し
174	39区 51号土坑	南北	北北東~南南西	長方形	260	120	20	—	308・309・310号ピット
175	39区 126号土坑	東西?	東西?	横円形	(130)	(60)	50	—	無し
176	39区 57号土坑	東西	東西	横円形	320	135	55	石臼1点	無し
177	39区 118号土坑	南北	南北	横円形	125	60	45	—	無し
178	39区 52号土坑	南北	北北東~南南西	横円形	190	70	10	—	無し
179	39区 71号土坑	南北	北北東~南南西	正方形	(120)	120	20	—	180号土坑
180	39区 70号土坑	東西	西北西~東南東	長方形	150	115	20	—	179号土坑
181	39区 61号土坑	南北?	南北?	横円形	130	(75)	15	—	無し
182	39区 63号土坑	南北?	北北東~南南西?	長方形	(235)	(80)	70	—	320号ピット
183	39区 28号土坑	南北	南北	長方形	320	50	60	—	無し
184	39区 62号土坑	南北	北北東~南南西	長方形	85	40	25	溝後2点	無し
185	39区 29号土坑	東西	西北西~東南東	長方形	175	130	30	—	186号土坑
186	39区 30号土坑	南北	南北	長方形	(280)	70	80	—	185・187号土坑
187	39区 27号土坑	南北	南北	横円形	190	125	(60)	—	186号土坑
188	39区 34号土坑	南北	北北東~南南西	円形	85	80	30	—	無し

土坑番号	田土坑番号	長軸方向	方位	平面形状	最大径 (cm)		出土遺物	重複関係	
					長径	短径			
					長さ	深さ			
189	29 区 25 号土坑	東西	西北西～東南東	円形	93	85	20	—	無し
190	29 区 31 号土坑	南北	北北東～南南西	円形	95	80	15	—	無し
191	29 区 27 号土坑	南北	北北東～南南西	長方形	170	125	10	—	無し
192	29 区 36 号土坑	南北?	北北東～南南西?	長方形	(240)	180	45	石口2点	無し
193	49 区 13 号土坑	東西	西北西～東南東	円形	80	50	10	—	無し
194	49 区 14 号土坑	南北	南北	長方形	120	80	30	—	無し
195	49 区 17 号土坑	南北	北北東～南南西	長方形	240	170	15	錆後4点	195号土坑、330号ビット
196	49 区 18 号土坑	南北	南北	長方形	(190)	60	15	—	195号土坑、329号ビット
197	29 区 66 号土坑	東西	西北西～東南東	長方形	170	100	不明	—	無し
198	29 区 58 号土坑	東西?	東西?	長方形	(165)	(80)	35	—	199号土坑
199	29 区 59 号土坑	南北	西北	長方形	220	150	40	—	199号土坑
200	29 区 79 号土坑	南北	北北東～南南西	長方形	155	30	10	—	無し
201	29 区 69 号土坑	南北	南北	長方形	160	115	20	—	無し
202	29 区 73 号土坑	南北	南北	長方形	280	80	25	—	無し
203	29 区 68 号土坑	南北	北北東～南南西	長方形	310	190	10	—	30号横土、204号土坑
204	29 区 67 号土坑	東西	東西	長方形	180	70	35	—	200・206号土坑
205	29 区 86 号土坑	南北	北北東～南南西	長方形	160	80	25	—	31号横土、206号土坑
206	29 区 65 号土坑	南北?	北北東～南南西?	長方形	(200)	(150)	不明	—	8・9号竪穴状遺構、31号横土、206・207号土坑
207	29 区 64 号土坑	東西	東西	楕円形	110	85	20	—	206号土坑
208	29 区 9 号土坑	東西	西北西～東南東	長方形	530	220	110	石口3点、風蝕1点、空堀1点	9号竪穴状遺構
209	29 区 23 号土坑	東西	西北西～東南東	長方形	(540)	220	50	—	無し
210	49 区 4 号土坑	北東～南西	北北東～南南西	長方形	270	75	25	—	無し
211	49 区 12 号土坑	北東～南西	北東～南西	楕円形	180	120	30	錆後1点	無し
212	49 区 11 号土坑	南北?	北北東～南南西?	楕円形	(120)	(45)	30	陶磁器1点	無し
213	49 区 2 号燧石	南北	南北	長方形	340	100	30	錆貫1点	無し
214	29 区 179 号土坑	南北	南北	長方形	230	75	20	—	無し
215	49 区 5 号土坑	北西～南東	北西～南東	楕円形	125	95	25	—	無し
216	49 区 3 号土坑	東西	東西	長方形	265	100	25	—	無し
217	29 区 7 号土坑	南北	南北	長方形	220	85	20	—	無し
218	49 区 1 号燧石	南北	南北	長方形	—	50	30	—	無し
219	29 区 32 号土坑	南北?	南北?	長方形	(220)	(40)	20	—	220号土坑
220	29 区 3 号燧石	南北	南北	長方形	650	80	35	—	219号土坑
221	29 区 8 号土坑	南北	南北	長方形	(430)	70	40	—	無し
222	29 区 1 号溝	北西～南東	北西～南東	長方形	360	55	20	陶磁器1点	無し
223	29 区 33 号土坑	南北	北北西～南南東	楕円形	80	70	20	—	無し
224	29 区 5 号土坑	北東～南西	北北東～南南西	長方形	100	80	30	—	無し
225	29 区 6 号土坑	北西～南東	北北西～南南東	楕円形	(540)	170	70	—	226号土坑、342号ビット
226	29 区 2 号土坑	北西～南東	北西～南東	長方形	130	(80)	不明	—	225号土坑
227	29 区 20 号土坑	東西	西北西～東南東	長方形	90	40	25	—	無し
228	29 区 18 号土坑	北東～南西	北北東～南南西	長方形	250	110	65	—	無し
229	29 区 17 号土坑	北東～南西?	北北東～南南西?	楕円形	(140)	80	25	—	無し
230	29 区 16 号土坑	東西	西北西～東南東	長方形	215	85	25	—	無し
231	29 区 10 号土坑	東西	西北西～東南東	長方形	170	80	20	—	無し
232	29 区 21 号土坑	北東～南西	北北東～南南西	楕円形	(95)	50	25	—	無し
233	29 区 15 号土坑	東西	東西	楕円形	170	115	20	—	無し
234	29 区 13 号土坑	東西?	西北西～東南東?	楕円形	(180)	(85)	25	—	無し
235	29 区 12 号土坑	南北?	南北?	不明	(130)	(75)	20	—	無し
236	29 区 1 号土坑	南北?	北北東～南南西?	長方形	(100)	(70)	60	—	無し
237	29 区 4 号燧石	南北	南北	楕円形	(105)	80	不明	錆貫6点	無し

縄文土器の胎号: 阿1式(阿玉台1式)・加(加曾利)・加3式(加曾利3式)・加4式(加曾利4式)・加B1式(加曾利B1式)・十三(三菩提式)・称(称名寺式)・称1式(称名寺1式)・称2式(称名寺2式)・縄(縄文)・縄中(縄文中期)・縄後(縄文後期)・曾6式(曾利6式)・堀(堀之内)・堀1式(堀之内1式)・堀2式(堀之内2式)・堀3式(堀之内3式)・跡b(跡磯b式)・跡c(跡磯c式)

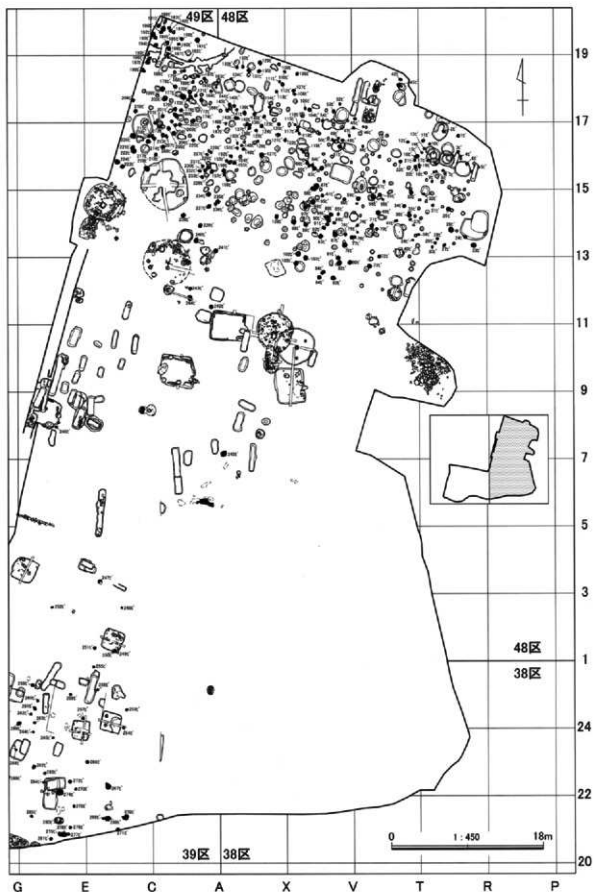
## 第9節 ピット [1号～343号ピット]

Ⅲ区2面から、343基のピットが検出された。なお、調査時は、すべて土坑として記録したが、整理過程で土坑及びピットに分類した。これらのピットのほとんどは、調査区の北側で検出されており、14棟検出された掘立柱建物と関連があると推定される。これら、ピットの時代を特定するのは困難であるが、ピットの覆土は大部分がⅣ層相当の暗褐色土であり、ほとんどが中近世であると推定される。しかしながら、一部のピットの覆土は、Ⅴ層相当の黒色土である。また、一部のピットには、縄文時代の土器片が検出されているが、これらのほとんどは流れ込みであると推定される。

土坑及びピットの分類は、基本的に基礎整理を行った石田 真の分類にしたがった。また、土層注記が欠落しているピットも多数あったが、同様に石田のまとめにしたがい土層を復元した。

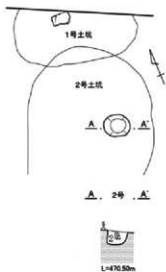


第190図 Ⅲ区2面ピット位置図1/2

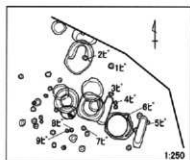


第191図 Ⅲ区2面ピット位置図2/2

2号ピット(48区154号土坑)

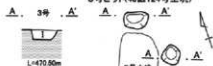


1号ピット(48区298号土坑)



3・4号ピット

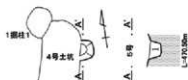
3号ピット(48区124号土坑)



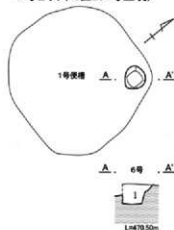
4号ピット(48区163号土坑)



5号ピット(48区196号土坑)



6号ピット(48区231号土坑)



7・8・9号ピット

8号ピット (48区161号土坑) 7号ピット (48区36号土坑)  
9号ピット (48区39号土坑)



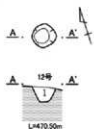
1. 暗褐色土: IV層相当。
2. 黒褐色土: V層相当。



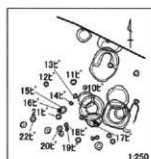
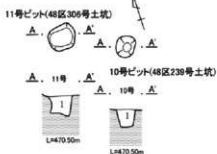
第192図 Ⅲ区2面1号～9号ピット



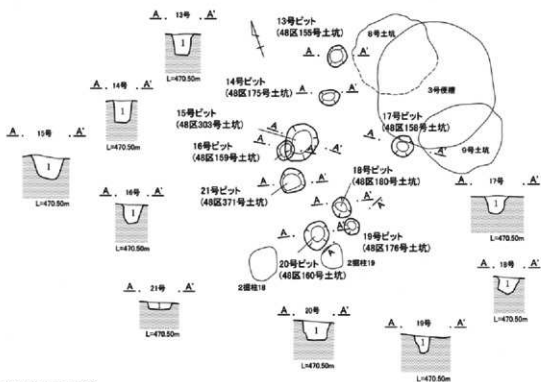
12号ピット(48区156号土坑)



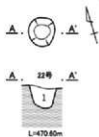
10・11号ピット



13・14・15・16・17・18・19・20・21号ピット



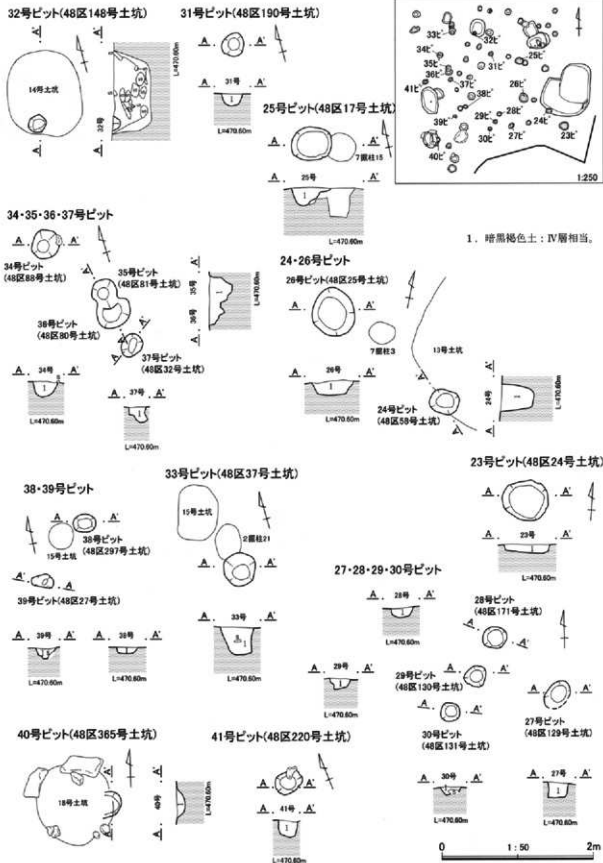
22号ピット(48区307号土坑)



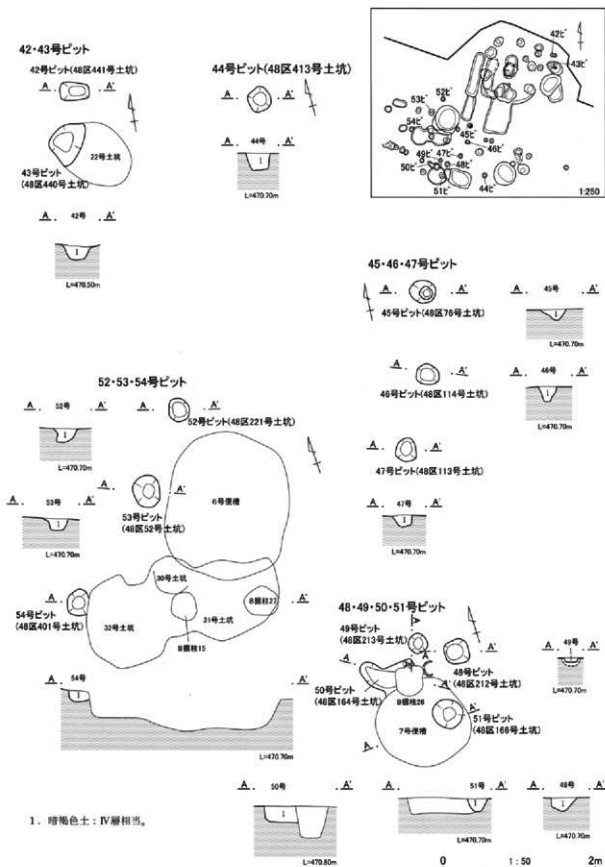
1. 暗褐色土: IV層相当

0 1:50 2m

第193図 Ⅲ区2面10号～22号ピット

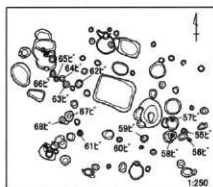


第194図 Ⅲ区2面23号～41号ピット

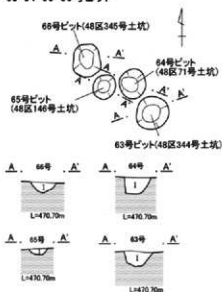


第195図 Ⅲ区 2面42号～54号ピット

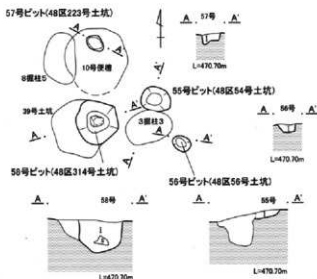
62号ピット(48区343号土坑)



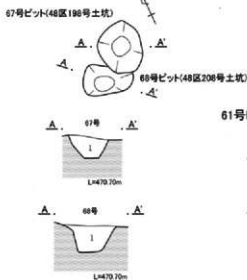
63・64・65・66号ピット



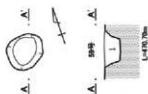
55・56・57・58号ピット



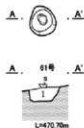
67・68号ピット



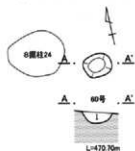
59号ピット(48区103号土坑)



61号ピット(48区327号土坑)



60号ピット(48区322号土坑)

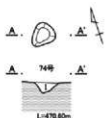


1. 暗褐色土: IV層相当。

0 1:50 2m

第196図 Ⅲ区2面55号～68号ピット

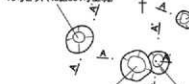
74号ピット(48区352号土坑)



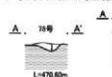
75・76・77・78号ピット



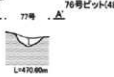
78号ピット(48区334号土坑)



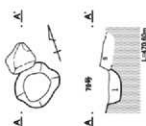
77号ピット(48区350号土坑)



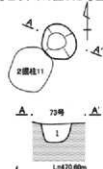
76号ピット(48区351号土坑)



79号ピット(48区333号土坑)

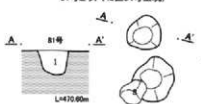


73号ピット(48区362号土坑)



80・81・82・83・84号ピット

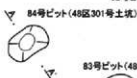
81号ピット(48区84号土坑)



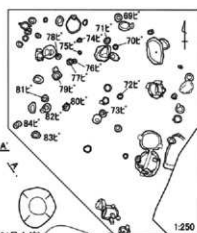
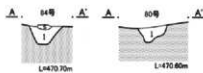
80号ピット(48区183号土坑)



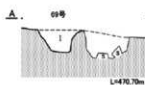
82号ピット(48区322号土坑)



83号ピット(48区331号土坑)



69・70・71号ピット

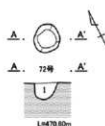


71号ピット(48区317号土坑)

70号ピット(48区318号土坑)



72号ピット(48区195号土坑)

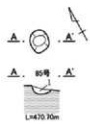


1. 暗褐色土: IV層相当。

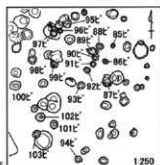
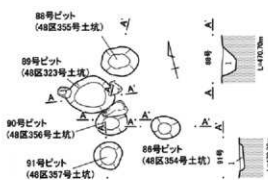
0 1:50 2m

第197図 Ⅲ区2面69号～84号ピット

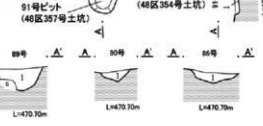
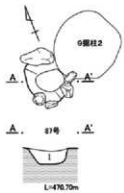
85号ピット(48区321号土坑)



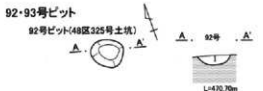
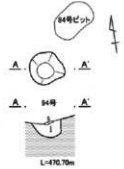
86・88・89・90・91号ピット



87号ピット(48区324号土坑)

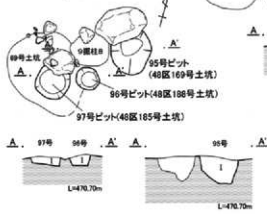


94号ピット(48区363号土坑)

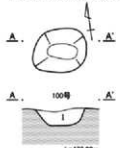


1. 暗褐色土: IV層相当。

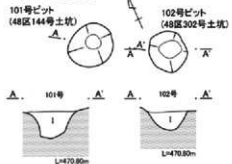
95・96・97号ピット



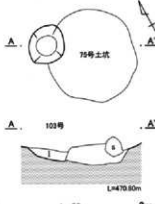
100号ピット(48区203号土坑)



101・102号土坑

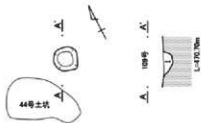


103号ピット(48区337号土坑)

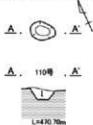


第198図 Ⅲ区2面85号～103号ピット

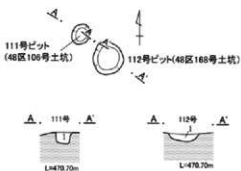
109号ピット(48区107号土坑)



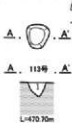
110号ピット(48区347号土坑)



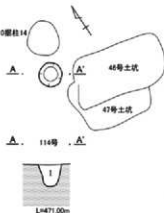
111・112号ピット



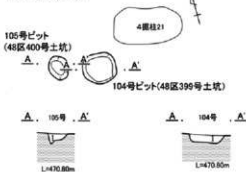
113号ピット(48区397号土坑)



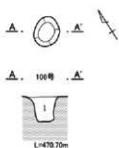
114号ピット(48区217号土坑)



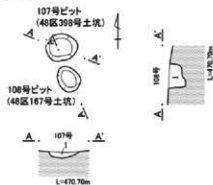
104・105号ピット



106号ピット(48区376号土坑)



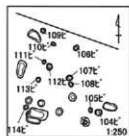
107・108号ピット



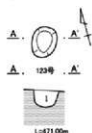
1. 暗褐色土: IV層相当。

第199図 Ⅲ区2面104号~114号ピット

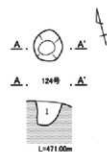
0 1:50 2m



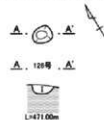
123号ピット(48区95号土坑)



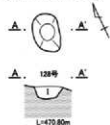
124号ピット(48区96号土坑)



126号ピット(48区140号土坑)

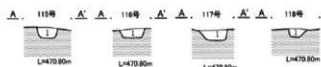
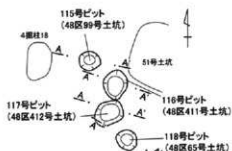


128号ピット(48区184号土坑)

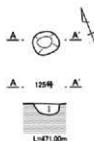


1. 暗褐色土: IV層相当。

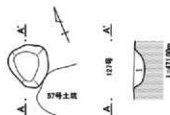
115・116・117・118号ピット



125号ピット(48区92号土坑)



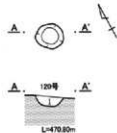
127号ピット(48区116号土坑)



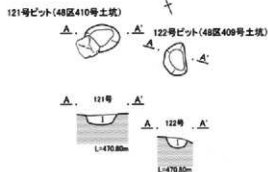
119号ピット(48区66号土坑)



120号ピット(48区72号土坑)

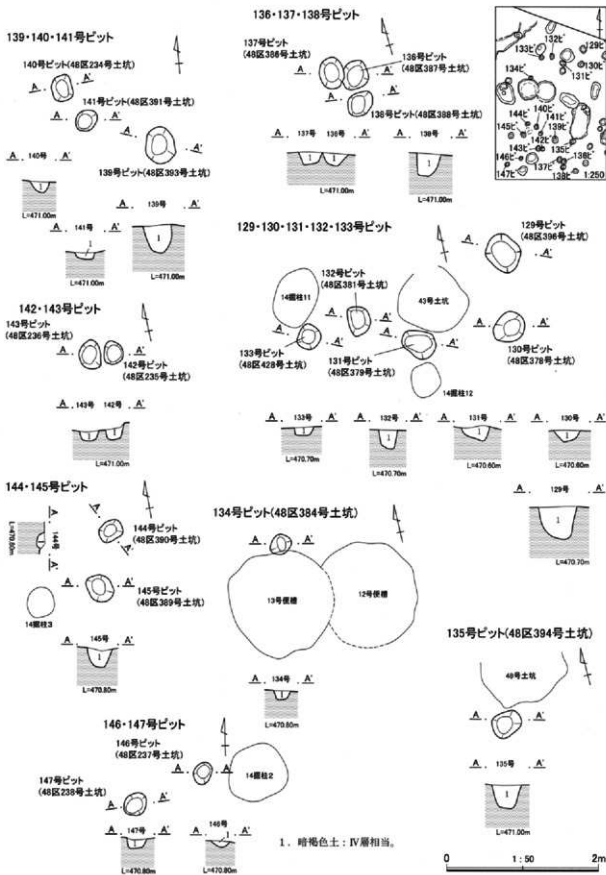


121・122号ピット

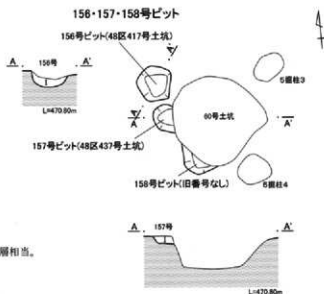
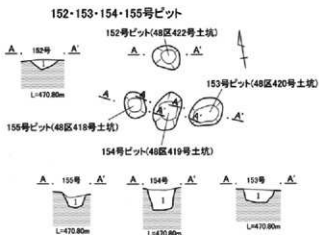
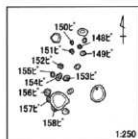
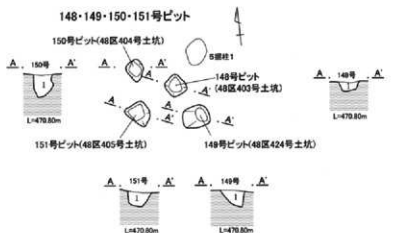


第200図 Ⅲ区2面115号～128号ピット

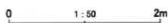




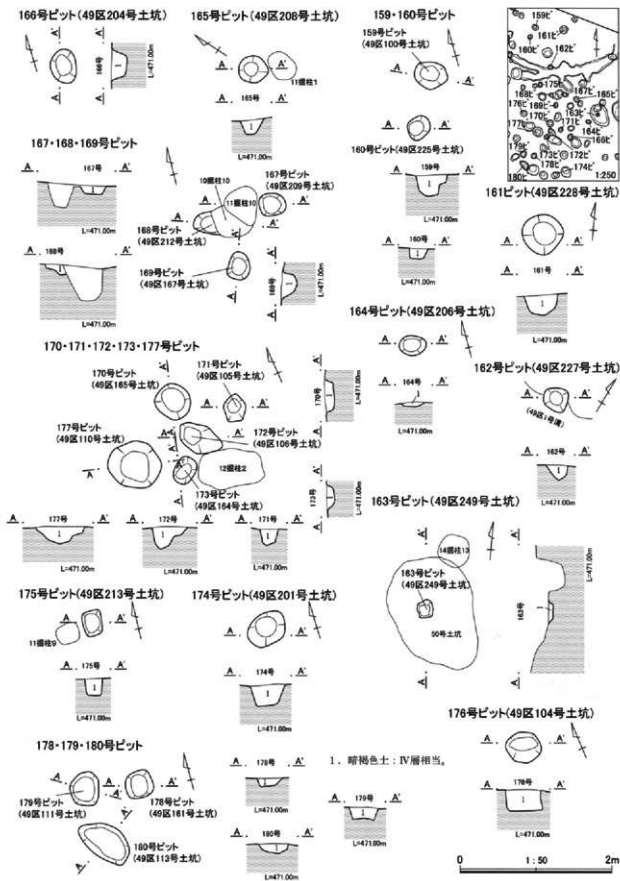
第201図 Ⅲ区 2面129号～147号ピット



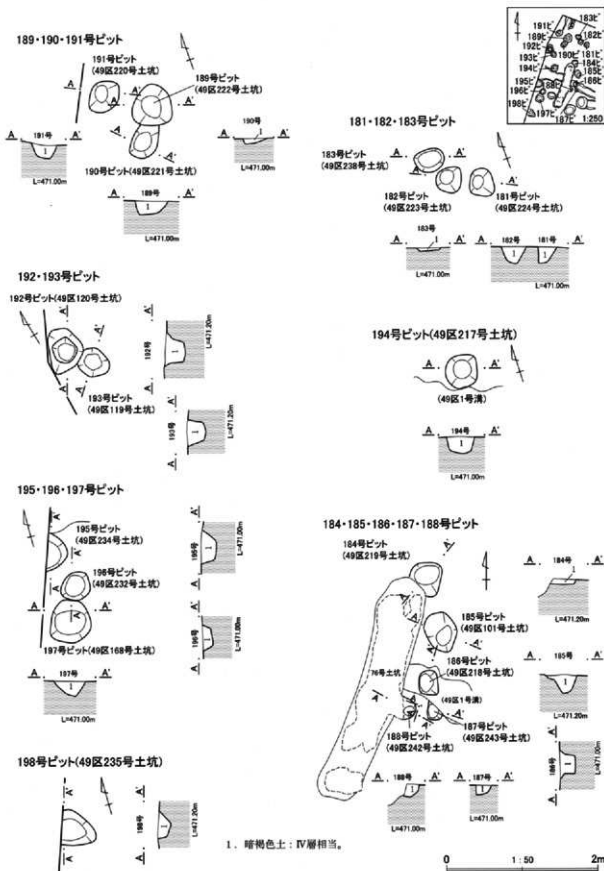
1. 暗褐色土: IV層相当。



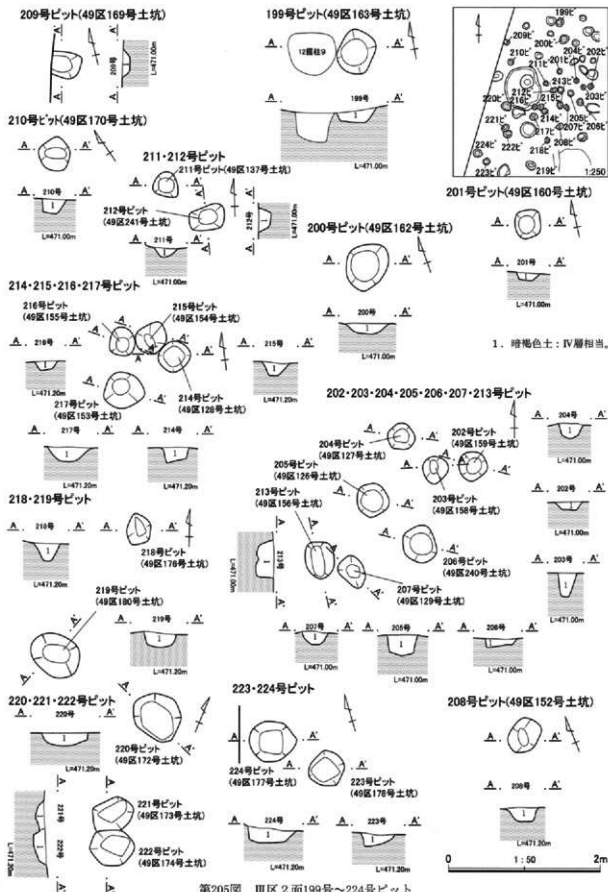
第202図 Ⅲ区 2面148号～158号ピット



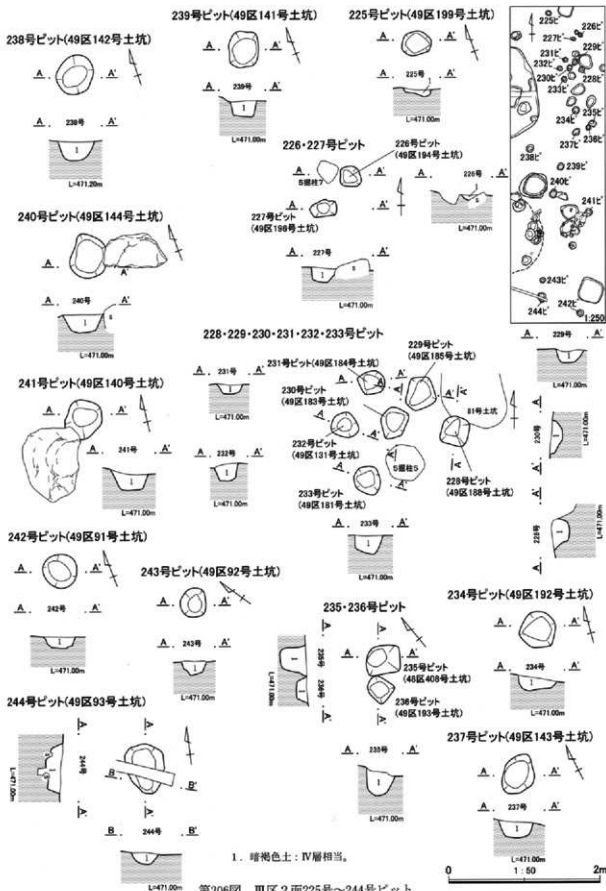
第203図 Ⅲ区 2面159号～180号ピット



第204図 Ⅲ区2面181号～198号ピット



第205図 Ⅲ区2面199号～224号ピット



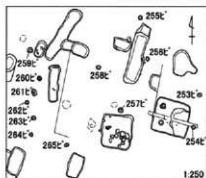
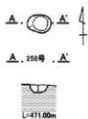
第206図 Ⅲ区2面225号～244号ピット



259号ピット(39区176号土坑)



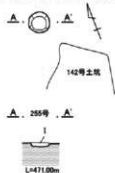
258号ピット(39区152号土坑)



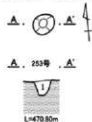
260・261・262号ピット



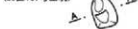
255号ピット(39区153号土坑)



253号ピット(39区159号土坑)



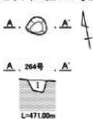
281号ピット  
(39区167号土坑)



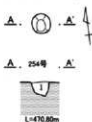
282号ピット  
(39区168号土坑)



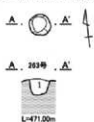
264号ピット(39区143号土坑)



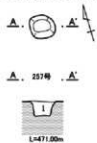
254号ピット(39区156号土坑)



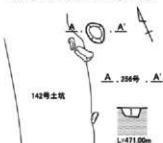
263号ピット(39区164号土坑)



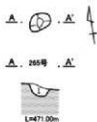
257号ピット(39区151号土坑)



256号ピット(39区157号土坑)



265号ピット(39区163号土坑)

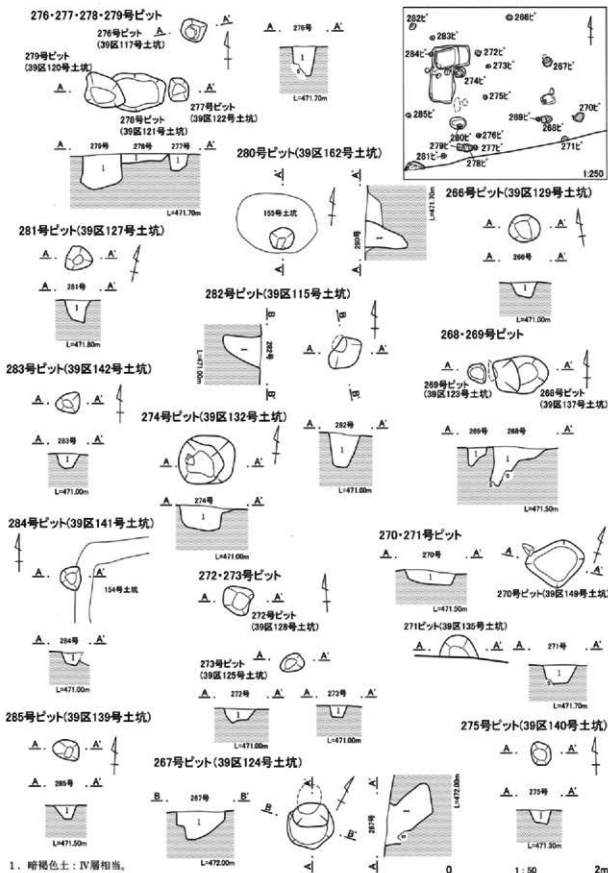


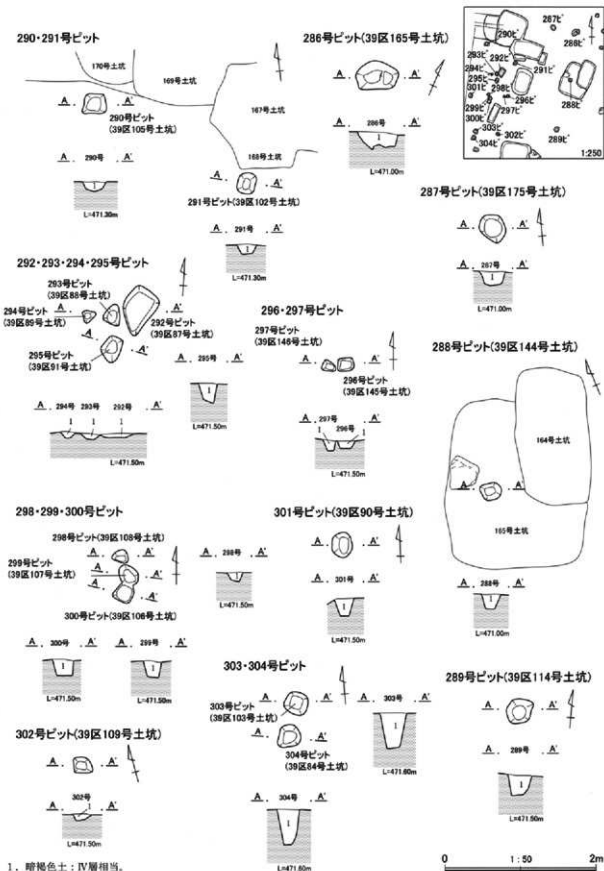
1. 暗褐色土: IV層相当。

0 1:50 2m

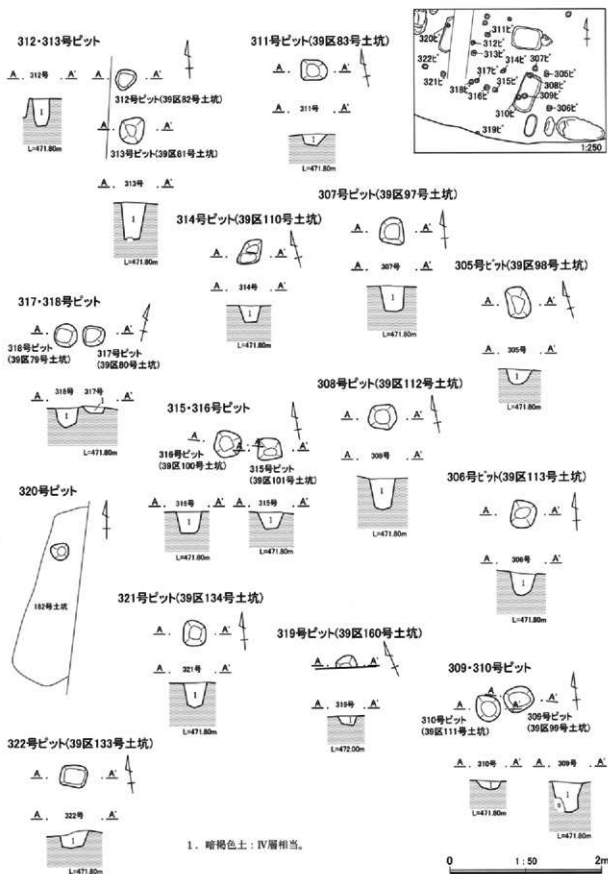
第208図 Ⅲ区2面253号～265号ピット



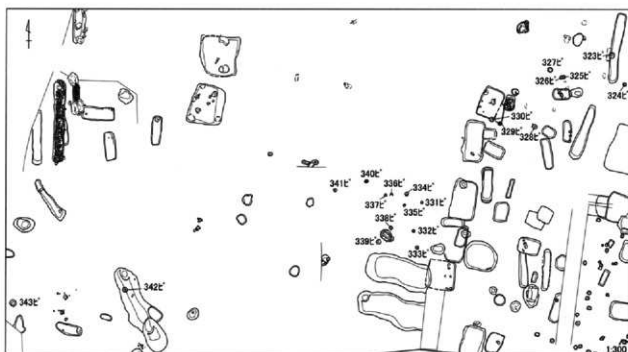




第210図 Ⅲ区2面286号～304号ピット



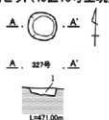
第211図 Ⅲ区2面305号～322号ピット



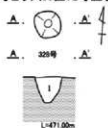
329・330号ピット



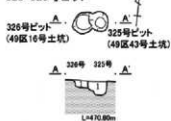
327号ピット(49区15号土坑)



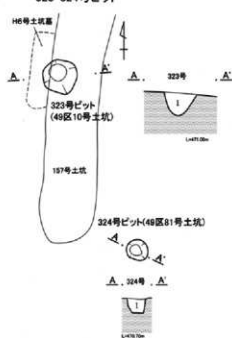
328号ピット(39区72号土坑)



325・326号ピット



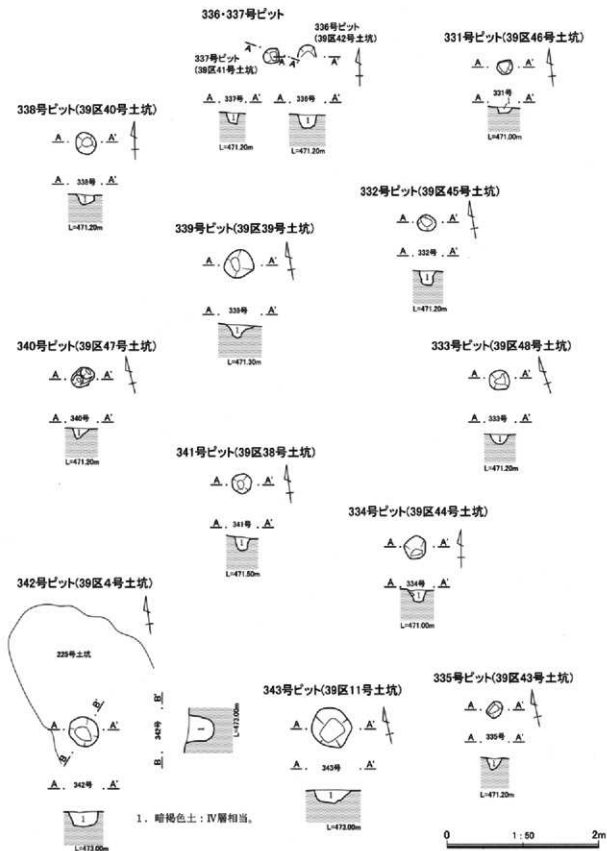
323・324号ピット



1. 暗褐色土: IV層相当。



第212図 Ⅲ区2面323号～330号ピット



第213図 Ⅲ区 2面331号~343号ピット

表18 Ⅲ区2面ピットまとめ

ピット 番号	旧土坑番号	平面形状	大きさ (cm)		出土遺物	遺構関係
			直径			
			長径	短径		
1	48区 290号土坑	円形	35	30	—	無し
2	48区 154号土坑	楕円形	35	29	加4式1点、粉8点、竈2式3点、縄後12点	2号土坑
3	48区 124号土坑	楕円形	32	23	—	無し
4	48区 163号土坑	円形	24	10	—	無し
5	48区 196号土坑	—	(25)	15	—	4号土坑
6	48区 231号土坑	円形	30	24	—	1号便槽
7	48区 36号土坑	楕円形	30	27	14	無し
8	48区 161号土坑	円形	25	16	—	無し
9	48区 39号土坑	楕円形	25	23	24	無し
10	48区 239号土坑	楕円形	30	25	23	縄後1点
11	48区 306号土坑	楕円形	40	32	27	—
12	48区 186号土坑	円形	30	20	—	無し
13	48区 185号土坑	円形	26	30	28	—
14	48区 175号土坑	楕円形	29	20	29	—
15	48区 303号土坑	楕円形	53	43	28	縄後3点 第1式4点
16	48区 159号土坑	楕円形	27	24	28	—
17	48区 158号土坑	円形	29	22	—	3号便槽
18	48区 180号土坑	円形	28	22	—	縄後1点
19	48区 176号土坑	円形	20	22	—	無し
20	48区 160号土坑	円形	37	26	—	無し
21	48区 371号土坑	円形	34	9	—	無し
22	48区 307号土坑	円形	38	26	—	無し
23	48区 24号土坑	楕円形	62	55	12	—
24	48区 58号土坑	楕円形	40	30	43	—
25	48区 17号土坑	楕円形	54	45	34	—
26	48区 25号土坑	楕円形	85	55	19	—
27	48区 129号土坑	楕円形	42	(29)	20	縄後1点
28	48区 171号土坑	円形	32	12	—	無し
29	48区 130号土坑	円形	30	14	—	無し
30	48区 131号土坑	円形	25	10	—	加4式1点
31	48区 190号土坑	円形	30	15	—	無し
32	48区 148号土坑	円形	23	10	—	14号土坑
33	48区 37号土坑	円形	43	35	—	2号竈立柱21
34	48区 88号土坑	円形	38	19	—	無し
35	48区 81号土坑	—	(34)	30	—	26号ピット
36	48区 80号土坑	—	(48)	19	—	25号ピット
37	48区 32号土坑	楕円形	32	25	20	無し
38	48区 297号土坑	楕円形	30	24	8	無し
39	48区 27号土坑	楕円形	30	16	12	無し
40	48区 365号土坑	—	(34)	9	—	18号土坑
41	48区 220号土坑	楕円形	38	28	20	無し
42	48区 441号土坑	楕円形	39	25	18	無し
43	48区 440号土坑	—	—	—	—	22号土坑
44	48区 413号土坑	円形	33	22	—	無し
45	48区 76号土坑	楕円形	35	30	14	—
46	48区 114号土坑	円形	30	27	20	—
47	48区 113号土坑	円形	30	14	—	無し
48	48区 212号土坑	円形	28	18	—	縄後1点
49	48区 213号土坑	円形	25	7	—	無し
50	48区 164号土坑	—	(70)	(54)	20	第1点
51	48区 166号土坑	円形	40	15	—	8号竈立柱28、7号便槽
52	48区 221号土坑	円形	30	18	—	7号便槽
53	48区 52号土坑	楕円形	43	35	14	—
54	48区 401号土坑	—	24	14	—	32号土坑
55	48区 54号土坑	楕円形	40	30	10	—
56	48区 56号土坑	楕円形	25	19	10	—
57	48区 223号土坑	楕円形	28	20	12	—
58	48区 314号土坑	楕円形	30	28	42	10号便槽
59	48区 103号土坑	円形	50	20	—	39号土坑
60	48区 322号土坑	楕円形	38	30	14	—
61	48区 327号土坑	楕円形	39	35	18	—
62	48区 343号土坑	楕円形	55	45	15	—
63	48区 344号土坑	円形	44	20	—	無し
64	48区 71号土坑	円形	37	20	—	無し
65	48区 146号土坑	楕円形	33	28	8	—
66	48区 345号土坑	楕円形	45	36	13	—
67	48区 198号土坑	楕円形	67	58	28	—
68	48区 208号土坑	楕円形	68	41	31	—
69	48区 121号土坑	円形	53	32	—	—

ピット 番号	印土坑番号	平面形状	大きさ (cm)			出土遺物	重複関係
			直径		深さ		
			長径	短径			
70	48区 318号土坑	円形	33	11	—	無し	
71	48区 317号土坑	円形	37	16	—	無し	
72	48区 195号土坑	円形	38	22	—	無し	
73	48区 362号土坑	横円形	80	45	24	—	2号竪立柱 11
74	48区 352号土坑	横円形	32	30	14	—	無し
75	48区 219号土坑	円形	24	12	—	無し	
76	48区 351号土坑	円形	30	16	—	—	77号ピット 76号ピット
77	48区 350号土坑	円形	32	30	12	—	—
78	48区 334号土坑	横円形	40	32	8	—	無し
79	48区 333号土坑	横円形	63	50	16	—	無し
80	48区 183号土坑	横円形	45	39	20	—	無し
81	48区 84号土坑	円形	48	32	—	—	無し
82	48区 332号土坑	横円形	57	53	—	—	無し
83	48区 331号土坑	横円形	60	48	—	—	無し
84	48区 301号土坑	横円形	56	36	22	—	無し
85	48区 321号土坑	横円形	30	25	8	—	無し
86	48区 354号土坑	横円形	38	32	14	—	無し
87	48区 324号土坑	—	—	18	—	堀2式1点	9番立柱2
88	48区 355号土坑	横円形	50	40	18	—	堀2式1点
89	48区 323号土坑	横円形	65	50	28	—	堀2式5点
90	48区 358号土坑	横円形	42	33	12	—	—
91	48区 357号土坑	円形	36	6	—	—	無し
92	48区 325号土坑	横円形	43	34	11	—	堀2式1点
93	48区 359号土坑	円形	50	42	13	—	無し
94	48区 363号土坑	横円形	48	42	20	—	無し
95	48区 169号土坑	横円形	(57)	52	32	—	礎石1点、堀2式3点
96	48区 188号土坑	円形	30	14	—	—	堀2式7点
97	48区 185号土坑	—	—	44	10	—	堀2式5点
98	48区 328号土坑	横円形	(60)	54	20	—	無し
99	48区 326号土坑	—	(50)	35	—	—	無し
100	48区 203号土坑	横円形	75	58	18	—	無し
101	48区 302号土坑	横円形	62	54	34	—	無し
102	48区 144号土坑	横円形	55	46	25	—	無し
103	48区 337号土坑	横円形	55	45	13	—	—
104	48区 399号土坑	横円形	44	40	10	—	無し
105	48区 400号土坑	横円形	34	25	12	—	無し
106	48区 376号土坑	横円形	40	32	32	—	無し
107	48区 398号土坑	横円形	42	35	6	—	無し
108	48区 167号土坑	横円形	35	28	22	—	無し
109	48区 107号土坑	円形	34	19	—	—	無し
110	48区 347号土坑	横円形	34	24	14	—	無し
111	48区 106号土坑	横円形	28	23	15	—	無し
112	48区 168号土坑	横円形	45	40	8	—	無し
113	48区 387号土坑	円形	32	18	—	—	無し
114	48区 217号土坑	円形	30	28	—	—	無し
115	48区 89号土坑	横円形	30	25	13	—	無し
116	48区 411号土坑	横円形	40	30	11	—	無し
117	48区 412号土坑	横円形	42	30	13	—	無し
118	48区 65号土坑	円形	30	10	—	—	無し
119	48区 66号土坑	円形	23	8	—	—	無し
120	48区 72号土坑	横円形	28	34	13	—	堀2式2点
121	48区 410号土坑	横円形	45	36	14	—	—
122	48区 409号土坑	横円形	42	30	12	—	堀2式2点
123	48区 95号土坑	横円形	40	32	20	—	無し
124	48区 96号土坑	円形	40	30	—	—	無し
125	48区 92号土坑	横円形	34	30	14	—	無し
126	48区 140号土坑	横円形	27	22	12	—	無し
127	48区 116号土坑	横円形	58	52	12	—	—
128	48区 184号土坑	横円形	54	35	18	—	57号土坑
129	48区 396号土坑	横円形	52	45	42	—	無し
130	48区 378号土坑	横円形	45	35	14	—	無し
131	48区 379号土坑	横円形	46	35	20	—	無し
132	48区 381号土坑	横円形	40	30	24	—	堀2式6点
133	48区 428号土坑	横円形	34	30	10	—	無し
134	48区 384号土坑	横円形	30	25	11	—	—
135	48区 394号土坑	横円形	40	31	30	—	無し
136	48区 387号土坑	円形	41	15	—	—	137号ピット
137	48区 396号土坑	横円形	42	32	17	—	136号ピット
138	48区 388号土坑	横円形	37	30	30	—	無し
139	48区 383号土坑	横円形	50	40	26	—	無し

ピット 番号	田土坑番号	平面形状	大きさ (cm)			出土遺物	資料関係
			縦径	横径			
				長さ	幅		
140	48 区 234 号土坑	楕円形	36	28	14	—	無し
141	48 区 291 号土坑	楕円形	32	25	8	—	無し
142	48 区 235 号土坑	楕円形	32	25	14	—	無し
143	48 区 236 号土坑	楕円形	36	28	12	—	無し
144	48 区 290 号土坑	楕円形	34	25	10	—	無し
145	48 区 389 号土坑	楕円形	38	30	24	—	無し
146	48 区 237 号土坑	楕円形	30	23	7	—	無し
147	48 区 238 号土坑	楕円形	35	28	11	—	無し
148	48 区 403 号土坑	円形	—	28	12	—	無し
149	48 区 424 号土坑	楕円形	35	28	21	—	無し
150	48 区 404 号土坑	楕円形	28	24	20	—	無し
151	48 区 405 号土坑	楕円形	35	25	18	—	無し
152	48 区 420 号土坑	楕円形	39	30	12	—	無し
153	48 区 420 号土坑	楕円形	48	38	18	—	無し
154	48 区 418 号土坑	楕円形	52	34	25	—	加4式1点、竪2式2点
155	48 区 418 号土坑	楕円形	36	25	15	—	無し
156	48 区 417 号土坑	円形	—	49	16	—	無し
157	48 区 437 号土坑	—	—	—	10	—	50号土坑
158	48 区	—	—	—	—	—	50号土坑
159	49 区 100 号土坑	楕円形	45	35	28	—	無し
160	49 区 225 号土坑	円形	—	33	12	—	無し
161	49 区 228 号土坑	円形	—	54	25	—	無し
162	49 区 227 号土坑	円形	—	34	19	—	無し
163	49 区 249 号土坑	円形	—	25	5	—	50号土坑
164	49 区 204 号土坑	楕円形	36	25	5	—	無し
165	49 区 208 号土坑	楕円形	40	35	19	—	無し
166	49 区 204 号土坑	楕円形	45	34	18	—	6号直立柱1
167	49 区 209 号土坑	楕円形	37	30	10	—	無し
168	49 区 212 号土坑	—	—	—	5	—	10号直立柱10
169	49 区 167 号土坑	楕円形	37	30	18	—	無し
170	49 区 165 号土坑	円形	—	48	10	—	無し
171	49 区 105 号土坑	楕円形	36	29	19	—	無し
172	49 区 106 号土坑	楕円形	62	38	28	—	無し
173	49 区 164 号土坑	楕円形	36	26	9	—	無し
174	49 区 201 号土坑	楕円形	55	42	26	—	無し
175	49 区 213 号土坑	楕円形	33	25	22	—	無し
176	49 区 104 号土坑	楕円形	47	40	26	—	無し
177	49 区 110 号土坑	楕円形	71	60	20	—	無し
178	49 区 161 号土坑	円形	—	40	36	10	無し
179	49 区 111 号土坑	楕円形	45	38	15	—	無し
180	49 区 113 号土坑	楕円形	75	45	12	—	10号直立柱9
181	49 区 224 号土坑	楕円形	40	30	22	—	無し
182	49 区 223 号土坑	円形	—	35	32	22	無し
183	49 区 238 号土坑	楕円形	40	30	4	—	無し
184	49 区 219 号土坑	—	(40)	35	8	—	75号土坑
185	49 区 101 号土坑	楕円形	54	40	24	—	無し
186	49 区 218 号土坑	楕円形	32	25	20	—	無し
187	49 区 243 号土坑	—	(25)	(20)	14	—	無し
188	49 区 242 号土坑	円形	—	(30)	18	—	竪柱1点
189	49 区 222 号土坑	円形	56	52	20	—	150号ピット
190	49 区 221 号土坑	楕円形	(50)	34	7	—	159号ピット
191	49 区 220 号土坑	楕円形	46	40	18	—	無し
192	49 区 120 号土坑	楕円形	60	48	25	—	153号ピット
193	49 区 119 号土坑	楕円形	(40)	38	24	—	152号ピット
194	49 区 217 号土坑	楕円形	48	44	22	—	無し
196	49 区 234 号土坑	—	(50)	—	20	—	無し
198	49 区 232 号土坑	楕円形	44	38	14	—	無し
197	49 区 168 号土坑	楕円形	60	54	20	—	無し
198	49 区 235 号土坑	—	(50)	48	18	—	無し
199	49 区 163 号土坑	楕円形	60	48	18	—	無し
200	49 区 162 号土坑	楕円形	65	54	13	—	無し
201	49 区 160 号土坑	楕円形	40	34	10	—	無し
202	49 区 159 号土坑	円形	—	38	10	—	無し
203	49 区 158 号土坑	楕円形	38	33	30	—	無し
204	49 区 127 号土坑	円形	—	35	18	—	無し
205	49 区 126 号土坑	円形	—	44	27	—	無し
206	49 区 240 号土坑	楕円形	48	42	13	—	無し
207	49 区 129 号土坑	楕円形	46	32	16	—	無し
208	49 区 152 号土坑	楕円形	49	37	17	—	無し
209	49 区 169 号土坑	—	(40)	34	10	—	無し



ピット 番号	旧土坑番号	平面形状	大きさ (m)			出土遺物	重複関係
			直径		深さ		
			真径	短径			
210	49区 130号土坑	横円形	45	40	18	—	無し
211	49区 137号土坑	横円形	38	32	12	—	無し
212	49区 241号土坑	横円形	48	30	16	—	無し
213	49区 156号土坑	横円形	50	38	24	—	無し
214	49区 128号土坑	横円形	42	38	20	—	無し
215	49区 154号土坑	横円形	44	36	18	—	無し
216	49区 155号土坑	横円形	40	32	12	—	78号土坑
217	49区 153号土坑	横円形	54	48	18	—	無し
218	49区 176号土坑	横円形	42	32	24	—	無し
219	49区 180号土坑	横円形	70	54	19	—	無し
220	49区 172号土坑	横円形	70	60	18	—	78号土坑
221	49区 173号土坑	横円形	(57)	45	11	—	222号ピット
222	49区 174号土坑	横円形	80	47	16	—	221号ピット
223	49区 178号土坑	横円形	46	42	18	—	無し
224	49区 177号土坑	横円形	64	54	20	—	無し
225	49区 199号土坑	横円形	40	32	9	—	無し
226	49区 164号土坑	円形	29	—	8	—	無し
227	49区 196号土坑	横円形	35	20	19	—	無し
228	49区 158号土坑	横円形	44	32	24	—	81号土坑
229	49区 185号土坑	横円形	48	40	15	—	無し
230	49区 183号土坑	横円形	42	32	14	—	無し
231	49区 184号土坑	横円形	58	30	12	—	無し
232	49区 131号土坑	横円形	38	30	21	—	無し
233	49区 181号土坑	円形	32	—	25	—	無し
234	49区 182号土坑	横円形	50	44	19	—	無し
235	49区 408号土坑	横円形	46	38	33	—	226号ピット
236	49区 193号土坑	横円形	36	32	14	—	225号ピット
237	49区 143号土坑	横円形	58	42	20	—	無し
238	49区 142号土坑	横円形	54	44	24	—	無し
239	49区 141号土坑	横円形	48	38	20	—	無し
240	49区 144号土坑	横円形	60	50	24	—	無し
241	49区 140号土坑	横円形	52	42	26	罎1式3点	無し
242	49区 91号土坑	円形	45	—	15	—	無し
243	49区 92号土坑	横円形	40	32	19	—	無し
244	49区 93号土坑	横円形	67	50	20	—	無し
245	49区 4号土坑	横円形	79	64	40	縄検4点	無し
246	49区 71号土坑	横円形	37	26	42	縄検4点	無し
247	49区 22号土坑	円形	50	—	25	—	13号灰土
248	49区 83号土坑	横円形	24	22	13	—	無し
249	49区 78号土坑	横円形	32	28	12	縄検1点	4号壺穴状遺構、250号ピット
250	49区 77号土坑	横円形	32	26	10	罎1式35点、罎1式1点、縄検1点、 加3式20点、縄検10点	4号壺穴状遺構、249号ピット
251	49区 79号土坑	円形	35	—	21	—	無し
252	49区 21号土坑	横円形	30	22	9	—	無し
253	39区 159号土坑	横円形	30	26	19	—	無し
254	39区 154号土坑	円形	25	—	19	—	無し
255	39区 153号土坑	円形	27	—	5	—	無し
256	39区 157号土坑	横円形	32	22	12	—	無し
257	39区 151号土坑	横円形	26	30	18	—	無し
258	39区 152号土坑	横円形	31	24	10	—	無し
259	39区 176号土坑	横円形	38	32	20	—	無し
260	39区 168号土坑	横円形	30	24	38	—	無し
261	39区 167号土坑	横円形	46	30	19	—	無し
262	39区 166号土坑	横円形	30	24	10	—	無し
263	39区 164号土坑	円形	30	—	22	—	無し
264	39区 143号土坑	横円形	26	22	18	—	無し
265	39区 162号土坑	横円形	32	22	16	—	無し
266	39区 129号土坑	横円形	42	36	24	—	無し
267	39区 124号土坑	円形	60	—	56	—	無し
268	39区 137号土坑	横円形	70	50	50	—	無し
269	39区 123号土坑	横円形	30	24	25	—	無し
270	39区 149号土坑	横円形	67	60	19	—	無し
271	39区 136号土坑	—	—	—	24	—	無し
272	39区 128号土坑	円形	44	—	19	—	無し
273	39区 125号土坑	横円形	31	23	15	—	無し
274	39区 132号土坑	横円形	79	64	32	—	無し
275	39区 140号土坑	横円形	33	26	19	—	無し
276	39区 117号土坑	円形	32	—	39	—	無し
277	39区 122号土坑	横円形	36	26	21	—	無し
278	39区 121号土坑	横円形	(71)	50	10	—	279号ピット
279	39区 120号土坑	横円形	61	40	44	—	278号ピット

ピット 番号	土坑番号	平面形状	大きさ (cm)			出土遺物	遺構関係
			直径		深さ		
			長径	短径			
280	39区 162号土坑	円形	30	55	—	155号土坑	
281	39区 127号土坑	楕円形	36	30	30	無し	
282	39区 115号土坑	楕円形	50	33	50	無し	
283	39区 142号土坑	楕円形	32	28	20	無し	
284	39区 141号土坑	円形	30	14	—	154号土坑	
285	39区 139号土坑	楕円形	37	25	20	無し	
286	39区 165号土坑	楕円形	56	38	21	無し	
287	39区 175号土坑	楕円形	39	32	16	無し	
288	39区 144号土坑	楕円形	28	22	19	165号土坑	
289	39区 114号土坑	楕円形	28	32	29	無し	
290	39区 105号土坑	楕円形	38	28	12	無し	
291	39区 102号土坑	楕円形	29	23	10	無し	
292	39区 87号土坑	楕円形	68	40	8	無し	
293	39区 88号土坑	楕円形	28	20	8	無し	
294	39区 89号土坑	楕円形	18	14	8	無し	
295	39区 91号土坑	楕円形	56	25	28	無し	
296	39区 145号土坑	円形	20	15	10	無し	
297	39区 146号土坑	楕円形	20	14	14	無し	
298	39区 108号土坑	楕円形	22	18	13	無し	
299	39区 107号土坑	楕円形	30	24	20	300号ピット	
300	39区 106号土坑	楕円形	28	24	22	299号ピット	
301	39区 90号土坑	楕円形	34	28	26	無し	
302	39区 109号土坑	楕円形	30	24	8	無し	
303	39区 103号土坑	円形	32	45	—	無し	
304	39区 84号土坑	楕円形	34	28	48	無し	
305	39区 98号土坑	楕円形	43	28	20	無し	
306	39区 113号土坑	楕円形	56	30	30	無し	
307	39区 97号土坑	楕円形	40	30	32	無し	
308	39区 112号土坑	楕円形	38	32	40	174号土坑	
309	39区 99号土坑	楕円形	40	32	40	174号土坑	
310	39区 111号土坑	楕円形	36	32	10	174号土坑	
311	39区 83号土坑	楕円形	35	29	14	無し	
312	39区 82号土坑	楕円形	30	24	36	無し	
313	39区 81号土坑	楕円形	40	32	48	無し	
314	39区 110号土坑	楕円形	44	25	20	無し	
315	39区 101号土坑	楕円形	24	28	22	無し	
316	39区 100号土坑	楕円形	38	32	28	無し	
317	39区 80号土坑	楕円形	30	26	8	無し	
318	39区 79号土坑	円形	30	28	—	無し	
319	39区 160号土坑	—	28	—	12	無し	
320	39区	円形	24	—	—	182号土坑	
321	39区 134号土坑	楕円形	36	30	34	無し	
322	39区 133号土坑	楕円形	34	30	19	無し	
323	49区 10号土坑	円形	45	30	—	186号土坑、157号土坑	
324	49区 81号土坑	円形	29	20	—	無し	
325	49区 43号土坑	円形	25	19	—	328号ピット	
326	49区 16号土坑	—	—	25	9	325号ピット	
327	49区 15号土坑	円形	40	10	—	無し	
328	39区 72号土坑	楕円形	40	32	—	無し	
329	39区 181号土坑	楕円形	35	28	24	無し	
330	39区 180号土坑	円形	40	—	—	196号土坑	
331	39区 68号土坑	円形	20	8	—	195号土坑	
332	39区 45号土坑	円形	24	22	18	無し	
333	39区 48号土坑	円形	—	28	12	無し	
334	39区 44号土坑	楕円形	32	28	16	無し	
335	39区 43号土坑	楕円形	24	18	15	無し	
336	39区 42号土坑	—	24	—	17	無し	
337	39区 41号土坑	円形	—	21	15	無し	
338	39区 40号土坑	楕円形	30	26	12	無し	
339	39区 39号土坑	楕円形	40	34	18	無し	
340	39区 47号土坑	楕円形	30	21	14	無し	
341	39区 38号土坑	円形	—	28	18	無し	
342	39区 4号土坑	円形	—	40	34	225号土坑	
343	39区 11号土坑	楕円形	56	50	18	無し	

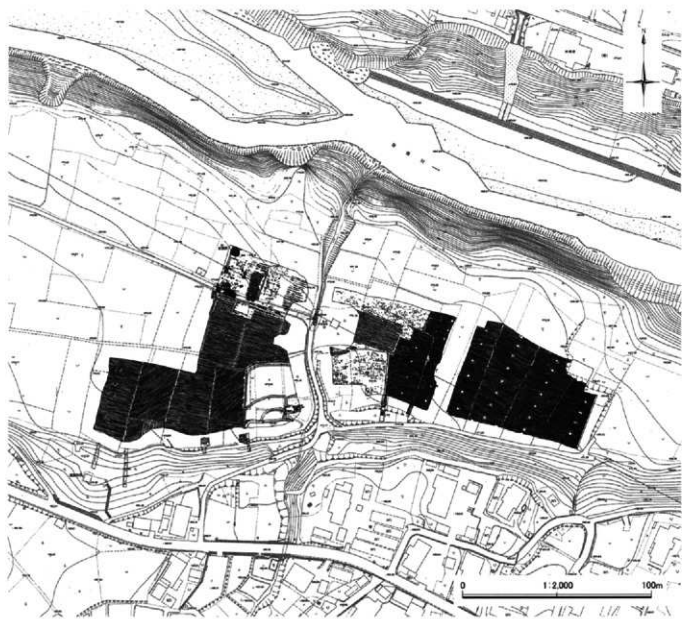
縄文土器の略号:加3式(加曾利3式)・称(称名寺)・称1式(称名寺1式)・称2式(称名寺2式)・掘後(縄文後期)・堀1式(堀之内1式)・堀2式(堀之内2式)

## 第5章 まとめ



「岩島麻保存会」は、吾妻郡東吾妻町三島唐堀地区において、群馬県内で唯一麻を栽培している。写真は、麻の収穫である「麻こぎ」の様子。密集して高さ約3m以上にも成長した麻を、根ごと抜いてから、葉や根を切り、束ねた後に長さを揃えて切る。但し、明治時代に撮影された写真は、麻の高さがもう少し低い。この写真は、2002年8月3日（土）に撮影されているが、天明三（1783）年の浅間山泥流による被災は、新暦で8月5日に起きている。上郷岡原遺跡では、まさに、この「麻こぎ」寸前で麻が壊滅状態に遭ったと推定される。 [写真撮影：橋崎修一郎]

発掘前と発掘後に検出された図を重ねると、天明三(1783)年当時と現代とで驚くほど正確に復元されていることがわかる。基本的に、畑の上には畑を、水田の上には水田を、また道の上には道を復元している。但し、建物だけは、浅間山泥流の被災を恐れてか復元しなかったようである。それほど、当時の検地帳はすぐれていたであろうか。



第214図 上郷岡原遺跡発掘前の耕地図と1区～Ⅲ区1面平面図合成

## 第1節 上郷岡原遺跡出土大麻と大麻の生産過程

楢崎修一郎・渡辺弘幸・石川雅俊・齊田智彦

### 1. はじめに

上郷岡原遺跡Ⅰ区(調査時はD区東)の4区画の畑から、「麻」と推定される植物遺体が全面に検出された。これらの植物遺体は、平成14(2002)年5月7日～8日に調査担当者の楢崎・渡辺・齊田の3名で実施した、遺構確認トレンチ調査の際に齊田により認識されたものである。但し、その調査時には「麻」であるという確信は得られていない。

その後、同年5月27日から実施したⅠ区の発掘調査で調査区全面に植物遺体が検出されるに及び、6月7日に「麻」と推定するに至った。その後、6月24日に群馬県内(群馬県吾妻郡東吾妻町三島唐堀地区)で唯一「麻」を栽培している岩島麻保存会会長の丸橋幸一氏と同会会員の丸橋茂氏の両氏に御来訪いただき、間違いなく「麻」であるという鑑定を行っていただいた。

両氏の鑑定の根拠は、植物遺体の形態が「麻」に似ていること・Ⅰ区の畑の畝及びサクの幅も「麻」と良く似ている・畝及びサクの間が狭いものは土地が肥えている場合で広いものはあまり肥えていない土地である・Ⅰ区の畝及びサクは乱れていないため麻の収穫(麻こぎ)前の状態で浅間山泥流に被害に遭ったと推定されるというものであった。

但し、6月29日に実施した第1回の地元説明会では、まだ確証が得られていなかったため、「麻」の状態は麻の収穫(麻こぎ)前かあるいは麻干しのどちらかの状態であるという表現に留めた。

この両氏の指摘にともない、調査担当者の楢崎・渡辺の両名及び6月30日付けで他遺跡に異動した齊田に代わって7月1日付けで着任した石川の3名で「麻」の調査を独自に実施した。なお、これらの独自調査は、「岩島麻保存会」が主に土曜日及び日曜日の週休日に実施した行事に同行調査させていただいたものであり、発掘調査中に実施したわけではないことを付記しておく。

### 2. 麻の生産過程

麻の生産過程は、大きく播種・収穫・加工の3期に分かれる。以下に、岩島地区の事例を紹介する。

#### (1) 播種

播種は、種蒔きと間引きの工程に分かれる。

##### ①種蒔き

4月10日前後に、種まきを行う。この地域には「お播き桜」と呼ばれる桜があり、桜が満開になる時期に麻の種を播くと言われている(文献5)。

前出の丸橋幸一氏の曾祖父丸橋勝太郎氏が明治26(1893)年に著した『櫻木大麻製造實驗略記』によると、「毎年4月5日から15日までが最良期である」とある(文献1)。同様に、「種子一尺毎に三十乃至四十粒を適度として」とあるので、約30cm毎に30粒から40粒の種を播くということになる。

ちなみに、畝と畝の間隔は通常の作物より狭い約25cm～30cmであるが、これは麻を密生させ枝が出るのを防ぎ細く長く柔らかく成長させるためである(文献2)。

##### ②間引き

約10cmに伸びた頃、本数や間隔を揃えるために第1回目の間引きを行う。その後、約30cmに伸びた頃、第2回目の間引きを行う。第2回目の間引き終了後は、収穫までそのままにしておく。

「播種後凡十七八日を経て麻の丈三寸は伸びた時」間引きを行うとあるので、約9cm～12cmに伸びた時に間引くということになる(文献1)。



写真1. 約3m以上に伸びた麻畑

[2002年8月3日、楢崎撮影]

## (2) 収穫

収穫は、麻こぎ・根切り・葉切り・押し切り・麻煮・麻干しの工程に分かれる。なお、この収穫期は、播種後約108日～115日(文献2)という文献と114日～120日(文献1)という文献の記載があり、若干異なる。この収穫の時期は、7月下旬～8月上旬になる。

ちなみに、天明三(1783)年の浅間山泥流は、新野で8月5日である。

### ①麻こぎ

高さ約2.5m～3mに達した麻を、下記のように5種類に分けて根ごと抜き取る。なお、文献により麻の名称が若干異なるが、これは時代差のようである。

明治時代は、「コキノ(小麻)・シタソ(下麻)・ニカイソ(二階麻)・ジョウソ(上麻)」の4種類に区分する(文献1)。大正時代及び昭和時代初期は、「長麻」・「中麻(二階麻)」・「短麻」・「太麻」・「屑麻(コキノ)」の5種類に区分する(文献2・文献3)。なお、通常、コキノ(小麻・屑麻)は、収穫せずに麻を束ねるのに使用する。

ちなみに、草丈で比較すると、小麻(コキノ)[1.5m以下]・下麻(シタソ)[1.5m～2.0m]・二階麻(ニカイソ)[1.8m～2.3m]・長麻(ナガソ)[2.3m以上]・棒太(ポウタ)[2.3m前後]であり、長麻が最も良質であるという(文献3)。

### ②根切り

麻切り鎌で、根の部分切る。なお、約3mにも達する麻だが、根は意外に短く、17cm～28cmである(ちなみに、この麻切り鎌は、上部刀の部分が少ない反っているのが特徴・両刃で柄が30cmぐらいであるという(文献2))。

### ③葉切り

麻切り鎌で、葉の部分切る。根切り・葉切りが終わった生麻を、周囲約30cmにして束ねる。これを、3つ束ねて生麻一束という(文献2)。別の文献では、直径約12cmの束を小麻で結束(一クビリ)し、3クビリ束ねたものを半束という(文献1)。ちなみに、根切り・葉切りで残った根や葉は焼く。

これを、根葉焼きという(文献1)。

### ④押し切り

生麻は、尺棒を当てて押し切り(押鎌)で、長さを揃えて切る。長麻は6尺5寸(約197cm)・中麻6尺4寸(約194cm)・短麻5尺8寸(約176cm)～6尺(約181.8cm)であるという(文献1)。また、別の文献では、長麻・二階麻・棒太は約2.15m、下麻は約1.8mであるという(文献2)。



写真2. 麻こぎの様子 [2002年8月3日、横崎撮影]



写真3. 根切り・葉切り [2002年8月3日、横崎撮影]



写真4. 押し切り [2002年8月3日、横崎撮影]

## ⑤麻煮

麻煮釜に湯を沸騰させ、生麻一束ずつ2・3分、最初は根の部分、次に上部を反対に入れて煮る(文献1)。これは、繊維を丈夫にし、害虫を殺すために行う。この麻煮は、麻干しをした後に、かびを防ぐためにさらにもう一度行う。

この麻煮釜は、明治36(1893)年の『大麻実記』には大釜しか描かれていないため、明治期になって導入されたものと推定される。この麻煮釜は、栃木県の野洲から仕入れてきたと文献にある(文献2)。実際、明治25(1882)年に栃木県の麻の収穫の様子を描いた絵には、すでに麻煮釜が使用されていることがわかる(文献4)。

## ⑥麻干し

麻煮が終わった麻は、約1週間～10日間、天日に干す。この時、雨に濡れると黒点が生じるために濡れないようにする注意が必要である(文献2)。

明治時代の文献では、木の柵に立て掛ける「立掛乾」と地面に平らに置く「平乾」がある(文献1)。実際、栃木県での明治25年に描かれた絵と昭和10年代の写真では「平乾」である(文献4)。

しかしながら、現在の岩島では、上を束ね立てて干している。いつからこの方法になったかはわからないが、少なくとも明治36年以降であることは確実で、大正時代からであろうか。

## (3) 加工

加工は、ねど入れ・麻はぎ・麻挽きの工程に分かれ、この工程も取材したが、発掘調査とは直接関わらないので、ここでは紙面の都合もあるため簡単に紹介するにとどめ、詳細は別の機会に紹介したい。

## ①ねど入れ

麻を発酵させ、皮をはげるようにする作業。

## ②麻はぎ

皮をはぎとる作業。

## ③麻挽き

麻はぎしたものを麻挽き台に乗せ、麻かきで表皮を取り除く作業。繊維を竹竿にかけて、2～3日陰干しして精麻にする。



写真5. 麻煮釜での麻煮 [2002年8月3日、橋崎撮影]



写真6. 麻干し [2002年8月10日、渡辺撮影]



写真7. 麻こぎが終わった畑。畝やサクが踏まれて荒れていることに注意 [2002年8月3日、橋崎撮影]。

## 3. 上郷岡原遺跡での解釈

## (1) 畑の畝とサク

上郷岡原遺跡において、確実に麻畑であると推定されたのは、1区1号畑～4号畑である。これら、4区画の畑には、円形平坦面が存在した。それぞれの畑の畝とサクは、しっかりと残っており、全く荒らされていない状態であった。これは、麻こぎ(取

機) 前の状態であることを示す。この点は、丸橋氏等のご指摘通りであると考えられる。

2002年8月3日の麻ごぎ後の観察では、畝やサケはかなり荒らされており、上郷岡原遺跡での状態とは異なることが確認できた。

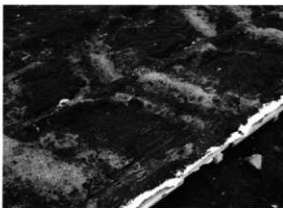


写真8. 上郷岡原遺跡における麻の出土状況

## (2) 円形平坦面

I区の畑の円形平坦面は、溝を有さないAタイプのみであった。しかしながら、II区の1号畑及び2号畑の円形平坦面は、溝を有するDタイプのみであった。

I区の円形平坦面の規模は、直径約1.2m～1.95mである。なぜ、円形にこだわったのかは不明であるが、恐らく、半切桶と呼ばれる直径約110cm・高さ約30cmの桶をこの円形平坦面に置いて麻の肥料を作ったのではないかと推定される。また、なぜ平坦にこだわったのかは液体がこぼれないためであると推定される。『大麻実記』によると、施肥は、3回に分けて行うとある(文献1)。

### ①冬圃(フウウナイ)

11月下旬に、約30cmの深さに鋤で耕す。この後で、10a(アール)あたり、人糞180匁及び酒生粕112.5kgを水1,080匁に溶かして柄杓で散布する。これを2回行う。

### ②中割(ナカワリ)

3月下旬に、約25cmの深さに鋤で耕し、畑を反転する。この後で、10a(アール)あたり、厩肥5,400kgを均一に土中にすきこむ。

### ③播種(マキウナイ)

中割の後で直ちに、約18cmの深さで耕し、畑

を再反転する。この後、播種の5・6日前に、雑草肥と厩肥を合わせて810kgにし、これに酒生粕112.5kg・人糞540匁・米糠180匁を混ぜ、水540匁に溶かして作る。軟泥状になったら、山形の大団塊として1a(アール)に各1ヶ所練り立てて置く。これを、播種の際に半切桶に入れ、水を加えて攪拌してから畦中に注ぐとある。

現在、半切桶を使用する農法は途絶えており、明治時代の農法が江戸時代に行われていたという保証は無いが、想像をたくましくすると、円形平坦面の解釈は以下のようになる。

#### ・Aタイプの円形平坦面 [I区1号畑～4号畑]

溝を有さない円形平坦面の規模は、直径約1.2m～1.95mである。半切桶の大きさは、直径約110cm、高さ約30cmである。Aタイプの円形平坦面には播種時に半切桶を置いた跡であると推定される。

#### ・Dタイプの円形平坦面 [II区1号・2号・4号・5号・8号畑]

溝を有する円形平坦面の規模は、溝を除いた内側で直径約1.2m～1.55mである。恐らく、Dタイプの円形平坦面には大団塊とした肥を練り立てて置いた場所であると推定される。何故、溝があるかというところがあまり強いかえって作物に影響がありすぎるからであると考えられる。

#### ・四角形平坦面 [III区14号畑]

四角形平坦面は、四角に板を回し、落ち葉等で堆肥を作った跡であると推定される。

10a(アール)は、約100㎡であるが、上郷岡原遺跡では、約100㎡毎に円形平坦面が検出されており、大変興味深い。

#### 引用文献

- 文献1: 丸橋勝太郎 1893 『櫻木大麻製造実驗略記』、私家版  
 文献2: 群馬県教育委員会文化財保護課 1978 『岩島の麻』、群馬県教育委員会  
 文献3: 中之条地域行政推進会議・中之条農業改良普及所1982 『吾妻町岩島地区に於ける大麻生産に関する調査』、中之条地域行政推進会議・中之条農業改良普及所  
 文献4: 栃木県立博物館 1999 『麻: 大いなる繊維』、栃木県立博物館  
 文献5: 丸山不二夫 2002 『全国に広まった上州岩島の清麻を追って』、私家版







図3. 2号建物間取り図(復元:村田敬一)

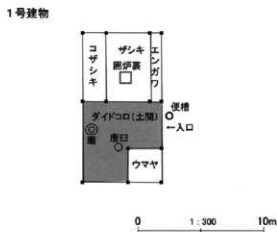


図2. 1号建物間取り図(復元:村田敬一)

### 3. 建物の規模

建物の規模は、2号建物の方が1号建物よりも大きい傾向がある。

#### (1) 1号建物

1号建物は、北部の東側に位置する。建物の規模は、桁行約12m・梁行約6.5mである。

#### (2) 2号建物

2号建物は、北部の西側に位置する。建物の規模は、桁行約16m・梁行約8mである。

### 4. 建物の周辺施設

建物の周辺施設は似通っているが、2号建物の方がやや多い傾向がある。

#### (1) 1号建物

1号建物の東側に位置する1号畑・南側に位置する1号掘立柱建物が、周辺施設であると推定される。但し、Ⅲ区2面便槽として認定した10号便槽は木桶も残存しており、1号建物の周辺施設である可能性がある。

#### (2) 2号建物

2号建物の東側に位置する2号畑及び4号掘立柱建物・北東部に位置する3号掘立柱建物・北西部に位置する1号石組遺構・南部に位置する2号石組遺構が、周辺施設であると推定される。

### 5. 建物の入口

建物の入口は1号建物が左勝手であり、2号建物が右勝手である。2軒が隣接することから、意識的

に変えたのであろうか。

#### (1) 1号建物

礎石の検出状況から、入口は建物の東側の向かって左側に設けられていたと推定される。いわゆる、左勝手である。興味深いことに、左勝手優勢地域は四国南部及び九州地方である(日本民俗建築学会、2001)。

#### (2) 2号建物

礎石の検出状況から、入口は建物の東側の向かって右側に設けられていたと推定される。いわゆる、右勝手である。この右勝手優勢地域は、北海道・本州・四国北部であり、日本のほとんどが右勝手優勢地域である(日本民俗建築学会、2001)。

### 6. 建物の内部施設

建物の内部施設は似通っているが、2号建物の方がそれぞれの規模が大きい傾向がある。

#### (1) 1号建物

1号建物の内部施設として、1号便槽・搗き臼(唐臼)・馬廄・竈・囲炉裏が検出された。

①1号便槽: 直径約50cm・深さ約35cmの規模である。門扉便所の小便槽であると推定される。

②搗き臼(唐臼): ダイドコロ(土間)に埋め込まれた状態で検出された。外径は直径約60cm・高さ約45cmの大きさである。

③馬廄: 規模は、長軸約3m・短軸約2.8mである。

④竈: 規模は長軸約1.2m・短軸約85cmである。規

横からは、1つクド（竈）であると推定される。

⑤囲炉裏：約80cm四方の規模で焼土が検出されており、囲炉裏跡と判定した。

## (2) 2号建物

2号建物の内部施設として、1号便槽・馬屋・竈・囲炉裏が検出された。なお、土間の北側半分は硬化面が確認されているが、南側半分は確認されていない。南側半分には筵が敷かれていた可能性がある。

①1号便槽：直径約45cm・深さ約45cmの規模である。門脇便所の小便槽であると推定される。

②馬屋：規模は、長軸約4m・短軸約2.5mである。

③竈：規模は長軸約1.8m・短軸約1.2cmである。規模からは、2つクド（竈）であると推定される。

④囲炉裏：約80cm四方の規模で焼土が検出されており、囲炉裏跡と判定した。

## 7. 建物の部屋割り

### (1) 1号建物

土間と馬屋を除く板張り（推定）の部屋は、ザシキとコザシキの2部屋で、その他エンガワを有していたと推定される。

①ザシキ：囲炉裏がある部屋である。長軸約5.4m・短軸約3.6mの規模である。約10帖であったと推定される。

②コザシキ：長軸約5.4m・短軸約1.8mの規模である。約4帖であったと推定される。寝室であろう。

③エンガワ：長軸約5.4m・短軸約1mの規模である。所謂ヌレエンであろう。

### (2) 2号建物

土間と馬屋を除く板張り（推定）の部屋は、ザシキ・コザシキ・デイ・オクリの4部屋で、その他エンガワを有していたと推定される。

①ザシキ：長軸約4.6m・短軸約3.8mの規模である。約10帖であったと推定される。

②コザシキ：長軸3.8m・短軸2.2mの規模である。約4帖であったと推定される。

③デイ：長軸約3.8m・短軸約2.7mの規模である。約6帖であったと推定される。

④オクリ：長軸及び短軸共に約4mの規模である。

約8帖であったと推定される。

⑤エンガワ：長軸約7.8m・短軸約1.2mの規模である。所謂ヌレエンであろう。

## 8. 建物の屋根

今回、1号建物及び2号建物の2軒共に、屋根は検出されていない。しかしながら、18世紀中期頃の民家は基本的に、草葺寄棟造りであるので、本建物も同様であったと推定される。恐らく、屋根は地域の特産である麻柘で葺いてあったであろう。



写真1. 旧阿久沢家住宅（群馬県前橋市柏倉町）  
[17世紀末期建造。平屋建・寄棟造・茅葺。桁行15.3m・梁行8.2mで、2号建物と同規模である。]  
（前橋市教育委員会の許可を得て掲載。橋崎撮影）

謝辞：建物の復元を行っていただいた、前橋工業高校校長の村田敬一氏に感謝いたします。

### 引用文献・参考文献

- 安藤邦廣 1983 『茅葺きの民俗学』、はる書房  
江戸遺跡研究会 2001 『図説江戸考古学研究事典』、柏書房  
小野和之 2003 「上福島中町遺跡」、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団  
群馬県教育委員会 1971 『群馬県の民家』、群馬県教育委員会  
杉本尚次 1969 『日本民家の研究』、ミネルヴァ書房  
日本民俗建築学会 2001 『図説民俗建築大事典』、柏書房  
日本民俗建築学会 2005 『写真で見える民家大事典』、柏書房  
古川・永瀬・津山・村編 2003 『写真集よみがえる古民家』、柏書房  
宮澤智士 1993 『日本列島民家入門』、INAX出版  
村田敬一 2002 『群馬の古建築』、みやま文庫  
矢島 群 1969 『上州の民家』、みやま文庫  
吉田 晴 2001 『民家と町並み』、山川出版社

## 第3節 上郷岡原遺跡Ⅲ区出土の石臼(粉挽き臼・茶臼)について

津金澤吉茂

### 1 はじめに

八ヶ場ダム建設に伴う埋蔵文化財調査では天明三年浅間山噴火に伴う泥流被害下の発掘調査が進み、これまでに僅かずつであるが粉挽き臼や茶臼(以下両者を合わせて「石臼」と称す)の発見例が増加している。

### 2 上郷岡原遺跡出土の石臼について

#### (1) 石臼について

本遺跡からは土坑や土坑墓、堅穴状遺構、さらに建物跡、石垣からそれぞれ石臼が出土している。これらの石臼は17個が粉挽き臼、茶臼2個で、いずれも破片で完形品は認められない。

#### (2) 出土状況について

①Ⅲ区(39区)176号土坑は、長軸3.2m、短軸1.35m、深さ0.55mほどの平面形が横長楕円形で、土坑内には多数の角礫が充填されその中に石臼破片1個(431)が含まれていた。

②Ⅲ区(39区)192号土坑は、長軸2.4m、短軸1.8m、深さ0.45mほどの長方形の土坑で2個の石臼破片(434・435)が出土。

③Ⅲ区(39区)208号土坑は、長軸5.3m、短軸2.2m、深さ1.1mほどの長方形で、詰められた状態の多数の礫に混じり3個の石臼破片(436・437・438)が出土。

④Ⅲ区(39区)7号堅穴状遺構は、長軸4.3m、短軸3.7m、深さ0.5mの正方形に近い平面形をなし、多数の礫に混ざり2個の石臼破片(366・369)が出土。

⑤Ⅲ区(48区)12号土坑は、長軸2.6m、短軸2m、深さ0.5mほどの楕円長方形で石臼の破片2個(428・429)が出土している。

⑥Ⅲ区(48区)1号建物は、浅間泥流で押し流された礎石建ち建物の内の1棟で、石臼破片(077)は礎石の一つに付添うような状況で出土。

⑦Ⅲ区(49区)H2号土坑墓は、長軸1.5m、短軸0.66m、深さ0.38mのやや縦長楕円形で他の数の礫と共に石臼の破片1個(389)が含まれていた。

⑧Ⅲ区(49区)1号堅穴状遺構は、長軸6m、短軸5.5m、深さ0.25mほどの楕円形で他の礫に混じり石臼破片1個(352)が出土。

⑨Ⅲ区(49区)3号堅穴状遺構は、長軸2.75m、短軸2.9m、深さ0.4mほどの楕円方形で他の礫と共に石臼破片1個(358)が出土。

⑩Ⅲ区(49区)2面1号石組遺構(49区2号石垣)は、地境に礫を1列に並べたものでこの列石の中に2個の石臼破片(420・421)が含まれていた。

Ⅲ区(48区)1号建物石-2石臼(077)は直接浅間山泥流を被る状況で出土した。これ以外は泥流被害を受ける以前の時期に属するものである。石臼の多くは土坑や堅穴状遺構など耕作に支障のある礫を処分する目的で寄せ集められていたようで、石臼として意識した取り扱いとは認められず単なる不要な石を廃棄したり、まれに石列の用材として再利用していたものと判断できた。

#### (3) 石臼の使用状況について

石臼の使用頻度は、挽き目の深さやすり合わせ部の磨滅状況、挽き手穴の付け替え痕等から推測することができる。

##### ①粉挽き臼

粉挽き臼ではⅢ区(39区)208号土坑とⅢ区(49区)H2号土坑墓出土の上臼(436・437・438・389)は使用頻度が高かったせいか片減りが生じ挽き手位置の付け替えが成されている。

また、殆どの石臼もすり擦り合わせ部の摩耗が進んでいて、目の溝が比較的深く残る状況で廃棄されたもの、磨滅により目が消えかけているもの、完全に目が消えて新たに目を立て直さないと使用できないと推測できるものまで様々な状況が確認できる。共通することはいずれの石臼も長期に渡り使用された痕跡を確認することができるものが大半である。

##### ②茶臼

茶臼はⅢ区(48区)12号土坑-1とⅢ区(49区)C-4グリッド出土の両者(428・515)とも細くてしっかりした目が残りすり合わせ部の磨滅も進んでいるが、観察する限りにおいて十分に使用に耐える状況

の挽き目を有している。

#### (4) 石臼破損の状況について

石臼はいずれも破片で、1/2あるいは1/3以下打ち欠けたもので、破片が接合できるものも存在する。遺存状況は、完形時の8割程度を留めるものが2点存在するがそれ以外は完形にはほど遠いもので破片と呼ぶことがふさわしい形状にある。

中でもⅢ区(39区)192号土坑出土の上臼(435)は、上縁部が全て欠損して通常の投棄だけでは生じ得ない複数の剥離面が存在することから人為的破壊行為の存在を窺わせるものである。この土坑からは下臼も出土しているが、口径は一致するが、すり合わせ部がかみ合わないことから1対とは認め難い。

また、Ⅲ区(48区)12号土坑出土の茶臼(428)も、上縁部および側面部を中心に複数の剥離痕が認められることから故意破壊の存在を推測せるものである。

これと同様にⅢ区(49区)1号竅穴状遺構出土の上臼(352)は、上縁部を含め側面部全体が丹念に打ち欠いていると判断することが妥当と考えられるものである。

著しい片減りで使用に支障が生じたと推測させる以外の石臼が如何なる原因で石臼が破損するのだろうか。出土した幾つかの石臼には故意に打ち欠かないと生じないと思われる剥離面を有するものがあり、そのことは下原遺跡でも確認できていて、石臼を廃棄する際の一定の約束事、共通の意識の存在を窺わせるものであった。

ちなみに、本遺跡の石臼の残存状況は概ね8割程度に完形に近いもの10%、残存部約1/2の破片32%、残存部1/3以下の破片58%で、このあり方は県下の平均的傾向を示すものである。

#### (5) 漆状皮膜の付着・煤状汚れについて

##### ① 漆状皮膜が付着した茶臼について

Ⅲ区(48区)12号土坑出土の茶臼(428)上臼(429)は上縁部および上面縁辺部を中心に黒色の漆状皮膜が付着している。この茶臼はややピンクがかかった緻密な石質の安山岩の上面および側面を水磨ぎ仕上げ

し、その後茶臼上面に黒色の漆状物質が部分的に付着しているが、その状況から茶臼として使用していた時点で上面全体にほぼ均等に塗布されていたものと推測できる。この漆状物質は、側面挽き手飾座上面にも僅かに同種物質の付着が認められるが、飾座側面では確認できないことから、主として臼上面のみを意図して皮膜しその一部が流れて飾座の上部に付着したものである。

##### ② 煤状汚れについて

Ⅲ区(49区)H2号土坑墓出土上臼(389)の上面および供給口の一部に煤状汚れが付着している。古い割れ面あるいは剥離面には付着が及んでいないので破壊後の付着の可能性は低いものと判断できる。同様な事例は下原遺跡でも確認されているが煤付着の原因は不明である。

#### 3 石臼使用場所について

遺跡の発掘調査は現在も進められていて、この地域の吾妻川下位段丘の全体像が判明しつつある。広い平坦面の土地利用は、湧水との関係から広がりを見せず、中近世建物は極く限られた場所のみ繰り返し営まれるだけで、大半は畑で、それ以外に僅かな水田が広がっていたことが解明されつつある。

発見された19個の石臼の本来使用された場所を推定すると、現在民家が営まれている南隣接上位段丘からの搬入、流入物も当然含まれると考えられるが、これまでの調査成果を踏まえると、その多くはⅢ区(48区)とⅢ区(49区)境の北側の建物群に起因するものと推測したい。

#### 4 まとめ

上郷岡原遺跡は、ほぼ同一場所で複数回の建物が立て替えがなされている。

この建物群の中で最も新しい天明浅間泥流被害を直接受けた礎石建ち建物は、据えられたままの唐臼、間取りなどから、麻畑などの畑と僅かな水田に囲まれたごく普通の農村における民家と思われる。

この建物群の他には広範な調査区の中には石臼の使用を窺わせる建物は検出されていない。現状では歴史を重ねている民家が調査地南の上位段丘上に比

較的空間を隔てて散在はしている。石臼の一部はそこからからの混入も否定しないが、ここで出土した多くはⅢ区(48区49区)境で検出した建物群を使用場所と特定できる資料と判断したい。

特に、Ⅲ区(48区)12号土坑-1茶臼(428)は水磨き加工がされ尚かつ黒漆状の皮膜を施すなど極めて丁寧な仕上げである。この茶臼は主用建物群の東側に接した土坑からの出土であり、建物と土坑の位置関係から両者は密接な関係にあったと推定したい。この前提に立てば、当該建物の居住者は抹茶を

嗜む生活の余裕を有する安定した生活を営むだけの経済的な優位性と余裕を有していたと考えたい。

#### 参考文献

津金澤吉茂「下原遺跡出土の石臼を中心に」『久々戸遺跡・中瀬日遺跡・下原遺跡・横壁中村遺跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2003

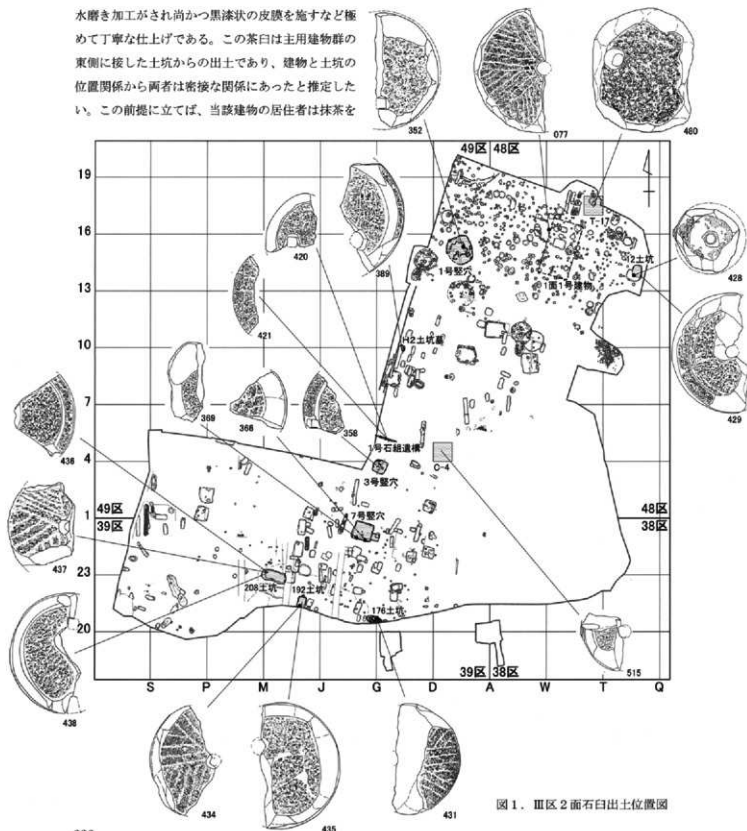


図1. Ⅲ区2面石臼出土位置図

# 報告書抄録

書名ふりがな	かみごうおかのはら－いせき－いち
書名	上郷岡原遺跡(1)
副書名	ハッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	16
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	410
編著者名	楢崎 修一郎
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20070329
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橋町下箱田 784-2
遺跡名ふりがな	かみごうおかのはらいせき
遺跡名	上郷岡原遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんあがつまくんひがしがつままちみしま
遺跡所在地	群馬県吾妻郡東吾妻町三島
市町村コード	10423
遺跡番号	0095
北緯(日本測地系)	363401
東経(日本測地系)	1384426
北緯(世界測地系)	363412
東経(世界測地系)	1384415
調査期間	20020401-20030208
調査面積	12163
調査原因	ハッ場ダム建設工事
種別	集落
主な時代	平安/中世/近世
遺跡概要	集落-平安-竪穴住居 5-土師器+須恵器/集落-中世-掘立柱建物 14+土坑墓 13+火葬跡 1/集落-近世-建物 2+掘立柱建物 5+便槽 6+道 6+畑 36+水田 7+井戸 1+陶磁器+建築部材
特記事項	天明三(1783)年の浅間山泥流に埋もれた家屋・掘立柱建物・麻畑・水田



(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第410集  
上郷岡原遺跡(1) -第1分冊:本文・遺構図版編-  
八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第16集

---

---

2007年(平成19年)3月26日印刷  
2007年(平成19年)3月29日発行

発行/編集 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北碓町下箱田784-2

電話 0279-52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷/上武印刷株式会社

---

---